

付録

この章では、納付金システム（スタンドアロン構成）のミドルウェアインストール手順などについて記載します。

第 3.0 版

令和 8 年 3 月 26 日

■改版履歴

2016 年 6 月	(第 1 版)
2016 年 8 月	(第 1.1 版)
2016 年 9 月	(第 1.2 版)
2016 年 10 月	(第 1.3 版)
2020 年 4 月	(第 1.4 版)
2021 年 4 月	(第 2.0 版)
2023 年 2 月	(第 2.1 版)
2023 年 2 月	(第 2.2 版)
2026 年 3 月	(第 3.0 版)

目次

付録.....	1
付録.A ミドルウェア入手手順例.....	4
付録.A.1 ミドルウェア資材一覧.....	5
付録.A.2 ミドルウェアのダウンロード.....	7
(1) サポートサイトからのダウンロード.....	7
(2) Oracle 製品のダウンロード.....	8
(3) Oracle バージョンアップ資材のダウンロード.....	19
(4) Office Deployment Tool のダウンロード.....	25
付録.B ミドルウェアインストール手順例.....	26
付録.B.1 ミドルウェアインストール手順例一覧.....	27
付録.B.2 ミドルウェアのインストール.....	29
(1) Oracle Java Standard Edition のインストール.....	29
(2) Amazon Corretto のインストール.....	37
(3) Oracle WebLogic Server Standard Edition のインストール.....	41
(4) Apache HTTP Server のインストール.....	55
(5) Oracle WebLogic Server Web Server Plugins のインストール.....	61
(6) SVF KJNSS パック（クライアント版）のインストール.....	66
(7) Adobe Acrobat Reader DC のインストール.....	101
(8) Oracle Database Personal Edition のインストール.....	108
(9) Oracle Client のインストール.....	140
(10) バックアップソフトウェアのインストール.....	152
(11) ウィルス対策ソフトウェアのインストール.....	153
(12) Microsoft Office 2024 のインストール.....	154
(13) 7-Zip のインストール.....	171
付録.C セキュリティパッチ一覧.....	175

付録. A ミドルウェア入手手順例

納付金システムの納付金スタンドアロン端末にて使用するミドルウェアについて、入手手順の例を説明します。

ミドルウェアダウンロード時における注意事項

表 A-1 の「入手元」が「製品サイト」である資材について、ダウンロード時期により、画面イメージや操作手順が異なる場合があります。不明点がある場合は、機器調達業者に確認してください。

付録. A. 1 ミドルウェア資材一覧

納付金システムの納付金スタンドアロン端末にて使用するミドルウェア資材を次に示します。

表 A-1 ミドルウェア資材一覧

No.	区分	製品名およびバージョン	ミドルウェア資材名	入手元	参照箇所
1	Web サーバソフトウェア	Apache HTTP Server (2. 4. 63)	httpd-2. 4. 63-250207-win64-VS17.zip	サポートサイト	(1)
2		Microsoft Visual C++ 2010 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ MFC のセキュリティ更新プログラム	vcredist_x64.exe	サポートサイト	(1)
3		Visual Studio 2015、2017、2019、および 2022	VC_redist.x64.exe	サポートサイト	(1)
4		Visual Studio 2012 更新プログラム 4 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ (x64)	vcredist_x64.exe	サポートサイト	(1)
5		Oracle WebLogic Server Web Server Plugins12c R2 (12. 2. 1. 4. 0)	V983367-01.zip	製品サイト	(2)
6	アプリケーションサーバソフトウェア	Oracle WebLogic Server Standard Edition14c R1 (14. 1. 1. 0. 0)	V994956-01.zip	製品サイト	(2)
7	帳票ソフトウェア	SVF KJNSS パック (クライアント版) (2026. 0)	-	機器調達業者	-
8	帳票表示ソフトウェア	Adobe Acrobat Reader DC (2021. 011. 20039)	AcroRdrDC2101120039_ja_JP.exe	サポートサイト	(1)
9	プログラム実行環境	Oracle Java Standard Edition (1. 8. 0_341)	jdk-8u341-windows-x64.exe	サポートサイト	(1)
10		Amazon Corretto (1. 8. 0_372)	amazon-corretto-8. 372. 07. 1-windows-x64-jdk.msi	サポートサイト	(1)

No.	区分	製品名およびバージョン	ミドルウェア 資材名	入手元	参照 箇所
11	データベ ースソフ トウェア	Oracle Database Personal Edition 19c (19.3.0.0.0)	V982656-01.zip	製品 サイト	(2)
12		Oracle Database Standard Edition2 19c (19.3.0.0.0)	V982656-01.zip	製品 サイト	(※1)
13		OPatch	p6880880_190000_ MSWIN-x86-64.zip	製品 サイト	(3) (a)
14		Oracle Database Personal Edition 19c (19.28.0.0.0)	p37962957_190000_ MSWIN-x86-64.zi p	製品 サイト	(3) (b)
15		Oracle Database Standard Edition2 19c (19.28.0.0.0)	p37962957_190000_ MSWIN-x86-64.zi p	製品 サイト	(※1)
16		Oracle Client 19c (19.3.0.0.0)	V982658-01.zip	製品 サイト	(2)
17		OPatch	p6880880_190000_ MSWIN-x86-64.zip	製品 サイト	(3) (a)
18		Oracle Client 19c (19.28.0.0.0)	p37962957_190000_ MSWIN-x86-64.zi p	製品 サイト	(3) (b)
19	バックア ップソフ トウェア	任意のバックアップソ フトウェア	-	機器 調達業者	-
20	ウィルス 対策ソフ トウェア	任意のウィルス対策ソ フトウェア	-	機器 調達業者	-
21	オフィス 製品	Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024 (※2)	-	機器 調達業者	-
22		Microsoft Office LTSC Standard 2024 (※2)	-	機器 調達業者	-
23		Office Deployment Tool	officedeployment tool_XXXXX-XXXXX .exe	製品 サイト	(4)
24	圧縮・解凍 ツール	7-Zip (22.01)	7z2201-x64.msi	サポート サイト	(1)

※1 納付金スタンドアロン端末の利用者が2名以上となる場合は、Oracle Database Standard Edition2を使用します。Oracle Database Standard Edition2のダウンロード手順については、「インストールガイド 付録(国保連委託構成)」の「(2) Oracle 製品のダウンロード」を参照してください。

※2 オフィス製品の購入者が都道府県の場合は、納付金スタンドアロン端末に Microsoft Office LTSC Professional Plus または Microsoft Office LTSC Standard をインストールします。オフィス製品の購入者が国保連合会の場合は、納付金スタンドアロン端末に Microsoft Office LTSC Professional Plus をインストールします。

付録. A. 2 ミドルウェアのダウンロード

(1) サポートサイトからのダウンロード

国保保険者標準事務処理システム サポートサイトにログインし、「国保事業費納付金等算定標準システム」-「お知らせ」-「国保事業費納付金等算定標準システム 更新プログラム (SB03-00) の提供について」から、ファイルをダウンロードしてください。

(2) Oracle 製品のダウンロード

表 A-2 に示す製品をダウンロードする手順例を次に示します。

表 A-2 Oracle 製品一覧

No.	区分	製品名およびバージョン
1	Web サーバソフトウェア	Oracle WebLogic Server Web Server Plugins12c R2 (12.2.1.4.0)
2	アプリケーションサーバソフトウェア	Oracle WebLogic Server Standard Edition 14c R1 (14.1.1.0.0)
3	データベースソフトウェア	Oracle Database Personal Edition 19c (19.3.0.0.0)
4		Oracle Database Standard Edition2 19c (19.3.0.0.0)
5		Oracle Client 19c (19.3.0.0.0)

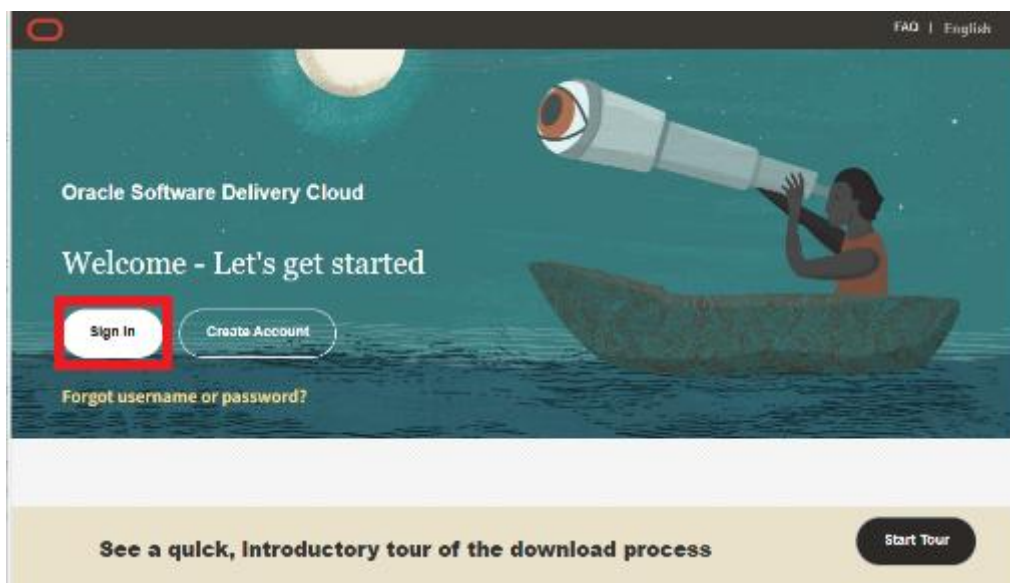
注意事項

- ・インターネットに接続できる端末で実施してください。
- ・本手順は、「Oracle Software Delivery Cloud」からダウンロードする手順例となります。資材を機器調達業者から入手する場合は、実施不要です。
- ・「Oracle Software Delivery Cloud」は、Oracle のアカウントが必要となります。アカウントの作成やログイン情報等、アカウントに関する情報については、機器調達業者に確認してください。
- ・納付金スタンドアロン端末の利用者が2名以上となる場合は、Oracle Database Standard Edition2 を使用します。Oracle Database Standard Edition2 のダウンロード手順については、「インストールガイド 付録(国保連委託構成)」の「付録. A. 2. (2) Oracle 製品のダウンロード」を参照してください。

【ダウンロード手順例】

1. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、「<https://edelivery.oracle.com>」に接続します。

2. 「Oracle Software Delivery Cloud」画面で、「Sign in」をクリックします。



3. 「Oracle にサインイン」画面で、ユーザ名または電子メールを入力し、「次」をクリックします。

4. パスワードを入力し、「サイン・イン」をクリックします。

The image shows the Oracle sign-in page. At the top, it says "Oracleにサインイン" (Sign in to Oracle). Below this is a text input field labeled "パスワード" (Password). A red rectangle highlights the password field and the "サイン・イン" (Sign In) button below it. Below the button, there is a link that says "パスワードをお忘れですか。" (Forgot your password?). Further down, there is a section for new users with the text "サインインにお困りですか。他のサインイン・オプションを表示" (Having trouble signing in? Show other sign-in options). Below this is a button labeled "アカウントの作成" (Create account). At the bottom, there is a footer with "© Oracle | 使用条件 | プライバシー・ポリシー" (© Oracle | Terms of Use | Privacy Policy).

5. 「Oracle Software Delivery Cloud」画面で、右上の「English」をクリックします。



6. 「日本語」をクリックします。



7. 検索欄に下記画面例を参考に表 A-3 のミドルウェア資材名を入力し、「検索」をクリックします。



表 A-3 Oracle 製品のマドルウェア資材

No.	ミドルウェア資材名
1	Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0
2	Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0
3	Oracle Database Client 19.3.0.0.0

8. 表 A-3 に記載されているミドルウェア資材名をクリックします。



9. 表 A-3 に記載されているミドルウェア資材名分、手順 7. と手順 8. を繰り返します。

10. 画面右上の「項目の表示」をクリックし、表 A-3 に記載されているミドルウェア資材名がすべて表示されていることを確認し、「続行」をクリックします。



11. 下記画面例を参考に表 A-4 のミドルウェア資材をチェックします。

☐ ダウンロード・キュー	条件および規制
☒ Oracle Database Client 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制
☒ Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制
☒ Oracle Database 19.3.0.0.0 - Long Term Release	
☐ Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0	オラクル標準の条件および規制
☐ Oracle Coherence 14.1.1.0.0	
☒ Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0	
☒ Oracle WebLogic Server Plug-In 12.2.1.4.0	
☐ Oracle WebLogic Server Proxy Plugins 14.1.1.0	

表 A-4 Oracle 製品のミドルウェア資材

No.	ミドルウェア資材
1	Oracle Database Client 19.3.0.0.0
2	Oracle Database 19.3.0.0.0-Long Term Release
3	Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0
4	Oracle WebLogic Server Plug-in 12.2.1.4.0

12. 「Oracle Database Client 19.3.0.0.0」の「プラットフォーム/言語」のプルダウンから、「Microsoft Windows x64 (64bit)」をチェックします。

Oracle Software Delivery Cloud 支援が必要な場合: Software Delivery カスタマーサポート

続行するには、各リリースごとにプラットフォーム/言語を選択します。ダウンロード・キューから品目を削除するには、タイトルの横にある「x」をクリックしてください。言語補助リリースはオプションです。該当する言語補助リリースを含めるには、リリース・タイトルの横にあるボックスを選択してください。

[戻る](#)

☐ ダウンロード・キュー	条件および規制	プラットフォーム/言語	サイズ	公開日
☒ Oracle Database Client 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制	Microsoft Windows x64 (64-bit)		Jan 31, 2019
☒ Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制	☐ すべて		Jan 31, 2019
☒ Oracle Database 19.3.0.0.0 - Long Term Release		☐ HP-UX Itanium		Jan 31, 2019
☐ Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0	オラクル標準の条件および規制	☐ IBM AIX on POWER Systems (32-bit)		Jan 31, 2019
☐ Oracle Coherence 14.1.1.0.0		☐ IBM AIX on POWER Systems (64-bit)		Jan 31, 2019
☒ Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0		☐ Linux ARM 64-bit		Jan 31, 2019
☒ Oracle WebLogic Server Plug-In 12.2.1.4.0		☐ Linux on IBM Z		Jan 31, 2019
☐ Oracle WebLogic Server Proxy Plugins 14.1.1.0		☐ Linux x86		Jan 31, 2019
		☐ Linux x86-64		Jan 31, 2019
		☐ Microsoft Windows (32-bit)		Jan 31, 2019
		☒ Microsoft Windows x64 (64-bit)		Jan 31, 2019
		☐ Oracle Solaris on SPARC (32-bit)		Jan 31, 2019

[戻る](#)

13. 「Oracle Database 19.3.0.0.0-Long Term Release」の「プラットフォーム/言語」のプルダウンから、「Microsoft Windows x64 (64bit)」をチェックします。

Oracle Software Delivery Cloud 支援が必要な場合: Software Delivery カス

続行するには、各リリースごとにプラットフォーム/言語を選択します。ダウンロード・キューから品目を削除するには、タイトルの横に除してください。言語補助リリースはオプションです。該当する言語補助リリースを含めるには、リリース・タイトルの横にあるボックスを選択してください。

戻る

☐ ダウンロード・キュー	条件および規制	プラットフォーム / 言語	サイズ	公開日
☒ Oracle Database Client 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制	Microsoft V	1.8 GB	Jan 31,
☒ Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制			Apr 25,
☒ Oracle Database 19.3.0.0.0 - Long Term Release		Microsoft V	2.9 GB	
☒ Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0	オラクル標準の条件および規制	すべて		
☐ Oracle Coherence 14.1.1.0.0		Fujitsu BS2000		
☒ Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0		HP-UX Itanium		
☒ Oracle WebLogic Server Plug-In 12.2.1.4.0		IBM AIX on POWER Systems (64-bit)		
☐ Oracle WebLogic Server Proxy Plugins 14.1.1.0		Linux ARM 64-bit		
		Linux on IBM Z		
		Linux x86-64		
		☒ Microsoft Windows x64 (64-bit)		

戻る

14. 「Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0」の「プラットフォーム/言語」のプルダウンから、「Microsoft Windows x64 (64bit)」をチェックします。

Oracle Software Delivery Cloud 支援が必要な場合: Software Delivery カス

続行するには、各リリースごとにプラットフォーム/言語を選択します。ダウンロード・キューから品目を削除するには、タイトルの横に除してください。言語補助リリースはオプションです。該当する言語補助リリースを含めるには、リリース・タイトルの横にあるボックスを選択してください。

戻る

☐ ダウンロード・キュー	条件および規制	プラットフォーム / 言語	サイズ	公開日
☒ Oracle Database Client 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制	Microsoft V	1.8 GB	Jan 31, 20
☒ Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制			Apr 25, 20
☒ Oracle Database 19.3.0.0.0 - Long Term Release		Microsoft V	2.9 GB	
☒ Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0	オラクル標準の条件および規制			May 24, 2
☐ Oracle Coherence 14.1.1.0.0				
☒ Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0		Microsoft V		
☒ Oracle WebLogic Server Plug-In 12.2.1.4.0		すべて		
☐ Oracle WebLogic Server Proxy Plugins 14.1.1.0		GENERIC (All Platforms)		
		HP-UX Itanium		
		IBM AIX on POWER Systems (64-bit)		
		Linux ARM 64-bit		
		Linux on IBM Z		
		Linux x86-64		
		☒ Microsoft Windows x64 (64-bit)		
		Oracle Solaris on SPARC (64-bit)		

戻る

15. 「続行」をクリックします。

Oracle Software Delivery Cloud 支援が必要な場合: Software Deliveryカスタマ・サービスに連絡

続行するには、各リリースごとにプラットフォーム/言語を選択します。ダウンロード・キューから品目を削除するには、タイトルの横にあるボックスの選択を解除してください。言語補助リリースはオプションです。該当する言語補助リリースを含めるには、リリース・タイトルの横にあるボックスを選択し、目的の言語を選択してください。

[戻る](#) [すべて削除](#) [続行](#)

☐ ダウンロード・キュー	条件および規制	プラットフォーム / 言語	サイズ	公開日	Last Updated Date
☒ Oracle Database Client 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制	Microsoft V	1.8 GB	Jan 31, 2020	Oct 16, 2025
☒ Oracle Database Personal Edition 19.3.0.0.0	オラクル標準の条件および規制			Apr 25, 2019	Apr 25, 2019
☒ Oracle Database 19.3.0.0.0 - Long Term Release		Microsoft V	2.9 GB		
☒ Oracle WebLogic Server 14c 14.1.1.0.0	オラクル標準の条件および規制			May 24, 2023	Oct 28, 2023
☐ Oracle Coherence 14.1.1.0.0					
☒ Oracle WebLogic Server 14.1.1.0.0		Microsoft V	1.7 GB		
☒ Oracle WebLogic Server Plug-In 12.2.1.4.0		Microsoft V	337.1 MB		
☐ Oracle WebLogic Server Proxy Plugins 14.1.1.0					

[戻る](#) [すべて削除](#) [続行](#)

16. 「オラクル標準の条件および規制」にて「オラクル・ライセンス契約を確認した上でこれに同意します。」をチェックし、「続行」をクリックします。

Oracle Software Delivery Cloud 支援が必要な場合: Software Deliveryカスタマ・サービスに連絡

i 次のライセンス契約を注意してお読みください。

[戻る](#) [続行](#)

オラクル標準の条件および規制

これらのオラクル標準の条件および規制は、このポータルで利用できるすべてのプログラムに適用されますが、次のSpecial Programs Licenseで明示されるプログラムは除きます。オラクルは、お客様がこのポータルからダウンロードすることを希望されるプログラムに対するお客様のアクセスを、次のいずれかの条件の下でのみ承認いたします。(1)お客様が当該プログラムの使用に対して、すでにライセンスをオラクルもしくはオラクル・パートナーから取得している場合は、お客様による当該プログラムの使用に関してOracle Master Agreement、Oracle License and Services Agreement(オラクル・ライセンスおよびサービスに関する契約書)、Oracle PartnerNetwork Agreement、Oracle distribution agreement、もしくは、オラクル、オラクル・パートナーとの当該プログラムに対するその他のライセンス契約が、オラクルもしくはオラクル・パートナーとの該当する注文書(各ライセンス契約および関連する注文書をまとめて「商用ライセンス」と呼びます)と合せて、適用されることに同意するものとします。または、(2)お客様が当該プログラムの使用に関して、いまだライセンスをオラクルもしくはオラクル・パートナーから取得していない場合は、次のオラクル・トライアル・ライセンス契約(Oracle Special Programs License Agreementの後に表示されます)が、かかる契約で明記された期間内でのお客様による当該プログラムの使用に適用されることに同意するものとします。注意: トライアル目的でダウンロードしたプログラムまたは格納メディアの交換のためにダウンロードされたプログラムは、サポート対象外プログラムの更新に使用されないものとします。

「受諾します」(またはこれに相当する)ボタンまたはボックスを選択すると、(団体として使用するために取得する場合は)お客様がお客様の会社または組織の権限ある代表者として、そうでない場合には個人として、これらの条件を受諾し、お客様がダウンロードしてアクセスするプログラムに適用されるライセンス契約に従って使用することになります。これらの条件はお客様が「受諾」または「拒否」を選択した時点で適用されます。お客様は、このライセンス契約をいつでも「受諾」または「拒否」を選択することができます。スクロールしてライセンス契約全体をお読みください。

☒ オラクル・ライセンス契約を確認した上でこれに同意します。

[戻る](#) [続行](#)

17. 下記画面例を参考に表 A-5 のミドルウェア資材をチェックし、「ダウンロード」をクリックします。

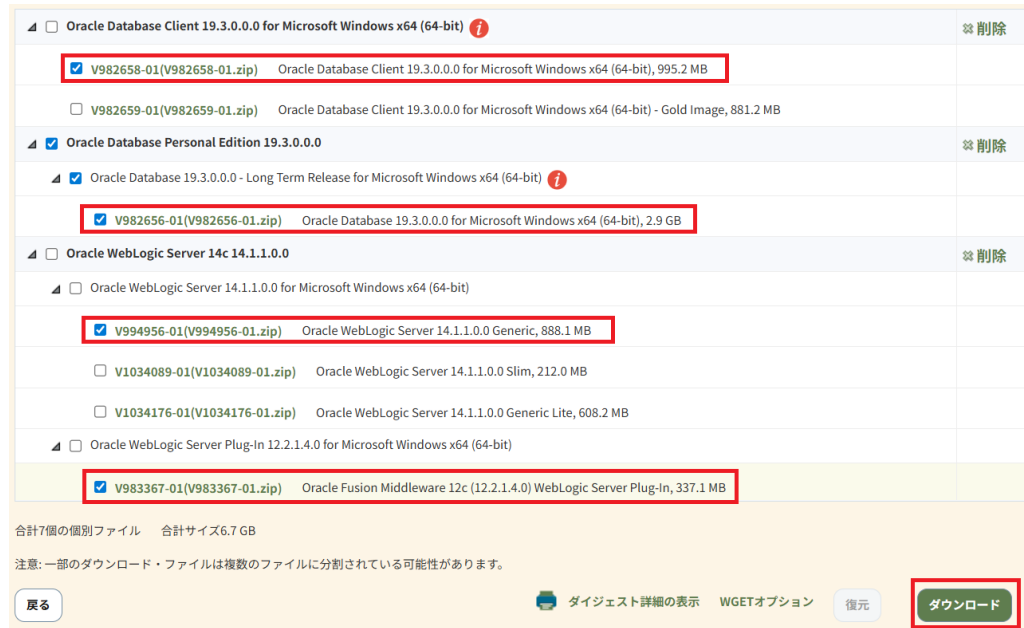


表 A-5 Oracle 製品のミドルウェア資材

No.	ミドルウェア資材
1	V982658-01 (V982658-01.zip)
2	V982656-01 (V982656-01.zip)
3	V994956-01 (V994956-01.zip)
4	V983367-01 (V983367-01.zip)

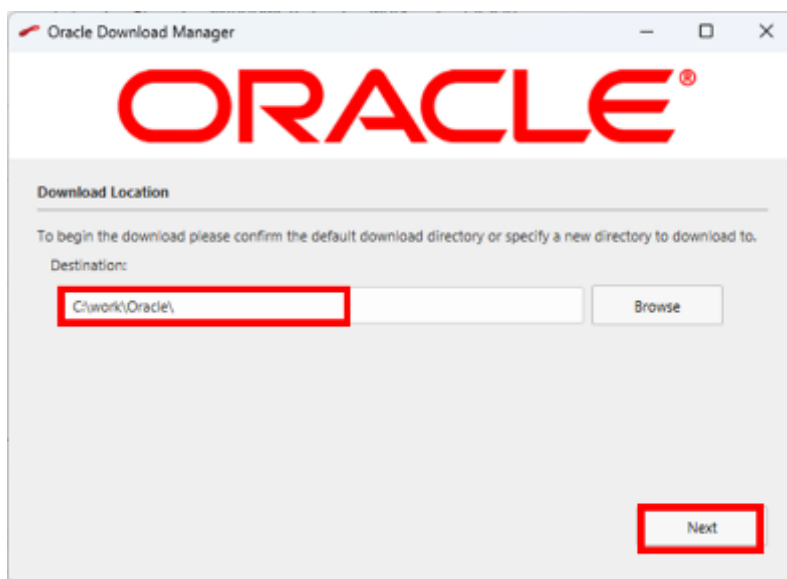
18. 「Oracle_SSN_DLM_XXXXXXXX.exe」(※) がダウンロードされたことを確認します。

※ ファイルの取得時期によりプログラムファイル名が異なります。

19. 「Oracle_SSN_DLM_XXXXXXXX.exe」をダブルクリックします。



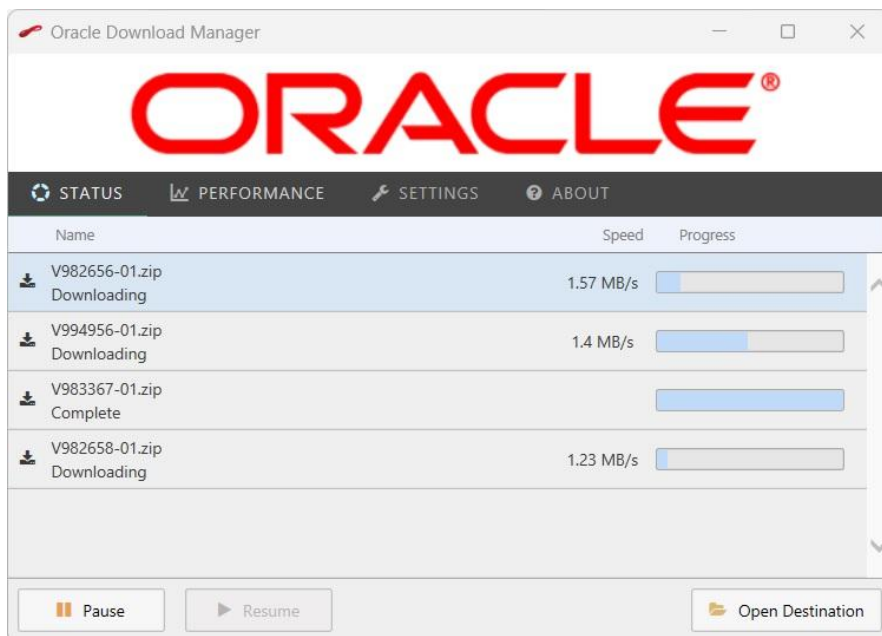
20. 「Oracle Download Manager」画面で、「Destination」に資材のダウンロード先となる「資材格納フォルダ」を入力し、「Next」をクリックします。（※「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。）



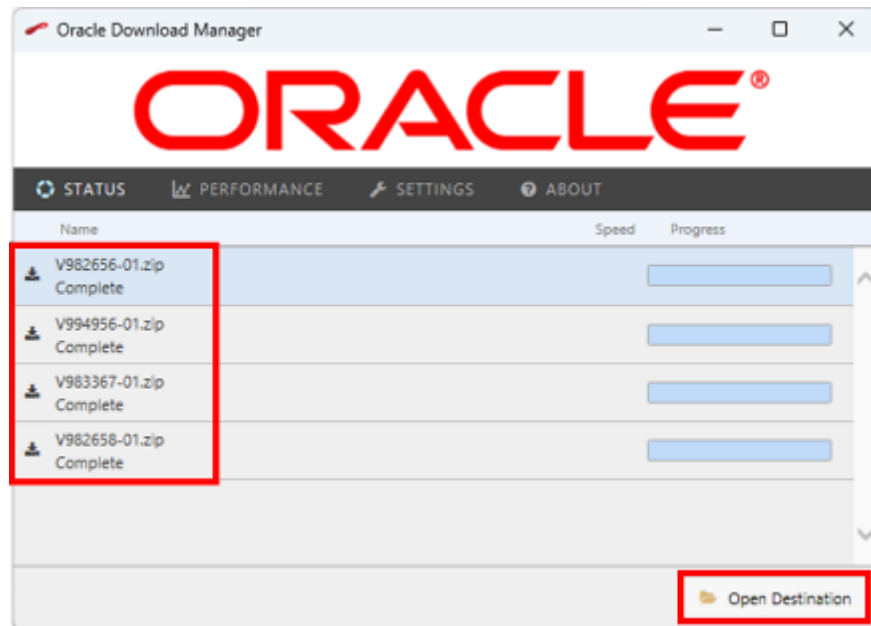
 注意事項

約 5GB の資材がインターネットからダウンロードされるため、ドライブの空き容量が 6GB 以上のディスクを選択し、「資材格納フォルダ」を入力してください。

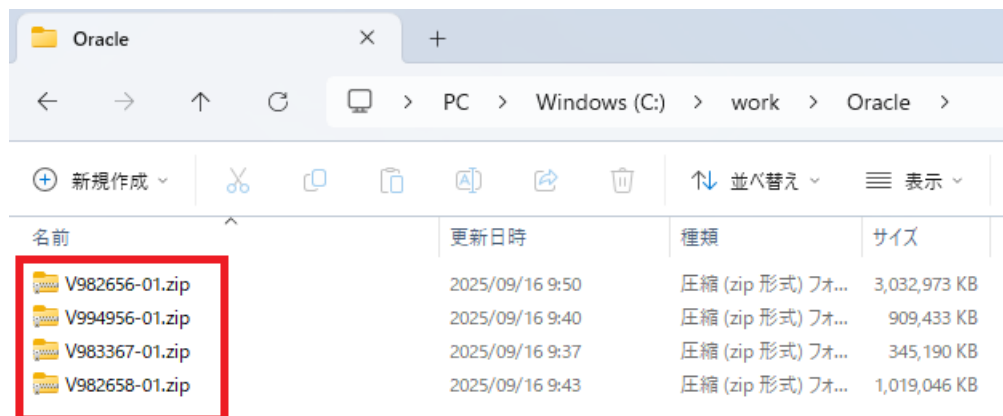
21. 資材がダウンロードされるため、しばらく待ちます。



22. すべての資材が「Complete」と表示されたことを確認し、「Open Destination」をクリックします。



23. 資材がダウンロードされたことを確認します。



24. 表示されている画面を閉じます。

(3) Oracle バージョンアップ資材のダウンロード

注意事項

- ・インターネットに接続できる端末で実施してください。
- ・本手順は、「My Oracle Support」からダウンロードする手順例となります。資材を機器調達業者から入手する場合は、実施不要です。
- ・「My Oracle Support」は、Oracle のアカウントが必要となります。アカウントの作成やログイン情報等、アカウントに関する情報については、機器調達業者に確認してください。

【ダウンロード手順例】

(a) OPatch ダウンロード手順

1. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、「<https://updates.oracle.com/download/6880880.html>」に接続します。
2. 「Oracle にサインイン」画面で、ユーザ名または電子メールを入力し、「次」をクリックします。

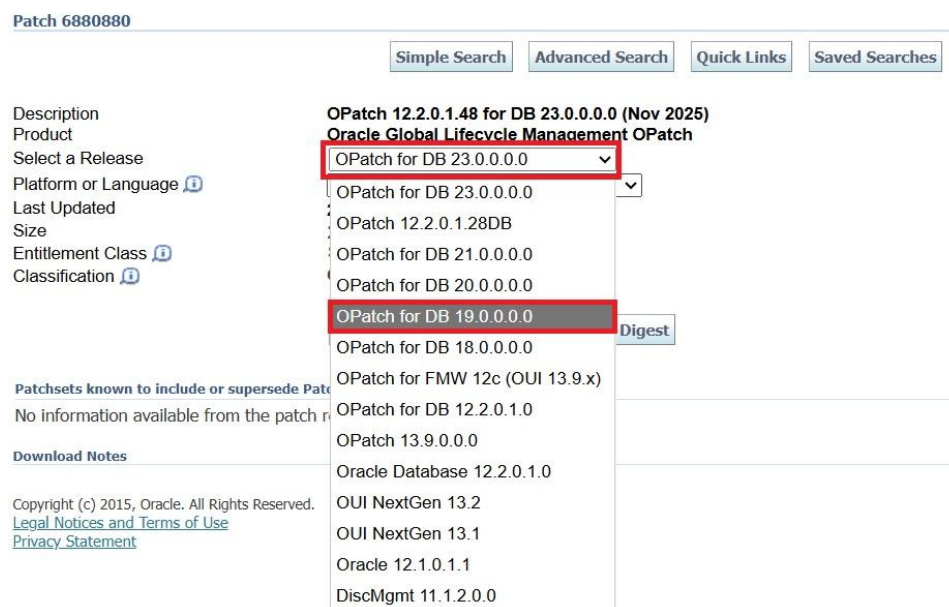


3. パスワードを入力し、「サイン・イン」をクリックします。



The image shows the Oracle Sign-In page. At the top, it says "Oracleにサインイン" (Sign in to Oracle). Below this is a form with a "パスワード" (Password) input field and a "サイン・イン" (Sign in) button. A red rectangle highlights the password field and the sign-in button. Below the button, there is a link "パスワードをお忘れですか。" (Forgot your password?). Further down, there is a section for "Oracleアカウントをお持ちではないですか。" (Don't have an Oracle account?) with a button "アカウントの作成" (Create account). At the bottom, there is a footer with "© Oracle | 使用条件 | プライバシーポリシー" (© Oracle | Terms of Use | Privacy Policy).

4. 表示された画面で、「Select a Release」のプルダウンから、「OPatch for DB 19.0.0.0.0」をクリックします。



The image shows the Oracle Patch 6880880 page. The title is "Patch 6880880". There are buttons for "Simple Search", "Advanced Search", "Quick Links", and "Saved Searches". The page is divided into two main sections: "Description" and "Download Notes". The "Description" section includes fields for "Product", "Select a Release", "Platform or Language", "Last Updated", "Size", "Entitlement Class", and "Classification". The "Select a Release" dropdown menu is open, showing a list of releases. The release "OPatch for DB 19.0.0.0.0" is highlighted with a red rectangle. The "Download Notes" section includes a link to "Legal Notices and Terms of Use" and a link to "Privacy Statement".

5. 「Platform or Language」のプルダウンから、「Microsoft Windows x64 (64-bit)」をクリックします。

Patch 6880880

Simple Search Advanced Search Quick Links Saved Searches

Description
Product
Select a Release
Platform or Language ⓘ
Last Updated
Size
Entitlement Class ⓘ
Classification ⓘ

OPatch 12.2.0.1.48 for DB 23.0.0.0.0 (Nov 2025)
Oracle Global Lifecycle Management OPatch
OPatch for DB 23.0.0.0.0
Linux x86
----- Platforms -----
Linux ARM 64-bit
IBM AIX on POWER Systems (64-bit)
Microsoft Windows x64 (64-bit)
IBM S/390 Based Linux (31-bit)
HP-UX Itanium (32-bit)
HP-UX Itanium
Linux x86
IBM: Linux on System z
IBM AIX on POWER Systems (32-bit)

Patchsets known to include or supersede Patch 6880880
No information available from the patch repository

Download Notes

6. 「Download」ボタンをクリックします。

Patch 6880880

Simple Search Advanced Search Quick Links Saved Searches

Description
Product
Select a Release
Platform or Language ⓘ
Last Updated
Size
Entitlement Class ⓘ
Classification ⓘ

OPatch 12.2.0.1.48 for DB 23.0.0.0.0 (Nov 2025)
Oracle Global Lifecycle Management OPatch
OPatch for DB 19.0.0.0.0
Microsoft Windows x64 (64-bit)
23-OCT-2025
24M (25258299 bytes)
Software
General

Download View Readme View Digest

Patchsets known to include or supersede Patch 6880880 ⓘ
No information available from the patch repository

Download Notes

Copyright (c) 2015, Oracle. All Rights Reserved.
[Legal Notices and Terms of Use](#)
[Privacy Statement](#)

7. 「p6880880_190000_MSWIN-x86-64.zip」がダウンロードされたことを確認します。
8. Web ブラウザーを閉じます。

(b) Oracle Database Personal Edition 19.28 および Oracle Client 19.28 ダウンロード手順

1. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、
「<https://support.oracle.com/support/?kmContentId=11135392&page=sptemplate&sptemplate=km-article>」に接続します。
2. 「My Oracle Support へようこそ」画面で、「Oracle Cloud Infrastructure と Cloud Applications のサポート」欄の「サインインまたは Oracle アカウントの作成」をクリックします。



 注意事項

「Oracle にサインイン」画面が表示された場合は、画面にしたがってサインインしてください。

3. 表示された画面で、「Oracle Version:」欄の「19c」を選択します。

適用範囲

Database Administrator

概要

This interactive Oracle Patch Widget allows users to browse and download Oracle database patches by first selecting their Oracle version (19c) choosing a patch type (like Database Release Updates). Users can view patch details organized by release version, Home, etc.. explore recommended patches for specific updates, and see detailed information about bug fixes their descriptions, installation requirements. The widget also features expanded view for viewing recommended patches and provides a CSV download option for exporting recommended patch data.

This document was MOS Document ID: 2118136.2 in Legacy MOS

詳細

Oracle Version: 26ai 21c **19c** 18c 12.2c 12.1c 11.2g 11.1g
10.2g

記事フィードバック

4. 「Patch Type:」欄の「Oracle Database Release Updates (RUs)」を選択します。

詳細

Oracle Version: 19c Change

Patch Type: **Oracle Database Release Updates (RUs)**
Oracle Database Release Update Revisions (RURs - discontinued since Apr 2023)
OJVM Update/PSU/Bundle Patches
Latest Available Microsoft Windows Patches
Monthly Recommended Patches (MRPs)

Recommended Oneoff Patches

5. 「JUL2025 (19.28.0.0.0)」の「37962957」を選択します。

詳細

Oracle Version:	19c	Change	Patch Type:	Oracle Database Release Updates (RUs)	Change
-----------------	-----	--------	-------------	---------------------------------------	--------

Oracle Database Release Updates (RUs)			
Release	Database Update	GI Update	Windows Bundle Patch
OCT2025 (19.29.0.0.0)	▶ 38291812	▶ 38298204	38111211
JUL2025 (19.28.0.0.0)	▶ 37960098	▶ 37957391	37962957
APR2025 (19.27.0.0.0)	▶ 37642901	▶ 37641958	37532350

6. 表示された画面で、「Platform or Language」のプルダウンから、「Microsoft Windows x64 (64-bit)」をクリックします。

Patch 37962957

Simple Search Advanced Search Quick Links Saved Searches

Description	WINDOWS DATABASE BUNDLE PATCH 19.28.0.0.250715
Product	Oracle Database Family
Release	Oracle Database 19.0.0.0.0
Platform or Language ⓘ	Microsoft Windows (32-bit) ▼
Last Updated	----- Platforms -----
Size	Microsoft Windows x64 (64-bit)
Entitlement Class ⓘ	Microsoft Windows (32-bit)
Classification ⓘ	

Download View Readme View Digest

Patchsets known to include or supersede Patch 37962957 ⓘ

No information available from the patch repository

Download Notes

Copyright (c) 2015, Oracle. All Rights Reserved.
[Legal Notices and Terms of Use](#)
[Privacy Statement](#)

7. 「Download」ボタンをクリックします。

Patch 37962957

Simple Search Advanced Search Quick Links Saved Searches

Description	WINDOWS DATABASE BUNDLE PATCH 19.28.0.0.250715
Product	Oracle Database Family
Release	Oracle Database 19.0.0.0.0
Platform or Language ⓘ	Microsoft Windows x64 (64-bit) ▼
Last Updated	29-JUL-2025
Size	1.8G (1843763491 bytes)
Entitlement Class ⓘ	Software
Classification ⓘ	General

Download View Readme View Digest

8. 「p37962957_190000_MSWIN-x86-64.zip」がダウンロードされたことを確認します。

9. Web ブラウザーを閉じます。

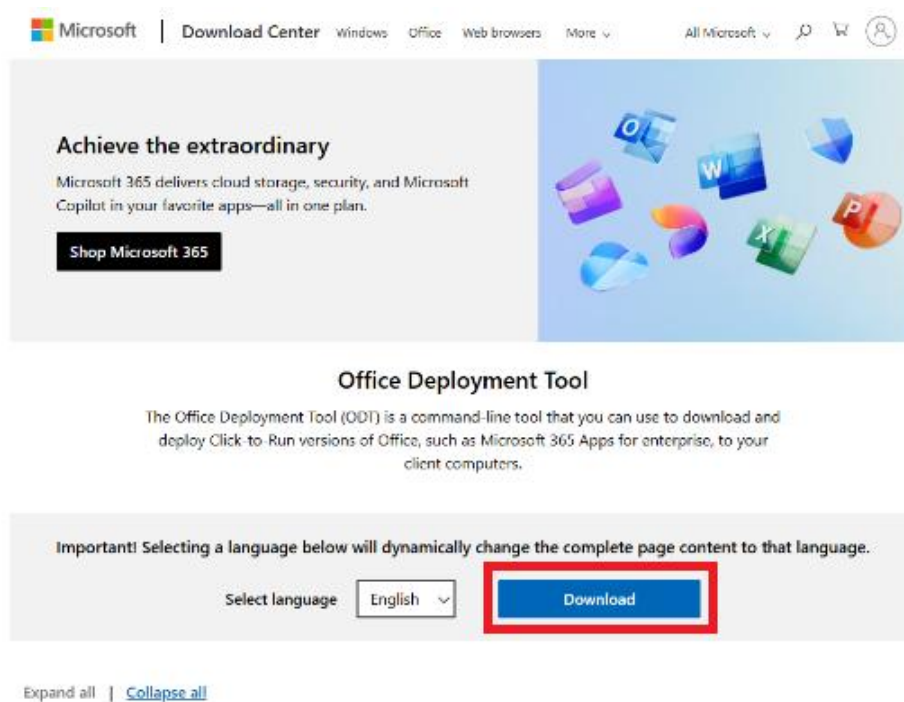
(4) Office Deployment Tool のダウンロード

⚠ 注意事項

インターネットに接続できる端末で実施してください。

【ダウンロード手順例】

1. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、
「<https://go.microsoft.com/fwlink/p/?LinkID=626065>」に接続します。
2. 表示された画面で「Download」をクリックします。



3. 「officedeploymenttool_XXXX-XXXX.exe」(※) ファイルがダウンロードされたことを確認します。

※ ファイルの取得時期によりプログラムファイル名が異なります。手順実施時点における最新のプログラムを使用してください。

付録.B ミドルウェアインストール手順例

納付金システムの納付金スタンドアロン端末にて使用するミドルウェアについて、インストール手順の例を説明します。

ミドルウェアインストール時における注意事項

- ・ミドルウェアのインストール先については、障害時の対応等を各都道府県で統一させるために「C:\¥S_Kokuho¥PP」フォルダを作成し、その中にインストールしていただくことを前提とします。
- ・ミドルウェアのインストール作業に際し、各ミドルウェアのインストールおよび設定パラメータについては、事前に設計し、設定値を確定させておく必要があります。
- ・ミドルウェアのインストール後に、コンピュータ名を変更した場合、各ミドルウェアが正常に動作せず、再構築が必要となります。コンピュータ名を変更する場合は、ミドルウェアのインストール前に実施してください。
- ・ミドルウェアのインストール作業中に、「セキュリティの警告」画面や「Windows SmartScreen を使用できません」画面が表示された場合は、「実行」をクリックし、作業を続行してください。また、「ユーザーアカウント制御」画面が表示された場合は、「はい」をクリックし、作業を続行してください。
- ・ダウンロードしたミドルウェアのファイル名は、ダウンロードしたサイトによって、このマニュアルに記載されたものと異なる場合があります。

付録.B.1 ミドルウェアインストール手順例一覧

表 B-1 ミドルウェアインストール手順例一覧

No.	区分	インストールプログラム	参照箇所	備考
1	Web サーバ	Apache HTTP Server	(4)	
2		Oracle WebLogic Server Web Server Plugins	(5)	
3	アプリケーションサーバ	Oracle WebLogic Server Standard Edition	(3)	
4	帳票ソフトウェア	SVF KJNSS パック（クライアント版）	(6)	
5	帳票表示ソフトウェア	Adobe Acrobat Reader DC	(7)	
6	プログラム実行環境	Oracle Java Standard Edition	(1)	
7		Amazon Corretto	(2)	
8	データベースソフトウェア	Oracle Database Personal Edition	(8)	
9		Oracle Database Standard Edition2	(※1)	
10		Oracle Client	(9)	
11	バックアップソフトウェア	任意のバックアップソフトウェア	(10)	
12	ウィルス対策ソフトウェア	任意のウィルス対策ソフトウェア	(11)	
13	オフィス製品 (※2)	Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024	(12)	
14		Microsoft Office LTSC Standard 2024	(12)	
15	圧縮・解凍ツール	7-Zip	(13)	

※1 納付金スタンドアロン端末の利用者が2名以上となる場合は、Oracle Database Standard Edition2を使用します。Oracle Database Standard Edition2のインストール手順については、「インストールガイド 付録（国保連委託構成）」の「付録.B.2. (8) Oracle Database Standard Edition 2 のインストール」を参照してください。

※2 納付金スタンドアロン端末の購入者が都道府県の場合は、納付金スタンドアロン端末に Microsoft Office Professional Plus 2024 または Microsoft Office Standard 2024 をインストールします。納付金スタンドアロン端末の購入者が国保連合会の場合は、納付金スタンドアロン端末に Microsoft Office Professional Plus 2024 をインストールします。

表 B-1 に示すミドルウェアインストール手順例一覧について、実施手順フローを図 B-1 に示します。

なお、ミドルウェアのインストール手順の詳細につきましては、各ミドルウェアの関連マニュアル、オンラインヘルプなどを参照してください。

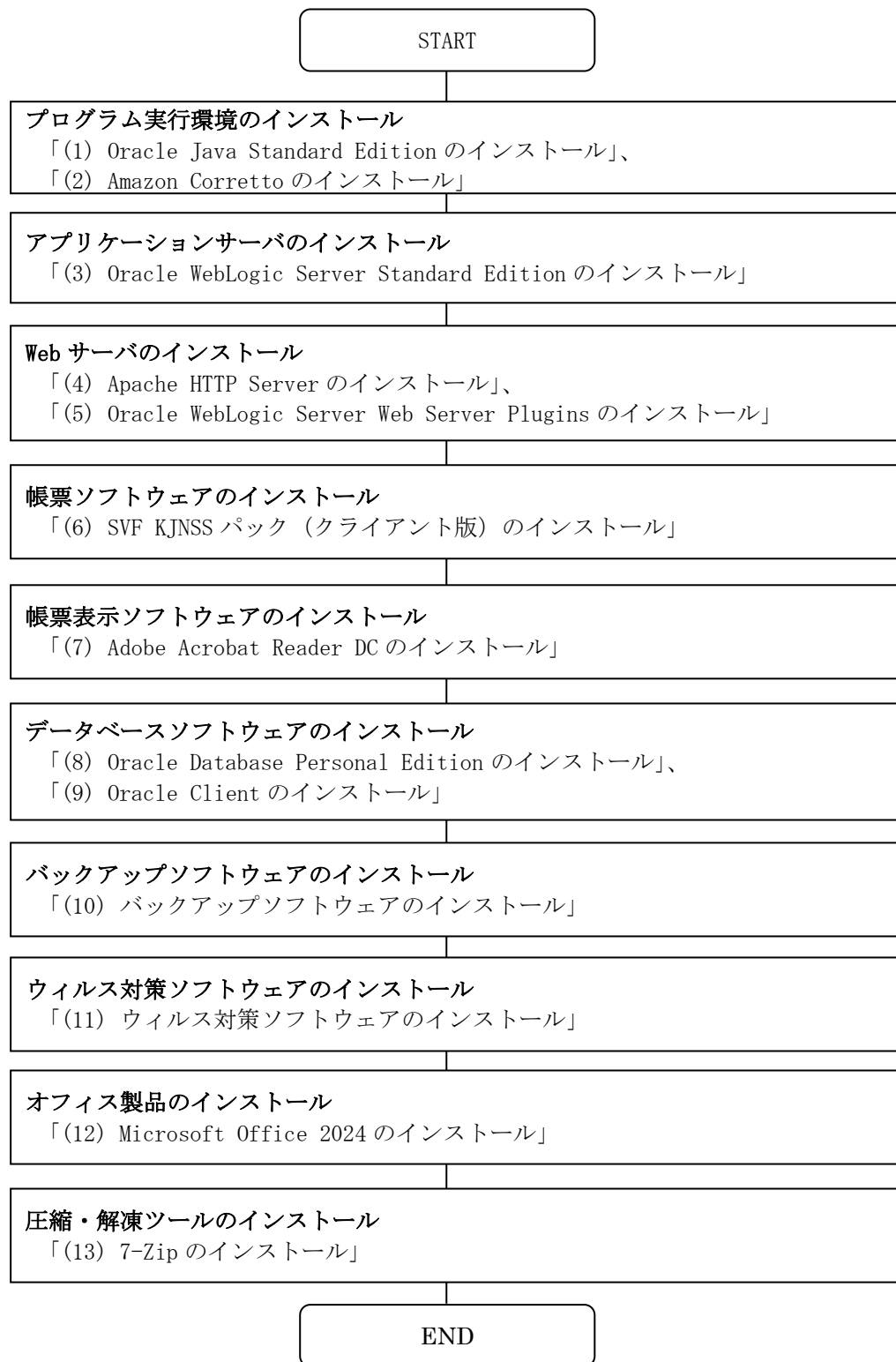


図 B-1 納付金スタンドアロン端末のミドルウェアインストール実施手順フロー

付録.B.2 ミドルウェアのインストール

(1) Oracle Java Standard Edition のインストール

【インストール手順例】

1. Oracle Java Standard Edition のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「(資材格納フォルダ) ¥jdk-8u341-windows-x64.exe」をダブルクリックします。



3. 「Java SE Development Kit 8 - セットアップ」画面で、「次」をクリックします。



4. 「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit) - カスタム・セットアップ」画面で、「変更」をクリックします。



5. 「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit) - フォルダの変更」画面で、下記画面例を参考に、「フォルダ名」欄に表 B-2 のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。



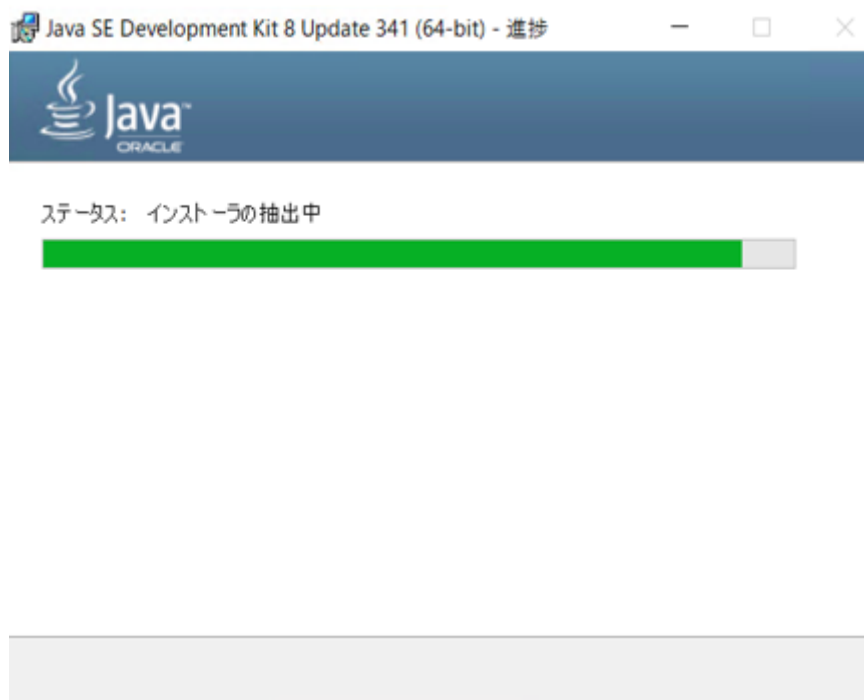
表 B-2 Java SE Development Kit 8 Update 341 インストール先フォルダ

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\\$S_Kokuho¥PP¥Java¥jdk1.8.0_341¥

6. 「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit) - カスタム・セットアップ」画面で、「次」をクリックします。



7. 「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit) - 進捗」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 8. の画面が表示されます。)



8. 「Java セットアップ -コピー先フォルダ」画面で、「変更」をクリックします。



9. 「フォルダーの参照」画面で、下記画面例を参考に表 B-3 のフォルダを選択し、「新しいフォルダーの作成」をクリックします。

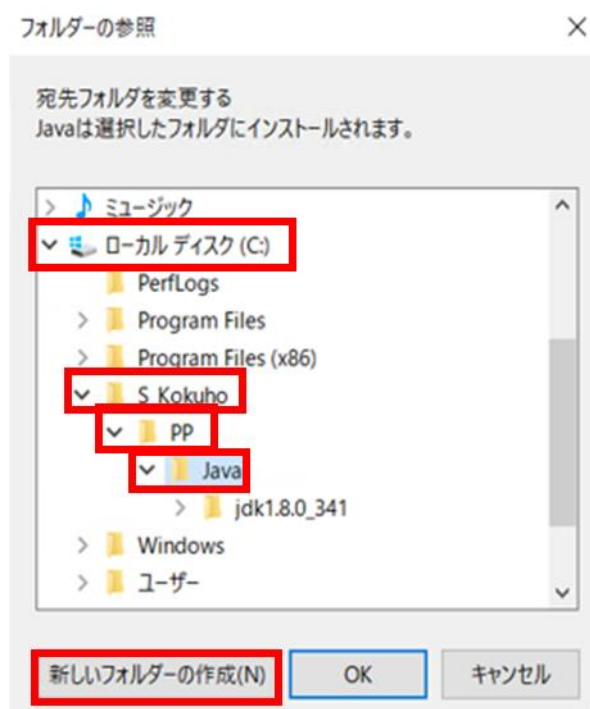


表 B-3 JRE インストールフォルダパス

No.	対象機器	フォルダパス
1	納付金スタンドアロン端末	C:\¥S_Kokuho¥PP¥Java¥

10. 「新しいフォルダー」が作成されるので、下記画面例を参考に表 B-4 のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。

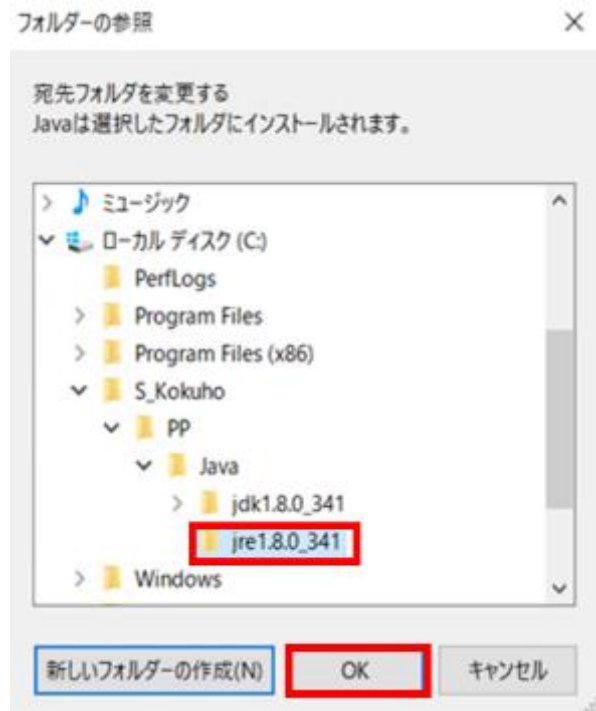


表 B-4 JRE インストールフォルダ名

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	jre1.8.0_341

11. 「Java セットアップ - コピー先フォルダ」画面で、「次」をクリックします。



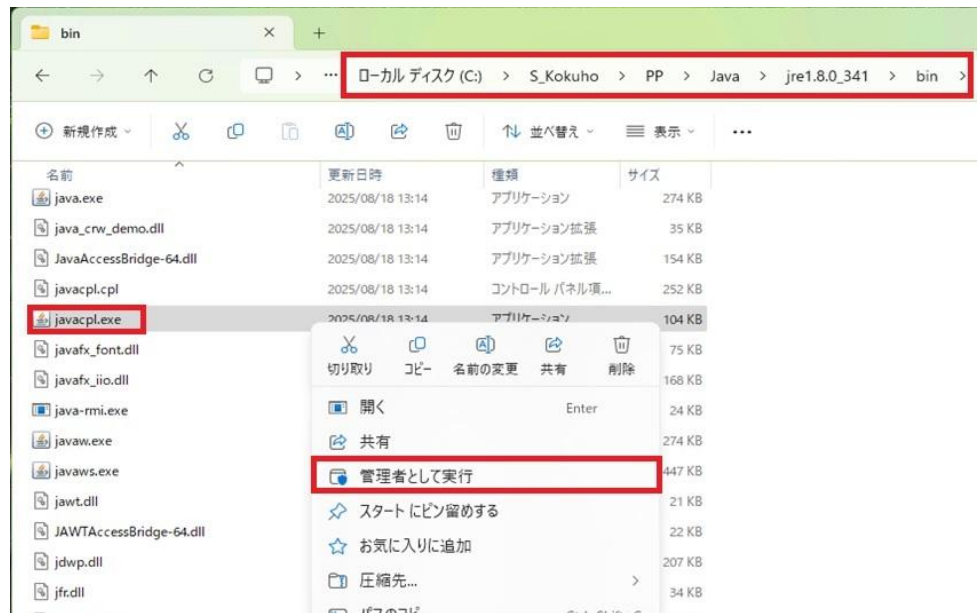
12. 「Java セットアップ - 進行中」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 13. の画面が表示されます。)



13. 「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit) - 完了」画面で、「Java SE Development Kit 8 Update 341 (64-bit)が正常にインストールされました」と表示されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。



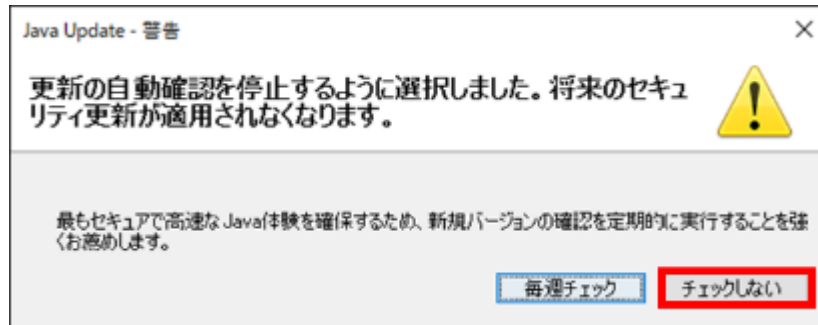
14. エクスプローラーを起動し、「C:\¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jre1.8.0_341¥bin」フォルダ配下の「javacpl.exe」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。



15. 「Java コントロール・パネル」画面で、「更新」タブをクリックし、「更新を自動的にチェック」のチェックを外します。



16. 「Java Update - 警告」画面で、「チェックしない」をクリックします。



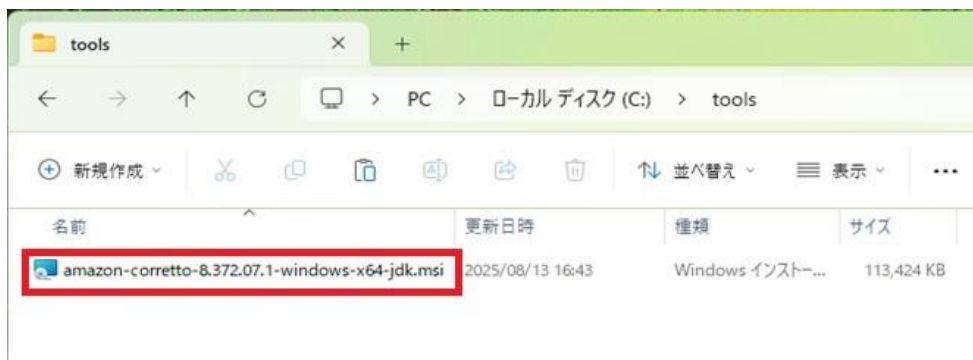
17. 「Java コントロール・パネル」画面で、「更新を自動的にチェック」のチェックが外れていることを確認し、「適用」をクリックし、「OK」をクリックします。



(2) Amazon Corretto のインストール

【インストール手順例】

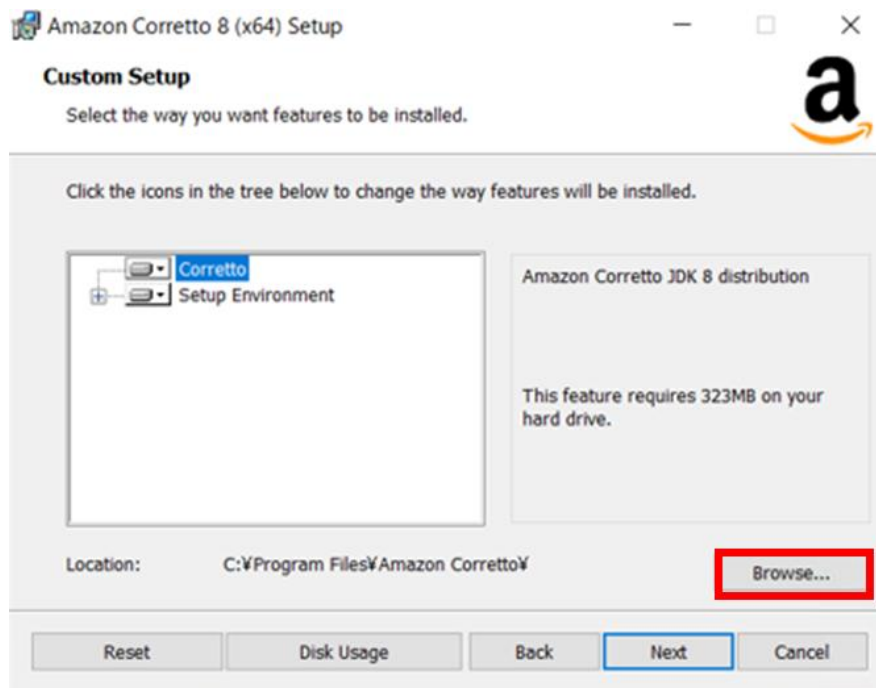
1. Amazon Corretto のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「(資材格納フォルダ) ¥amazon-corretto-8.372.07.1-windows-x64-jdk.msi」をダブルクリックします。



3. 「Amazon Corretto 8 (x64) Setup」画面で、「Next」をクリックします。



4. 「Custom Setup」画面で、「Browse」をクリックします。



5. 「Change destination folder」画面で、下記画面例を参考に、「Folder name」欄に表 B-5 のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。

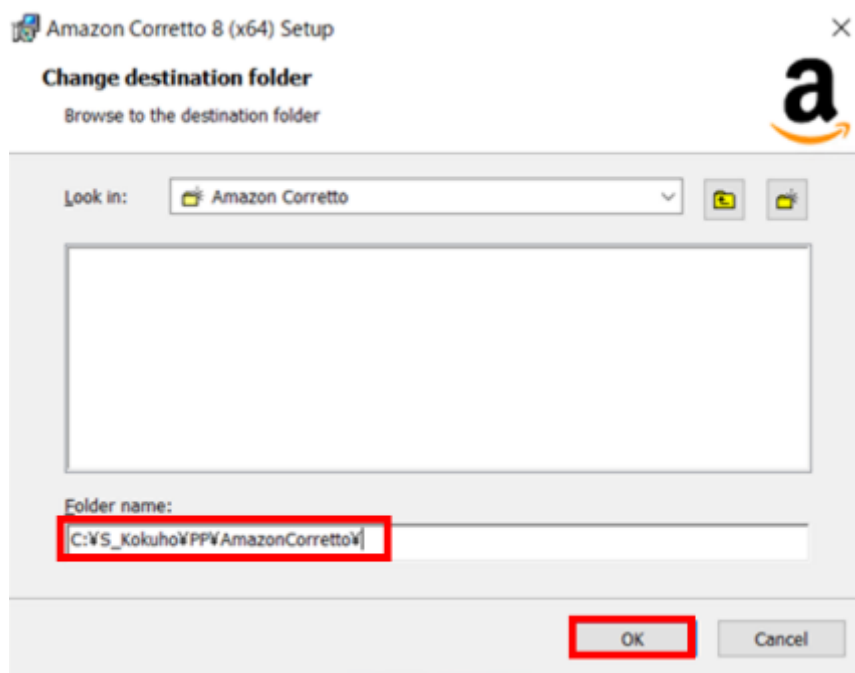
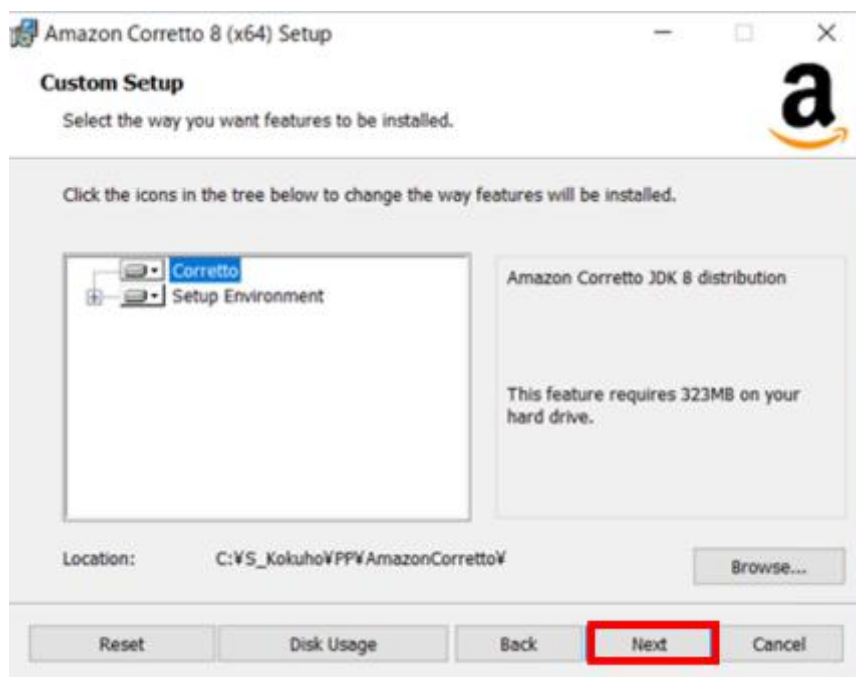


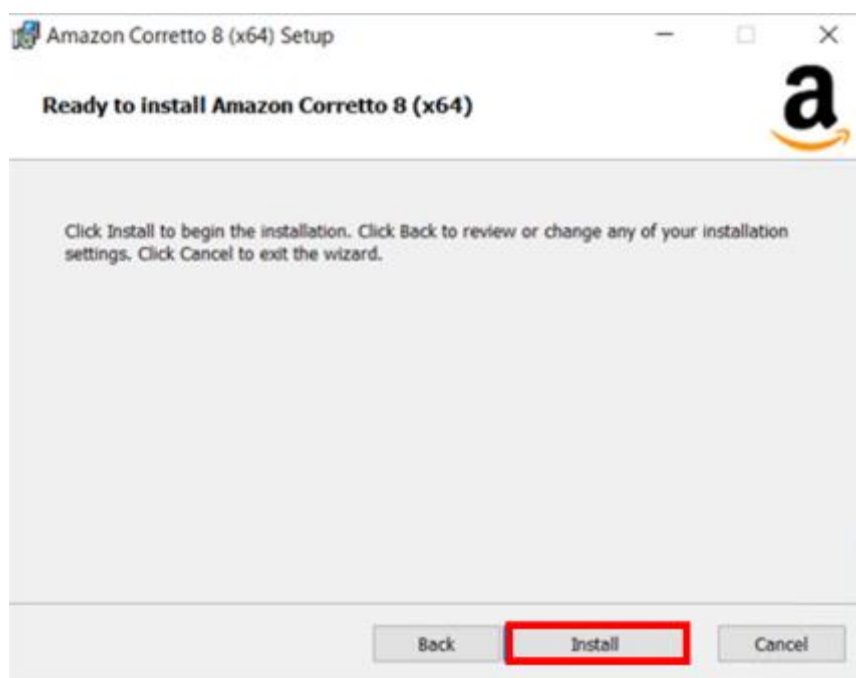
表 B-5 Amazon Corretto 8 インストール先フォルダ

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\\$S_Kokuho\PP\AmazonCorretto\

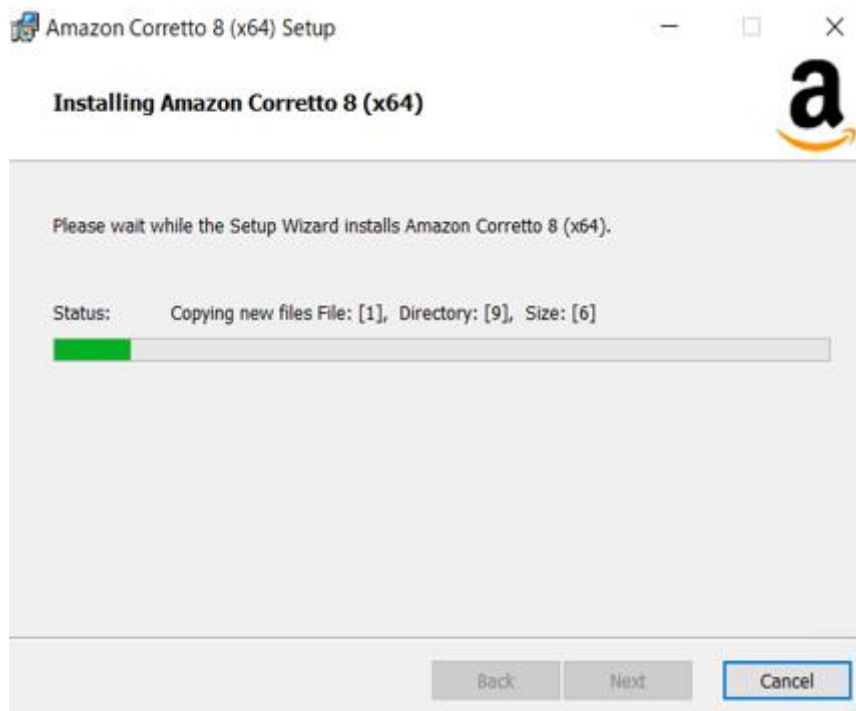
6. 「Custom Setup」画面で、「Next」をクリックします。



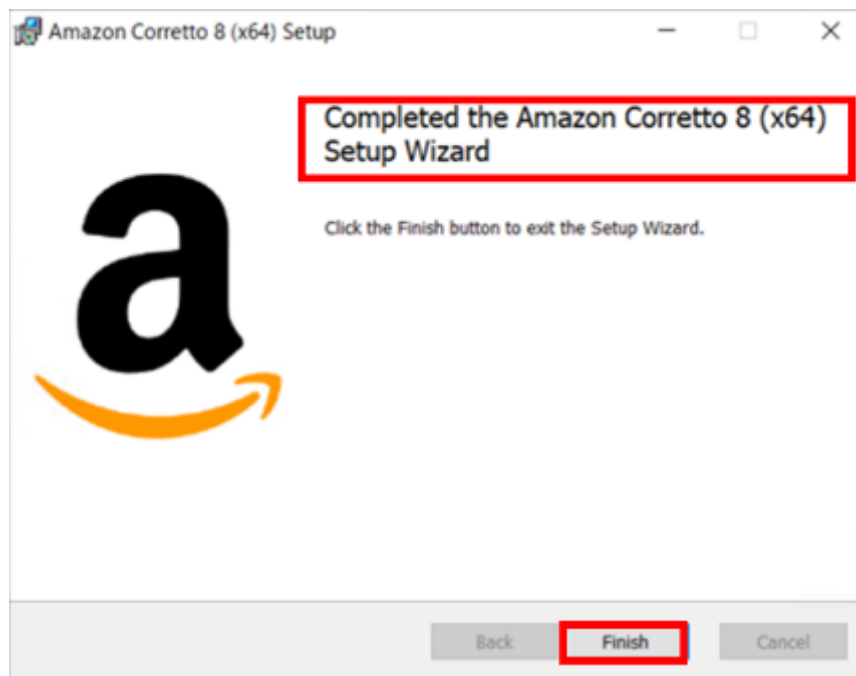
7. 「Ready to install Amazon Corretto 8 (x64)」画面で、「Install」をクリックします。



8. 「Installing Amazon Corretto 8 (x64)」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 9. の画面が表示されます。)



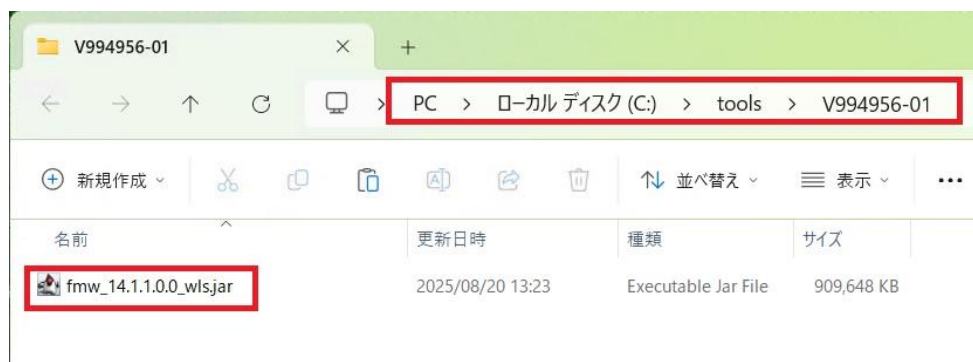
9. 「Completed the Amazon Corretto 8 (x64) Setup Wizard」と表示されていることを確認し、「Finish」をクリックします。



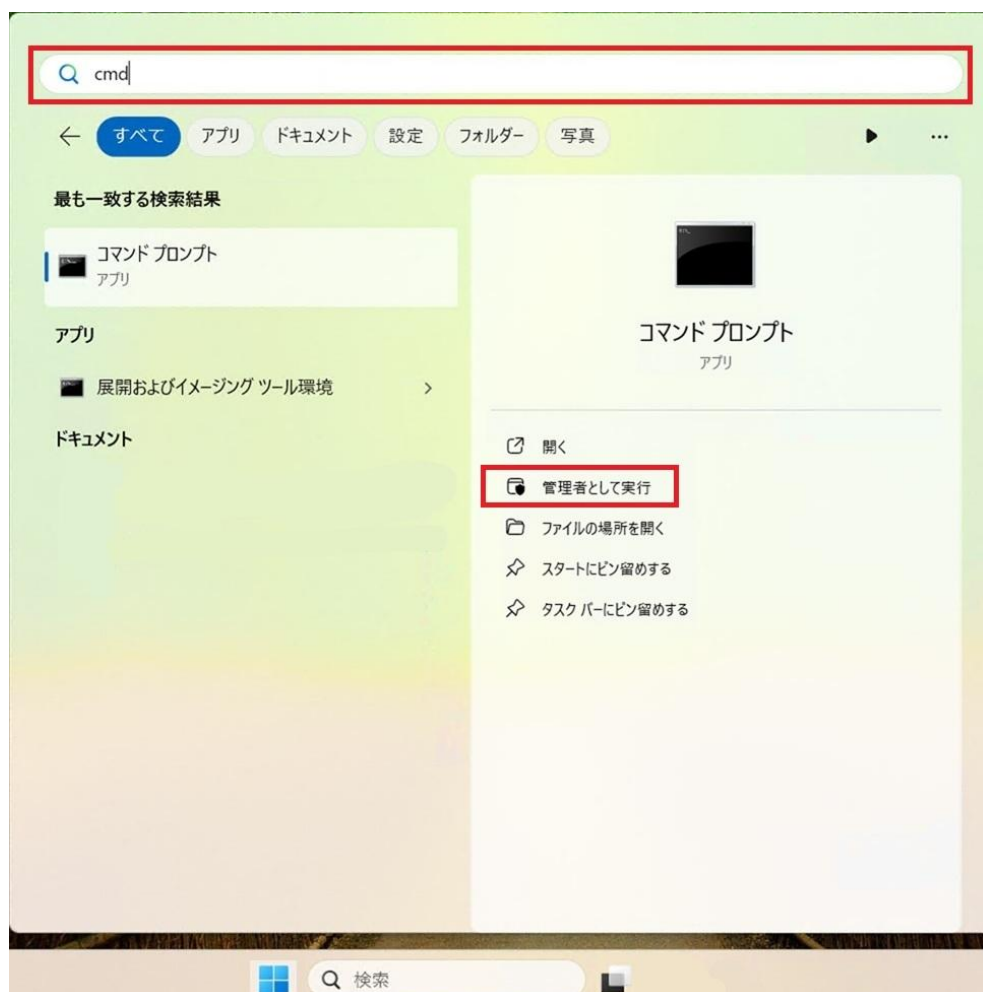
(3) Oracle WebLogic Server Standard Edition のインストール

【インストール手順例】

1. Oracle WebLogic Server Standard Edition のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「V994956-01.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「V994956-01」フォルダが作成され、その配下に「fmw_14.1.1.0.0_wls.jar」が存在することを確認します。

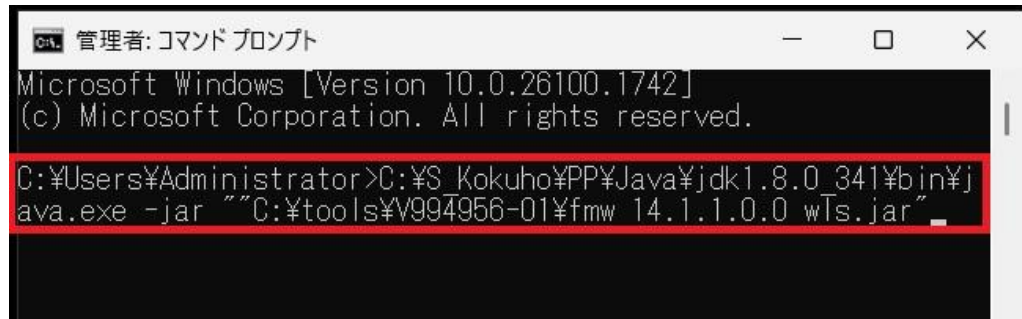


3. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



4. コマンドプロンプト画面で、下記画面例を参考に次のコマンドを入力し実行します。
(※ △は半角スペースを表します。)

C:¥S_Kokuho¥PP¥Java¥jdk1.8.0_341¥bin¥java.exe△-jar△” “資材格納フォルダ
¥fmw_14.1.1.0.0_wls.jar”



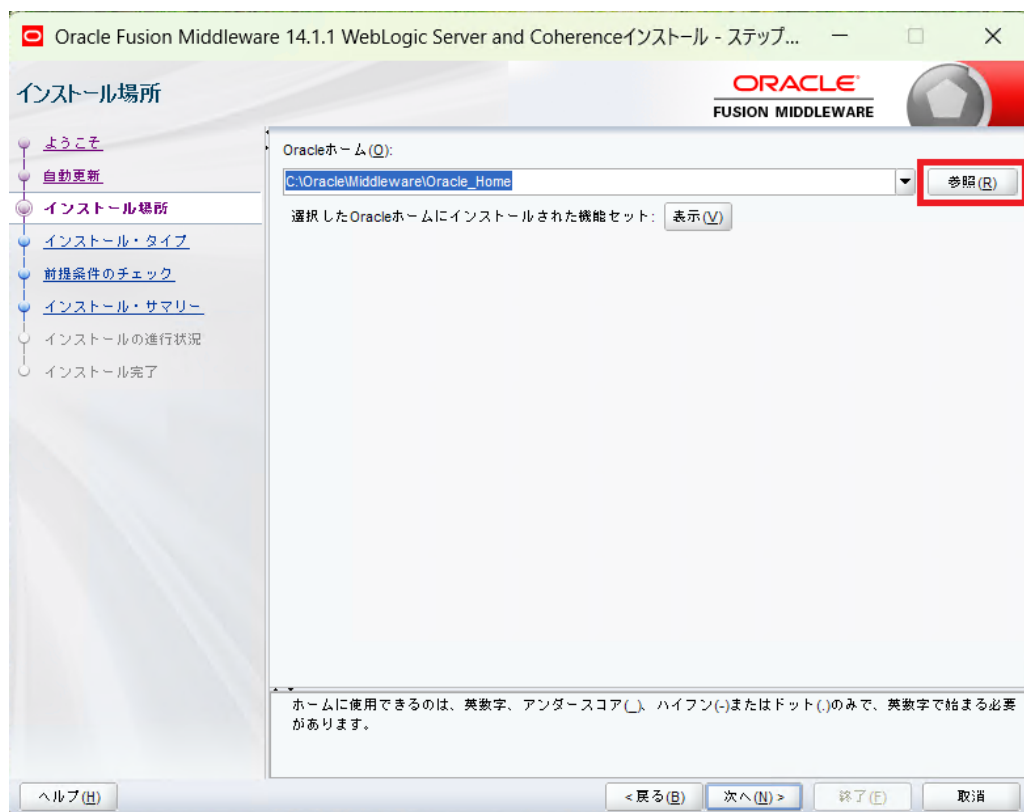
5. 「ようこそ」画面で、「次へ」をクリックします。



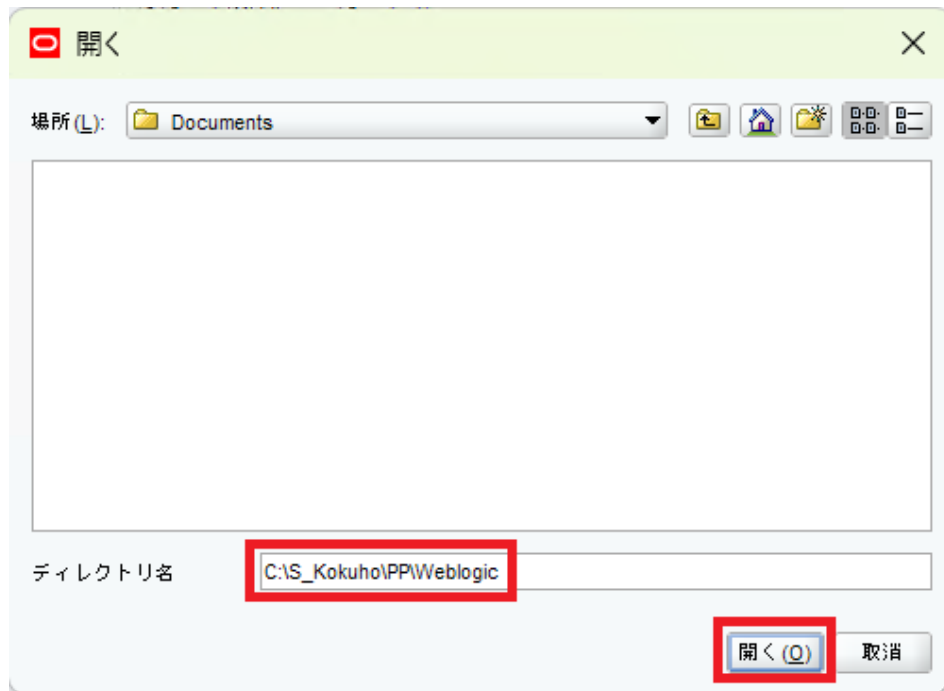
6. 「自動更新」画面で、「自動更新をスキップ」を選択し、「次へ」をクリックします。



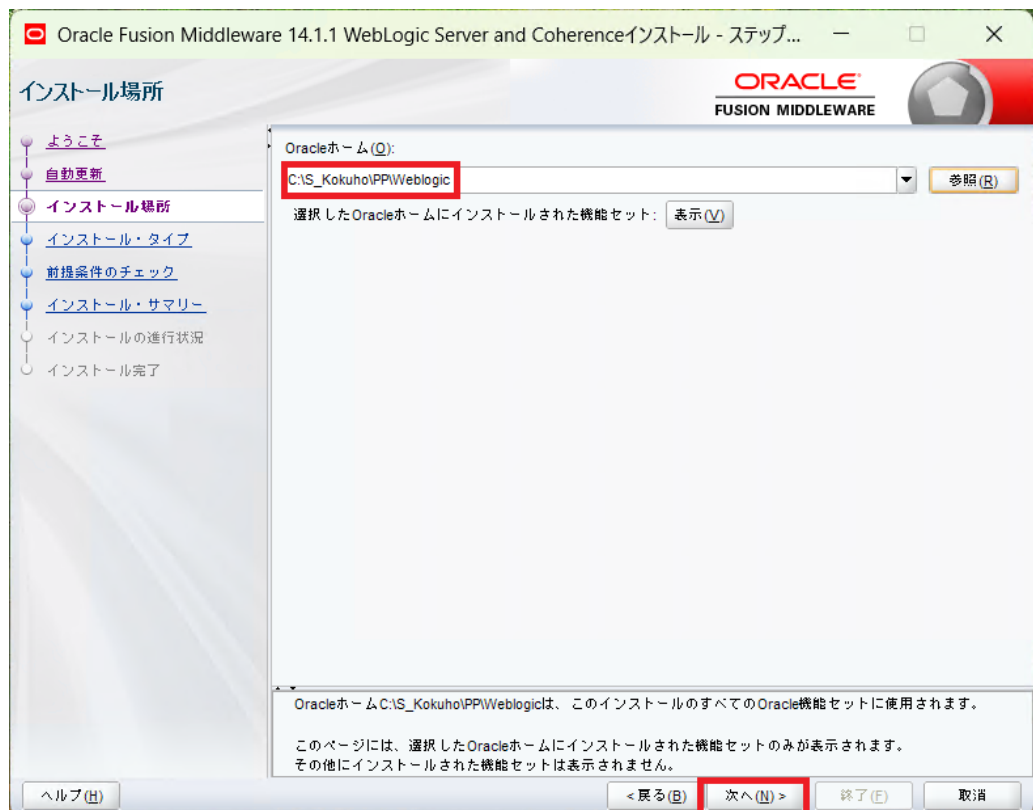
7. 「インストール場所」画面で、「参照」をクリックします。



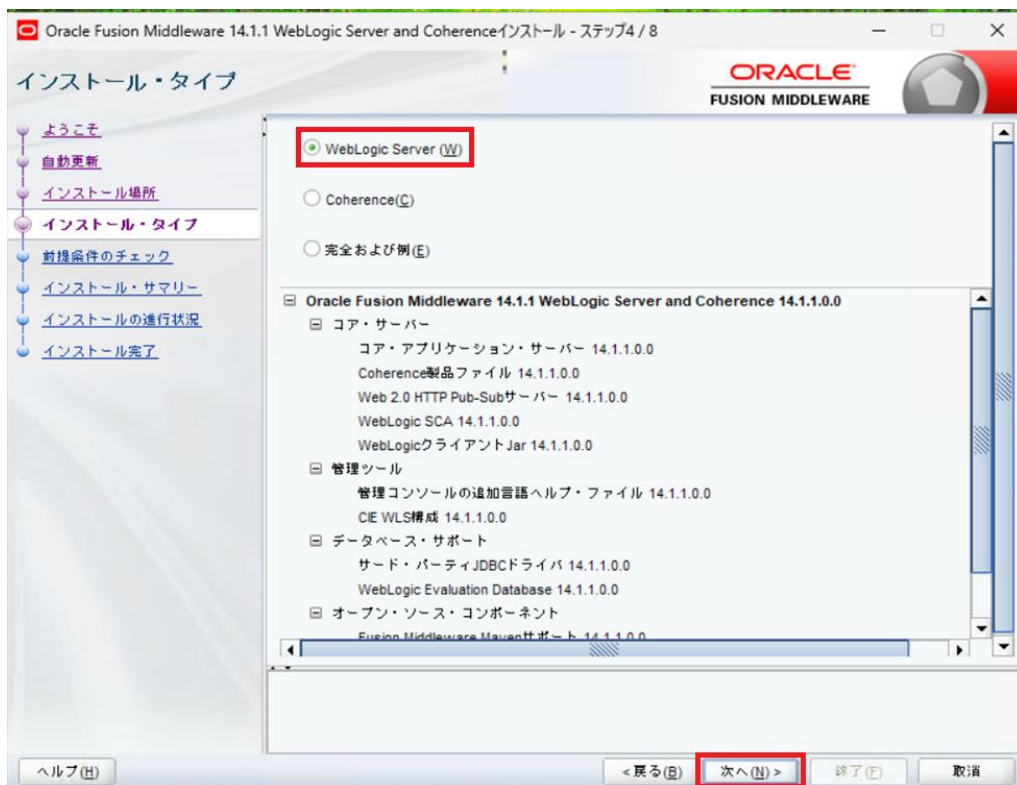
8. 「開く」画面で、「ディレクトリ名」欄に、「C:\S_Kokuho\PP\Weblogic」と入力し、「開く」をクリックします。



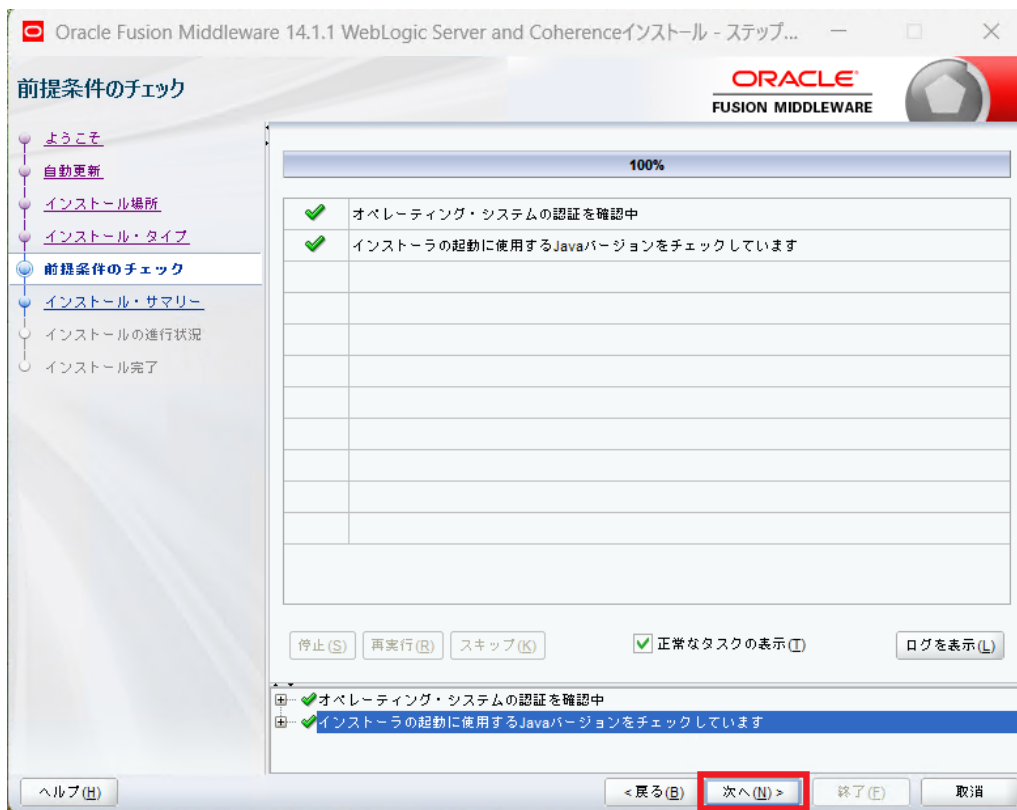
9. 「インストール場所」画面で、「Oracle ホーム」欄が手順 8. で入力したフォルダパスとなっていることを確認し、「次へ」をクリックします。



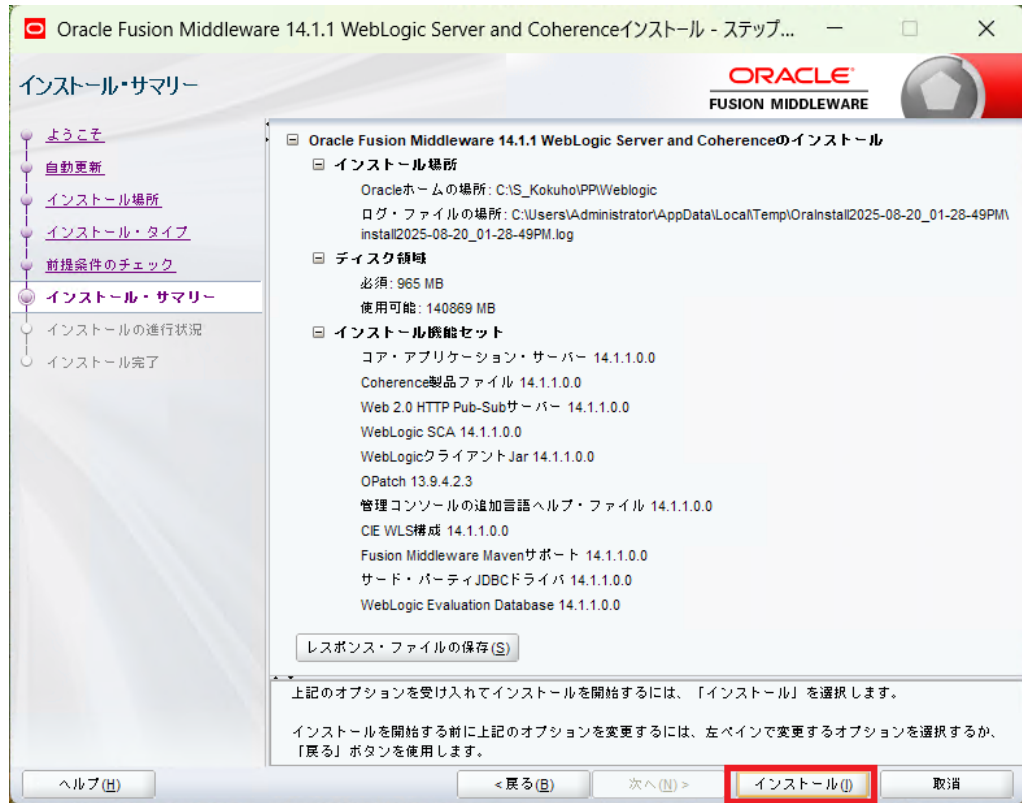
10. 「インストール・タイプ」画面で、「WebLogic Server」を選択し、「次へ」をクリックします。



11. 「前提条件のチェック」画面で、「次へ」をクリックします。



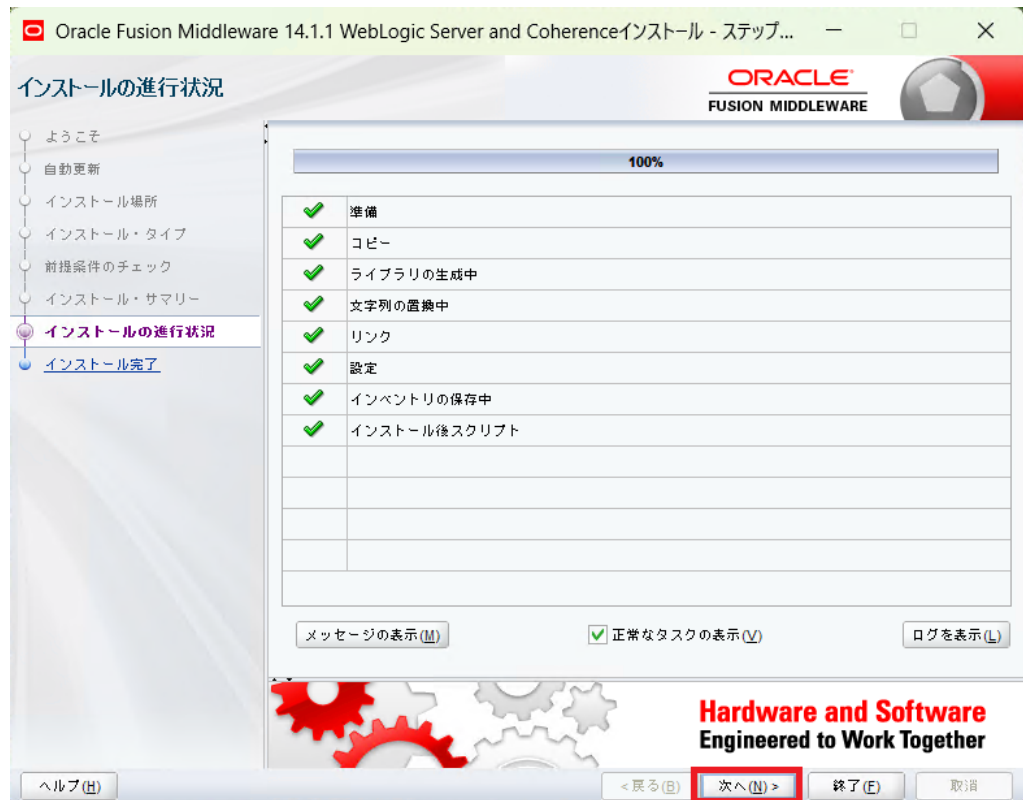
12. 「インストール・サマリー」画面で、「インストール」をクリックします。



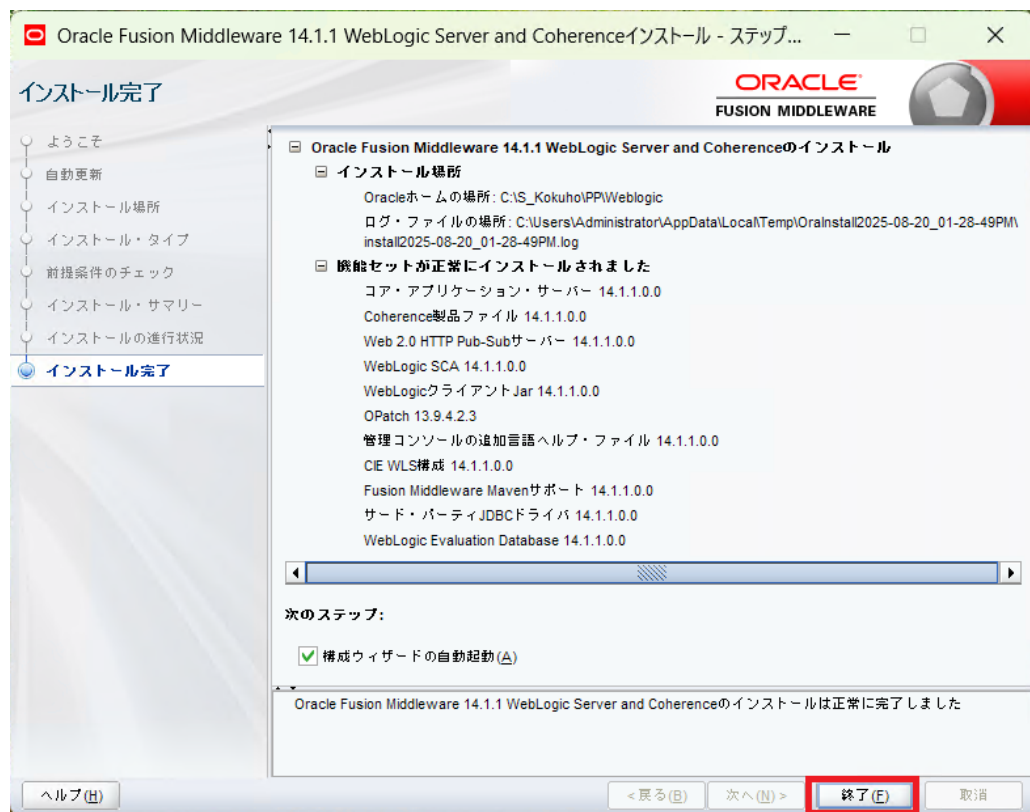
13. 「インストールの進行状況」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 14. の画面が表示されます。)



14. 「次へ」がアクティブになった後、「次へ」をクリックします。



15. 「インストール完了」画面で、「終了」をクリックします。



16. 「構成タイプ」画面で、「新規ドメインの作成」を選択し、「参照」をクリックします。



17. 「選択」画面で、下記画面例を参考に、「ファイル名」欄に表 B-6 のファイル名を入力し、「選択」をクリックします。

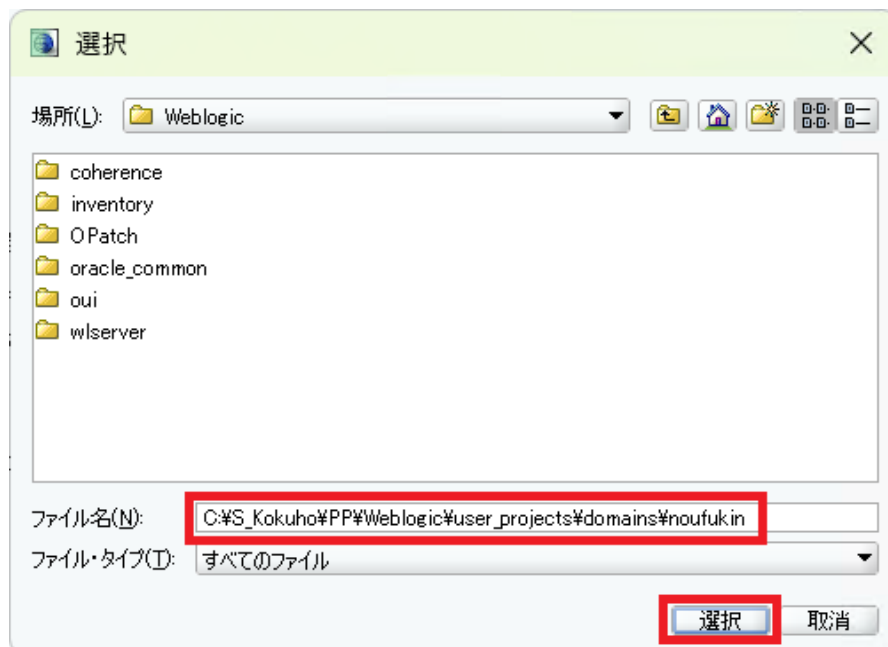


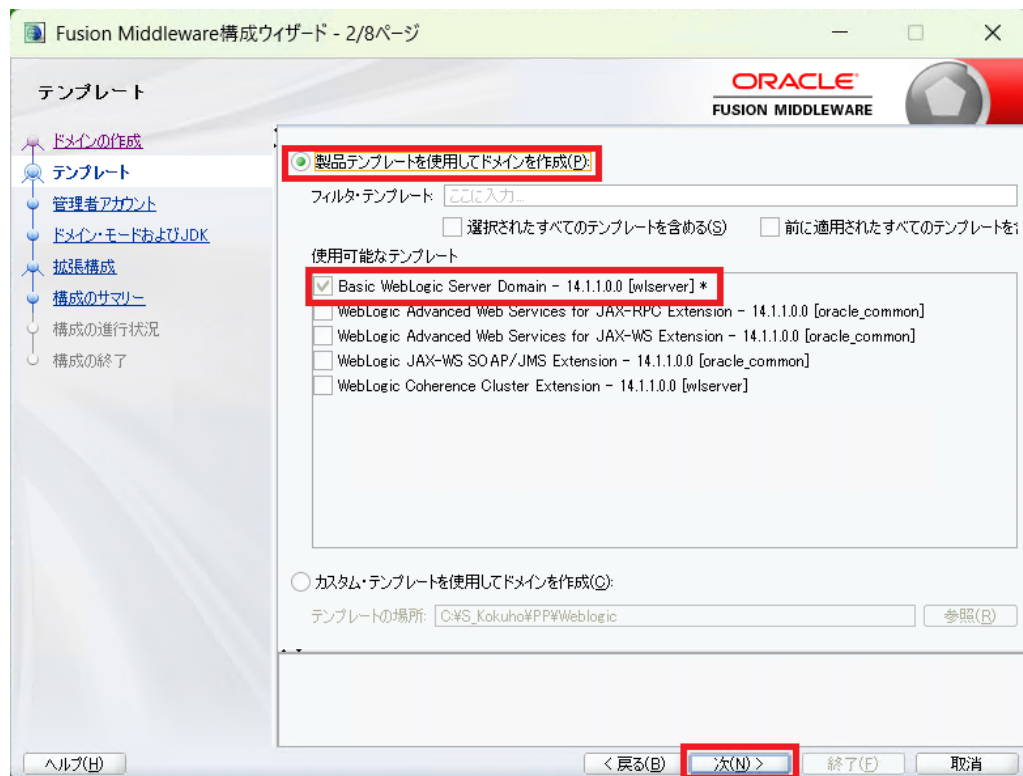
表 B-6 Oracle WebLogic Server Standard Edition ドメインの場所

No.	対象機器	ファイル名
1	納付金スタン ドアロン端末	C:\S_Kokuho\PP\Weblogic\User_projects\domains\noufukin

18. 「ドメインの場所」欄が、手順 17. で選択したフォルダパスとなっていることを確認し、「次」をクリックします。



19. 「テンプレート」画面で、「製品テンプレートを使用してドメインを作成」をチェックし、「使用可能なテンプレート」欄に「Basic WebLogic Server Domain - 14.1.1.0.0 [wlserver]」のみをチェックし、「次」をクリックします。



20. 「管理者アカウント」画面で、名前、パスワード、パスワードの確認欄にそれぞれ入力し、「次」をクリックします。

Fusion Middleware構成ウィザード - 3/8ページ

管理者アカウント

ドメインの作成
テンプレート
管理者アカウント
ドメイン・モードおよびJDK
拡張構成
構成のサマリー
構成の進行状況
構成の終了

名前 weblogic
パスワード
パスワードの確認

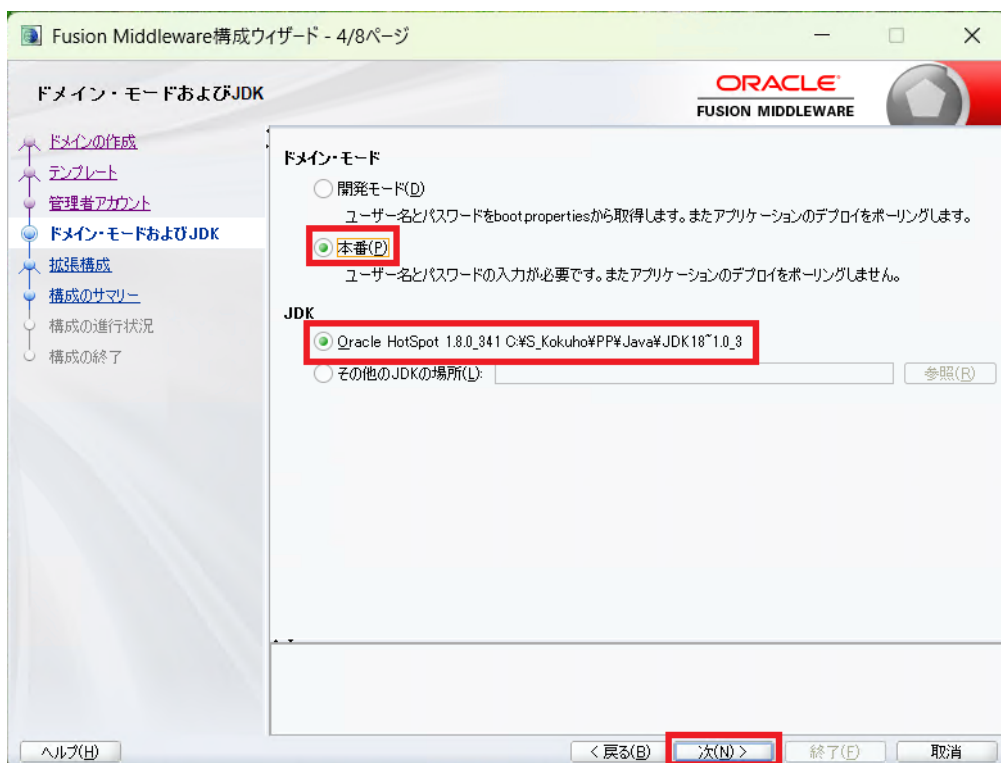
パスワードと同じにする必要があります。パスワードは、少なくとも1つの数字または特殊記号が含まれた8文字以上の英数字である必要があります。

ヘルプ(H) < 戻る(B) 次(N) > 終了(F) 取消

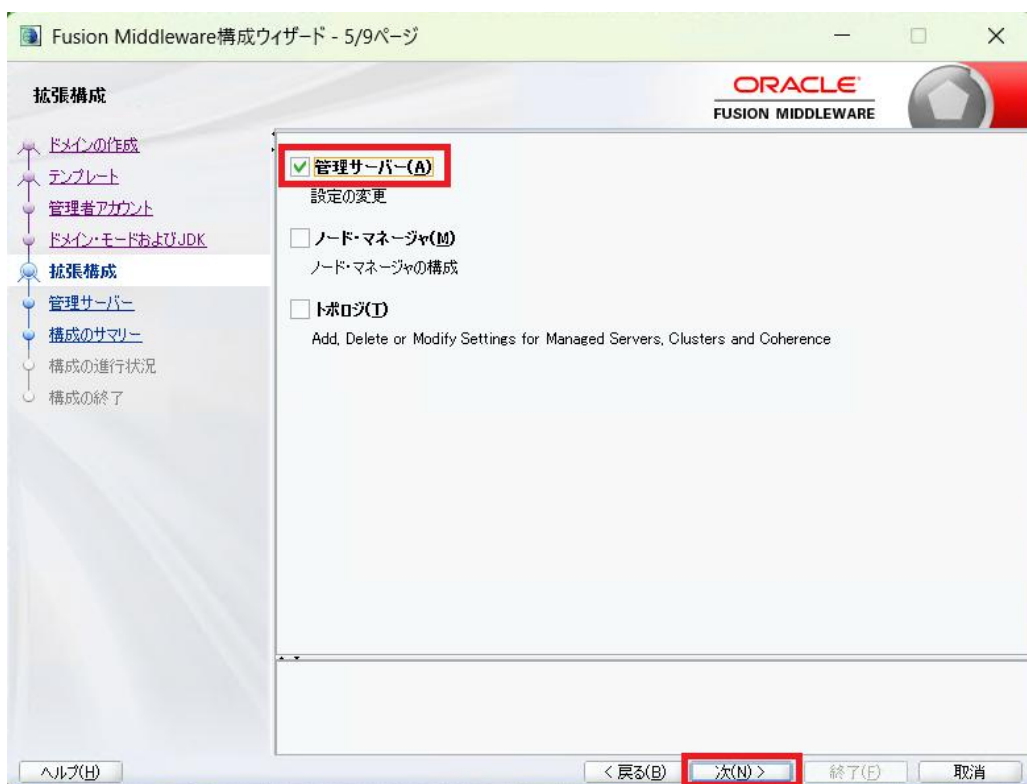
 注意事項

入力する名前、パスワード、パスワードの確認については、各都道府県にて事前に設計してください。

21. 「ドメイン・モードおよびJDK」画面で、「ドメイン・モード」欄に「本番」を選択し、「JDK」欄に「Oracle HotSpot 1.8.0_341 C:\¥S_Kokuho¥PP¥Java¥JDK18~1.0_3」を選択し、「次」をクリックします。



22. 「拡張構成」画面で、「管理サーバー」をチェックし、「次」をクリックします。

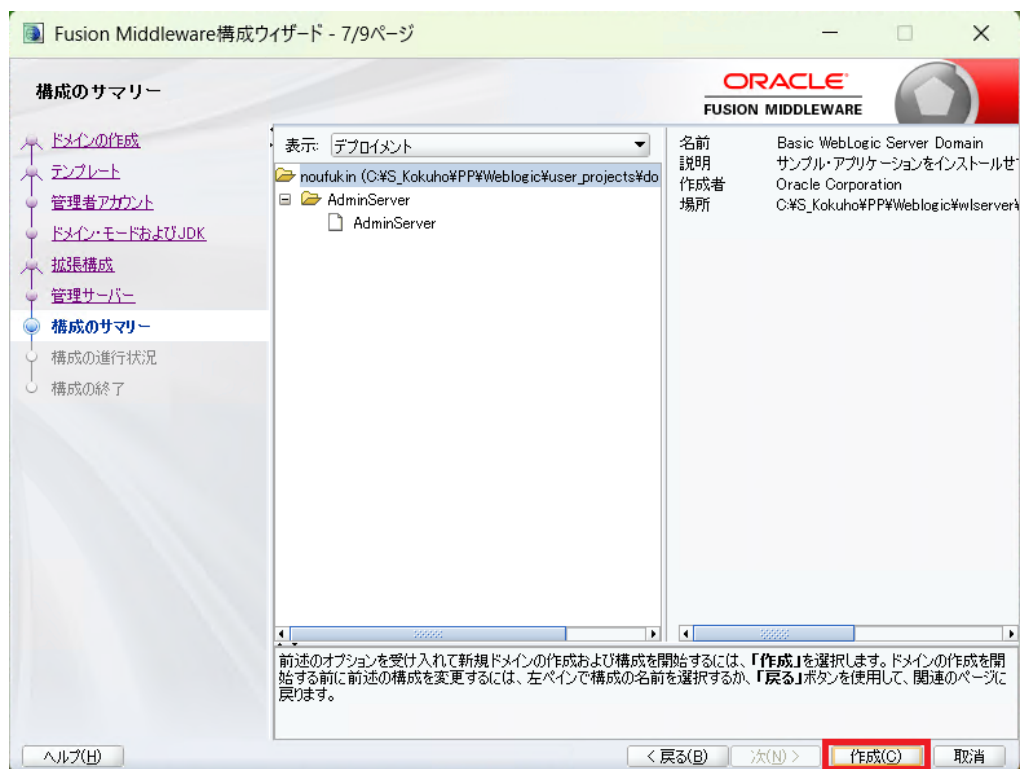


23. 「管理サーバー」画面で、以下のサーバー名、リスニング・アドレス、リスニング・ポートを入力し、「次」をクリックします。

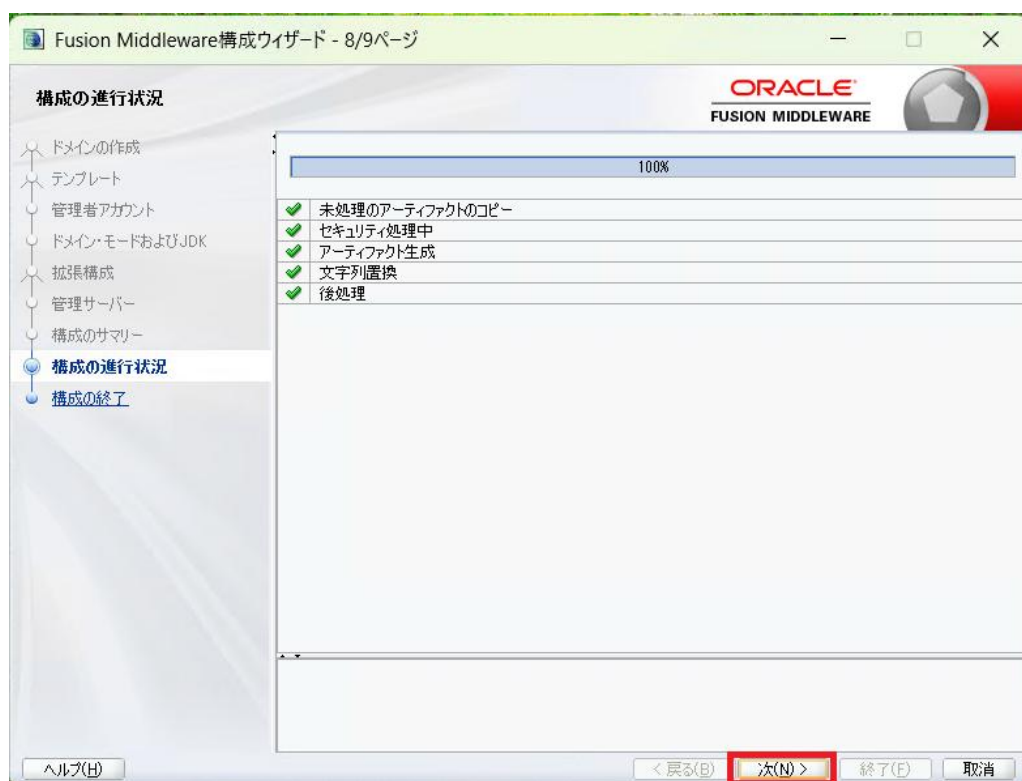
- ・サーバー名：AdminServer（初期値）
- ・リスニング・アドレス：すべてのローカル・アドレス（初期値）
- ・リスニング・ポート：7001（初期値）

The screenshot shows the 'Fusion Middleware 構成ウィザード - 6/9ページ' window. The title bar includes the Oracle logo and 'FUSION MIDDLEWARE'. The left sidebar contains a navigation tree with the following items: ドメインの作成, テンプレート, 管理者アカウント, ドメイン・モードおよびJDK, 拡張構成, 管理サーバー (selected), 構成のサマリー, 構成の進行状況, and 構成の終了. The main content area is titled '管理サーバー'. It contains three input fields: 'サーバー名' with the value 'AdminServer', 'リスニング・アドレス' with a dropdown menu showing 'すべてのローカル・アドレス', and 'リスニング・ポート' with the value '7001'. Below these fields are two checkboxes: 'SSLの有効化' (unchecked) and 'SSLリスニング・ポート' (empty). At the bottom, there is a warning message: '名前をnullまたは空にすることはできません。また、名前に: , = * ? % / _ clonedを含めることはできません。'. The bottom navigation bar includes buttons for 'ヘルプ(H)', '< 戻る(B)', '次(N) >' (highlighted with a red box), '終了(F)', and '取消'.

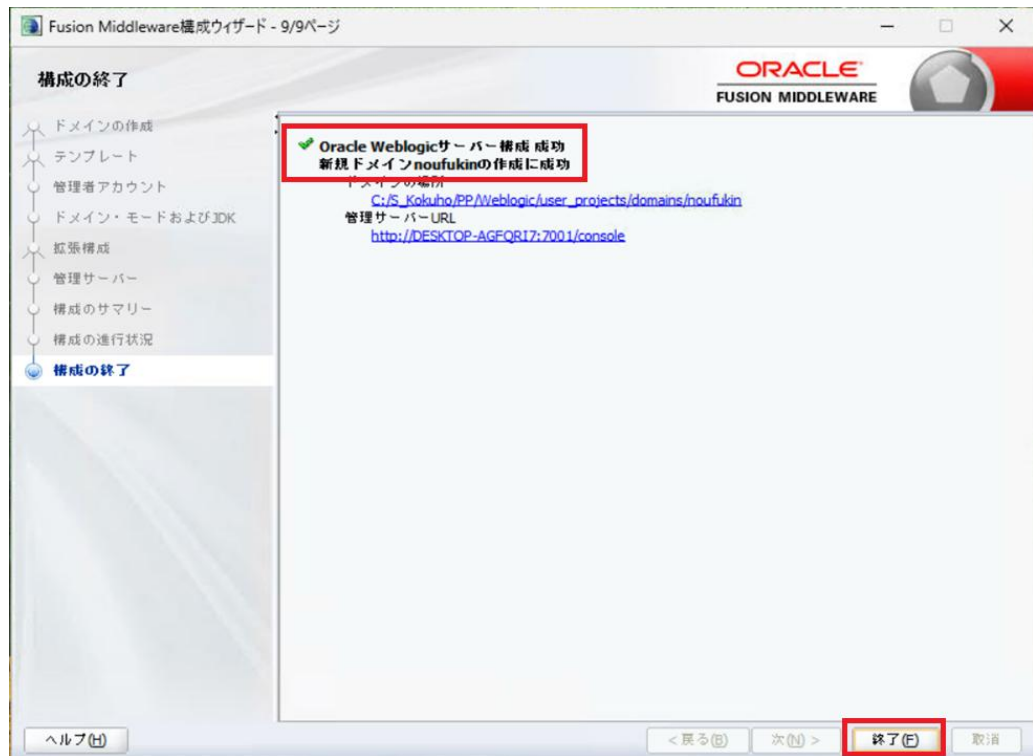
24. 「構成のサマリー」画面で、「作成」をクリックします。



25. 「構成の進行状況」画面で、「次」がアクティブになった後、「次」をクリックします。



26. 「構成の終了」画面で、「Oracle Weblogic サーバー構成 成功」、「新規ドメイン noufukin の作成に成功」と表示されていることを確認し、「終了」をクリックします。



27. コマンドプロンプトを閉じます。

(4) Apache HTTP Server のインストール

⚠ 注意事項

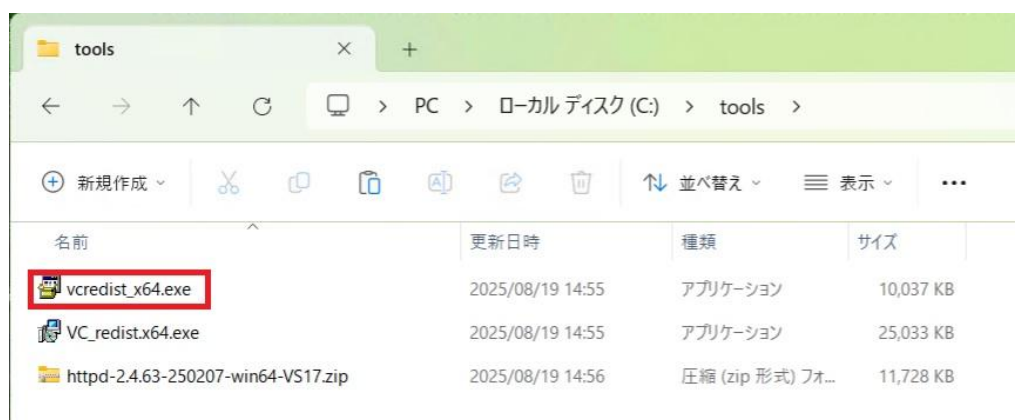
Apache のインストールに際し、次に示すミドルウェアが必要となります。事前に「付録.A. 2(1) サポートサイトからのダウンロード」を参照し、ファイルをダウンロードしてください。

表 B-7 前提プログラムファイル名

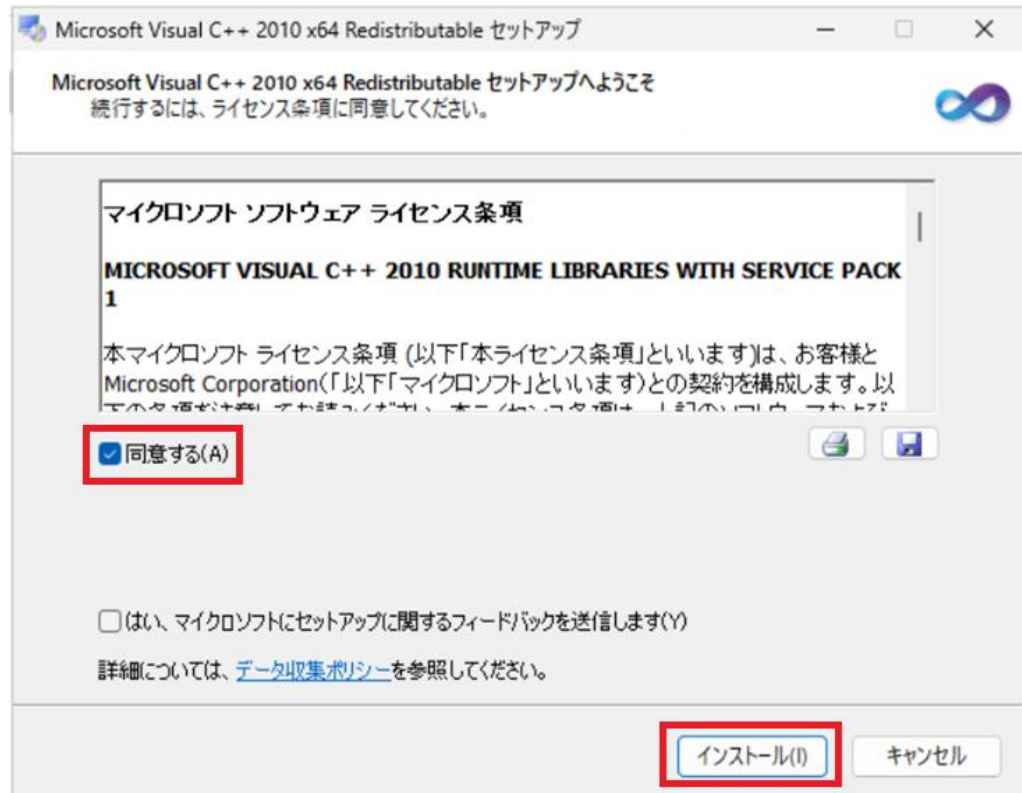
No.	対象機器	パッケージ名	プログラムファイル名
1	納付金スタンドアロン端末	Microsoft Visual C++ 2010 Service Pack 1 再頒布可能パッケージ MFC のセキュリティ更新プログラム	vcredist_x64.exe
2		Visual Studio 2015、2017、2019、および 2022	VC_redist.x64.exe

【インストール手順例】

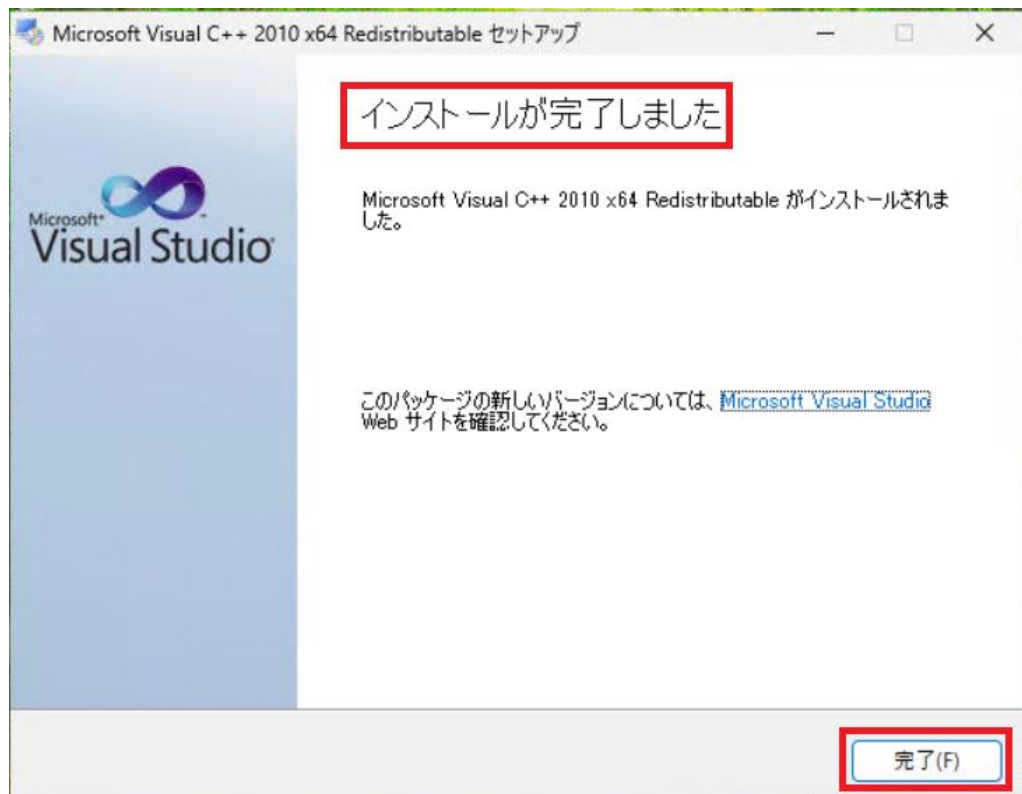
1. Apache HTTP Server のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「(資材格納フォルダ) ¥vcredist_x64.exe」をダブルクリックします。



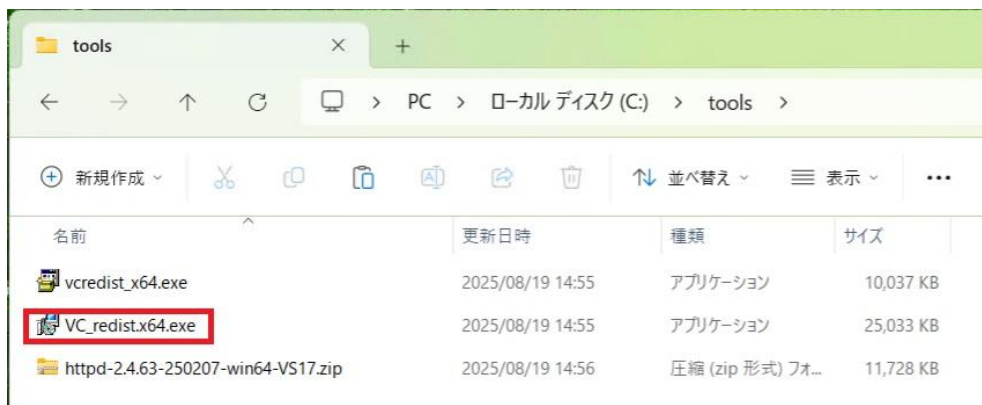
3. 「Microsoft Visual C++ 2010 x64 Redistributable セットアップ」画面で、「同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。



4. 「インストールが完了しました」と表示されていることを確認し、「完了」をクリックします。



5. 「(資材格納フォルダ) ¥VC_redist.x64.exe」をダブルクリックします。



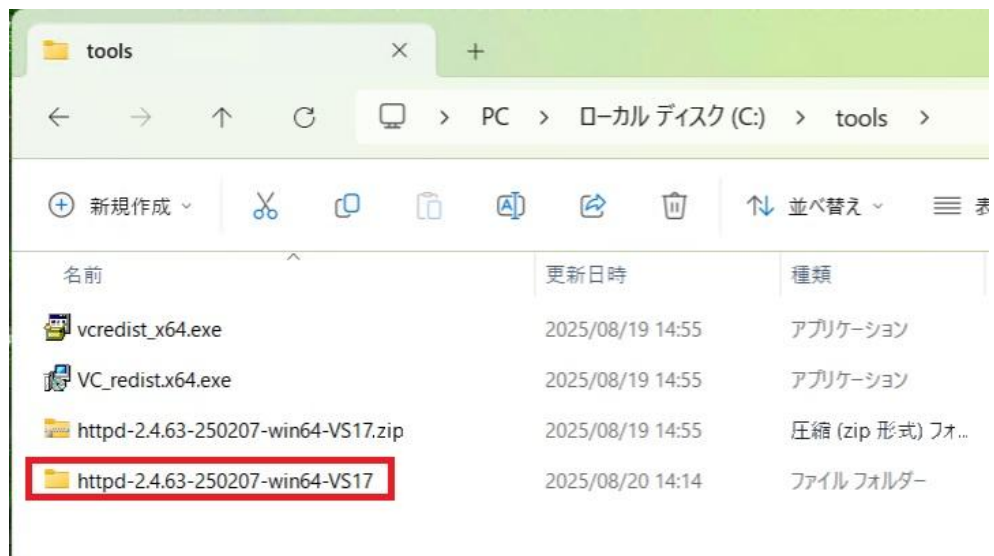
6. 「Microsoft Visual C++ 2015-2022 Redistributable (x64)...」画面で、「ライセンス条項および使用条件に同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。



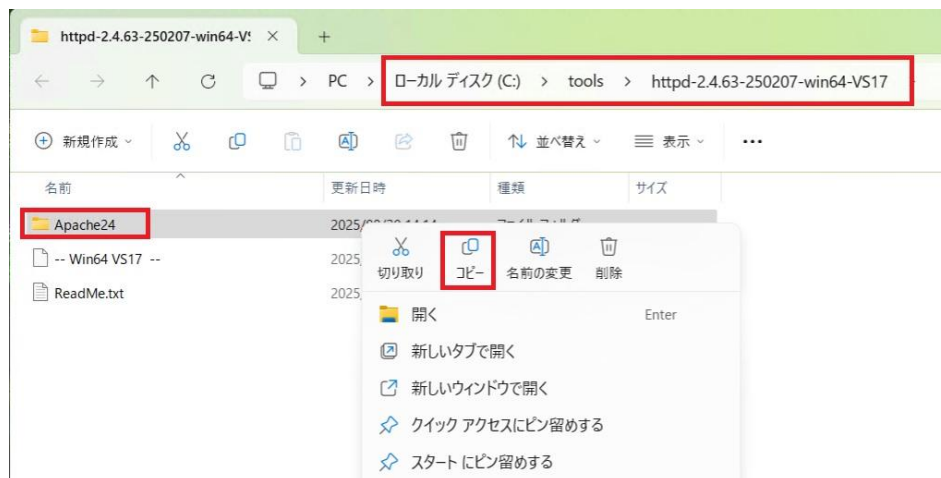
7. 「セットアップ完了」と表示されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。



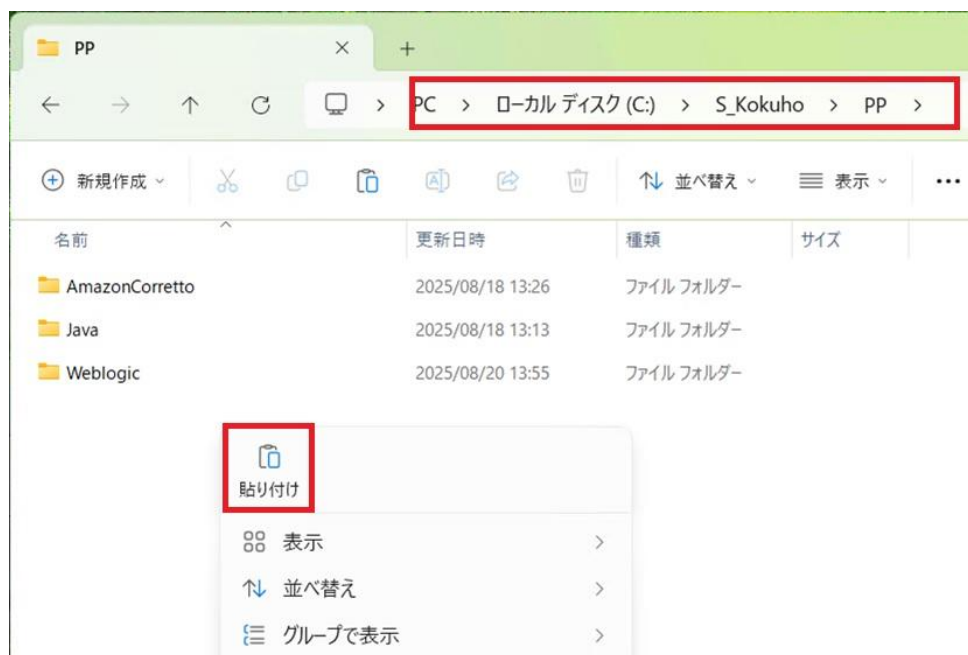
8. 「httpd-2.4.63-250207-win64-VS17.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「httpd-2.4.63-250207-win64-VS17」フォルダが作成されることを確認します。



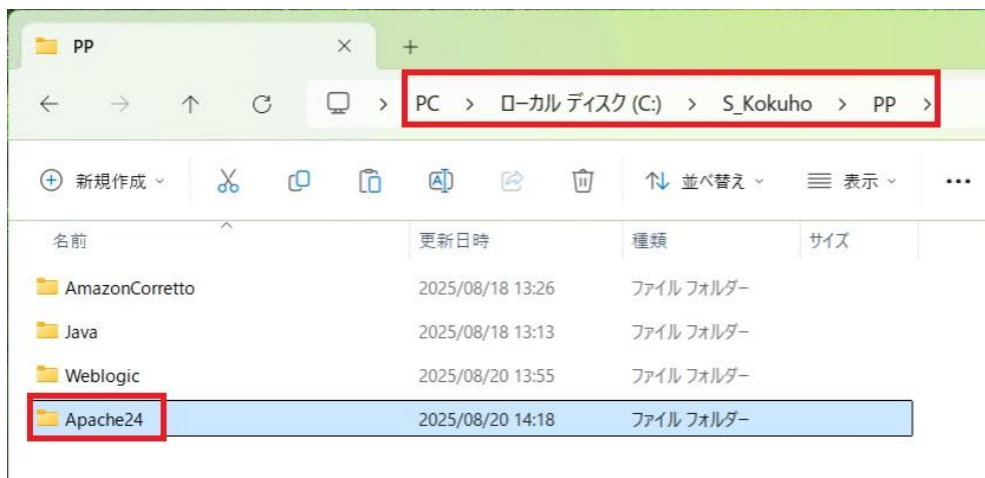
9. 「(資材格納フォルダ)¥httpd-2.4.63-250207-win64-VS17」フォルダ配下の「Apache24」フォルダを右クリックし、「コピー」をクリックします。



10. 手順 9. でコピーした「Apache24」フォルダを、「C:¥S_Kokuho¥PP」フォルダに貼り付けます。



11. 「C:\S_Kokuho\PP」フォルダ配下に「Apache24」フォルダが存在することを確認し、エクスプローラーを閉じます。



(5) Oracle WebLogic Server Web Server Plugins のインストール

⚠ 注意事項

Oracle WebLogic Server Web Server Plugins のインストールに際し、次に示すミドルウェアが必要となります。事前に、「付録.A.2(1) サポートサイトからのダウンロード」を参照し、ファイルをダウンロードしてください。

- ・ パッケージ名

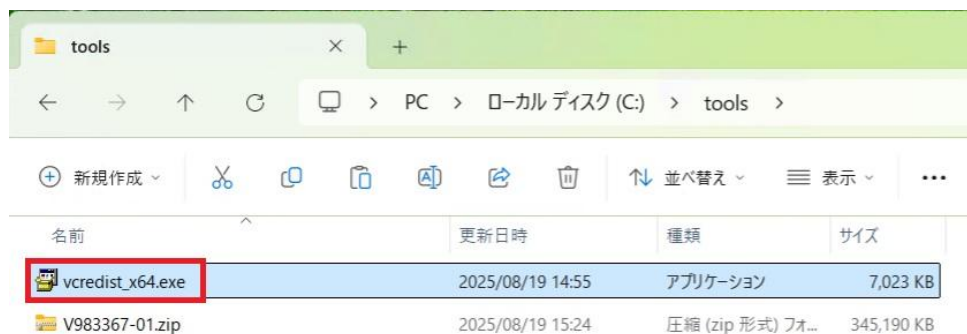
Visual Studio 2012 更新プログラム 4 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ (x64)

- ・ プログラムファイル名

vcredist_x64.exe

【インストール手順例】

1. Oracle WebLogic Server Web Server Plugins のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「(資材格納フォルダ) ¥vcredist_x64.exe」をダブルクリックします。



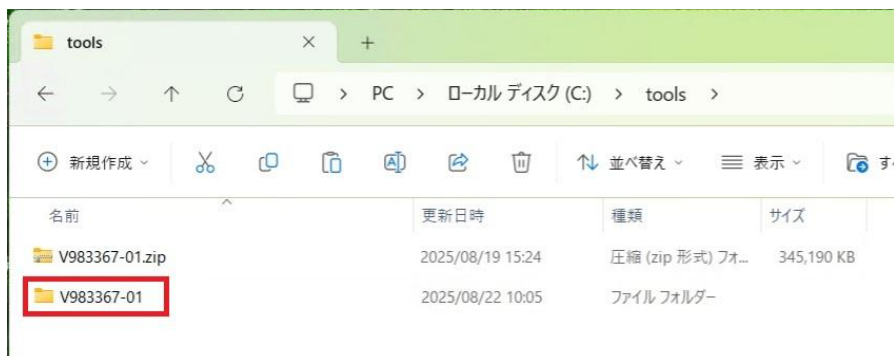
3. 「Microsoft Visual C++ 2012 Redistributable (x64) - 11.0.61...」画面で、「ライセンス条項および使用条件に同意する」をチェックし、「インストール」をクリックします。



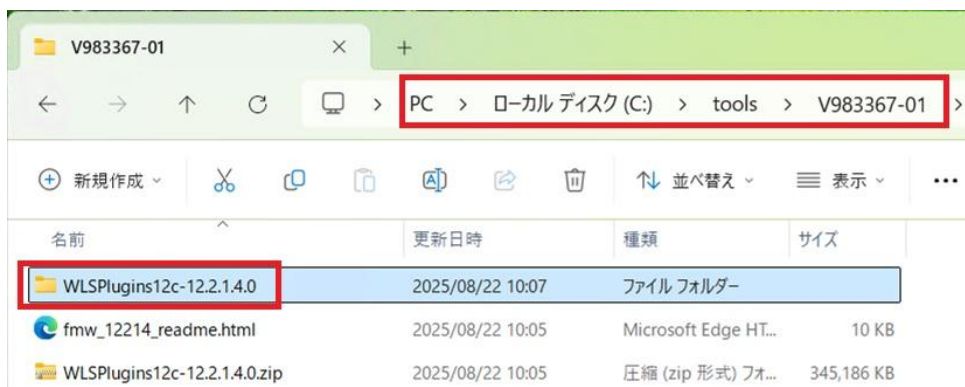
4. 「セットアップ完了」と表示されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。



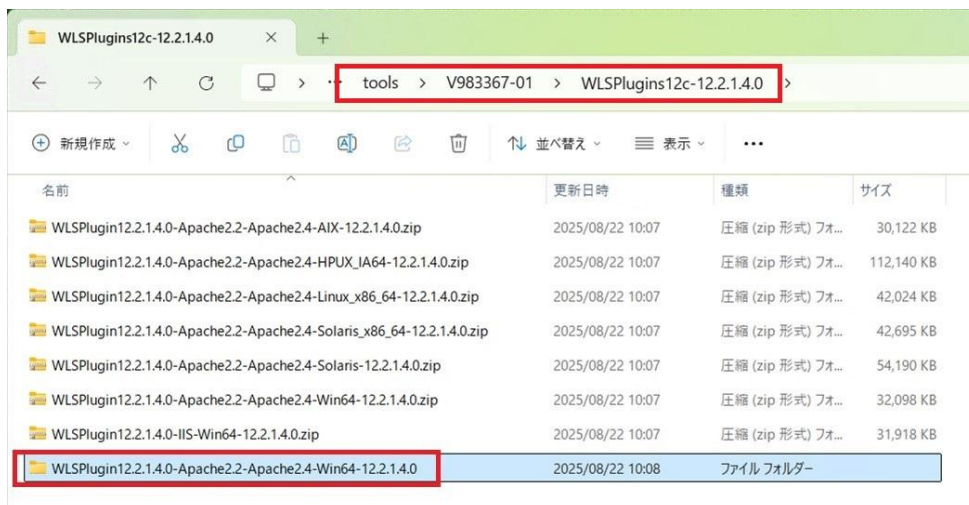
5. 「V983367-01.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「V983367-01」フォルダが作成されることを確認します。



6. 「(資材格納フォルダ)¥V983367-01」フォルダ配下の「WLSPlugins12c-12.2.1.4.0.zip」ファイルを「V983367-01」フォルダに解凍し、「WLSPlugins12c-12.2.1.4.0」フォルダが作成されることを確認します。

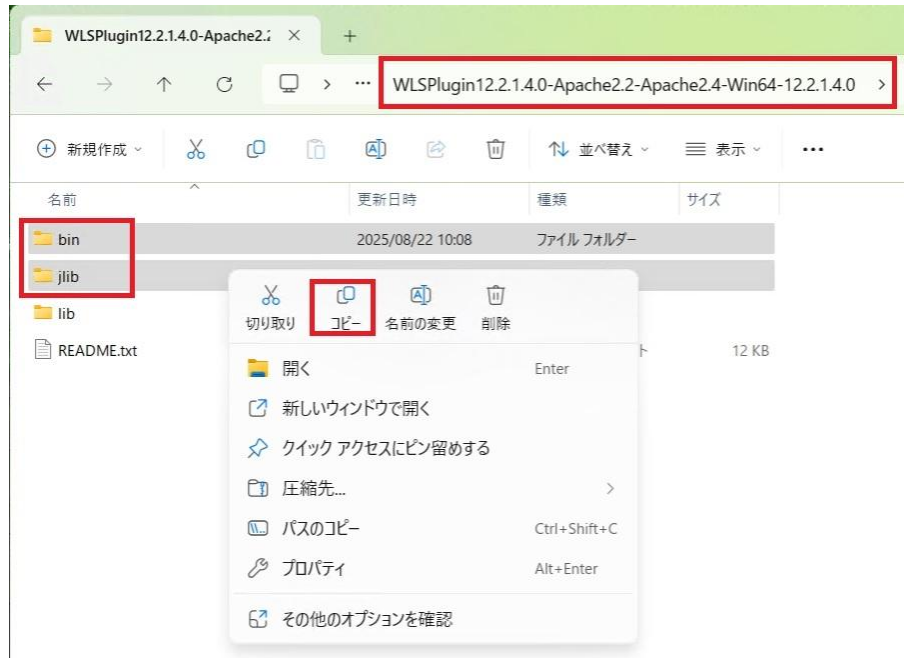


7. 「(資材格納フォルダ) ¥V983367-01¥WLSPlugins12c-12.2.1.4.0」フォルダ配下の、「WLSPlugin12.2.1.4.0-Apache2.2-Apache2.4-Win64-12.2.1.4.0.zip」ファイルを「WLSPlugins12c-12.2.1.4.0」フォルダに解凍し、「WLSPlugin12.2.1.4.0-Apache2.2-Apache2.4-Win64-12.2.1.4.0」フォルダが作成されることを確認します。

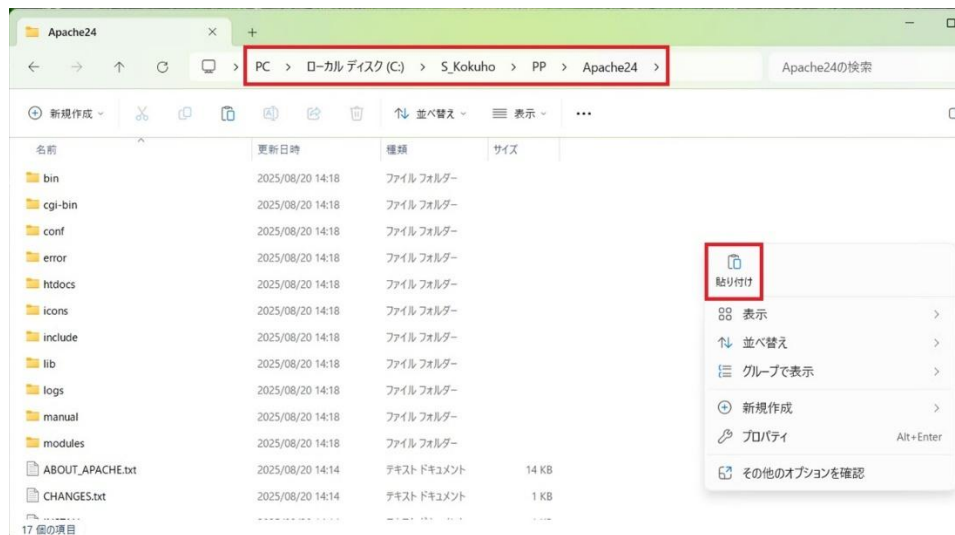


8. 「(資材格納フォルダ)」

¥V983367-01¥WLSPlugins12c-12.2.1.4.0¥WLSPlugin12.2.1.4.0-Apache2.2-Apache2.4-Win64-12.2.1.4.0」フォルダ配下の「bin」フォルダ、「jlib」フォルダをコピーします。

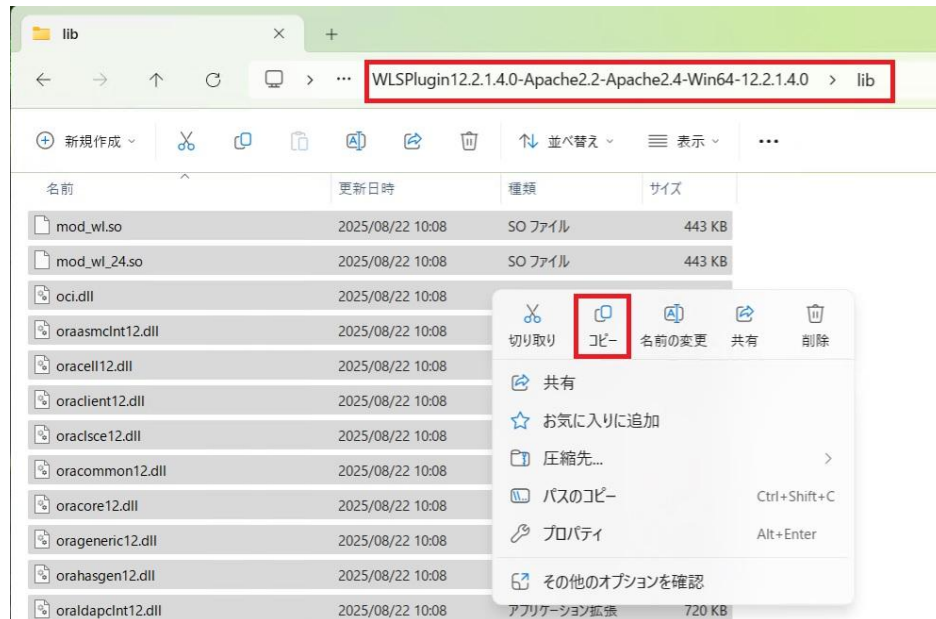


9. 手順 8. でコピーしたフォルダを、「C:\\$S_Kokuho¥PP¥Apache24」フォルダに貼り付けます。

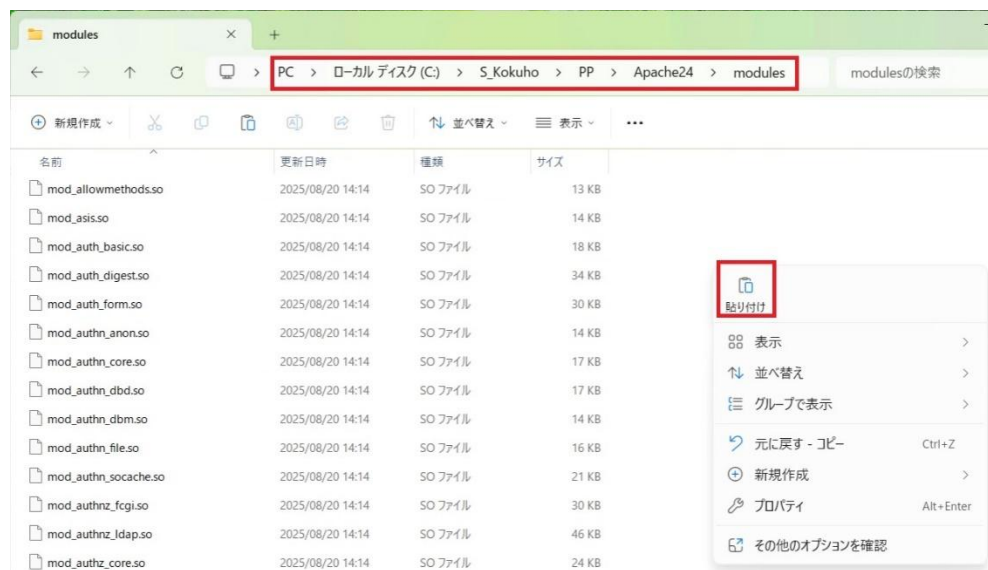


10. 「(資材格納フォルダ)

¥V983367-01¥WLSPlugins12c-12.2.1.4.0¥WLSPlugin12.2.1.4.0-Apache2.2-Apache2.4-Win64-12.2.1.4.0¥lib」フォルダ配下のファイルをすべてコピーします。



11. 手順 10. でコピーしたファイルを、「C:\\$S_Kokuho¥PP¥Apache24¥modules」フォルダに貼り付けます。



12. 手順 8. と手順 10. でコピーしたフォルダ、ファイルが、手順 9. と手順 11. で貼り付けたフォルダに存在することを確認し、エクスプローラーを閉じます。

 注意事項

コピーの結果確認としては、以下の観点にて確認してください。

- ・コピー元のフォルダ/ファイルが、コピー先にすべて存在するか。
- ・コピー元/先にて、ファイルサイズが一致しているか。
- ・コピー元/先にて、ファイルの更新日付が一致しているか。

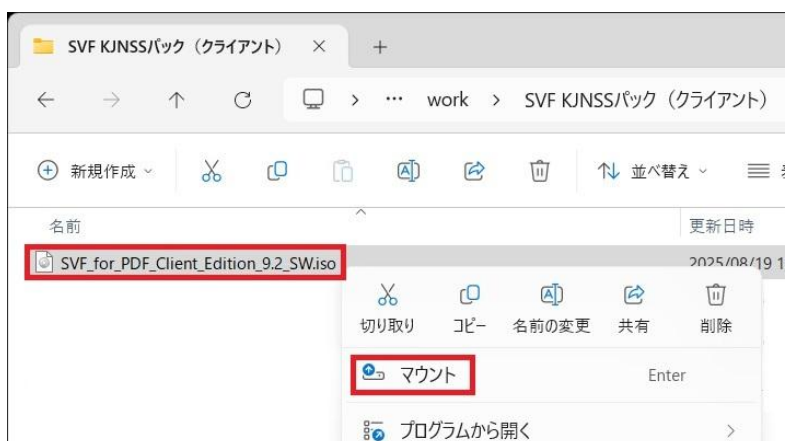
(6) SVF KJNSS パック（クライアント版）のインストール

SVF KJNSS パック（クライアント版）は、SVF for PDF Client Edition、SVF Connect SUITE Standard および SVF Service Pack をインストールします。それぞれ、該当するインストール参考例を参照ください。

【インストール手順例】

(a) SVF for PDF Client Edition のインストール

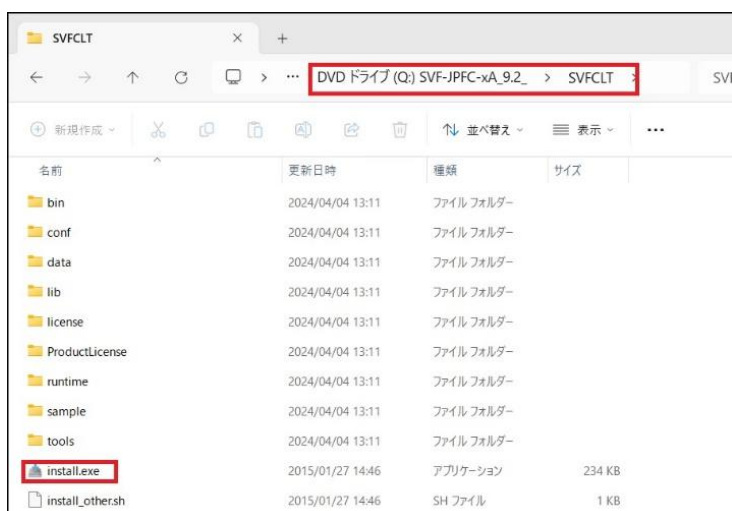
1. SVF for PDF Client Edition のインストールファイル（iso イメージファイル）を、「資材格納フォルダ」に格納し、インストールファイルを右クリックし、「マウント」をクリックします。（※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。）



⚠ 注意事項

本手順では、インターネットからダウンロードしたインストールファイル（iso イメージファイル）を使用した場合の例となります。インストールメディアを使用する場合は、DVD ドライブに挿入します。

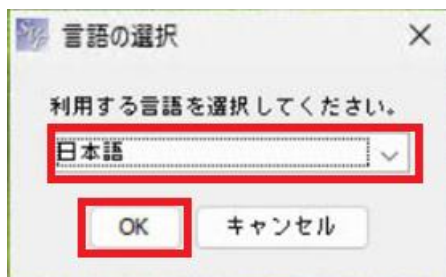
2. 「Q:¥SVFCLT¥install.exe」をダブルクリックします。



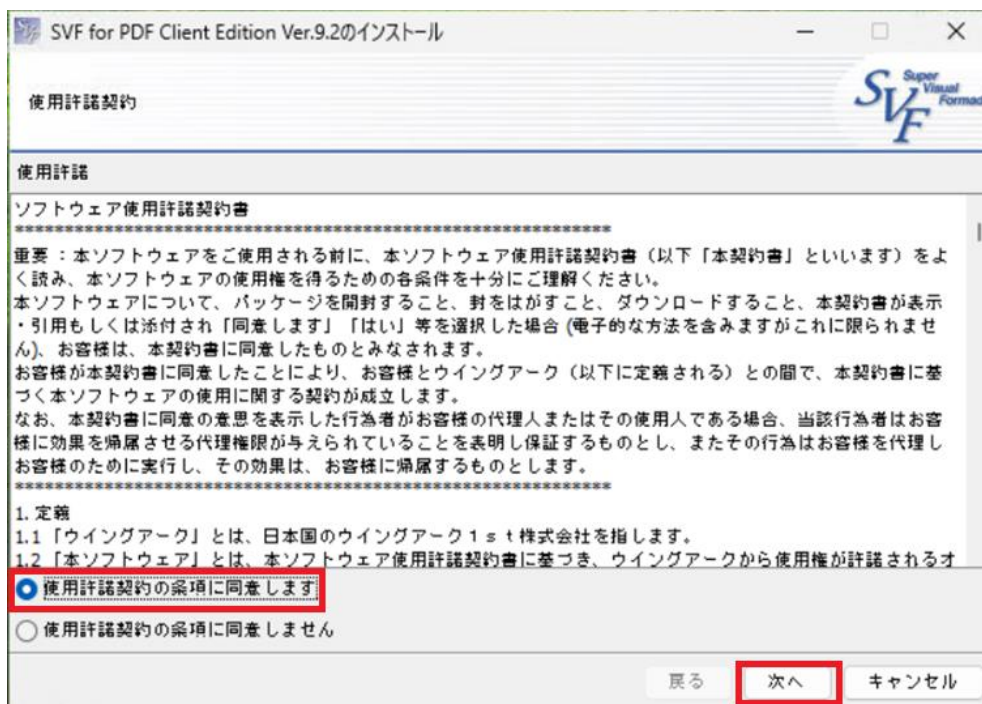
⚠ 注意事項

本手順では、DVD ドライブを Q ドライブとしています。

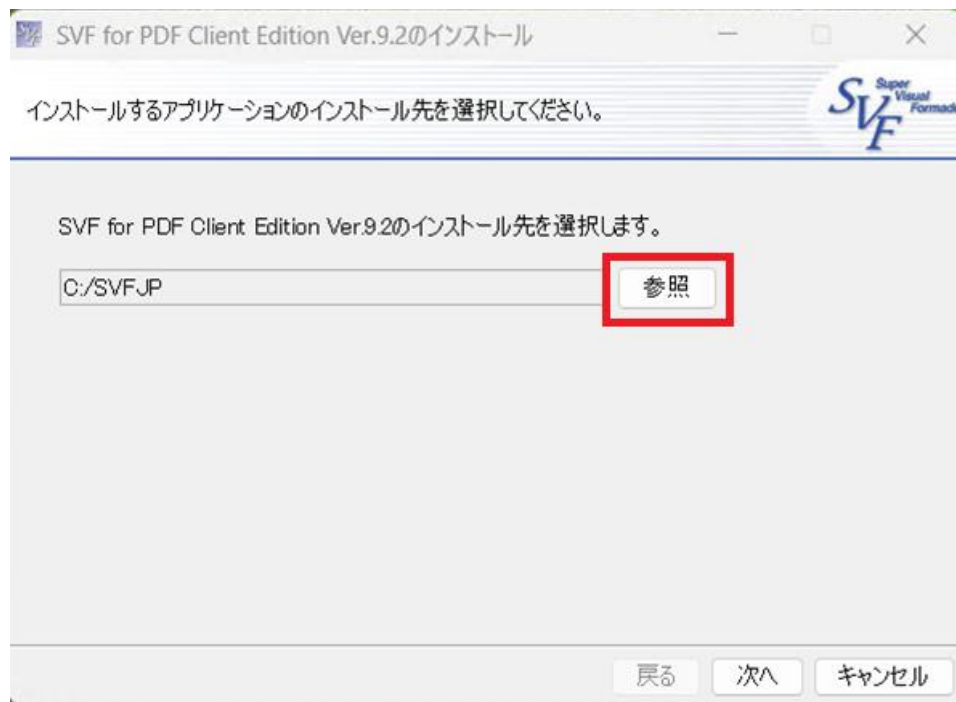
3. 「言語の選択」画面で、「日本語」を選択し、「OK」をクリックします。



4. 「使用許諾契約」画面が表示された場合は、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。



5. 「インストールするアプリケーションのインストール先を選択してください。」画面で、「参照」をクリックします。



6. 「開く」画面で、下記画面例を参考に、「フォルダ名」欄に表 B-8 のフォルダ名を入力し、「開く」をクリックします。

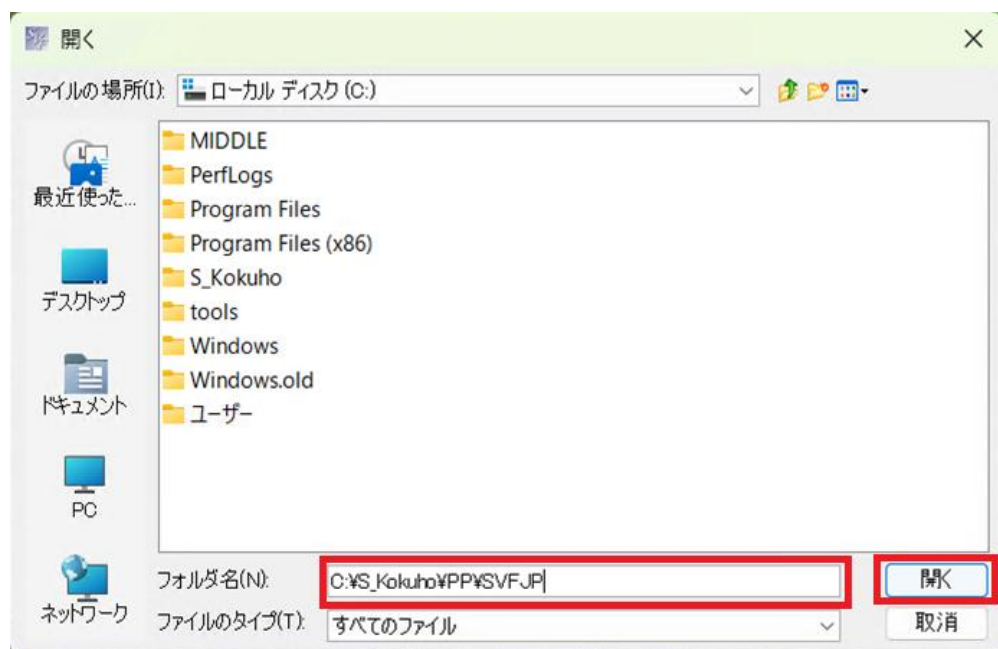
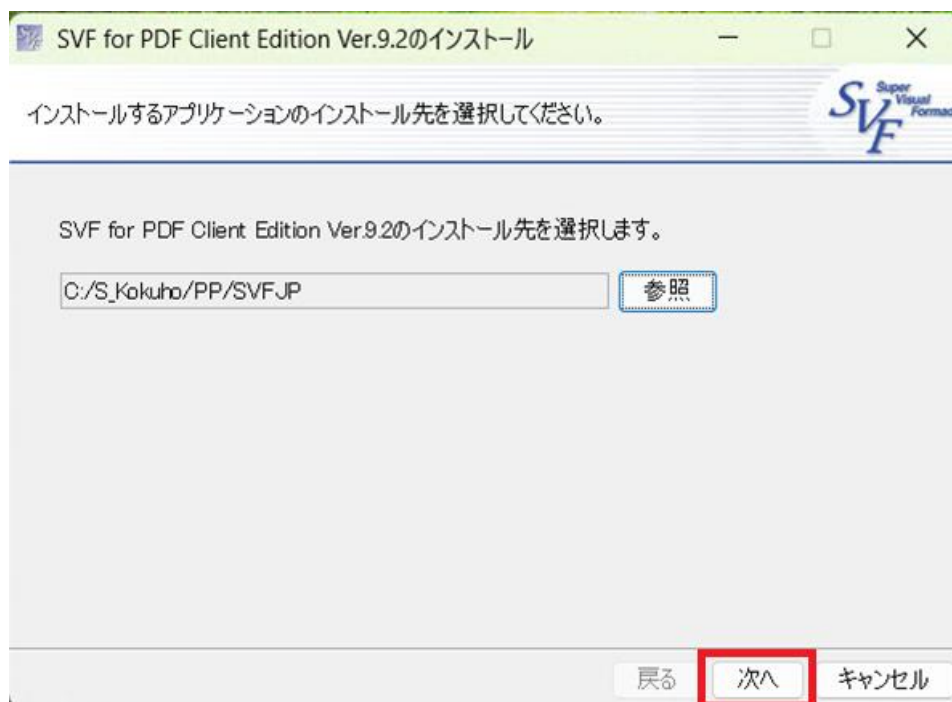


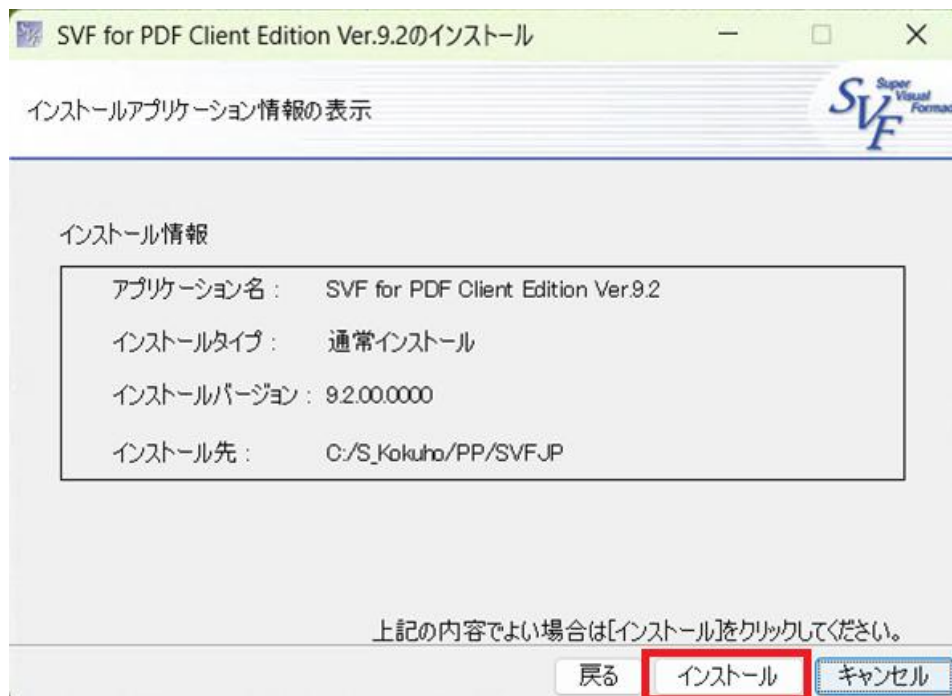
表 B-8 SVF KJNSS パック インストール先フォルダ

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:¥S_Kokuho¥PP¥SVFJP

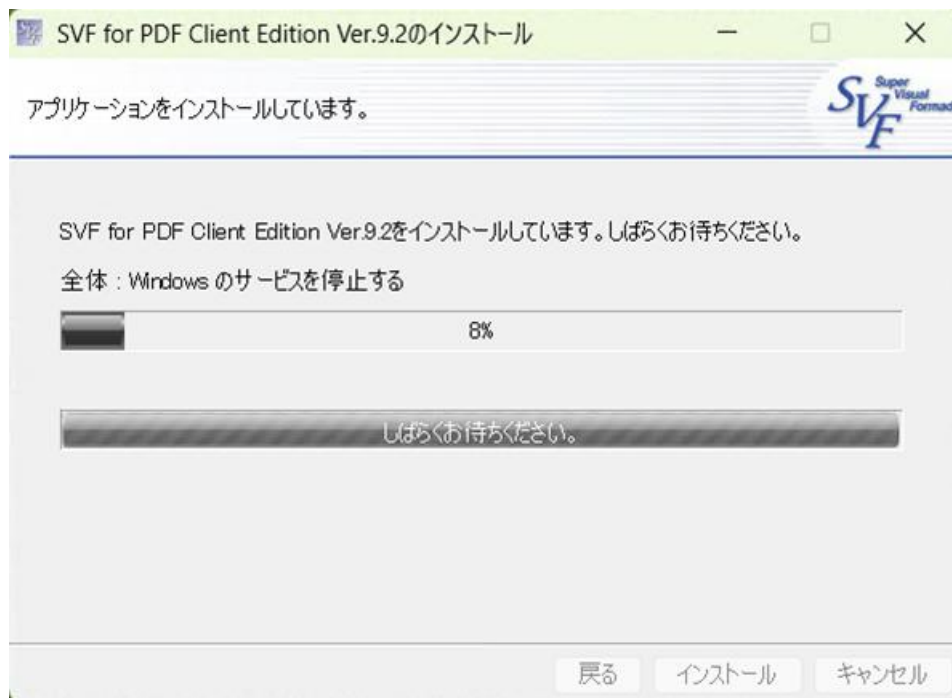
7. 「インストールするアプリケーションのインストール先を選択してください。」画面で、「次へ」をクリックします。



8. 「インストールアプリケーション情報の表示」画面で、「インストール」をクリックします。



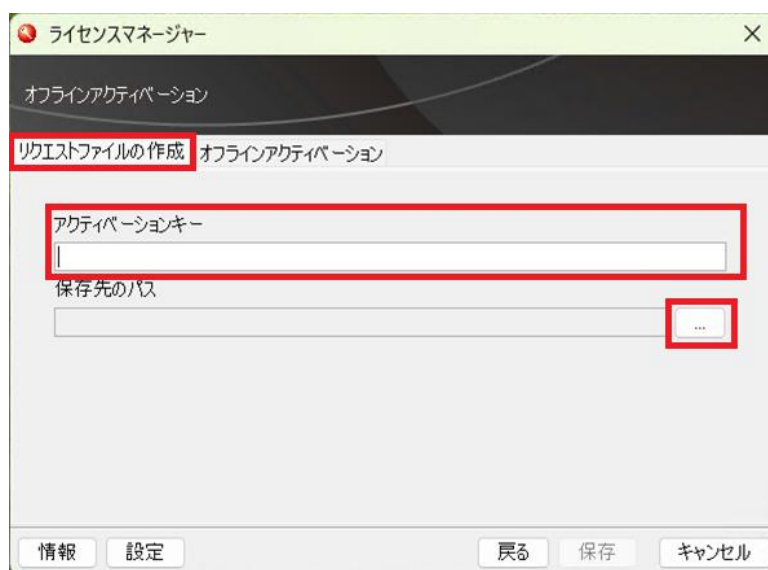
9. 「アプリケーションをインストールしています。」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。（しばらく待つと、手順 10. の画面が表示されます。）



10. 「ライセンスマネージャー」画面で、「オフラインアクティベーション」を選択し、「次へ」をクリックします。



11. 「リクエストファイルの作成」タブをクリックし、「アクティベーションキー」欄に、アクティベーションキー（半角のハイフンを含む）を入力し、「...」をクリックします。



⚠ 注意事項

アクティベーションキーは製品ごとに異なるため、各製品に同梱されているアクティベーションキーを入力してください。

12. 「アクティベーションリクエストファイルの保存先を選択してください。」画面で、下記画面例を参考に、「フォルダ名」欄に表 B-9 のフォルダ名を入力し、「保存」をクリックします。

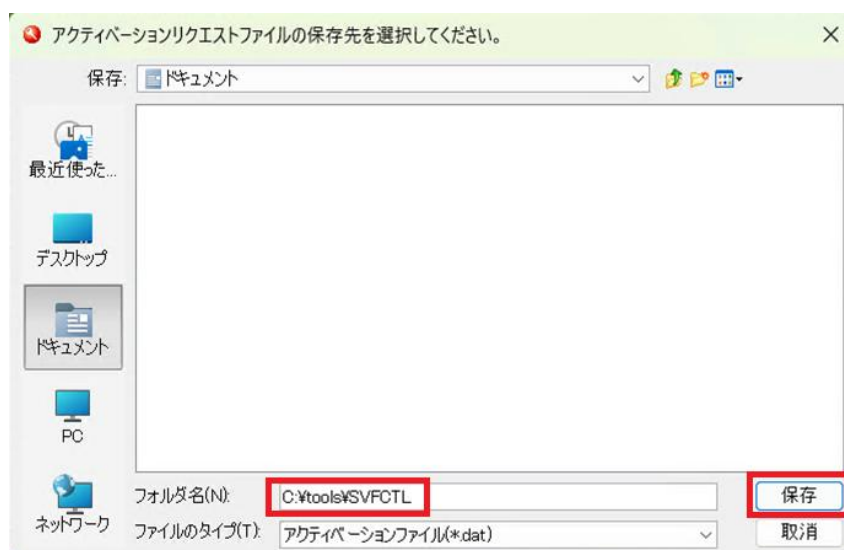
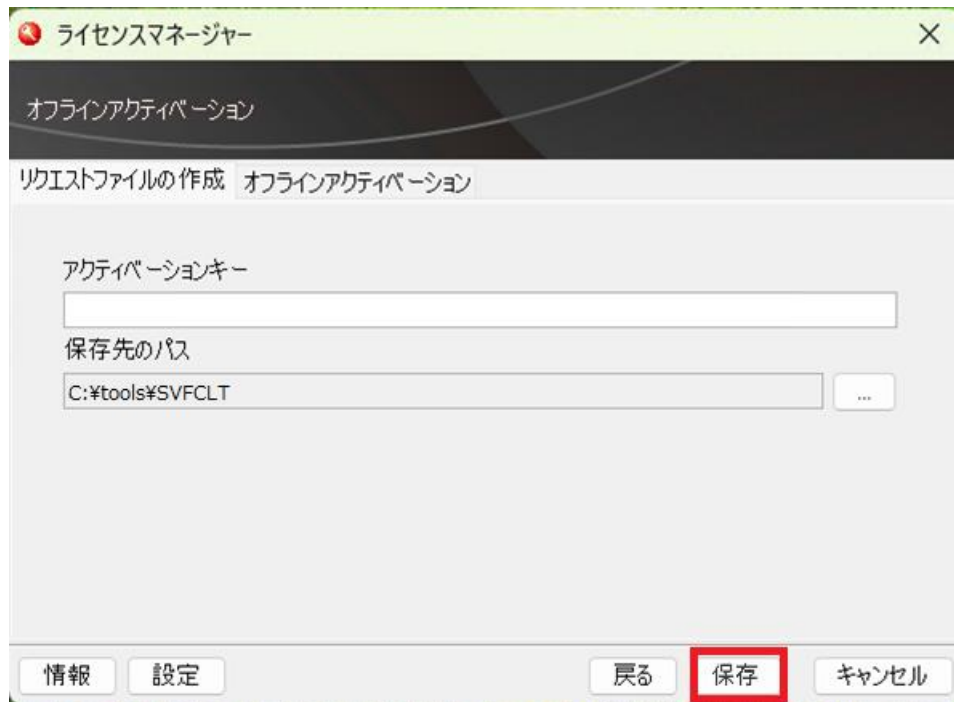


表 B-9 SVF KJNSS パック アクティベーションリクエストファイルの保存先

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	資材格納フォルダ（※）

※ 資材格納フォルダは任意のフォルダとなります。

13. 「ライセンスマネージャー」画面で、「保存」をクリックします。



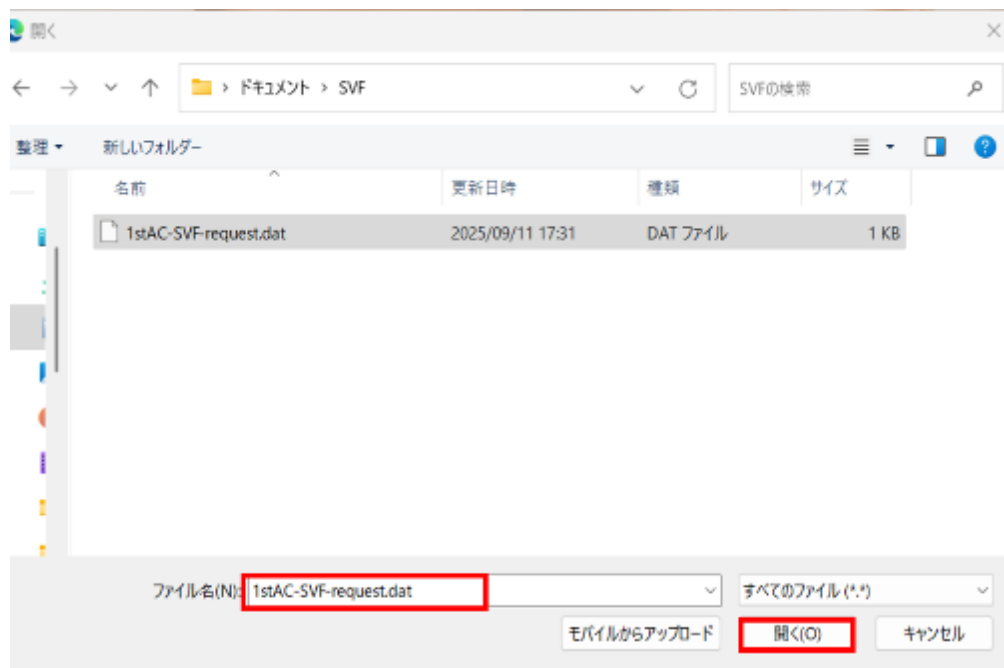
14. 「アクティベーションリクエストファイルを作成しました。」画面で、「OK」をクリックします。



15. 手順 12. で「保存先のパス」に指定したフォルダ配下に作成されたリクエストファイル（拡張子が .dat のファイル）を、インターネットに接続可能な端末へコピーします。
16. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、「https://ips.1st-hd.com/ac/activation.jsp」に接続します。
17. 「オフラインアクティベーション」画面で、「ファイルの選択」をクリックします。



18. 表示された画面で、手順 15. でコピーしたファイルを指定し、「開く」をクリックします。



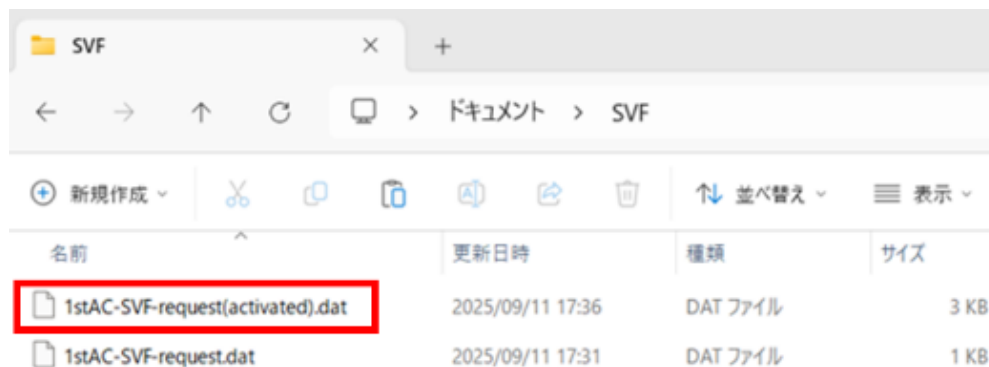
19. 「ファイル」欄に、手順 18. で指定したファイルが表示されていることを確認し、「アップロード」をクリックします。



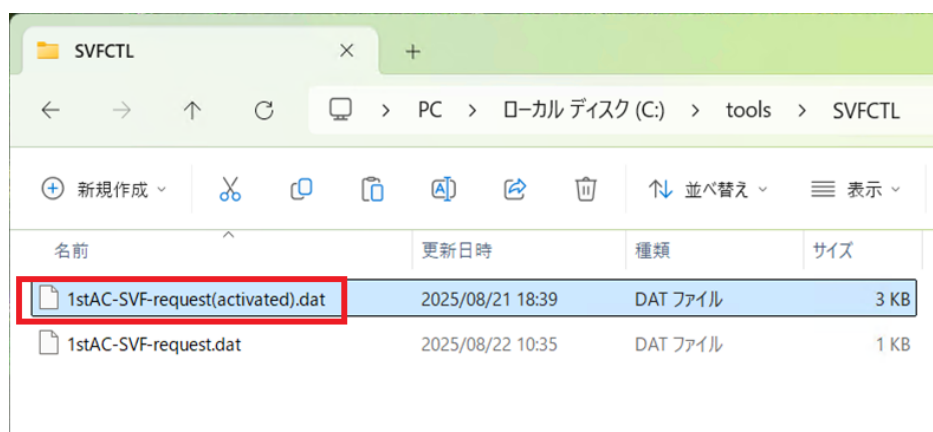
20. 「オフラインアクティベーションは成功しました。」と表示されることを確認します。



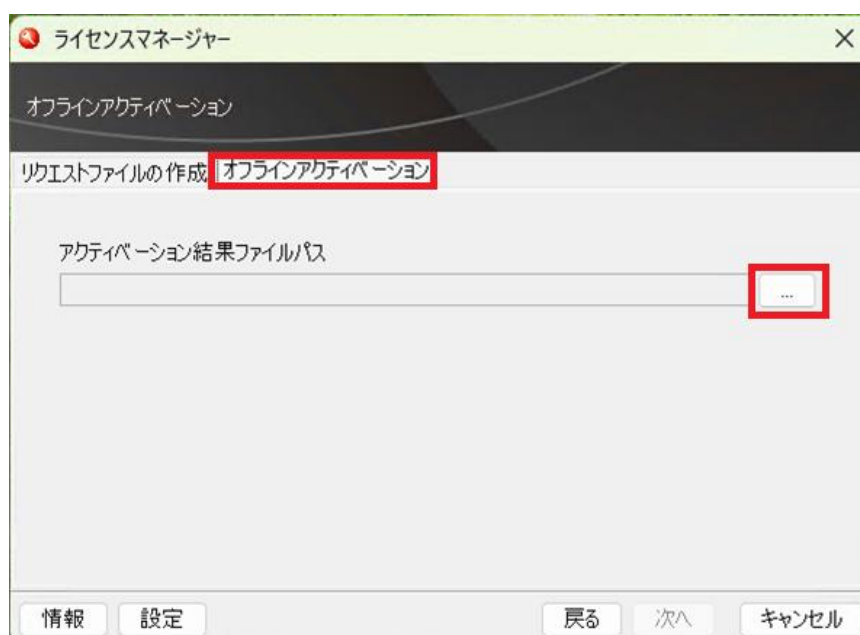
21. エクスプローラーを起動し、アクティベーションファイルがダウンロードされていることを確認します。



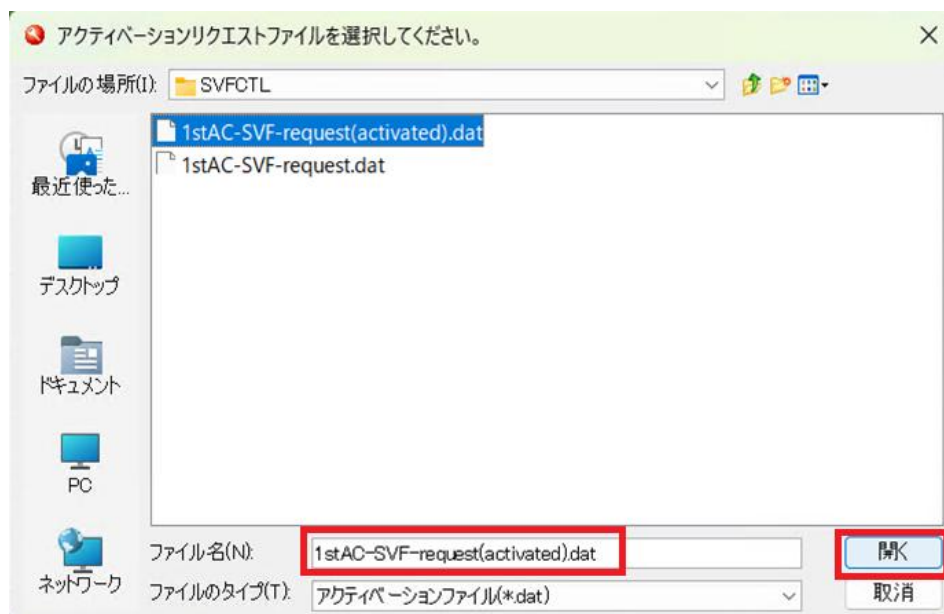
22. 手順 21. で確認したアクティベーションファイルを納付金スタンドアロン端末上の手順 12. の「保存先のパス」にコピーします。



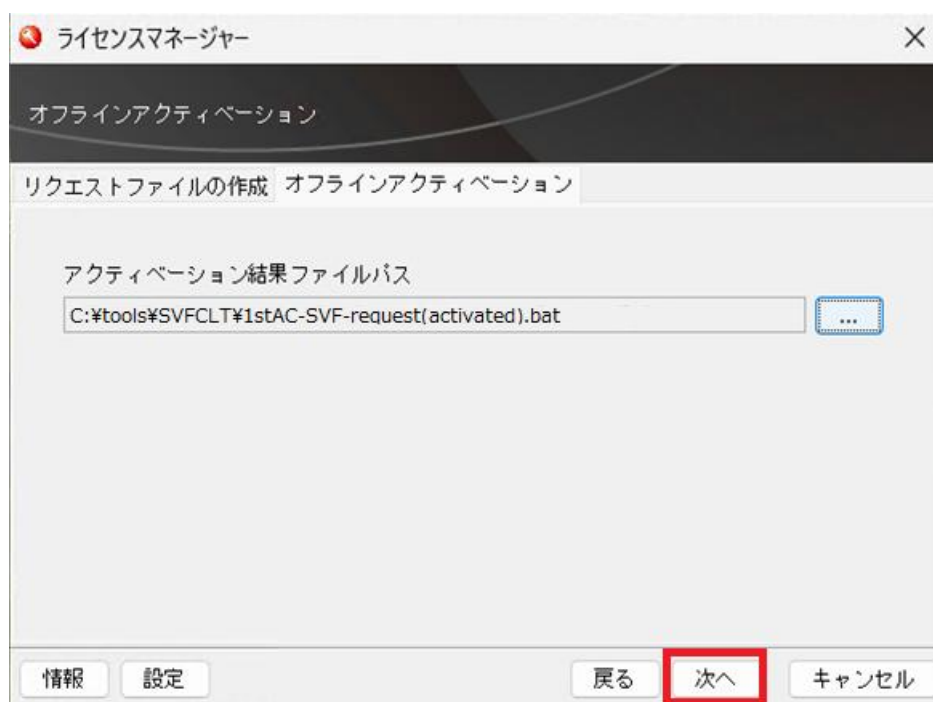
23. 「ライセンスマネージャー」画面で、「オフラインアクティベーション」タブをクリックし、「...」をクリックします。



24. 「アクティベーションリクエストファイルを選択してください。」画面で、手順 22. でコピーしたアクティベーションファイルを選択し、「開く」をクリックします。



25. 「ライセンスマネージャー」画面で、「次へ」をクリックします。



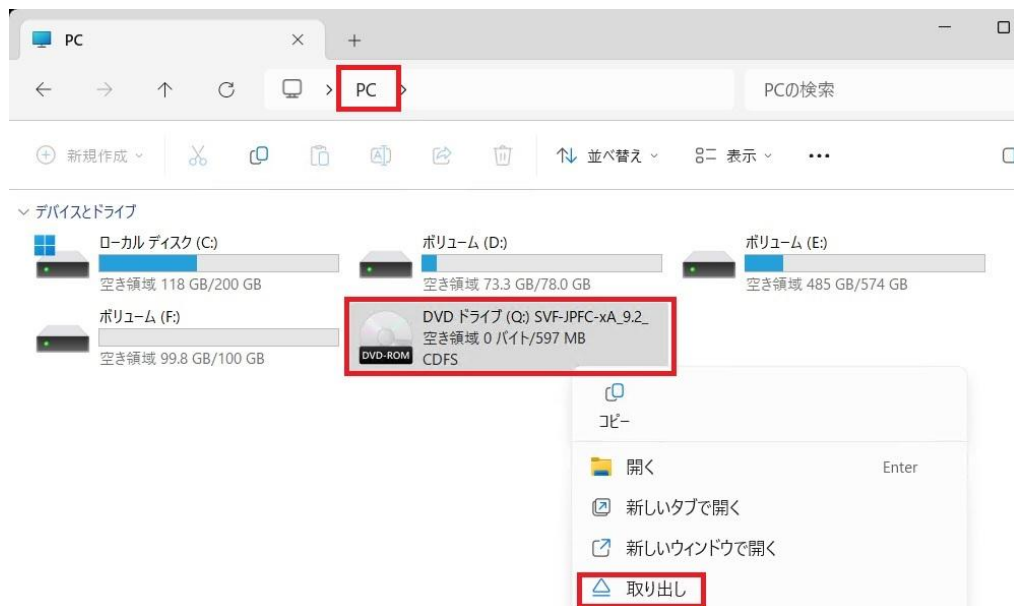
26. 「オフラインアクティベーションは成功しました。」と表示されることを確認し、「完了」をクリックします。



27. 「インストール処理は正常に完了しました。」と表示されていることを確認し、「完了」をクリックします。

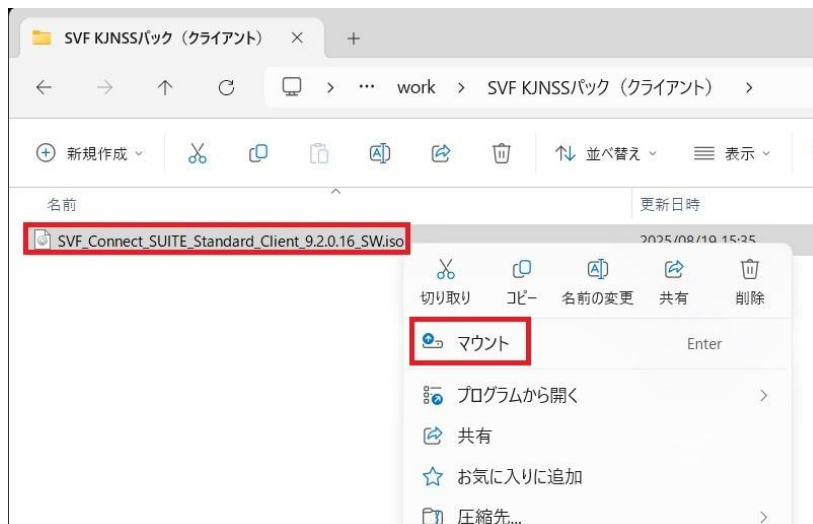


28. 手順 2. で開いているエクスプローラーのアドレスバーに「PC」と入力して Enter キーを押下し、PC 画面を表示し、マウントした SVF for PDF Client Edition のインストールファイル（iso イメージファイル）を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



(b) SVF Connect SUITE Standard のインストール

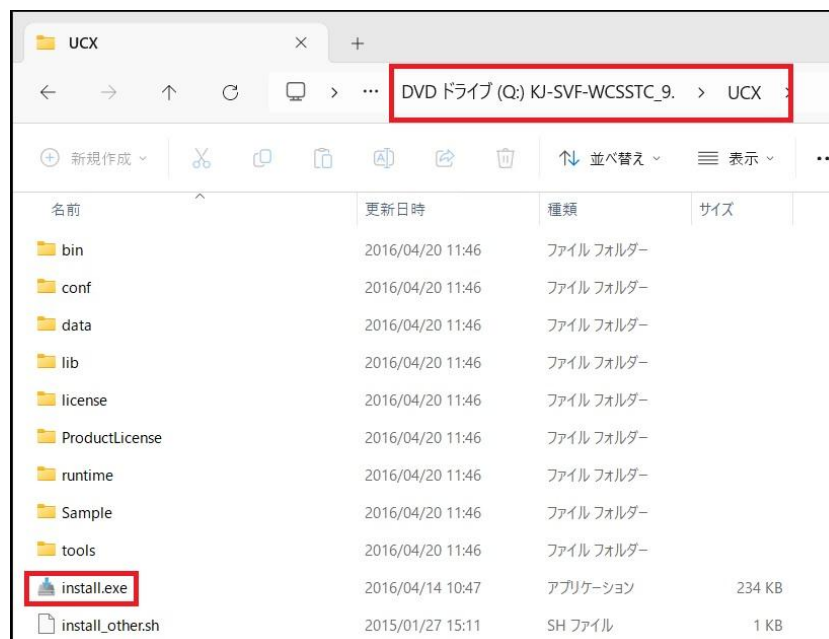
1. SVF Connect SUITE Standard のインストールファイル (iso イメージファイル) を、「資材格納フォルダ」に格納し、インストールファイルを右クリックし、「マウント」をクリックします。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)



⚠ 注意事項

本手順では、インターネットからダウンロードしたインストールファイル (iso イメージファイル) を使用した場合の例となります。インストールメディアを使用する場合は、DVD ドライブに挿入します。

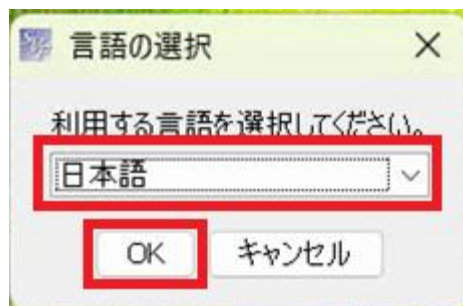
2. 「Q:¥UCX¥install.exe」をダブルクリックします。



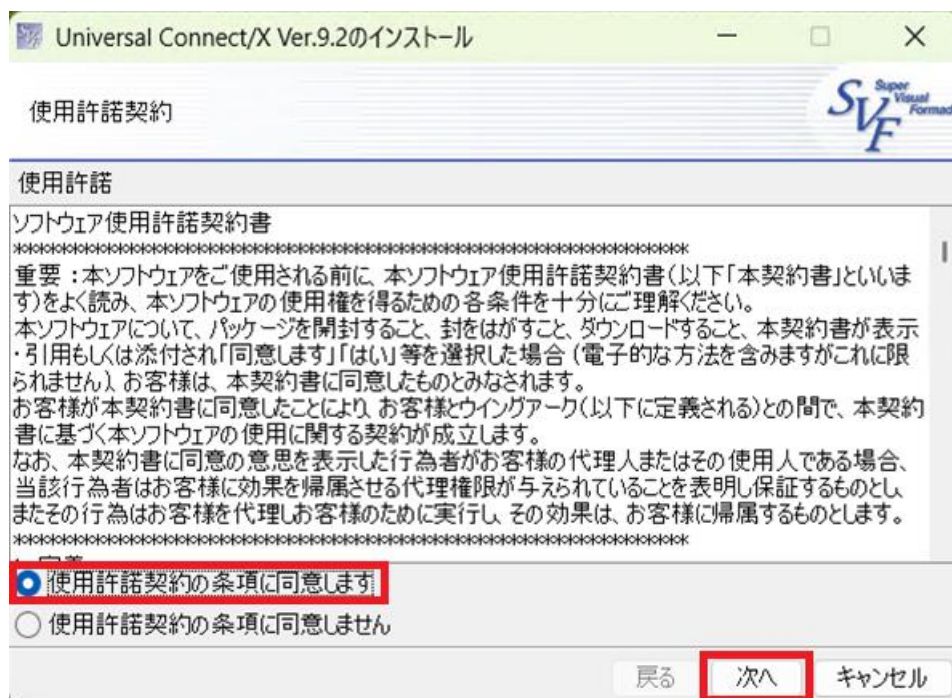
⚠ 注意事項

本手順では、DVD ドライブを Q ドライブとしています。

3. 「言語の選択」画面で、「日本語」を選択し、「OK」をクリックします。



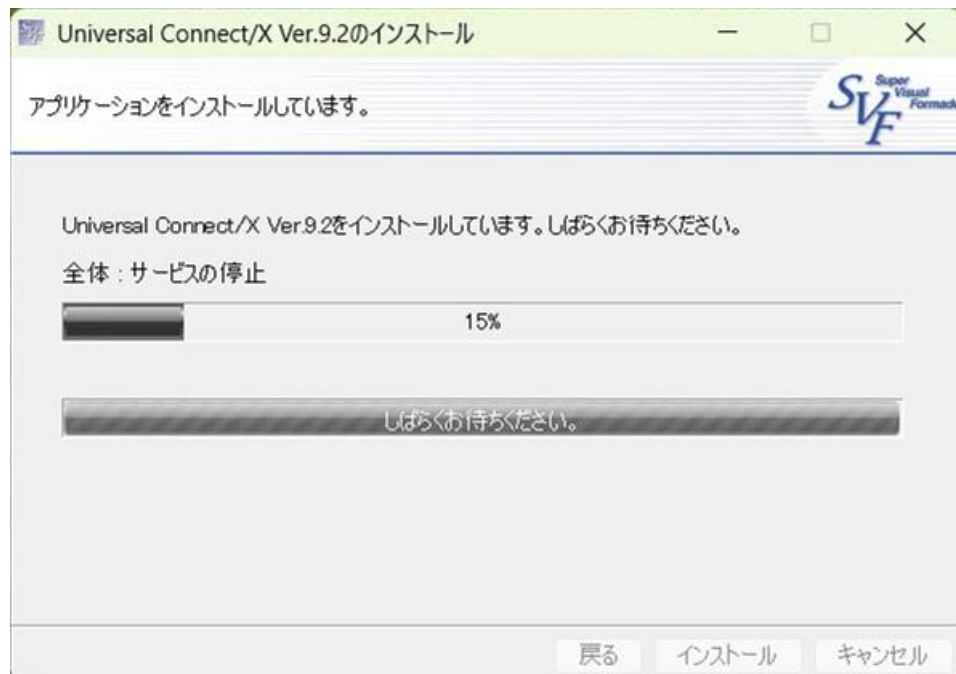
4. 「使用許諾契約」画面で、「使用許諾契約の条項に同意します」を選択し、「次へ」をクリックします。



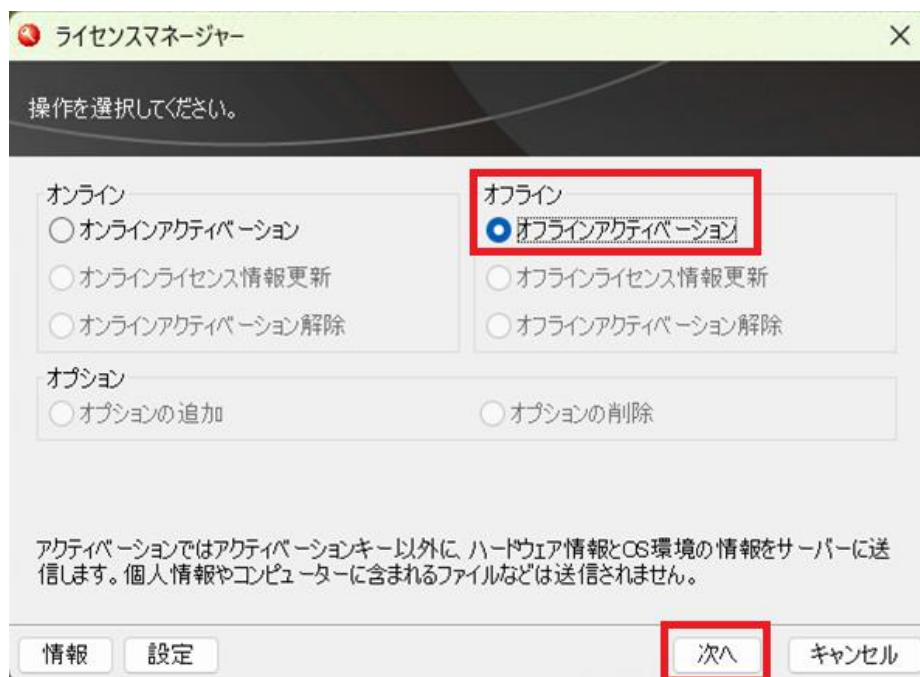
5. 「インストールアプリケーション情報の表示」画面で、「インストール」をクリックします。



6. 「アプリケーションをインストールしています。」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 7. の画面が表示されます。)



7. 「ライセンスマネージャー」画面で、「オフラインアクティベーション」を選択し、「次へ」をクリックします。



8. 「リクエストファイルの作成」タブをクリックし、「アクティベーションキー」欄に、アクティベーションキー（半角のハイフンを含む）を入力し、「...」をクリックします。



⚠ 注意事項

アクティベーションキーは製品ごとに異なるため、各製品に同梱されているアクティベーションキーを入力してください。

9. 「アクティベーションリクエストファイルの保存先を選択してください。」画面で、下記画面例を参考に、「フォルダ名」欄に表 B-10 のフォルダ名を入力し、「保存」をクリックします。

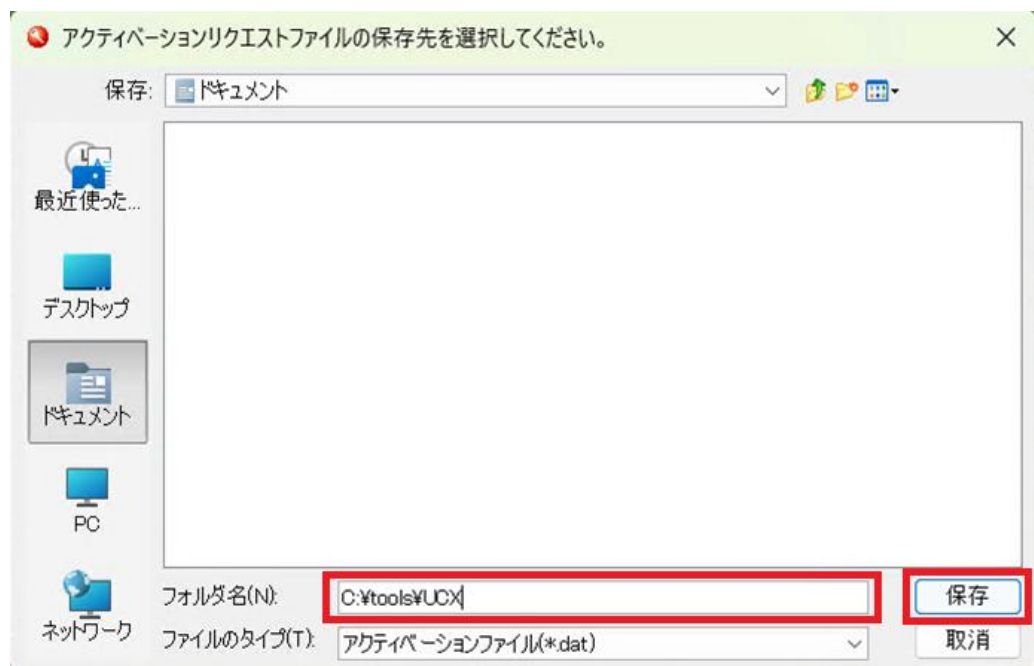
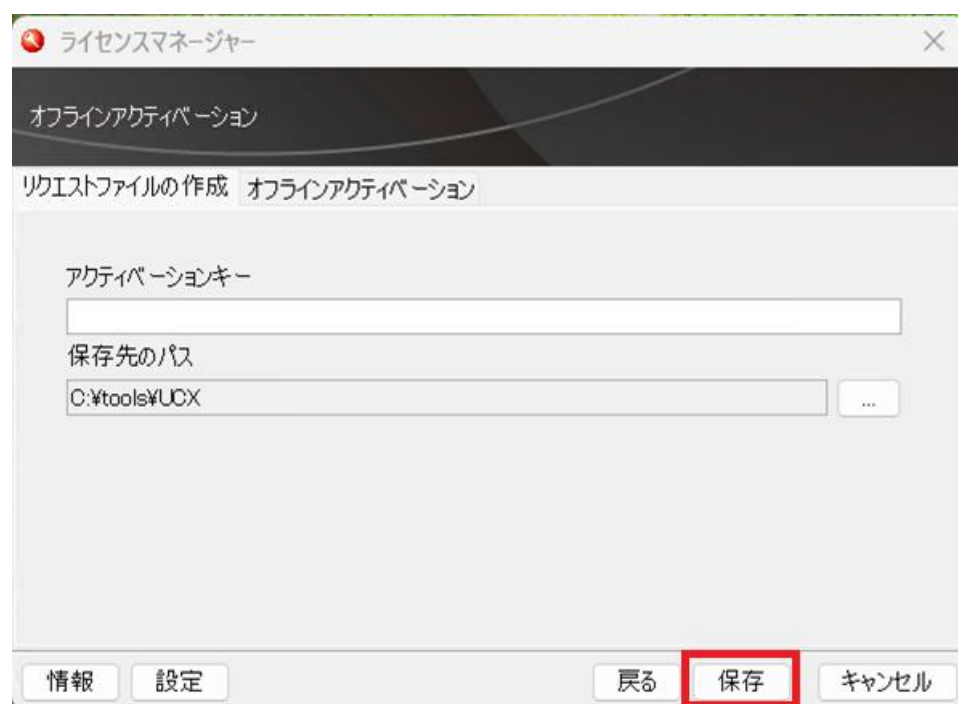


表 B-10 SVF KJNSS パック アクティベーションリクエストファイルの保存先

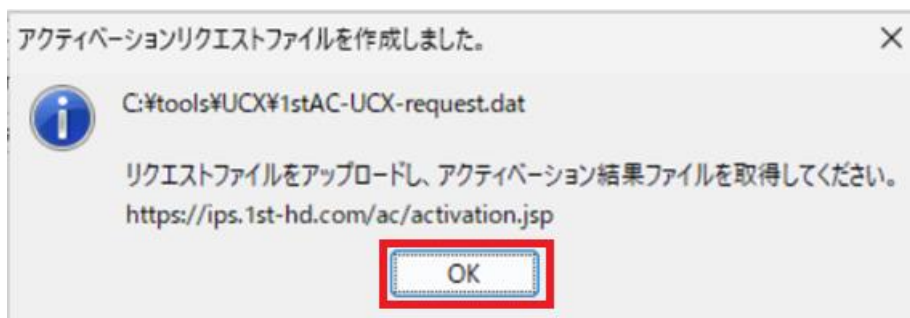
No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	資材格納フォルダ (※)

※ 資材格納フォルダは任意のフォルダとなります。

10. 「ライセンスマネージャー」画面で、「保存」をクリックします。



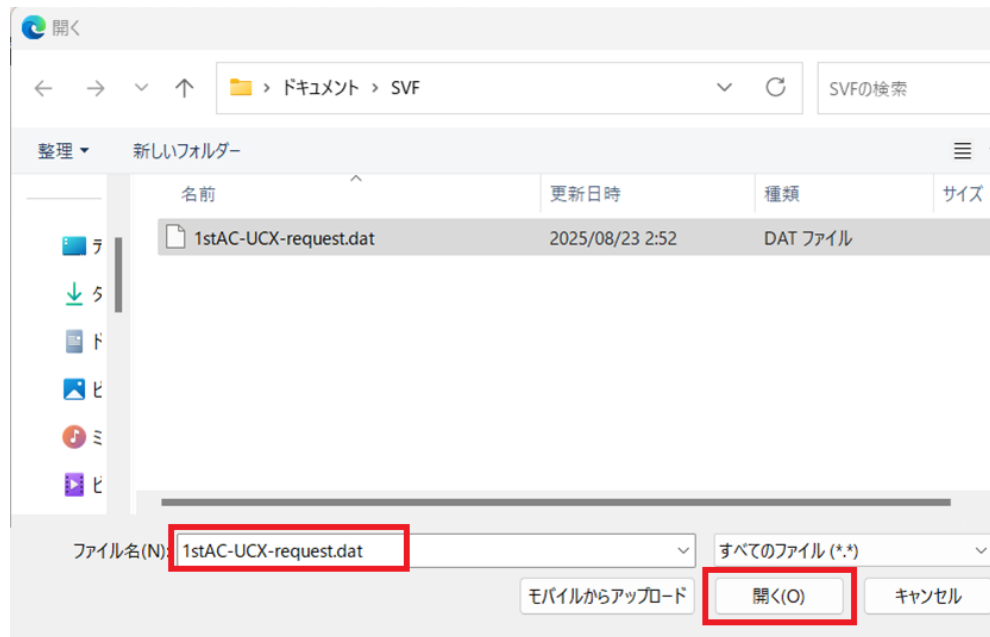
11. 「アクティベーションリクエストファイルを作成しました。」画面で、「OK」をクリックします。



12. 手順 9. で「保存先のパス」に指定したフォルダ配下に作成されたリクエストファイル（拡張子が .dat のファイル）を、インターネットに接続可能な端末へコピーします。
13. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、「https://ips.1st-hd.com/ac/activation.jsp」に接続します。
14. 「オフラインアクティベーション」画面で、「ファイルの選択」をクリックします。



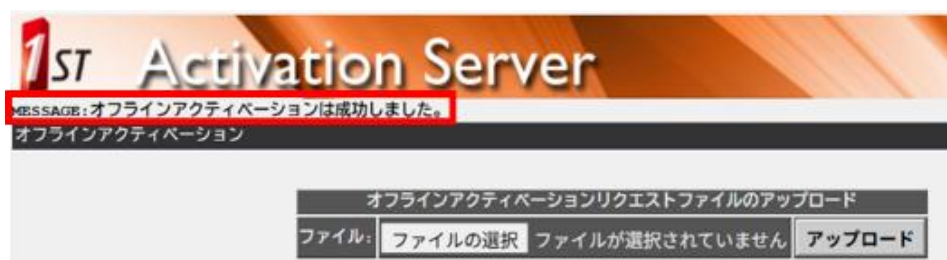
15. 表示された画面で、手順 12. でコピーしたファイルを指定し、「開く」をクリックします。



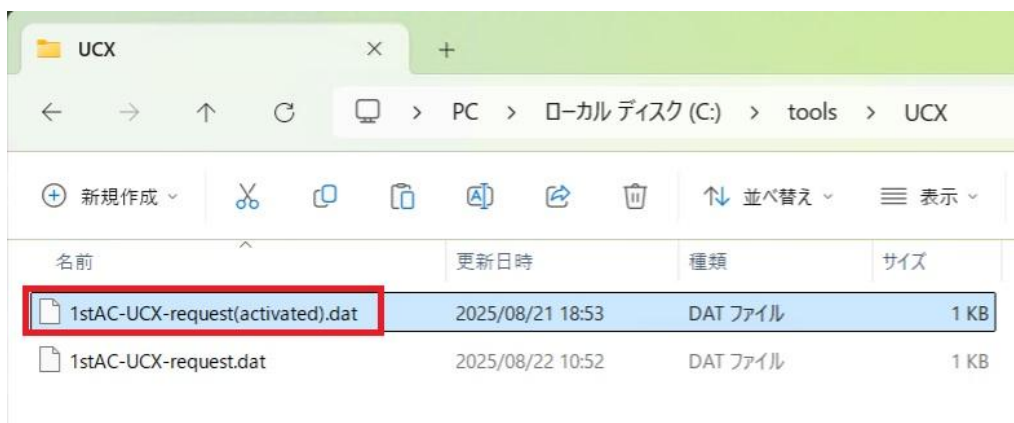
16. 「ファイル」欄に、手順 15. で指定したファイルが表示されていることを確認し、「アップロード」をクリックします。



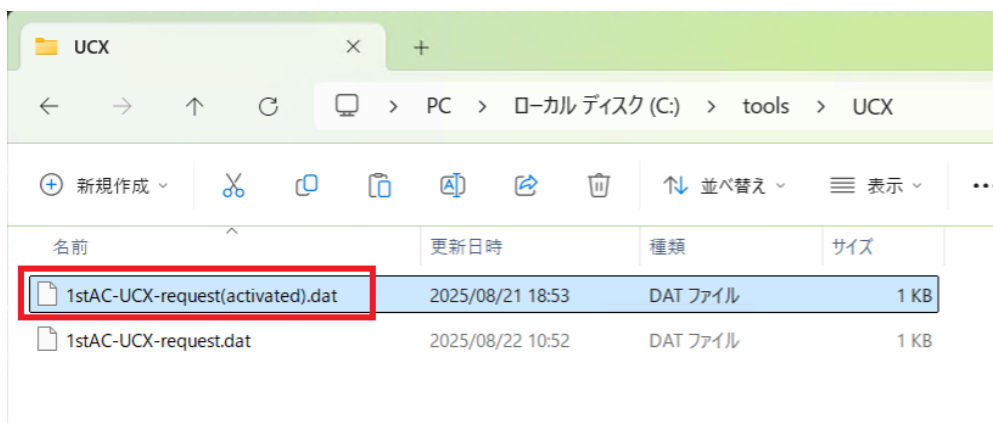
17. 「オフラインアクティベーションは成功しました。」と表示されることを確認します。



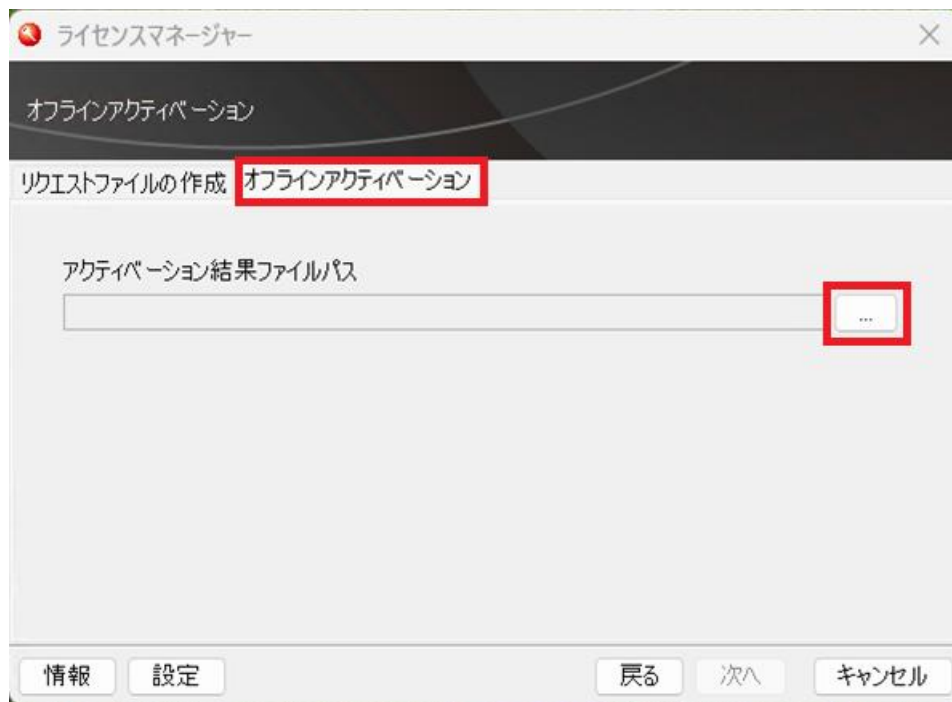
18. エクスプローラーを起動し、アクティベーションファイルがダウンロードされていることを確認します。



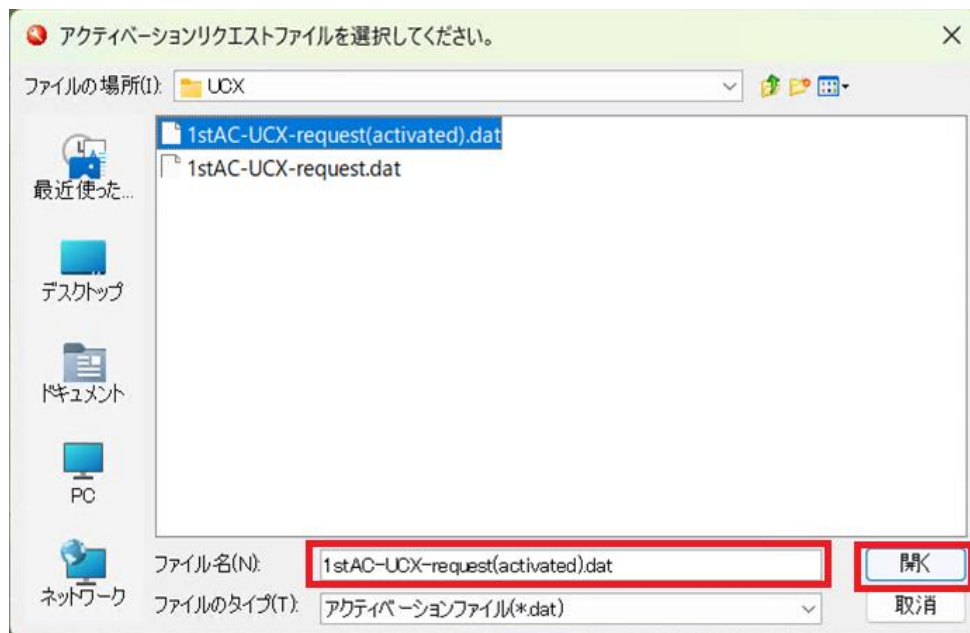
19. 手順 18. で確認したアクティベーションファイルを納付金スタンドアロン端末上の手順 9. の「保存先のパス」にコピーします。



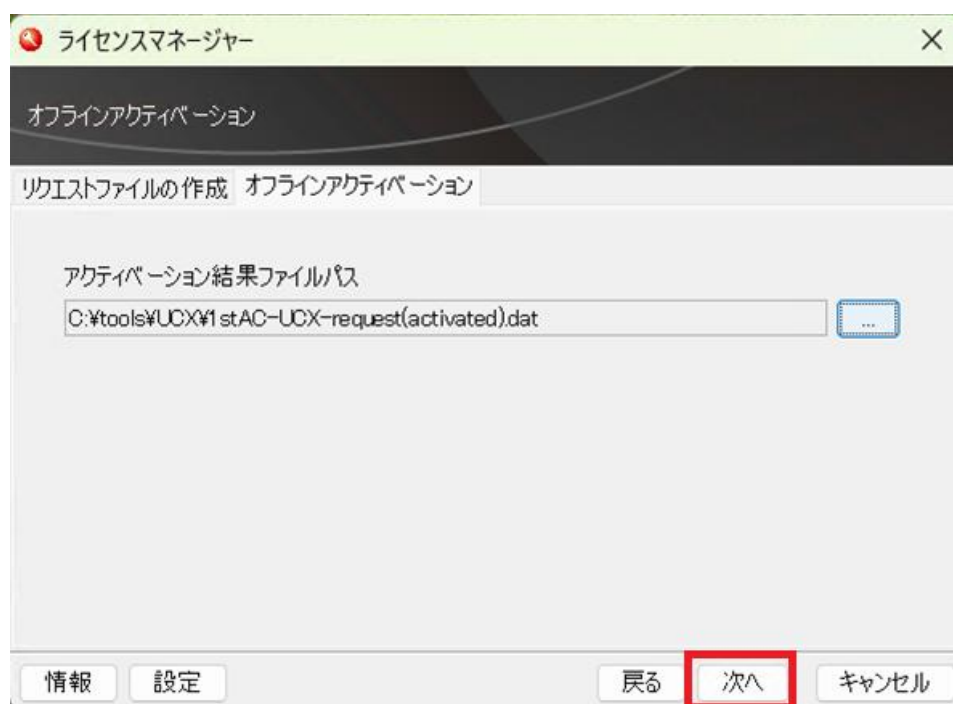
20. 「ライセンスマネージャー」画面で、「オフラインアクティベーション」タブをクリックし、「...」をクリックします。



21. 「アクティベーションリクエストファイルを選択してください。」画面で、手順 19. でコピーしたアクティベーションファイルを選択し、「開く」をクリックします。



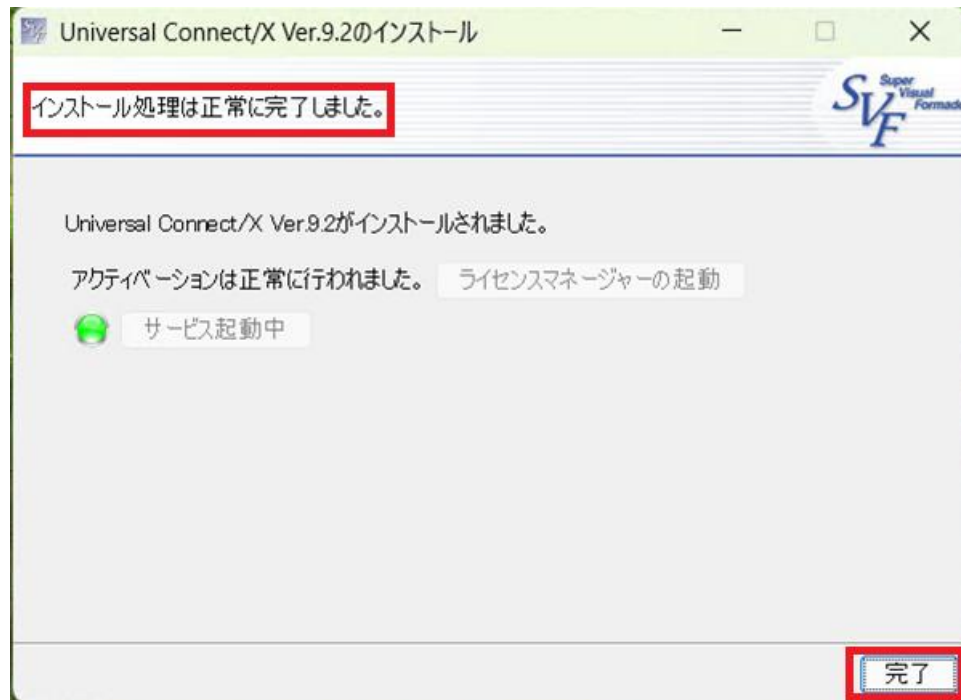
22. 「ライセンスマネージャー」画面で、「次へ」をクリックします。



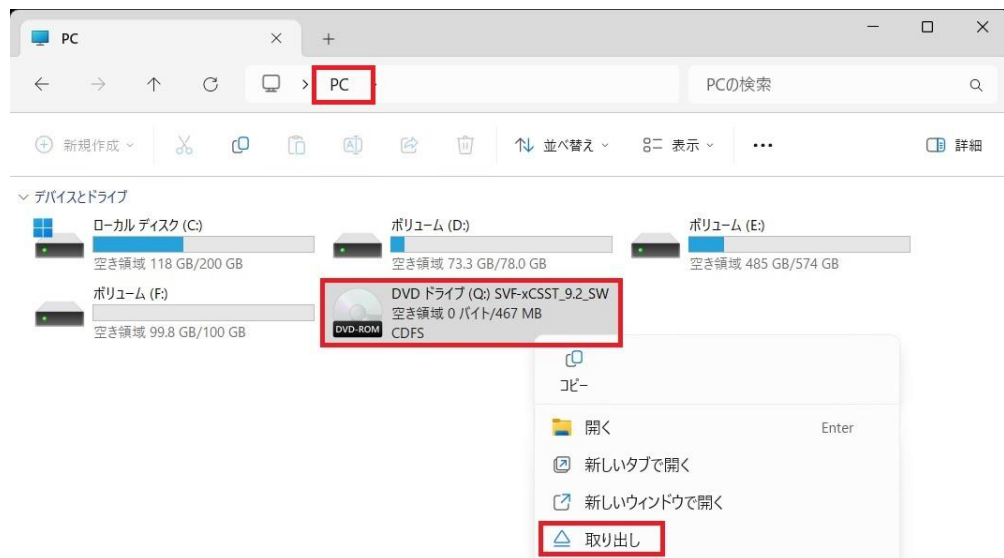
23. 「オフラインアクティベーションは成功しました。」と表示されることを確認し、「完了」をクリックします。



24. 「インストール処理は正常に完了しました。」と表示されていることを確認し、「完了」をクリックします。

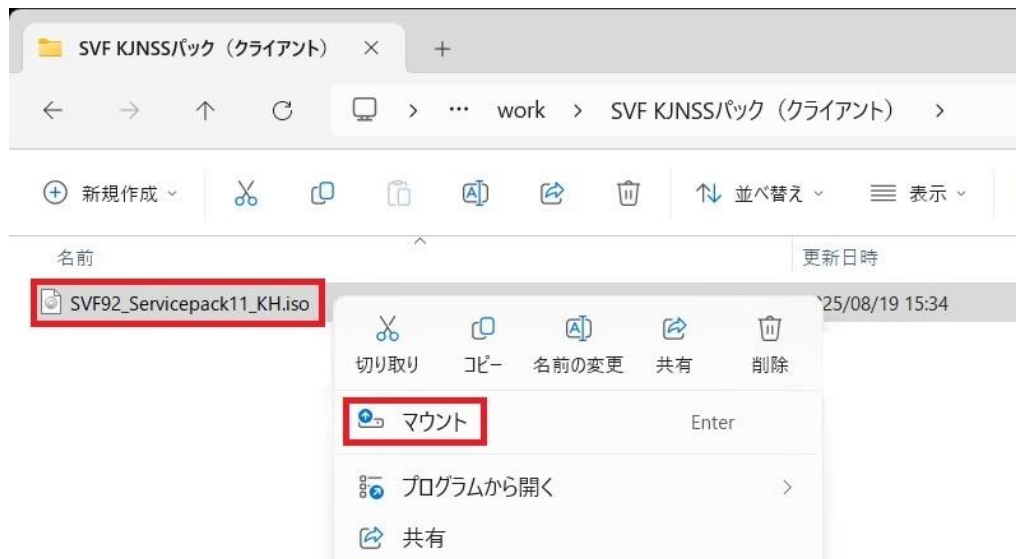


25. 手順 2. で開いているエクスプローラーのアドレスバーに「PC」と入力して Enter キーを押下し、PC 画面を表示し、マウントした SVF Connect SUITE Standard のインストールファイル（iso イメージファイル）を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



(c) SVF Service Pack のインストール手順

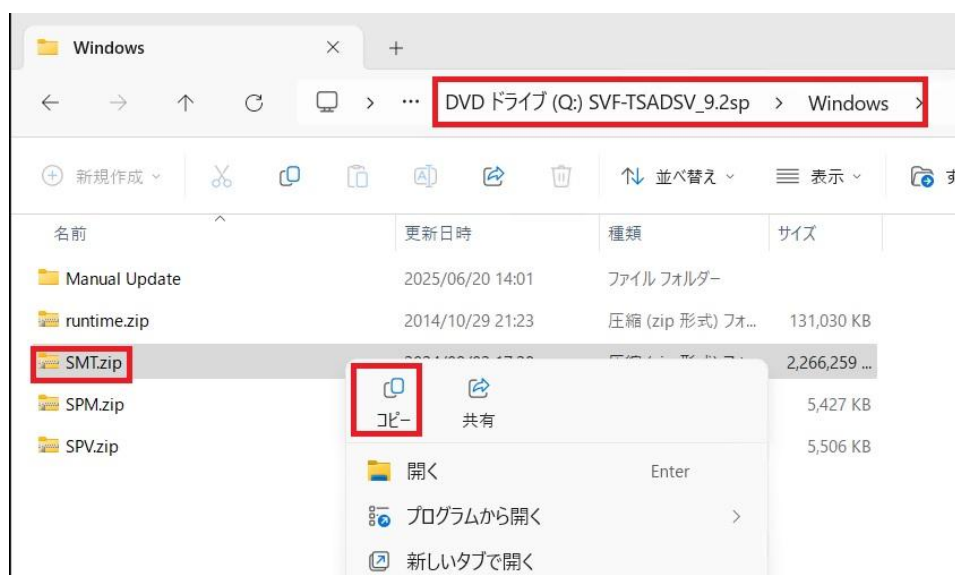
1. SVF Service Pack のインストールファイル (iso イメージファイル) を、「資材格納フォルダ」に格納し、インストールファイルを右クリックし、「マウント」をクリックします。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)



 注意事項

本手順では、インターネットからダウンロードしたインストールファイル (iso イメージファイル) を使用した場合の例となります。インストールメディアを使用する場合は、DVD ドライブに挿入します。

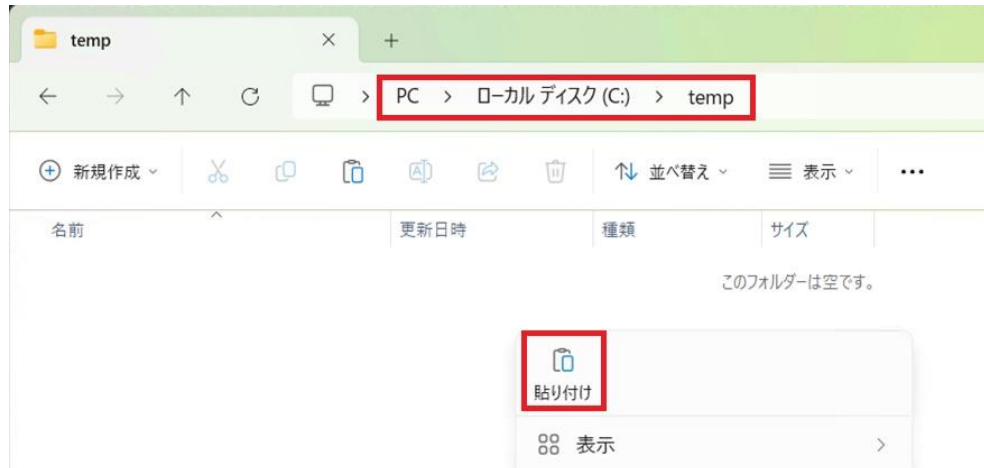
2. 「Q:¥Windows¥SMT.zip」 ファイルをコピーします。



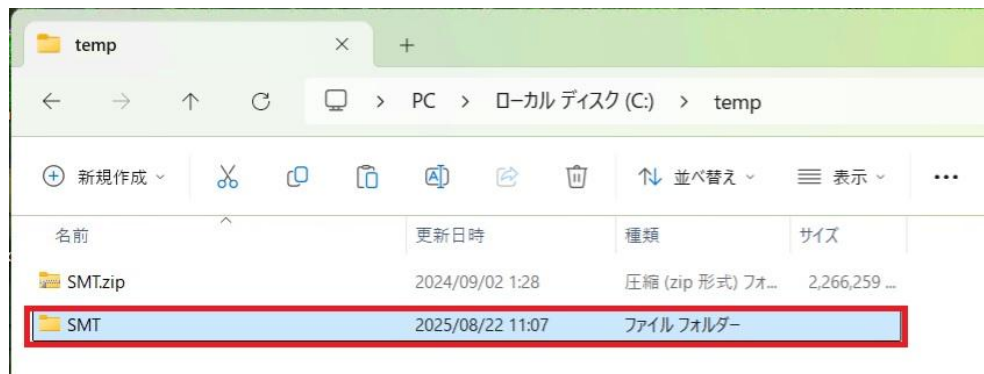
 注意事項

本手順では、DVD ドライブを Q ドライブとしています。

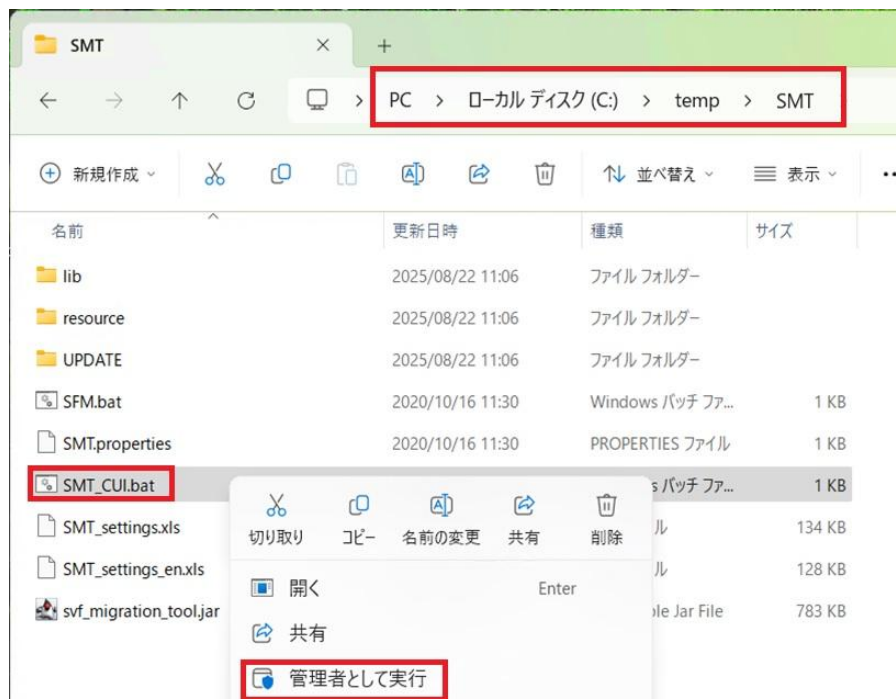
3. 手順 2. でコピーした「SMT.zip」ファイルを、「C:¥temp」フォルダに貼り付けます。



4. 「SMT.zip」ファイルを「C:¥temp」フォルダに解凍し、「SMT」フォルダが作成されることを確認します。



5. 「C:¥temp¥SMT¥SMT_CUI.bat」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。



6. コマンドプロンプト画面で、「表示言語を選択してください。」項目において、「1」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```
C:\Windows\System32\cmd.exe
SVF Migration Tool for Java Edition, Ver.1.10.0.4.0 (build 20240902_172512)
(c) 1995 WingArc1st Inc. All rights reserved.
表示言語を選択してください。
1: 日本語
2: 英語
3: 中国語(簡体字)
1
```

7. 「<メインメニュー>」項目において、「1」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```
C:\Windows\System32\cmd.exe
SVF Migration Tool for Java Edition, Ver.1.10.0.4.0 (build 20240902_172512)
(c) 1995 WingArc1st Inc. All rights reserved.
表示言語を選択してください。
1: 日本語
2: 英語
3: 中国語(簡体字)
1
製品情報を取得しています
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了
1
```

8. 「データ抽出を行います。よろしいですか? (y / n)」と表示されることを確認し、「y」 (半角) を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe

製品情報を取得しています

<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了

1

データ抽出前にバックアップを行います。
バックアップデータ配置場所
C:/temp/SMT/RIPPING_BACKUP
抽出データ配置場所
C:/temp/SMT/RIPPING

ディスクサイズ取得中です
535.38 MB の空き領域が必要です。
ディスク空き領域: 153212.79 MB

データ抽出を行います。よろしいですか? (y / n)
y

```

9. 「正常終了しました。」と表示されることを確認します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
C:/temp/SMT/RIPPING

ディスクサイズ取得中です
535.38 MB の空き領域が必要です。
ディスク空き領域: 153212.79 MB

データ抽出を行います。よろしいですか? (y / n)
y

バックアップ中です
データ抽出中です
抽出データの圧縮中です

正常終了しました。

<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了

```


10. 「<メインメニュー>」項目において、「2」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
バックアップデータ配置場所
C:/temp/SMT/RIPPING_BACKUP
抽出データ配置場所
C:/temp/SMT/RIPPING

ディスクサイズ取得中です

535.38 MB の空き領域が必要です。
ディスク空き領域: 153212.79 MB

データ抽出を行います。よろしいですか? (y / n)
y

バックアップ中です
データ抽出中です
抽出データの圧縮中です

正常終了しました。
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了
2_

```

11. 「データ移行を行います。よろしいですか? (y / n)」と表示されることを確認し、「y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
アップデート対象が見つかりました。
以下のモジュールに更新されます。
SVF Ver.9.2 SP1 / SP2 / SP3 / SP4 / SP5 / SP6 / SP7 / SP8 / SP9 / SP10 / SP11
JCX Ver.9.2 SP1 / SP2 / SP3 / SP4 / SP5 / SP6 / SP7 / SP8 / SP9 / SP10 / SP11

データ移行前にバックアップを行います。

バックアップデータ配置場所
C:/temp/SMT/BACKUP/20250912101942
抽出データ展開場所
C:/temp/SMT/RIPPING
ディスクサイズ取得中です

667.76 MB の空き領域が必要です。
ディスク空き領域: 152942.45 MB

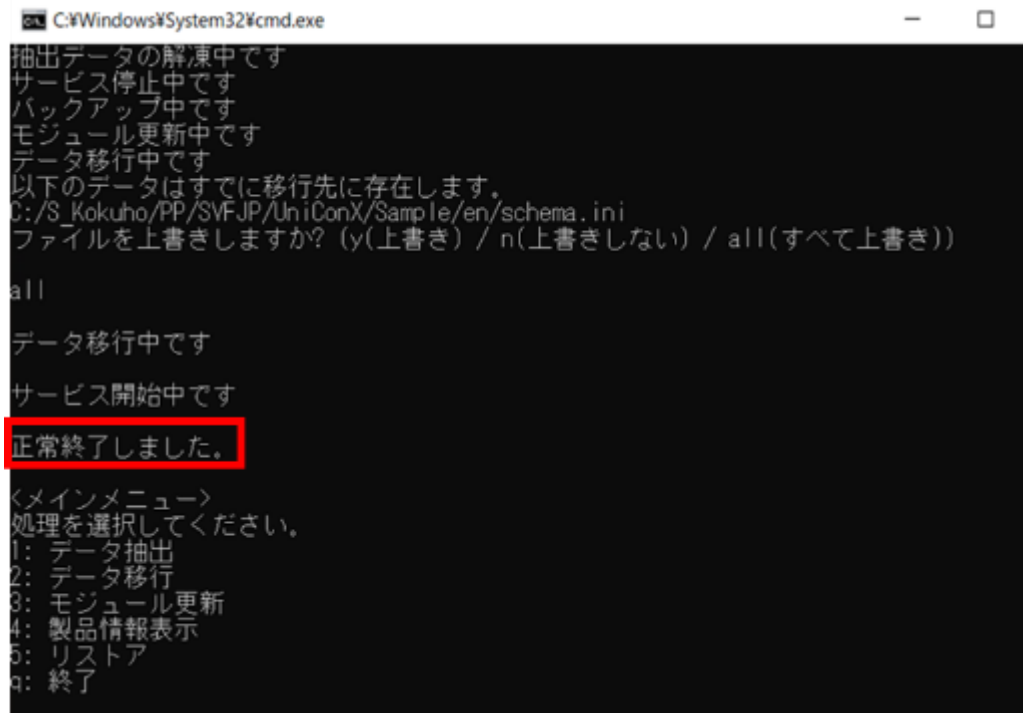
データ移行を行います。よろしいですか? (y / n)
y_

```

⚠ 注意事項

コマンドプロンプト画面で、「以下のデータはすでに移行先に存在します。
C:\¥S_Kokuho¥PP¥SVF¥JP¥UniCon¥Sample¥en¥schema.ini ファイルを上書きしますか?」
と表示された場合は、「a11」を入力して Enter キーを押下します。

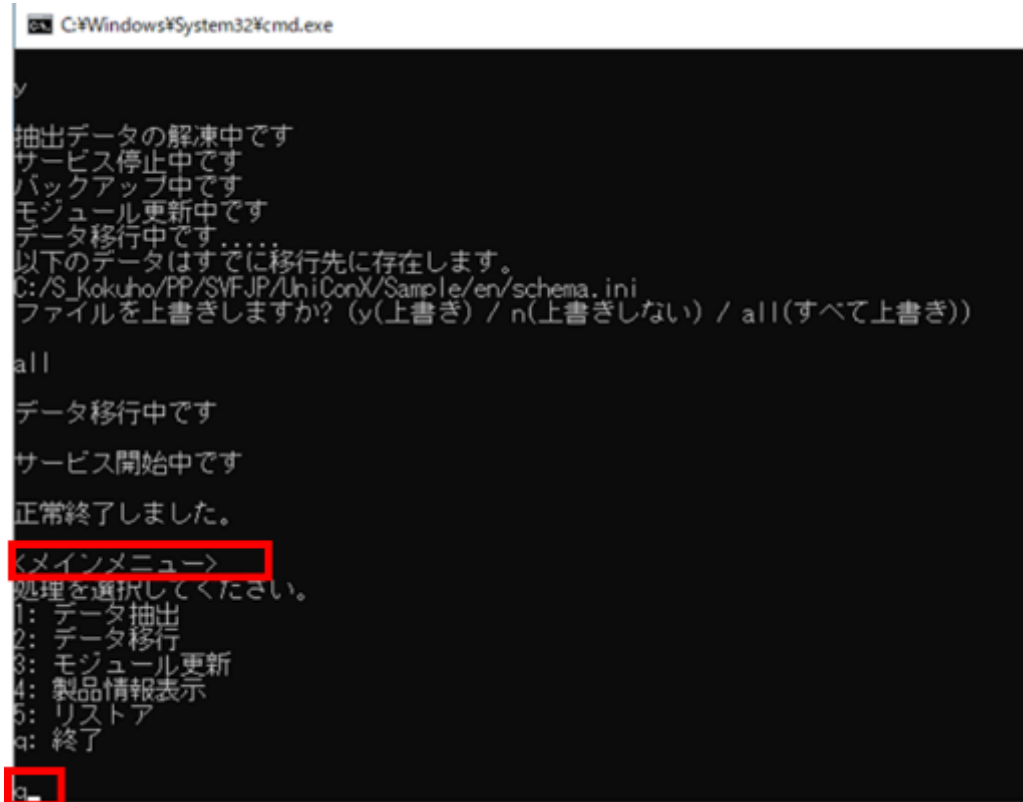
12. 「正常終了しました。」と表示されることを確認します。



```

C:\Windows\System32\cmd.exe
抽出データの解凍中です
サービス停止中です
バックアップ中です
モジュール更新中です
データ移行中です
以下のデータはすでに移行先に存在します。
C:/S_Kokuho/PP/SVFJP/UniConX/Sample/en/schema.ini
ファイルを上書きしますか? (y(上書き) / n(上書きしない) / all(すべて上書き))
all
データ移行中です
サービス開始中です
正常終了しました。
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了
  
```

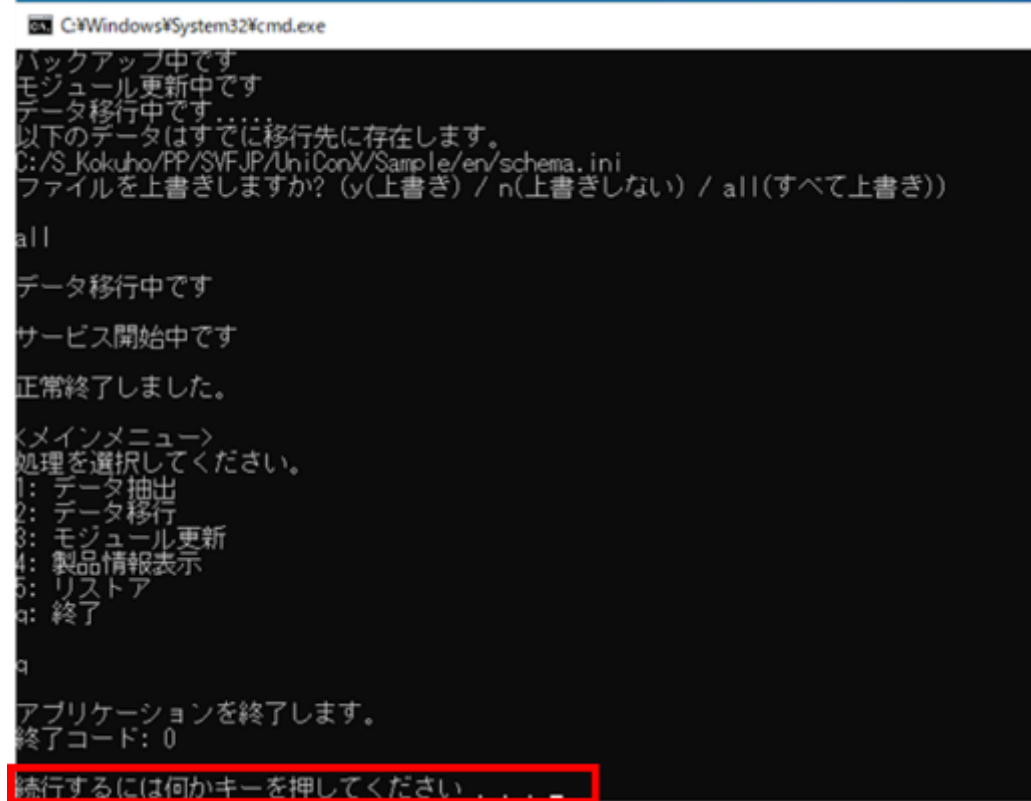
13. 「<メインメニュー>」項目において、「q」(半角)を入力して Enter キーを押下します。



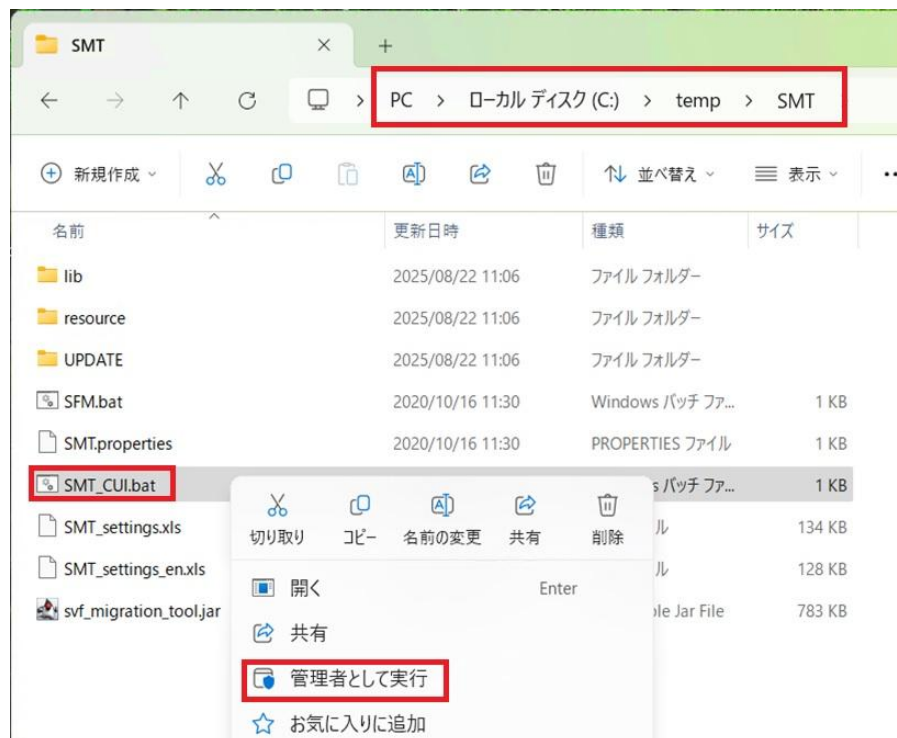
```

C:\Windows\System32\cmd.exe
抽出データの解凍中です
サービス停止中です
バックアップ中です
モジュール更新中です
データ移行中です
以下のデータはすでに移行先に存在します。
C:/S_Kokuho/PP/SVFJP/UniConX/Sample/en/schema.ini
ファイルを上書きしますか? (y(上書き) / n(上書きしない) / all(すべて上書き))
all
データ移行中です
サービス開始中です
正常終了しました。
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了
q
  
```

14. 「続行するには何かキーを押してください…」と表示されることを確認し、Enter キーを押下します。



15. 「C:\temp\SMT\SMT_CUI.bat」を右クリックし、「管理者として実行」をクリックします。



16. 「表示言語を選択してください。」項目において、「1」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
SVF Migration Tool for Java Edition, Ver.1.10.0.4.0 (build 20240902_172512)
(c) 1995 WingArc1st Inc. All rights reserved.
表示言語を選択してください。
1: 日本語
2: 英語
3: 中国語(簡体字)
1

```

17. 「<メインメニュー>」項目において、「4」（半角）を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
SVF Migration Tool for Java Edition, Ver.1.10.0.4.0 (build 20240902_172512)
(c) 1995 WingArc1st Inc. All rights reserved.
表示言語を選択してください。
1: 日本語
2: 英語
3: 中国語(簡体字)
1
製品情報を取得しています
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了
4

```

18. 「<製品情報表示>」項目において、「svf.jar」および「UniConXJ.jar」のバージョン情報が、「Ver. 9.2.11.」で始まっていることを確認します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe

<製品情報表示>
現在インストールされている製品は以下のとおりです。
SVF:
svf.jar Ver.9.2.11.6
svtgrph.jar Ver.9.2.11.6
svfpdparser.jar Ver.9.2.10.3
forme.jar Ver.9.2.10.1
SVFWebServices Ver.9.2.11.0
FontUtilWeb Ver.9.2.9.1
SVFConfig Ver.9.2.10.0
SVFSpooler Ver.9.2.4.0
SVFHttpServer Ver.9.2.11.0
UCX:
UniConXJ.jar Ver.9.2.11.1 (build 202404261136)
UniConX Ver.9.2.1.0
UcxConfig Ver.9.2.11.0

<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
6: 終了

```

19. 「<メインメニュー>」項目において、「q」(半角)を入力して Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe

4

<製品情報表示>
現在インストールされている製品は以下のとおりです。
SVF:
svf.jar Ver.9.2.11.6
svtgrph.jar Ver.9.2.11.6
svfpdparser.jar Ver.9.2.10.3
forme.jar Ver.9.2.10.1
SVFWebServices Ver.9.2.11.0
FontUtilWeb Ver.9.2.9.1
SVFConfig Ver.9.2.10.0
SVFSpooler Ver.9.2.4.0
SVFHttpServer Ver.9.2.11.0
UCX:
UniConXJ.jar Ver.9.2.11.1 (build 202404261136)
UniConX Ver.9.2.1.0
UcxConfig Ver.9.2.11.0

<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
6: 終了
q

```

20. 「続行するには何かキーを押してください…」と表示されることを確認し、Enter キーを押下します。

```

C:\Windows\System32\cmd.exe
SVF:
svf.jar Ver.9.2.11.6
svfgraph.jar Ver.9.2.11.6
svfpdparser.jar Ver.9.2.10.3
forme.jar Ver.9.2.10.1
SVFWebServices Ver.9.2.11.0
FontUtilWeb Ver.9.2.9.1
SVFConfig Ver.9.2.10.0
SVFSpooler Ver.9.2.4.0
SVFHttpServer Ver.9.2.11.0
UCX:
UniConXJ.jar Ver.9.2.11.1(build 202404261136)
UniConX Ver.9.2.1.0
UcxConfig Ver.9.2.11.0

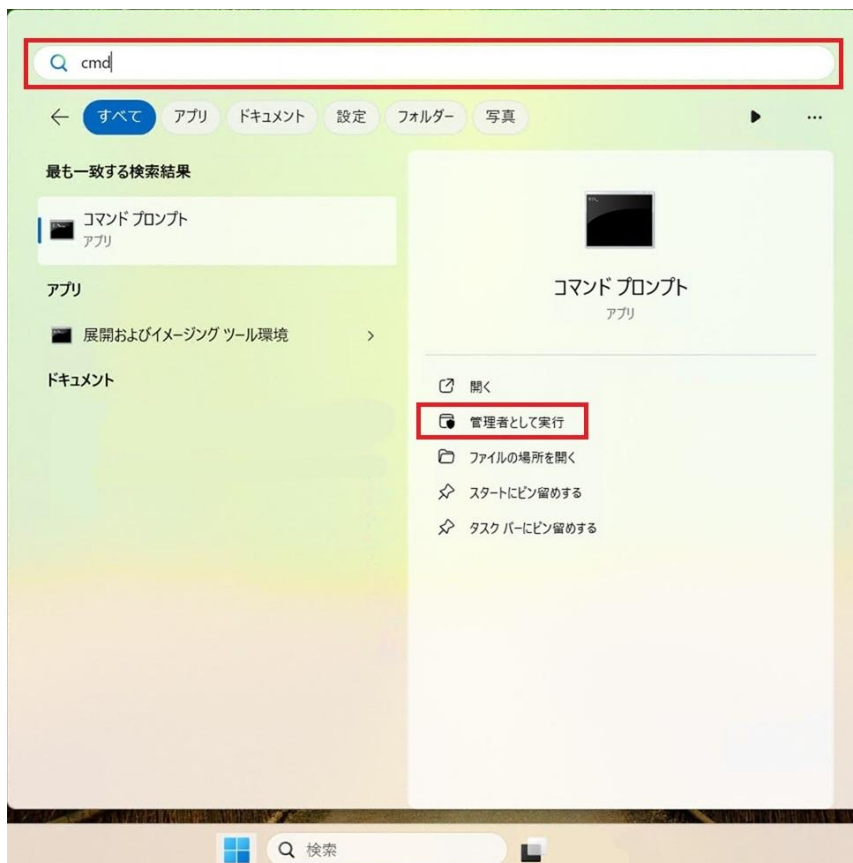
<メインメニュー>
処理を選択してください。
1: データ抽出
2: データ移行
3: モジュール更新
4: 製品情報表示
5: リストア
q: 終了

q

アプリケーションを終了します。
終了コード: 0

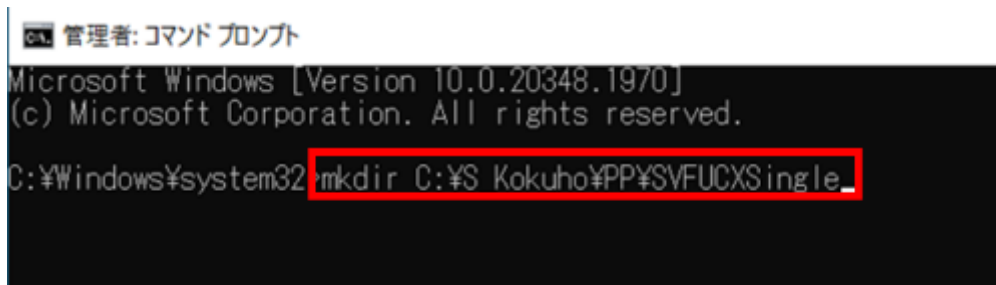
続行するには何かキーを押してください...
```

21. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



22. コマンドプロンプト画面で、次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

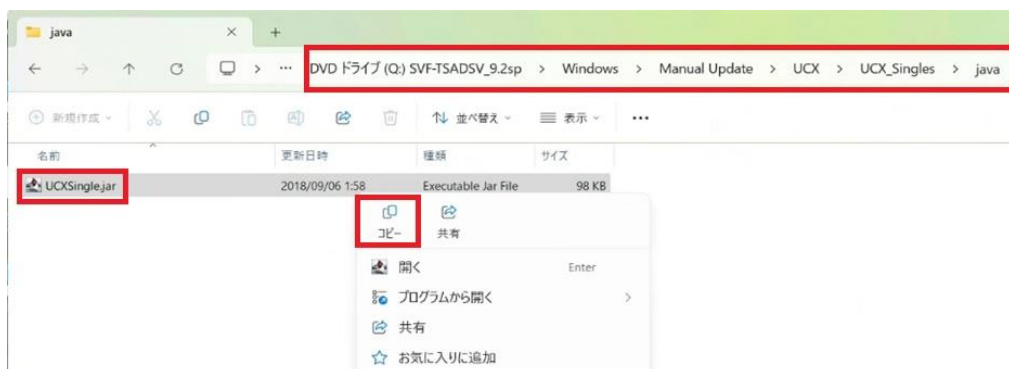
```
mkdir C:¥S_Kokuho¥PP¥SVFUCXSingle
```



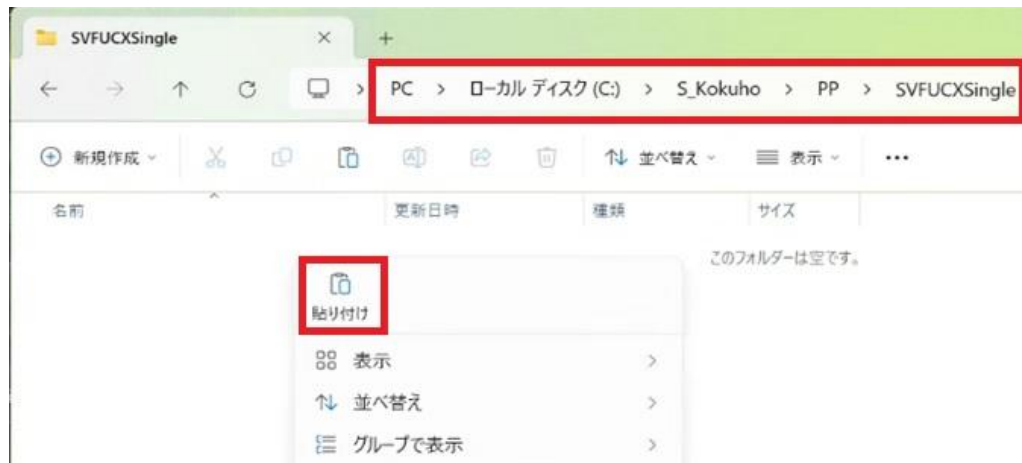
23. エクスプローラーを起動し、「C:¥S_Kokuho¥PP¥SVFUCXSingle」フォルダが存在することを確認します。



24. 「Q:¥Windows¥Manual Update¥UCX¥UCX_Singles¥java¥UCXSingle.jar」ファイルをコピーします。



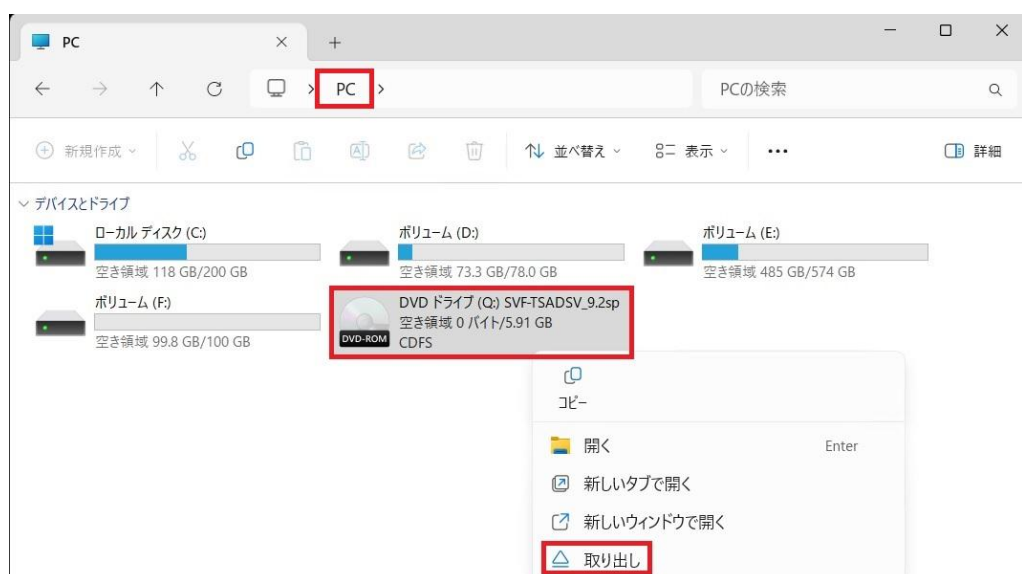
25. 手順 24. でコピーした「UCXSingle.jar」ファイルを、「C:\\$S_Kokuho\PP\SVFUCXSingle」フォルダに貼り付けます。



26. 「C:\\$S_Kokuho\PP\SVFUCXSingle」フォルダ配下に「UCXSingle.jar」ファイルが存在することを確認し、エクスプローラーを閉じます。



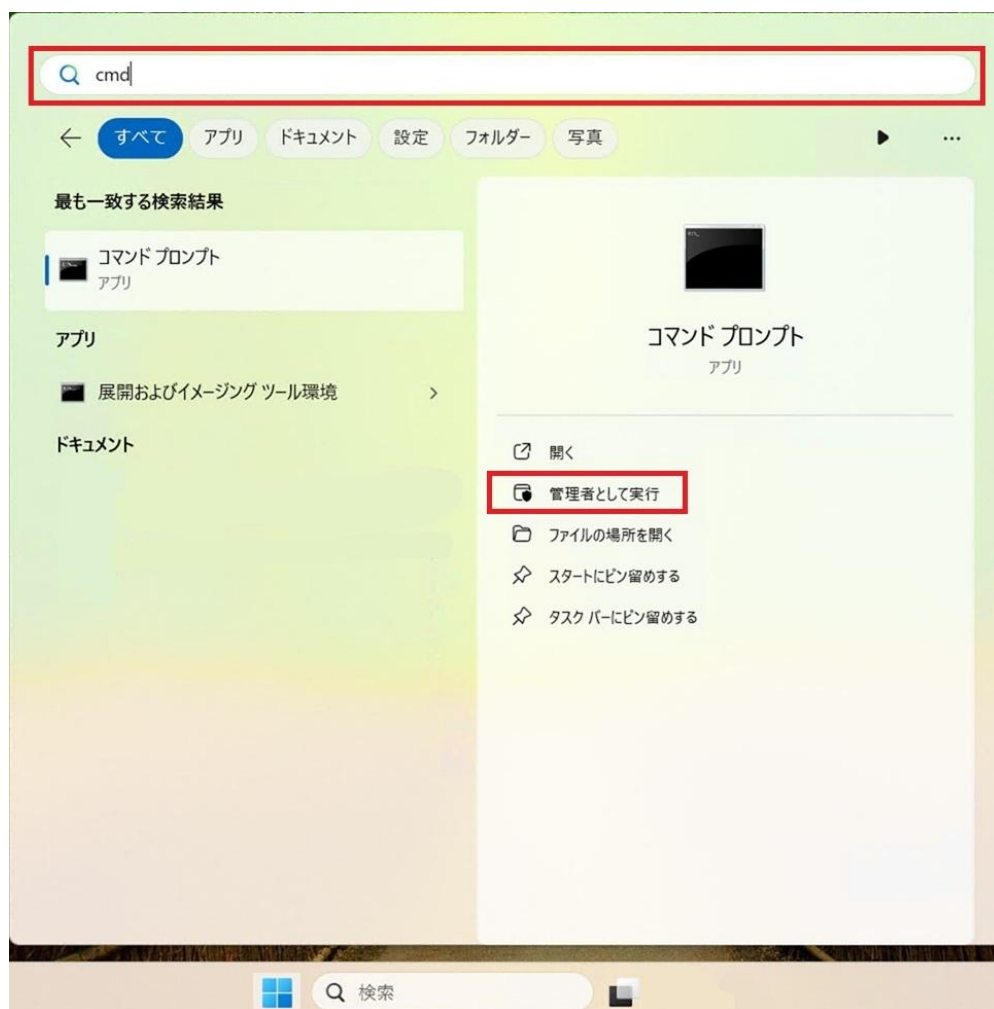
27. 手順 2. で開いているエクスプローラーのアドレスバーに「PC」と入力して Enter キーを押下し、PC 画面を表示し、マウントした SVF Service Pack のインストールファイル (iso イメージファイル) を右クリックし、「取り出し」をクリックします。



(7) Adobe Acrobat Reader DC のインストール

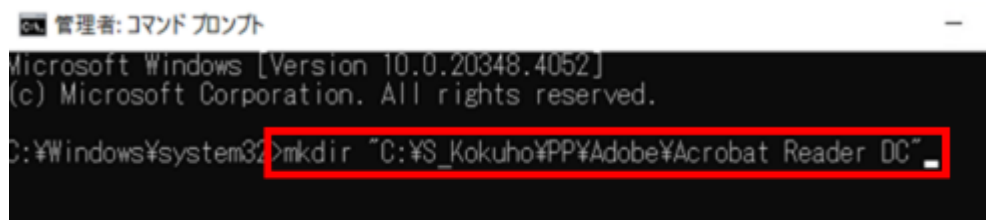
【インストール手順例】

1. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



2. コマンドプロンプト画面で、次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

`mkdir "C:¥S_Kokuho¥PP¥Adobe¥Acrobat Reader DC"`



3. エクスプローラーを起動し、「G:\S_Kokuho\PP\Adobe\Acrobat Reader DC」フォルダが存在することを確認します。



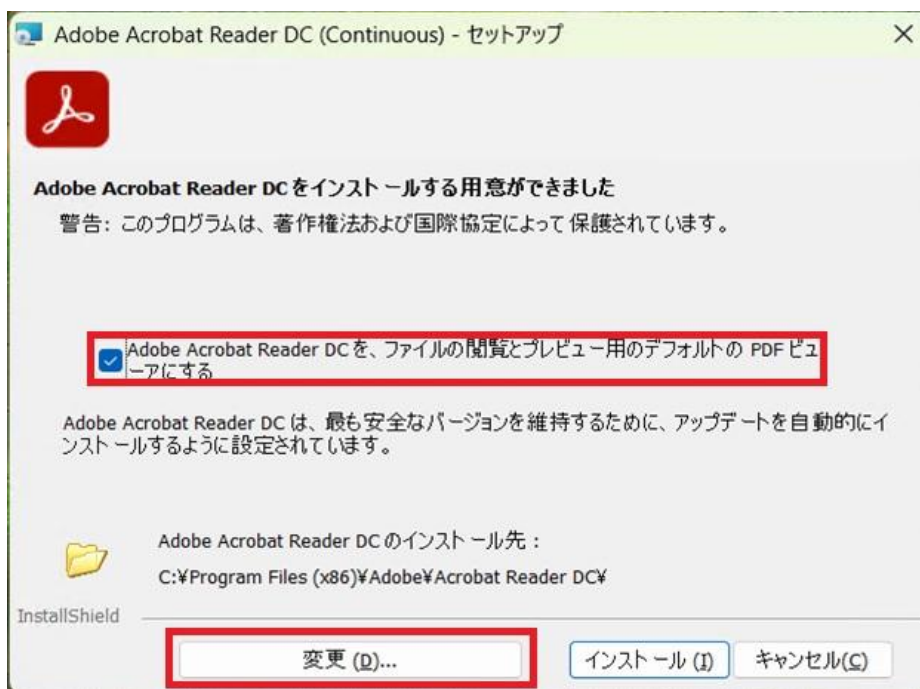
4. Adobe Acrobat Reader DC のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。
(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
5. 「(資材格納フォルダ) \AcroRdrDC2101120039_ja_JP.exe」をダブルクリックします。



6. 「インストールの準備中」画面で、インストールの準備が実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 7. の画面が表示されます。)



7. 「Adobe Acrobat Reader DC をインストールする用意ができました」画面で、「Adobe Acrobat Reader DC を、ファイルの閲覧とプレビュー用のデフォルトの PDF ビューアにする」にチェックされていることを確認し、「変更」をクリックします。



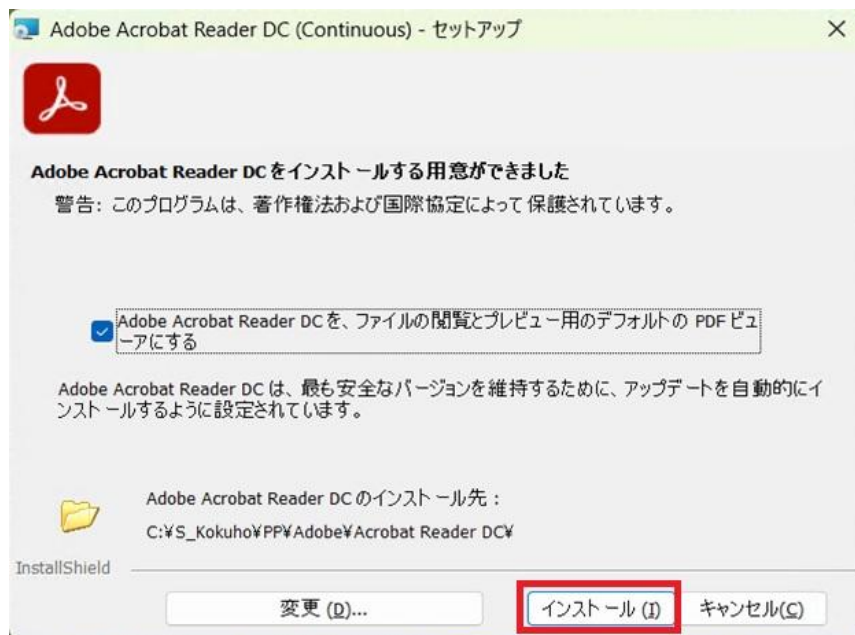
8. 「インストール先フォルダの変更」画面で、下記画面例を参考に、「フォルダ名」欄に表 B-11 のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。



表 B-11 Adobe Acrobat Reader DC インストール先フォルダ

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\S_Kokuho\PP\Adobe\Acrobat Reader DC\

9. 「Adobe Acrobat Reader DC をインストールする用意ができました」画面で「インストール」をクリックします。



10. 「Adobe Acrobat Reader DC をインストールしています」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 11. の画面が表示されます。)



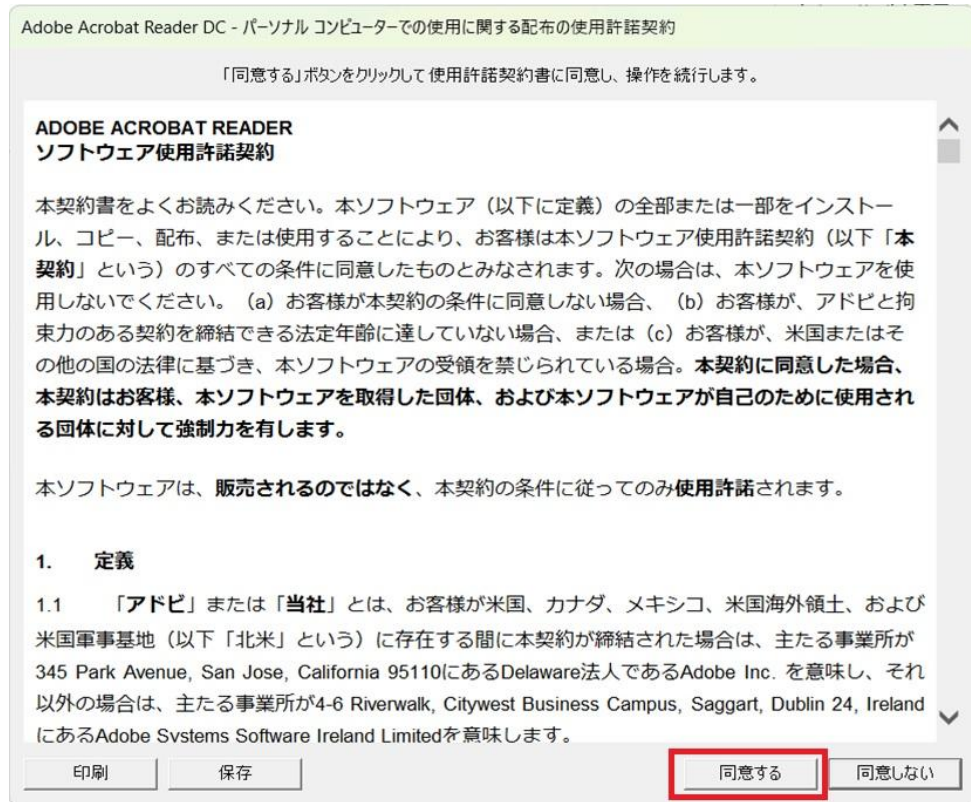
11. 「セットアップ完了」画面で、「完了」をクリックします。



12. デスクトップ上に作成された「Adobe Reader DC」のアイコンを、ダブルクリックします。



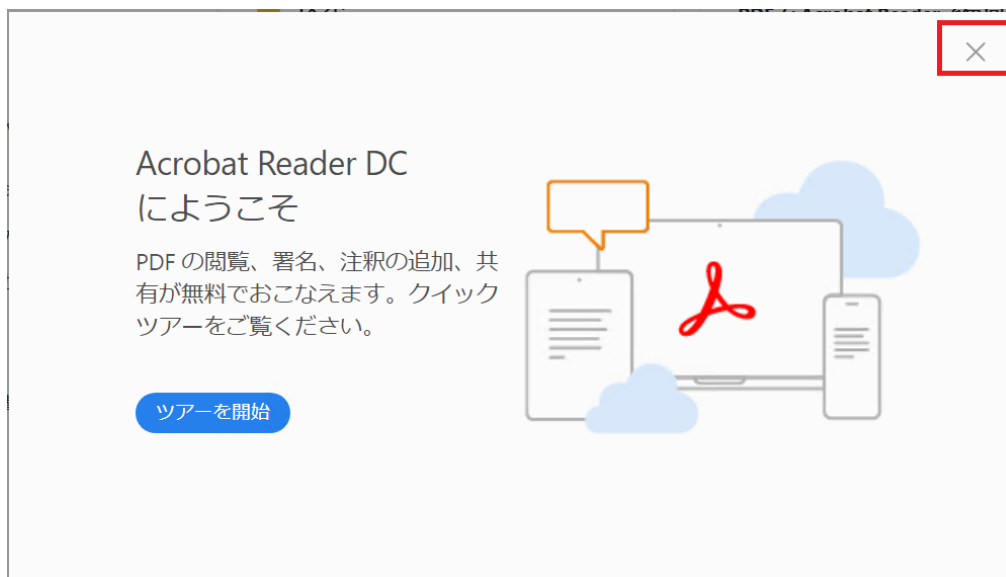
13. 「Adobe Acrobat Reader DC - パーソナル コンピューターでの使用に関する配布の使用許諾契約」画面で、「同意する」をクリックします。



14. 「Acrobat Reader」画面が表示された場合は、「次回から表示しない」にチェックし、「はい」をクリックします。



15. 「Adobe Acrobat Reader DC によるこそ」画面が表示された場合は、右上の「×」をクリックします。



16. 「Adobe Acrobat Reader DC (32-bit)」画面が表示されることを確認し、「Adobe Acrobat Reader DC (32-bit)」画面を閉じます。



(8) Oracle Database Personal Edition のインストール

Oracle Database Personal Edition は、Oracle Database Personal Edition 19.3 のインストール、OPatch 適用および Oracle Database Personal Edition 19.28 のバージョンアップを実施します。それぞれ、該当するインストール参考例を参照ください。

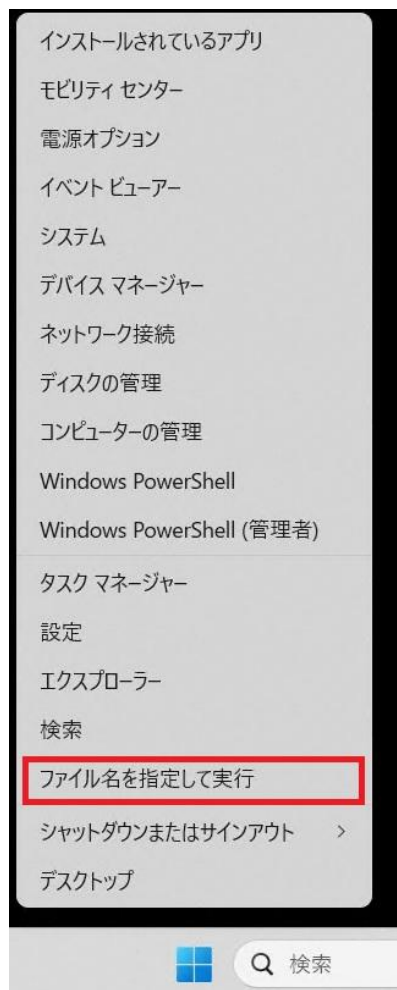
⚠ 注意事項

- ・ 納付金スタンドアロン端末の利用者が 2 名以上となる場合は、Oracle Database Standard Edition2 を使用します。Oracle Database Standard Edition2 のインストール手順については、「インストールガイド 付録(国保連委託構成)」の「付録.B. 2. (8) Oracle Database Standard Edition2 のインストール」を参照してください。
- ・ ネットワークに接続されていないコンピューターへ Oracle Database をインストールする場合、ループバックアダプタの設定と hosts ファイルの編集が必要になります。

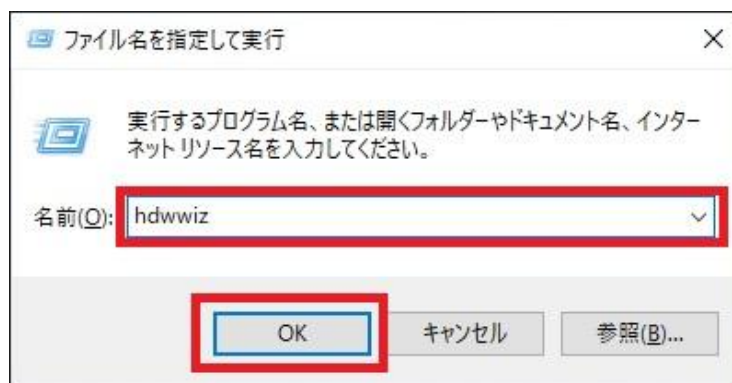
【インストール手順例】

(a) ネットワークの設定

1. 「スタート」アイコンをクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



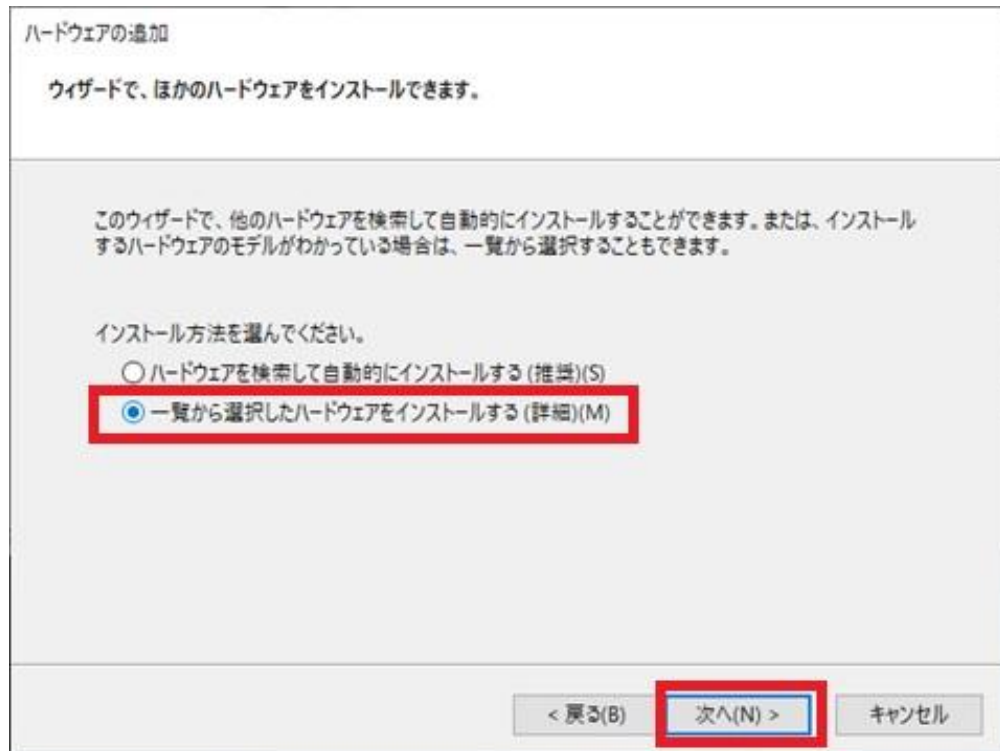
2. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「hdwwiz」と入力し、「OK」をクリックします。



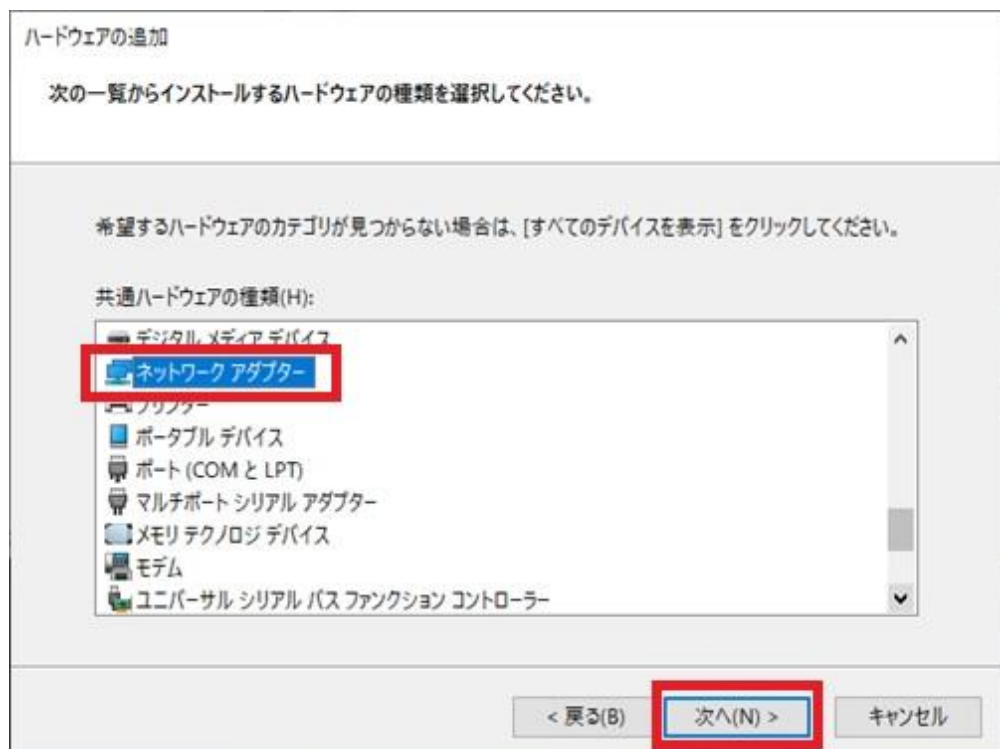
3. 「ハードウェアの追加ウィザードの開始」画面で「次へ」をクリックします。



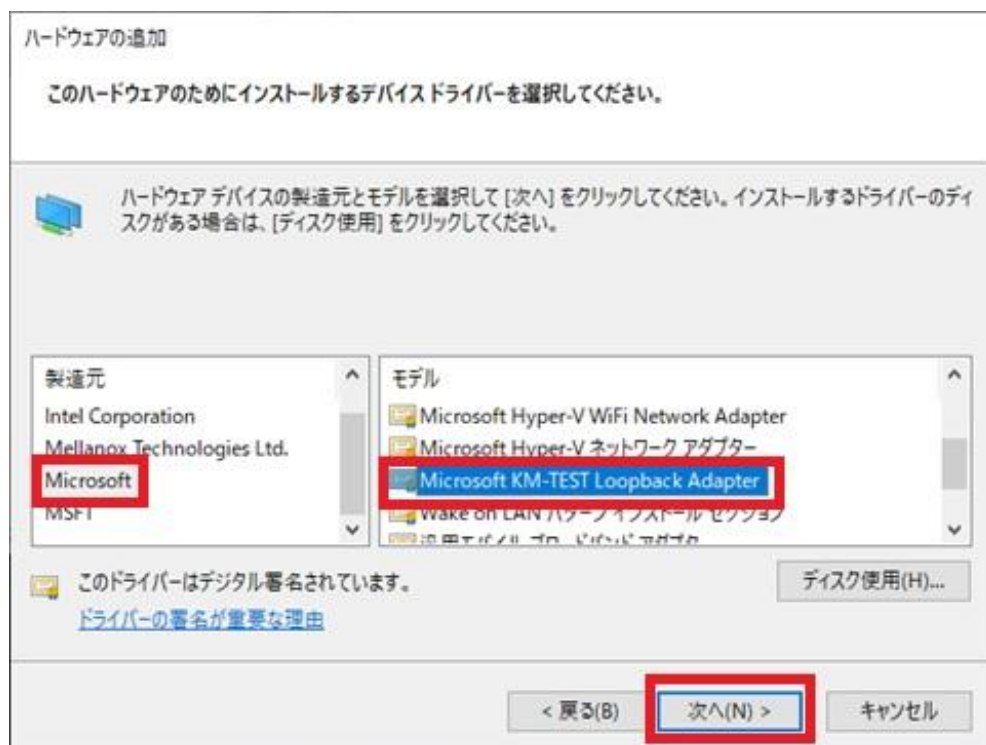
4. 「ウィザードで、ほかのハードウェアをインストールできます。」画面で「一覧から選択したハードウェアをインストールする（詳細）」を選択し、「次へ」をクリックします。



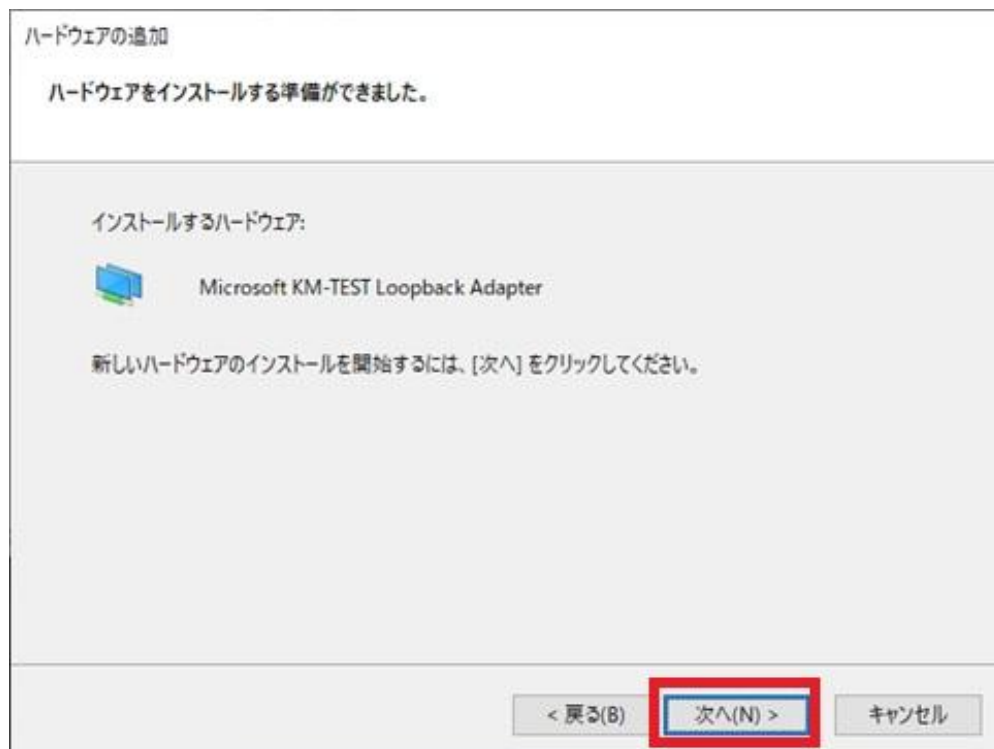
5. 「次の一覧からインストールするハードウェアの種類を選択してください。」画面で、「共通ハードウェアの種類」から「ネットワークアダプター」を選択し、「次へ」をクリックします。



6. 「このハードウェアのためにインストールするデバイスドライバーを選択してください。」画面で、製造元「Microsoft」、モデル「Microsoft KM-TEST Loopback Adapter」を選択し、「次へ」をクリックします。



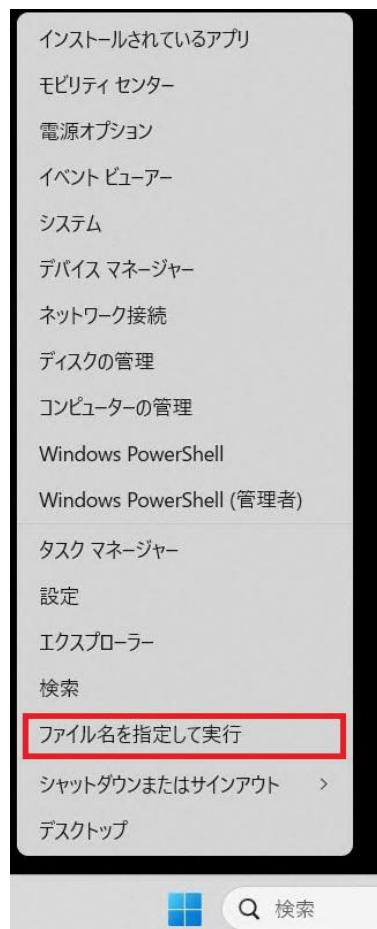
7. 「ハードウェアをインストールする準備ができました。」画面で「次へ」をクリックします。



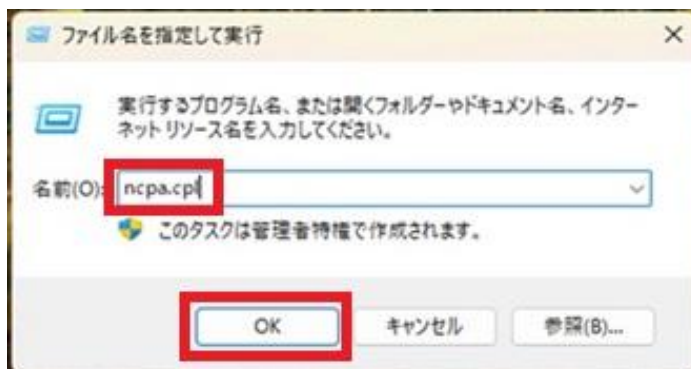
8. 「ハードウェアの追加ウィザードの完了」画面で「完了」をクリックします。



9. [スタート]アイコンを右クリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



10. 「ファイル名を指定して実行」画面で、「名前」に「ncpa.cpl」と入力し、「OK」をクリックします。



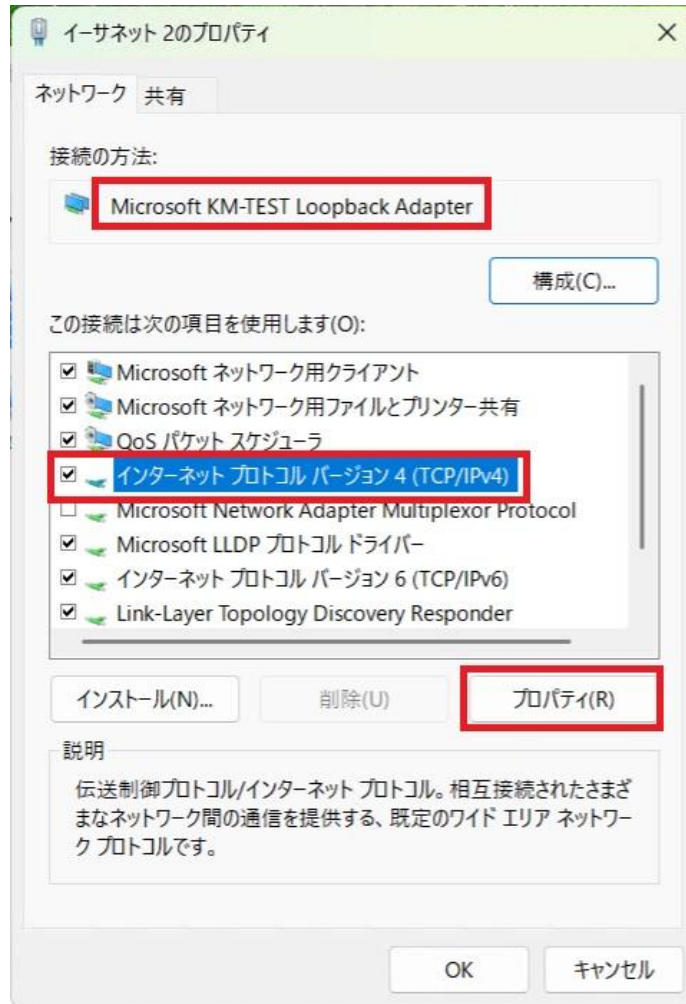
11. 「ネットワーク接続」画面で、「イーサネット 2」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。



⚠ 注意事項

使用するハードウェアによっては、右クリックするネットワークアダプタ名が、「イーサネット 2」以外の名称となっている場合がありますが、デバイス名が「Microsoft KM-TEST Loopback Adapter」と表示されているものが対象となります。

12. 「イーサネット 2 のプロパティ」画面で「接続の方法」に、手順 11. で選択したモデル「Microsoft KM-TEST Loopback Adapter」が表示されていることを確認し、「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。



13. 「インターネットプロトコルバージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ」画面で、「次の IP アドレスを使う」を選択し、下記画面例を参考に表 B-12 の IP アドレス、サブネットマスクの設定値をそれぞれ入力し、「OK」をクリックします。

インターネット プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4) のプロパティ

全般

ネットワークでこの機能がサポートされている場合は、IP 設定を自動的に取得することができます。サポートされていない場合は、ネットワーク管理者に適切な IP 設定を問い合わせてください。

☐ IP アドレスを自動的に取得する(O)

☒ 次の IP アドレスを使う(S):

IP アドレス(I): 10 . 10 . 10 . 10

サブネット マスク(U): 255 . 255 . 255 . 0

デフォルト ゲートウェイ(D): . . .

☐ DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する(B)

☒ 次の DNS サーバーのアドレスを使う(E):

優先 DNS サーバー(P): . . .

代替 DNS サーバー(A): . . .

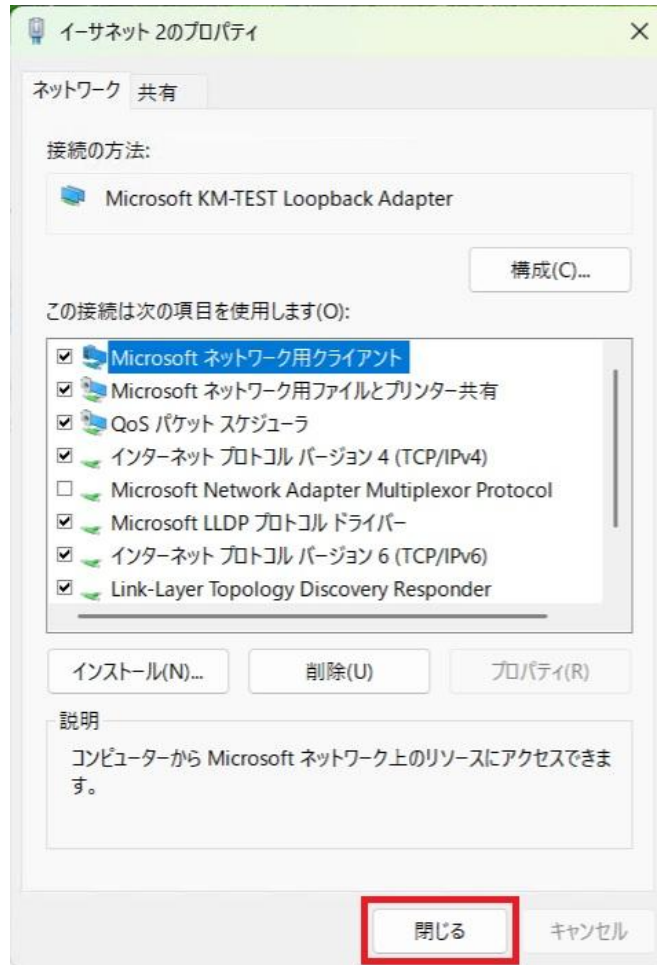
☐ 終了時に設定を検証する(L) 詳細設定(V)...

OK キャンセル

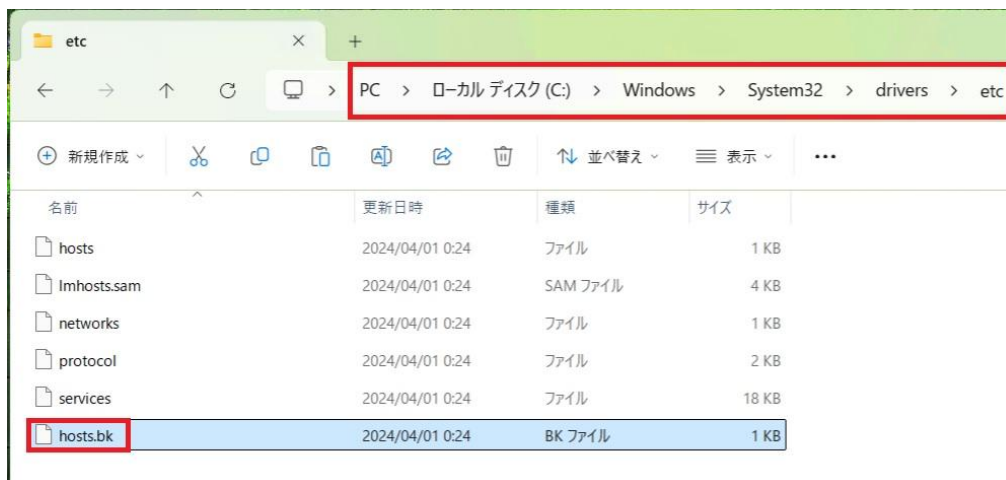
表 B-12 ループバックアダプタ情報

No.	対象機器	設定項目	設定値
1	納付金スタンドア	IP アドレス	10. 10. 10. 10
2	ロン端末	サブネットマスク	255. 255. 255. 0

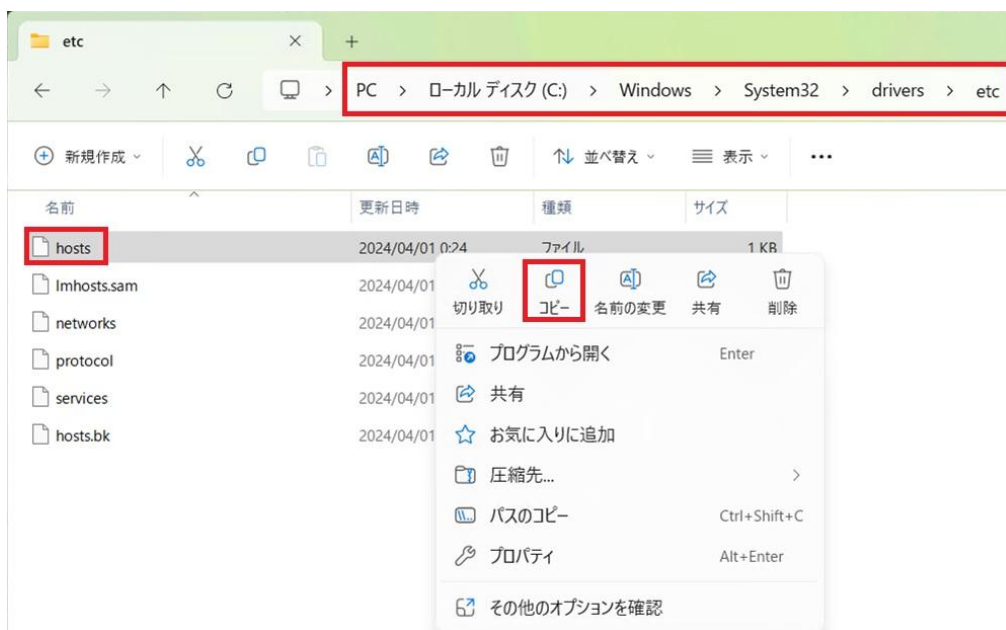
14. 「イーサネット 2 のプロパティ」画面で「閉じる」をクリックします。



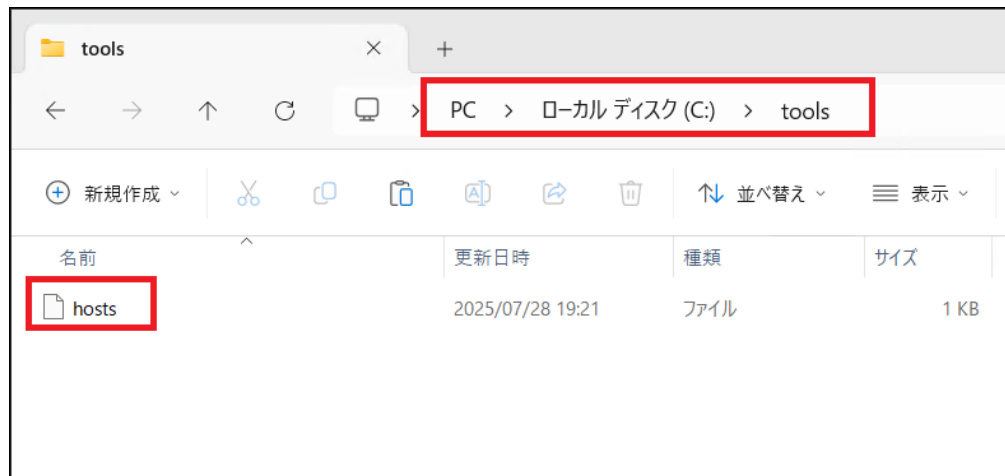
15. 「C:\Windows\System32\drivers\etc」フォルダ配下の「hosts」ファイルをコピーし、同じフォルダに「hosts.bk」として貼り付けます。



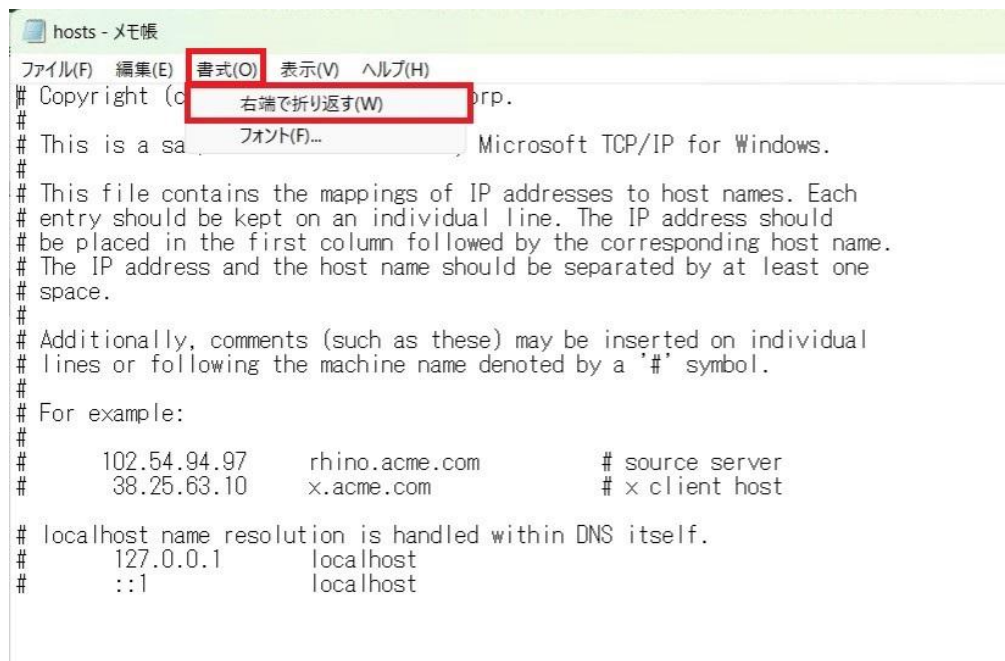
16. 「C:\Windows\System32\drivers\etc」フォルダ配下の「hosts」ファイルをコピーします。



17. 手順 16. でコピーした「hosts」ファイルを「作業フォルダ」に貼り付けます。(※ 「作業フォルダ」は任意のフォルダとします。)



18. 「hosts」ファイルをメモ帳で開き、「書式」タブより「右端で折り返す」をクリックします。



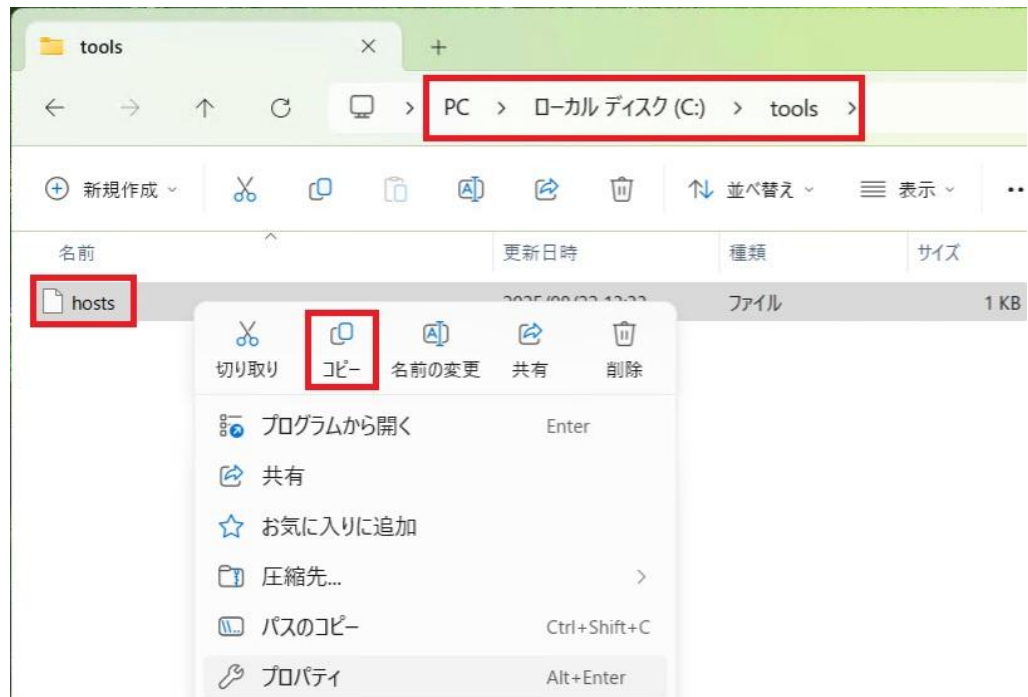
19. 「hosts」 ファイルの内容をすべて削除した上で、次に示す内容をコピーして貼り付けてください。

```
# Copyright (c) 1993-2009 Microsoft Corp.
#
# This is a sample HOSTS file used by Microsoft TCP/IP for Windows.
#
# This file contains the mappings of IP addresses to host names. Each
# entry should be kept on an individual line. The IP address should
# be placed in the first column followed by the corresponding host name.
# The IP address and the host name should be separated by at least one
# space.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#       102.54.94.97      rhino.acme.com          # source server
#       38.25.63.10     x.acme.com              # x client host
#
# localhost name resolution is handled within DNS itself.
#       127.0.0.1        localhost.localdomain    localhost
#       ::1              localhost
```

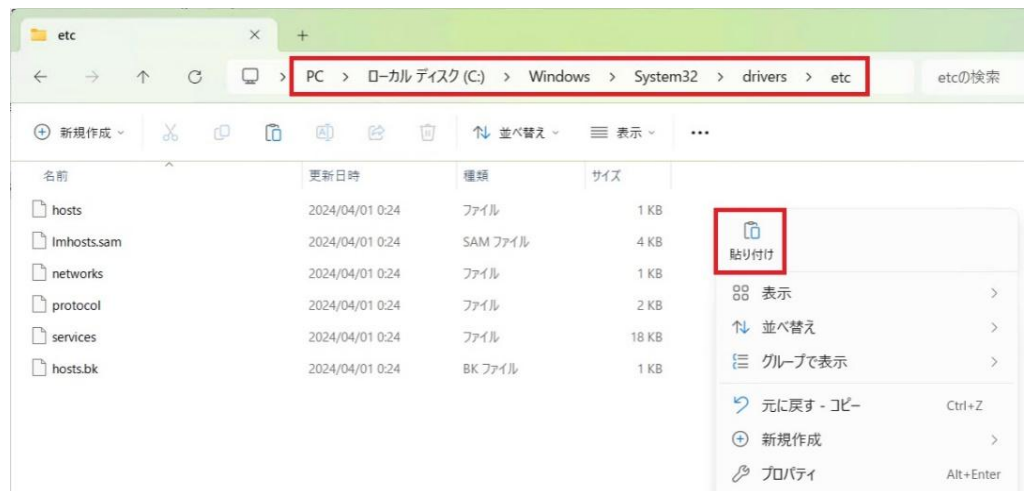
20. 「hosts-メモ帳」画面で、「ファイル」 - 「上書き保存」をクリックします。



21. 「作業フォルダ」 フォルダ配下の「hosts」 ファイルをコピーします。



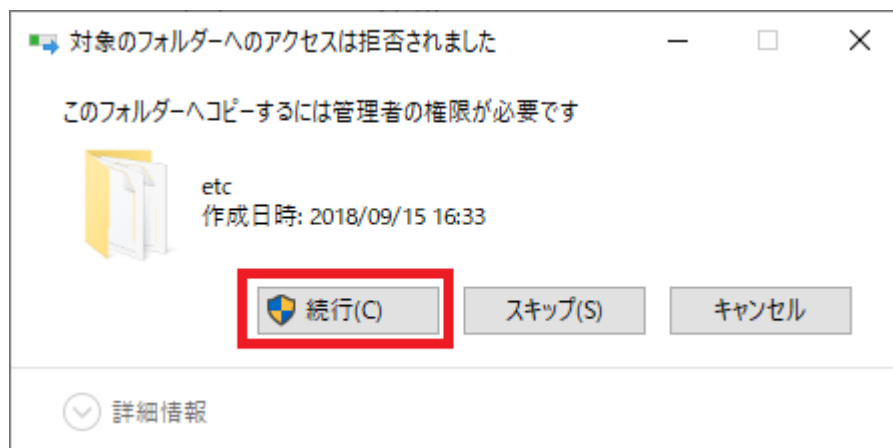
22. 「C:¥Windows¥System32¥drivers¥etc」 フォルダに貼り付けます。



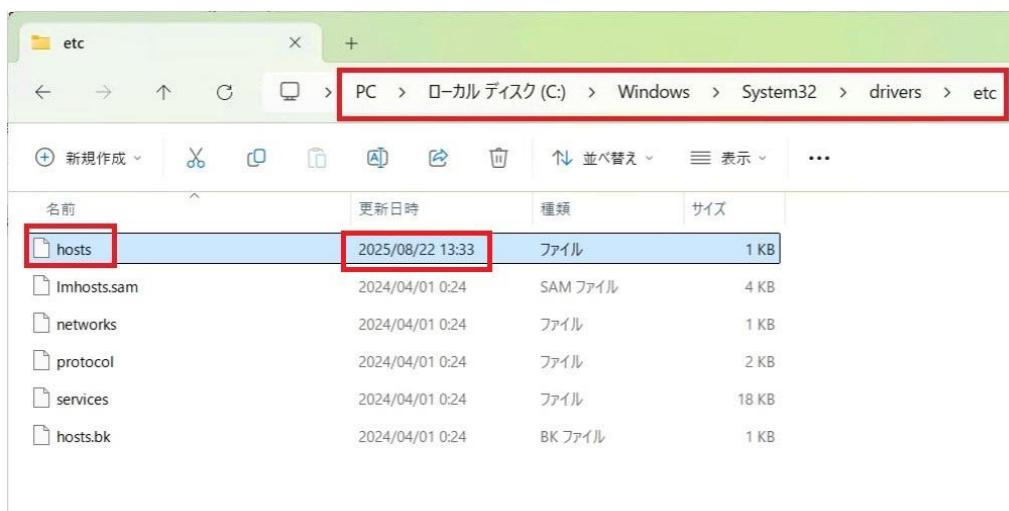
23. 「ファイルの置換またはスキップ」画面が表示されるので「ファイルを置き換える」をクリックします。



24. 「対象のフォルダーへのアクセスは拒否されました」画面が表示された場合は、「続行」をクリックします。

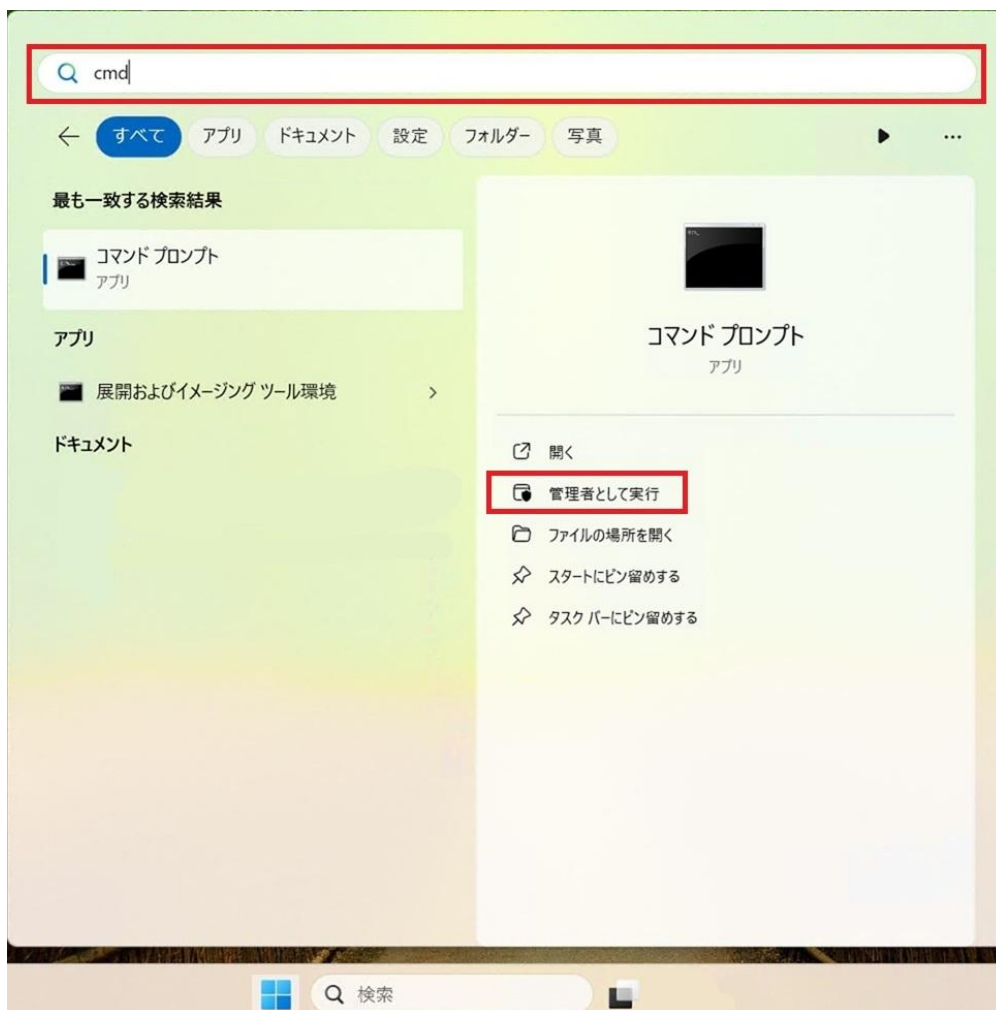


25. 「C:\Windows\System32\drivers\etc」フォルダ配下の hosts ファイルの更新日時が更新されていることを確認し、エクスプローラーを閉じます。



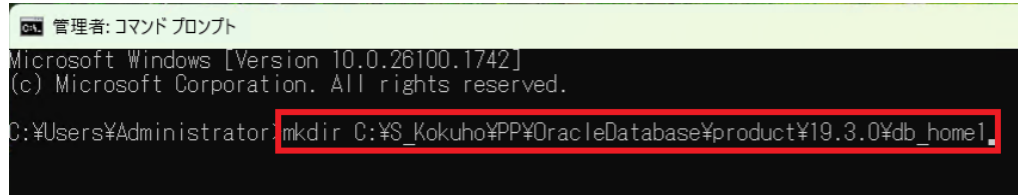
(b) Oracle Database Personal Edition 19.3 のインストール

1. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



2. コマンドプロンプト画面で、次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します

```
mkdir C:\S_Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1
```



⚠ 注意事項

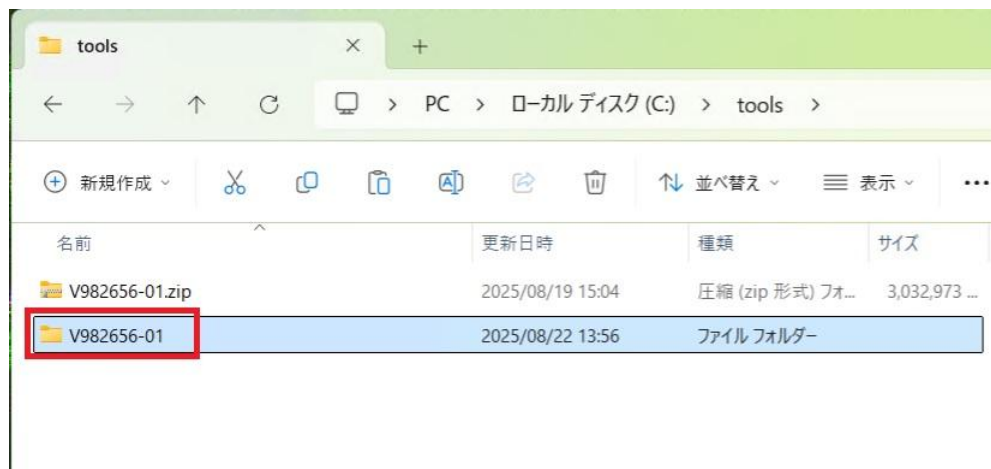
「C:\S_Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1」がインストール先フォルダになり、インストール途中の手順 15. 「インストール場所の指定」画面でも変更できません。間違った場合、この手順からやり直すことになりますので再度確認してください。

3. エクスプローラーを起動し、
「C:\S_Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1」フォルダが存在することを確認します。

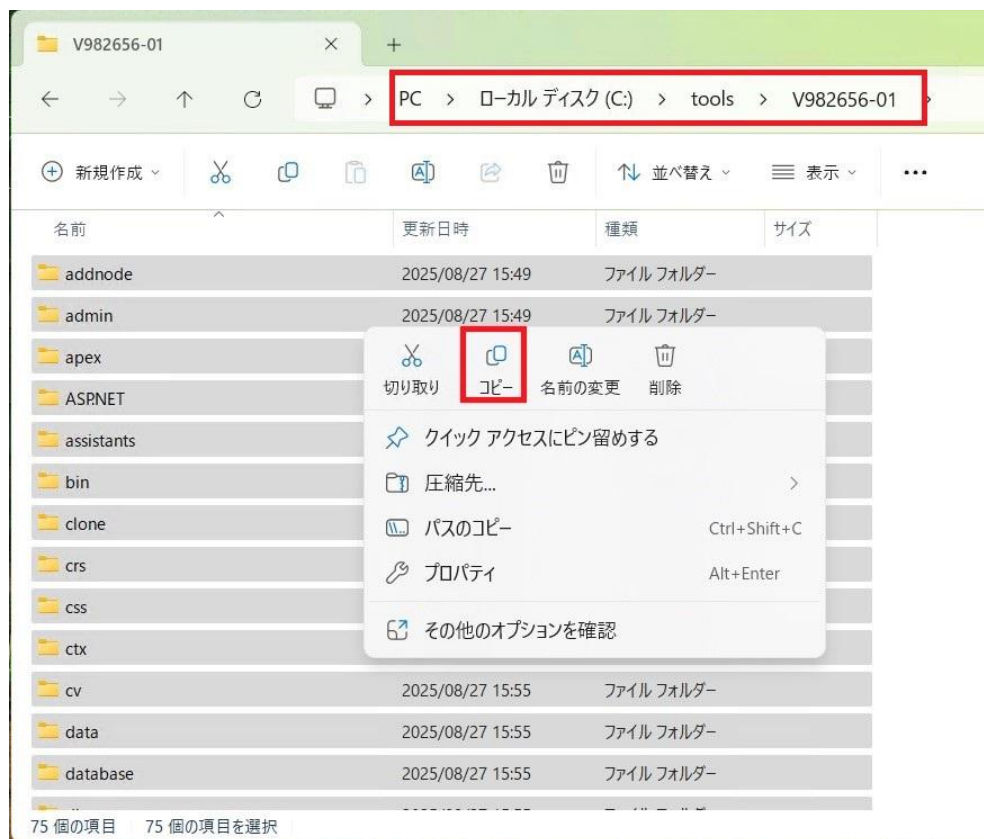


4. コマンドプロンプトを閉じます。
5. Oracle Database Personal Edition のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)

6. 「V982656-01.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「V982656-01」が作成されることを確認します。



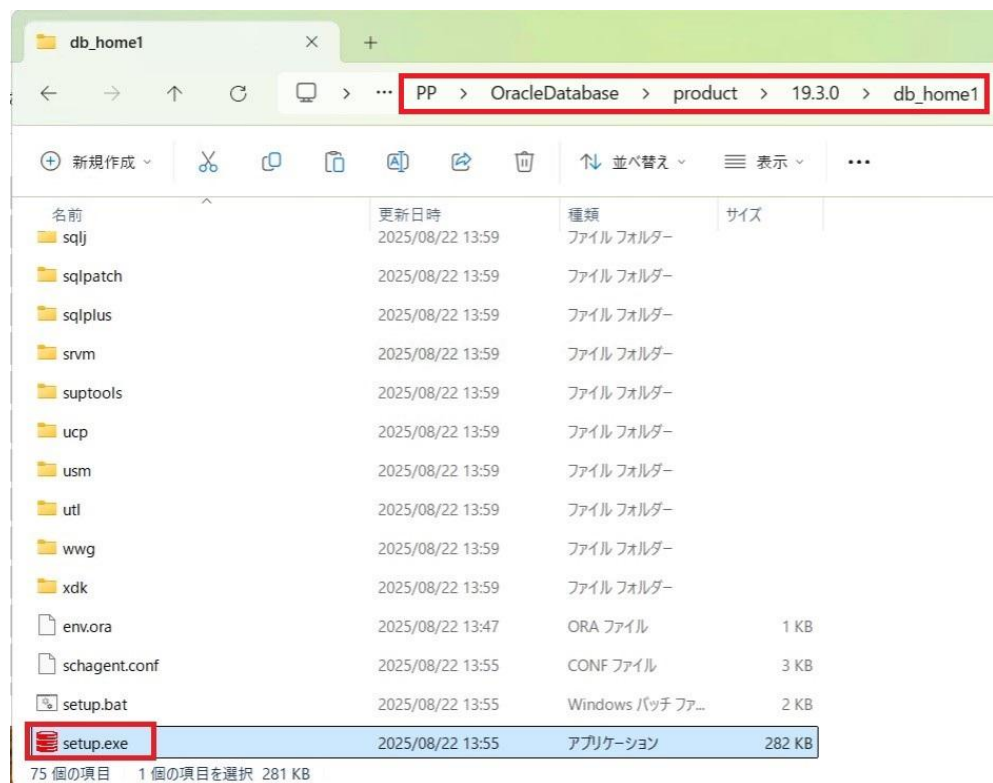
7. 「(資材格納フォルダ) ¥V982656-01」フォルダ配下をすべて、コピーします。



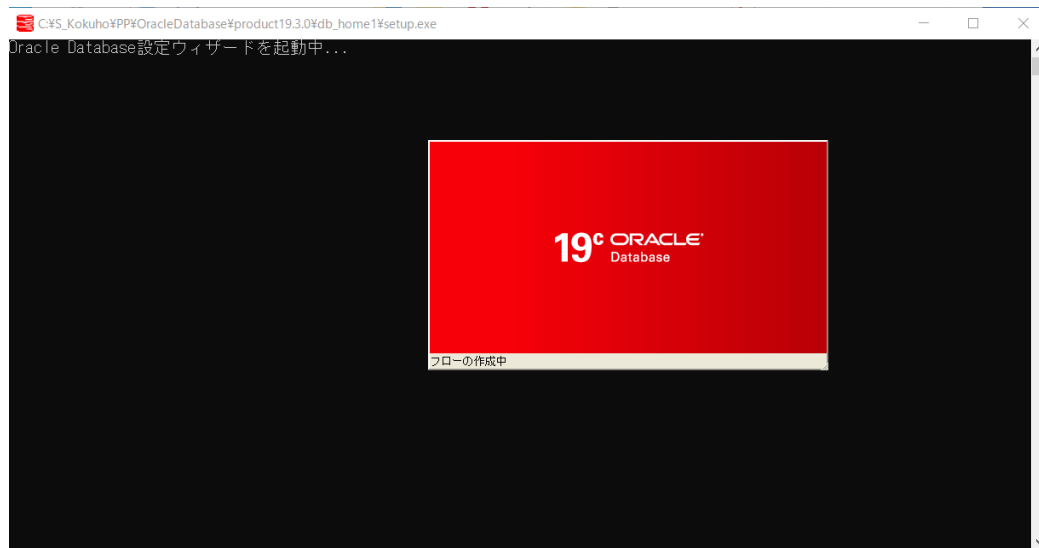
8. 手順 7. でコピーしたファイルを、
「C:\¥S_Kokuho¥PP¥OracleDatabase¥product¥19.3.0¥db_home1」フォルダに貼り付けま
す。



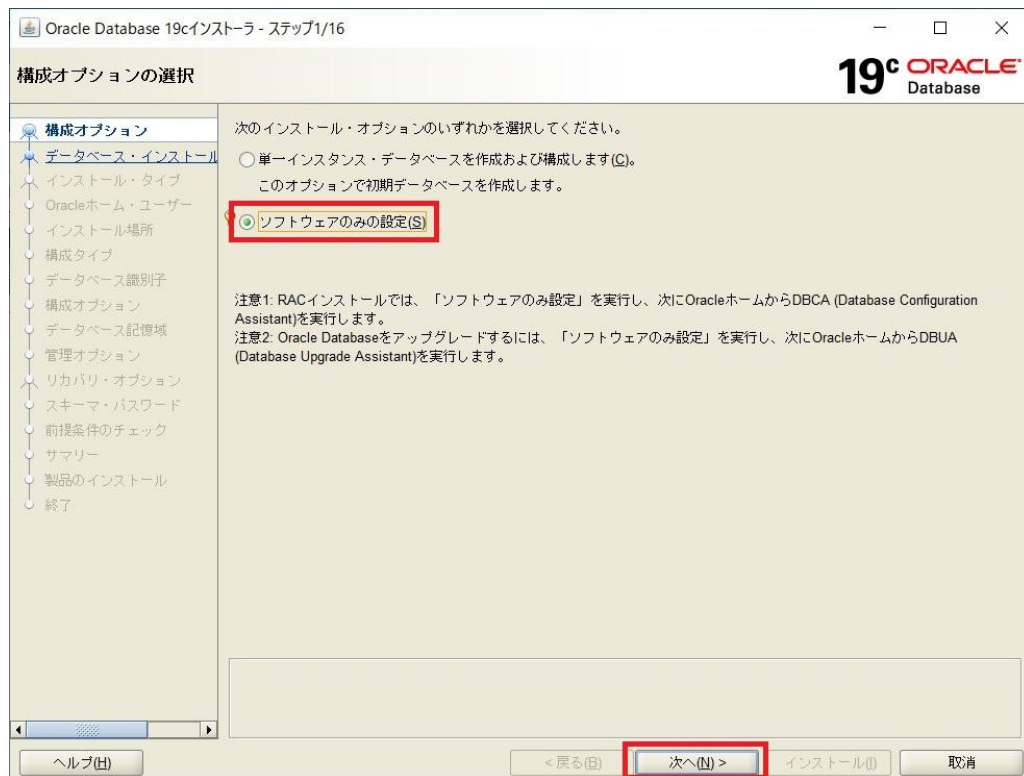
9. 「C:\¥S_Kokuho¥PP¥OracleDatabase¥product¥19.3.0¥db_home1」フォルダ配下の
「setup.exe」をダブルクリックします。



10. 「Oracle Database 設定ウィザード」画面で、インストールの準備が実行されるのでしばらく待ちます。(しばらく待つと手順 11. の画面が表示されます。)



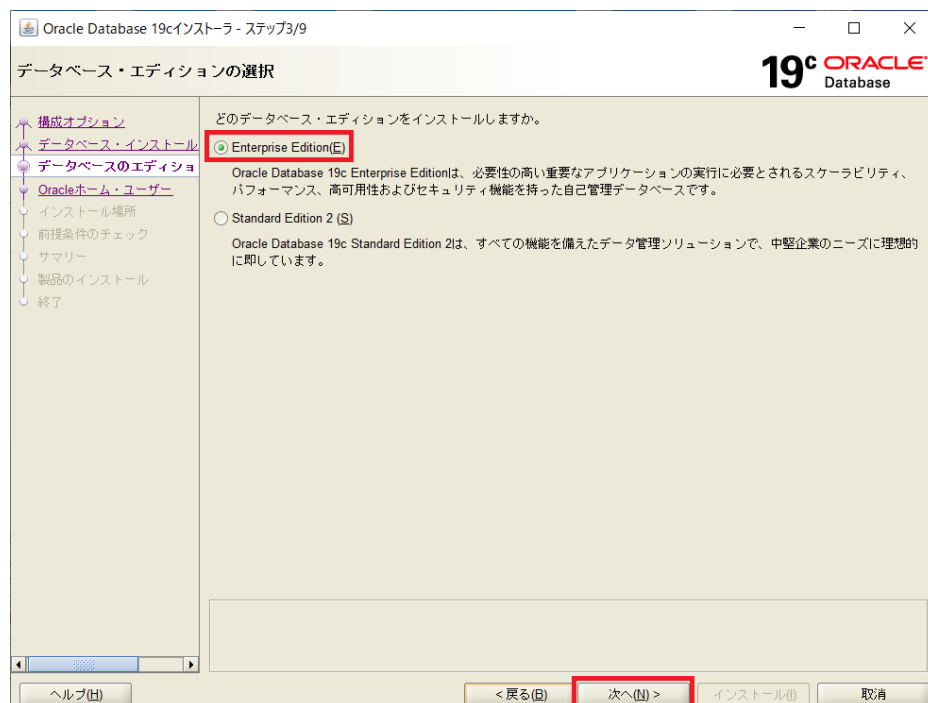
11. 「構成オプションの選択」画面で、「ソフトウェアのみの設定」を選択し、「次へ」をクリックします。



12. 「データベース・インストール・オプションの選択」画面で、「単一インスタンス・データベースのインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



13. 「データベース・エディションの選択」画面で、「Enterprise Edition」を選択し、「次へ」をクリックします。



⚠ 注意事項

Personal Edition のインストールで Enterprise Edition を選択しているのは Personal Edition のライセンスは、Enterprise Edition をインストールしてライセンスの制限事項を遵守する仕様となっているためです。

14. 「Oracle ホーム・ユーザーの指定」画面で、「新規 Windows ユーザーの作成」を選択し、ユーザー名、パスワード、パスワードの確認を入力し、「次」をクリックします。

⚠ 注意事項

入力するユーザー名、パスワードについては、各都道府県にて事前に設計してください。パスワードに記号を設定する場合は、「-」「*」「_」「?」のみ使用してください。

15. 「インストール場所の指定」画面で、「ソフトウェアの場所」に手順 2. で作成したフォルダ「C:\\$S_Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1」が表示されていることを確認し、「Oracle ベース」の「参照」をクリックします。



 注意事項

「ソフトウェアの場所」が間違っていた場合、ここでは変更ができません。「取消」をクリックしてインストーラを終了してください。間違って作成したフォルダを削除後、手順 1. からやり直してください。

16. 「パスの選択」画面で、下記画面例を参考に、「ファイル名」欄に表 B-13 のファイル名を入力し、「選択」をクリックします。

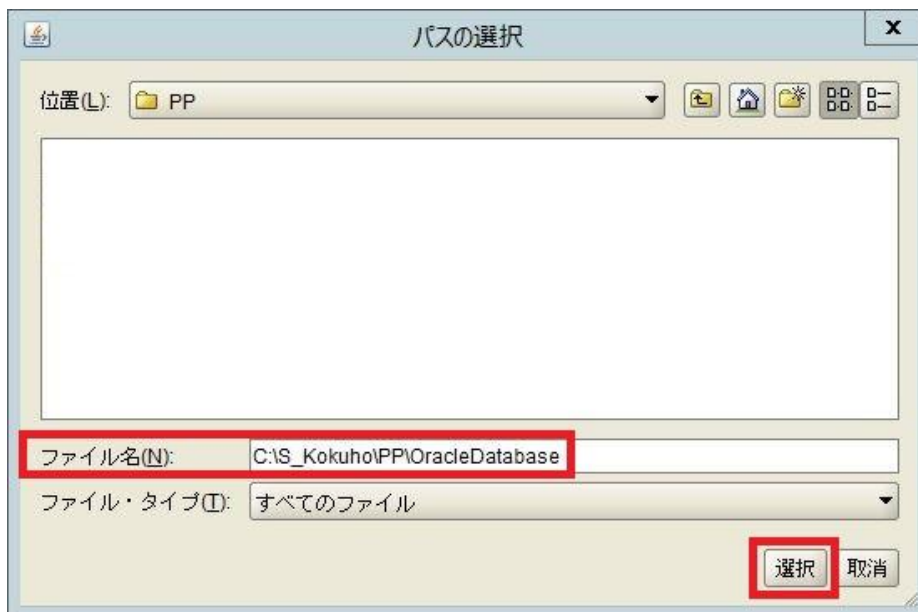
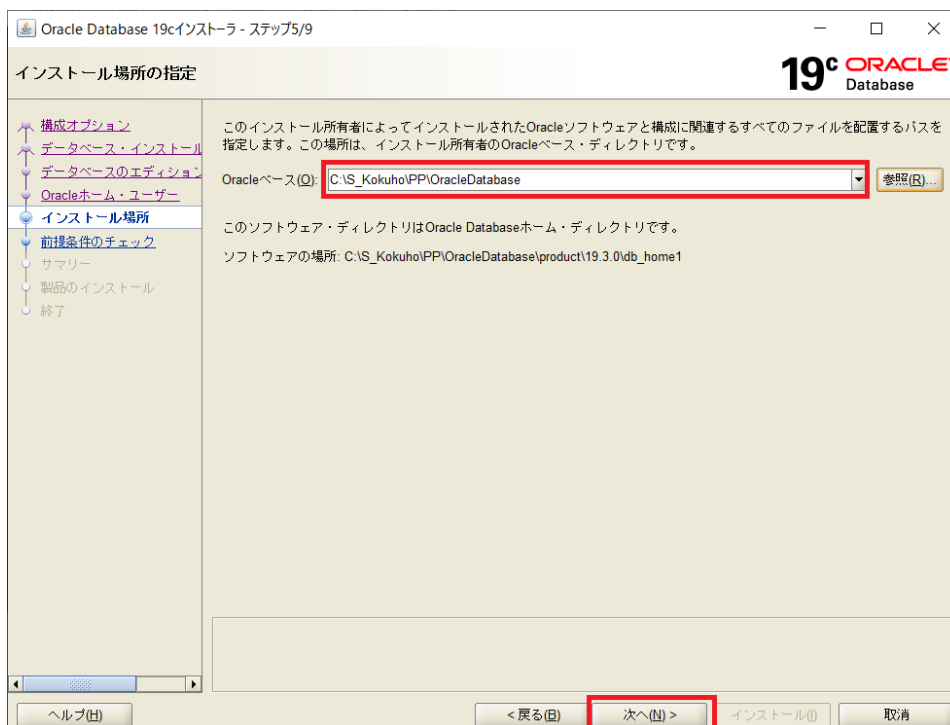


表 B-13 Oracle Database Personal Edition インストール先フォルダ名

No.	対象機器	ファイル名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\S_Kokuho\PP\OracleDatabase

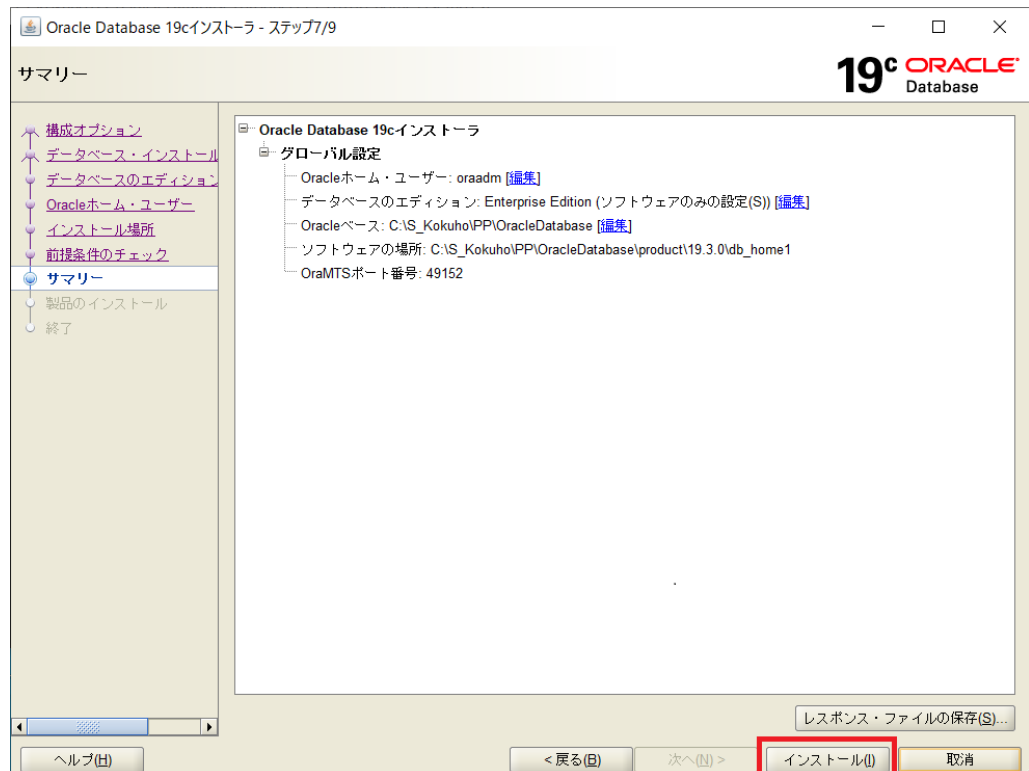
17. 「Oracle ベース」が、手順 16. で指定したフォルダパスとなっていることを確認し、「次へ」をクリックします。



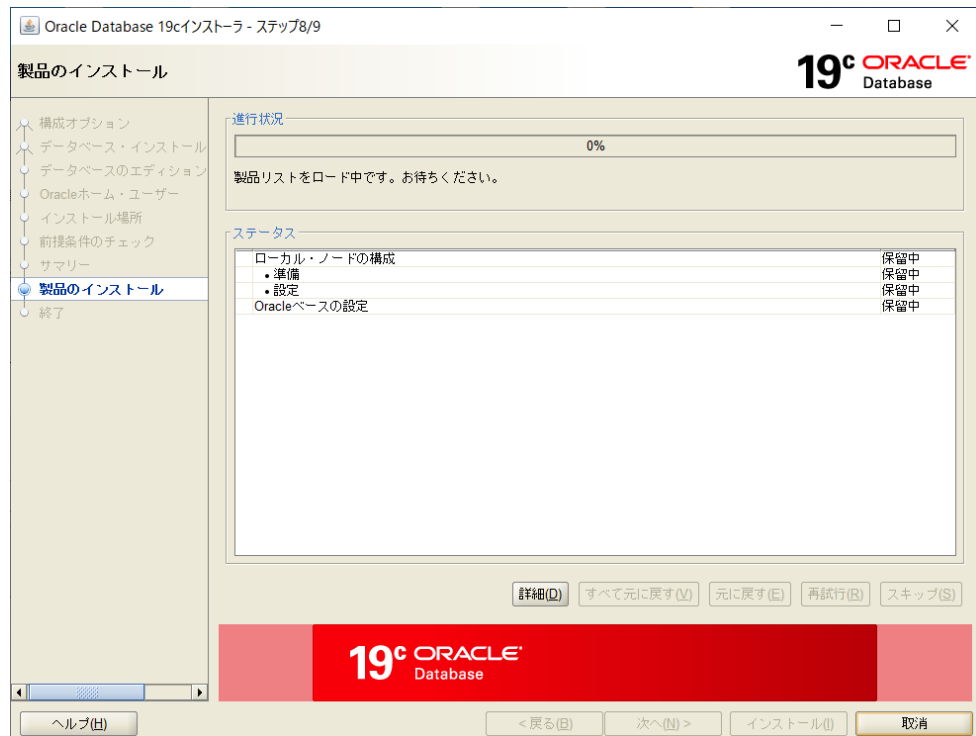
18. 「前提条件チェックの実行」画面で、前提条件のチェックが実行されるので、しばらく待ちます。（しばらく待つと、手順 19. の画面が表示されます。）



19. 「サマリー」画面で、「インストール」をクリックします。



20. 「製品のインストール」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。
(しばらく待つと、手順 21. の画面が表示されます。)



⚠ 注意事項

「Windows セキュリティ」画面が表示された場合は、「許可」をクリックします。



21. 「終了」画面で、「Oracle Database の登録が成功しました。」と表示されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。

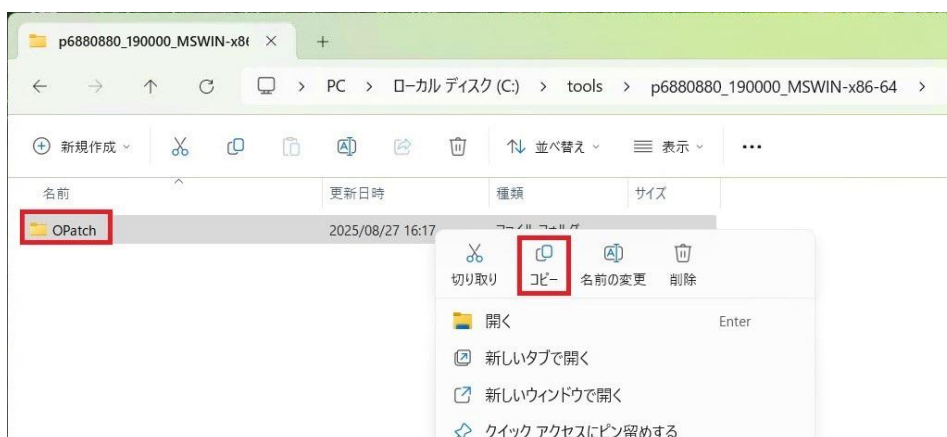


(c) OPatch 適用

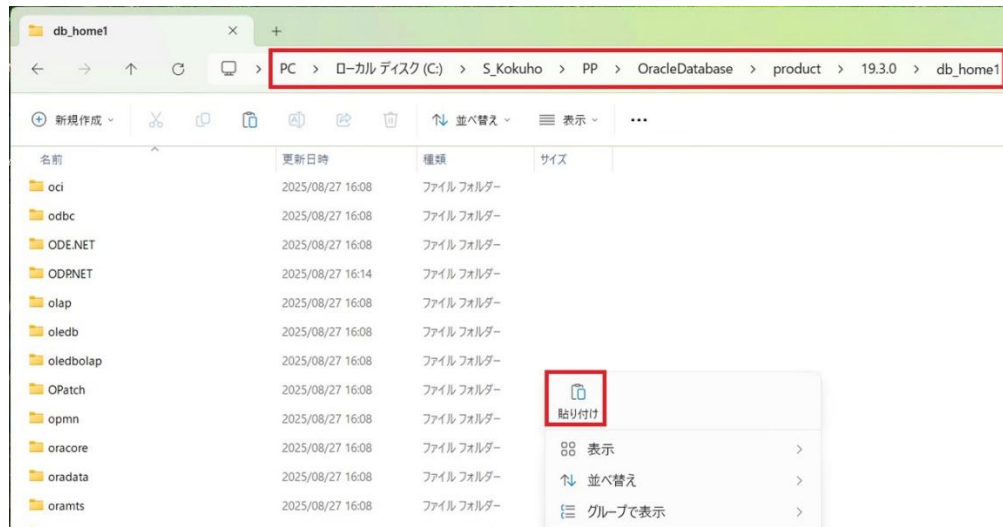
1. OPatch のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「p6880880_190000_MSWIN-x86-64.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「p6880880_190000_MSWIN-x86-64」フォルダが作成され、その配下に「OPatch」フォルダが存在することを確認します。



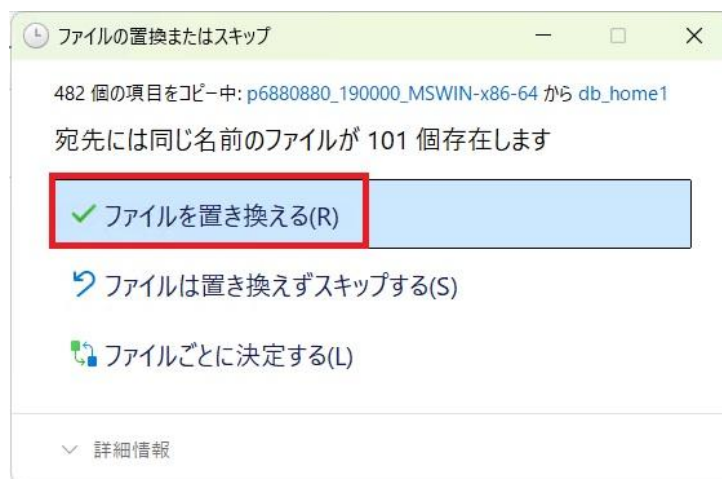
3. 「OPatch」フォルダをコピーします。



4. 手順 3. でコピーした「OPatch」フォルダを、
「C:\\$S_Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1」フォルダに貼り付けま
す。



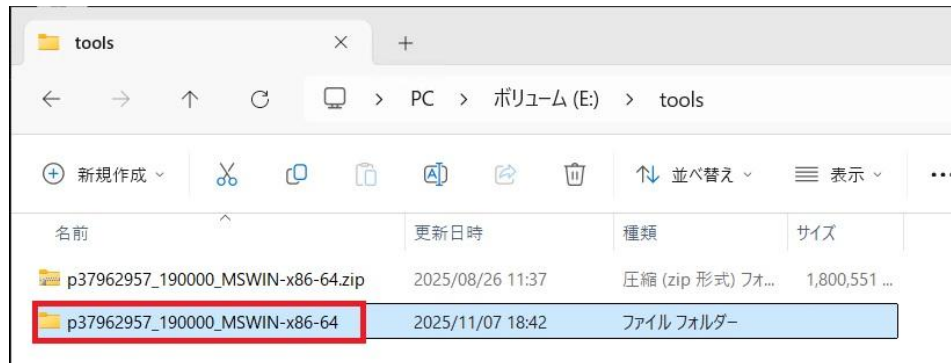
5. 「ファイルの置換またはスキップ」画面で、「ファイルを置き換える」をクリックしま
す。



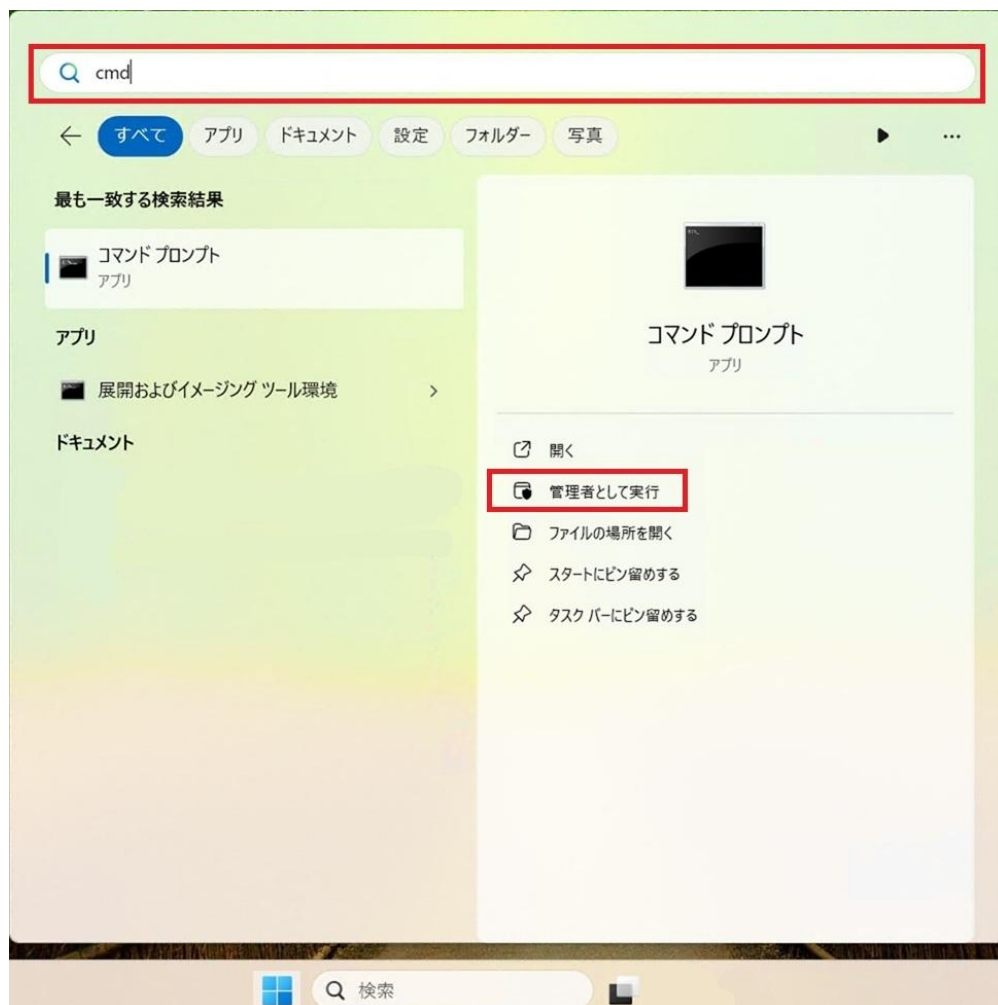
6. エクスプローラーを閉じます。

(d) Oracle Database Personal Edition 19.28 のバージョンアップ

1. Oracle Database Personal Edition 19.28 のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「p37962957_190000_MSWIN-x86-64.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「p37962957_190000_MSWIN-x86-64」フォルダが作成されることを確認します。

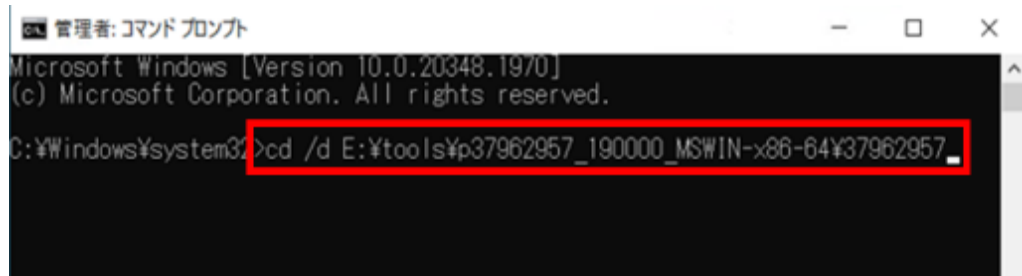


3. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



4. コマンドプロンプト画面で、下記画面例を参考に次のコマンドを入力し実行します。
(※ △は半角スペースを表します。)

cd△/d△"手順 1. で作成した資材格納フォルダパス
¥p37962957_190000_MSWIN-x86-64¥37962957"



```

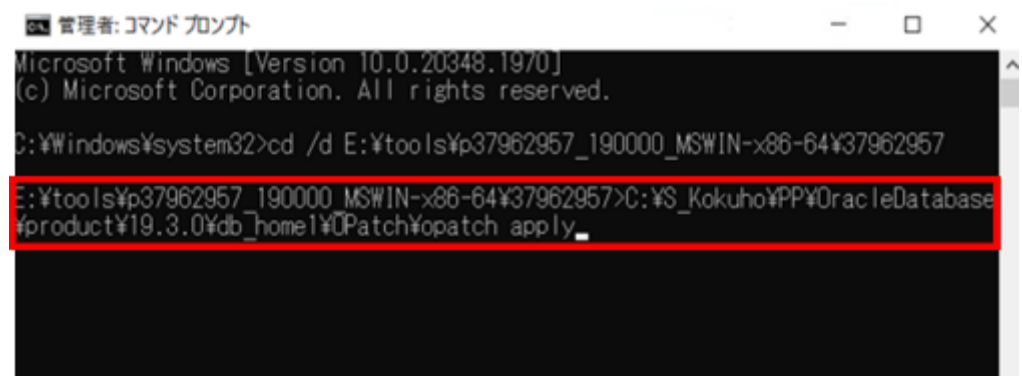
Microsoft Windows [Version 10.0.20348.1970]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>cd /d E:\tools\p37962957_190000_MSWIN-x86-64\p37962957_

```

5. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

C:\¥S_Kokuho¥PP¥OracleDatabase¥product¥19.3.0¥db_home1¥OPatch¥opatch apply



```

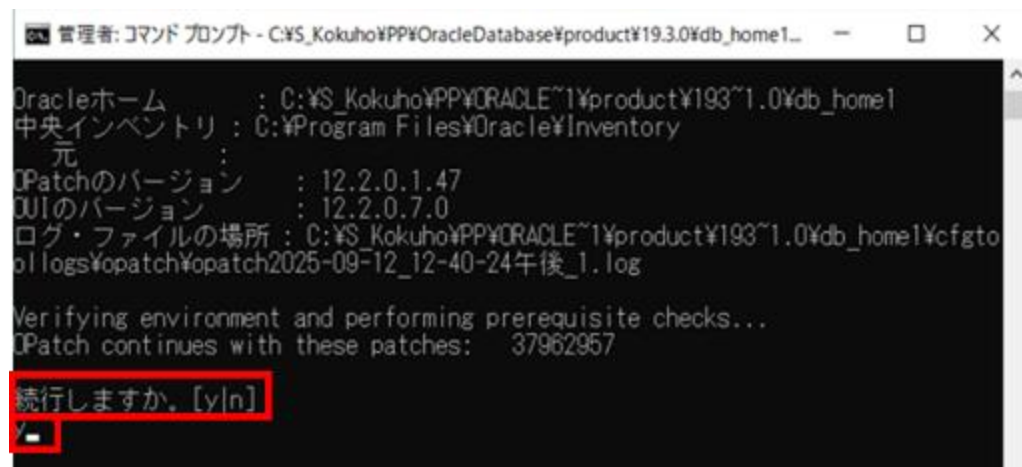
Microsoft Windows [Version 10.0.20348.1970]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>cd /d E:\tools\p37962957_190000_MSWIN-x86-64\p37962957
E:\tools\p37962957_190000_MSWIN-x86-64\p37962957>C:\¥S_Kokuho¥PP¥OracleDatabase
¥product¥19.3.0¥db_home1¥OPatch¥opatch apply

```

6. コマンドプロンプト画面で、インストール準備が実行されるので、待ちます。(10 分程度待つと、手順 7. の画面が表示されます。)

7. 「続行しますか」項目において、「y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



```

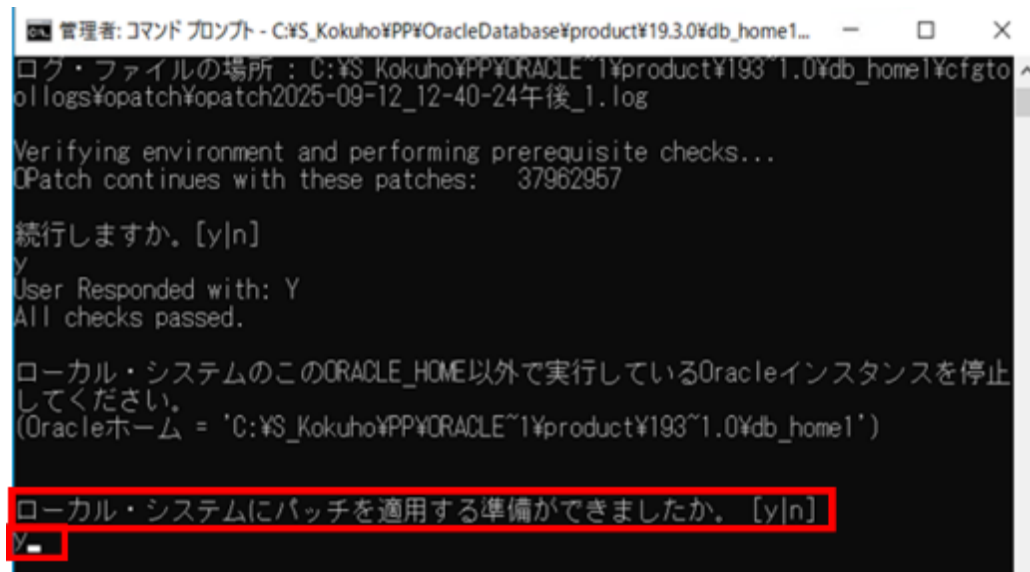
Oracleホーム      : C:\¥S_Kokuho¥PP¥ORACLE~1¥product¥193~1.0¥db_home1
中央インベントリ  : C:\¥Program Files¥Oracle¥Inventory
元
OPatchのバージョン : 12.2.0.1.47
OUIのバージョン   : 12.2.0.7.0
ログ・ファイルの場所 : C:\¥S_Kokuho¥PP¥ORACLE~1¥product¥193~1.0¥db_home1¥cfgto
o\logs¥opatch¥opatch2025-09-12_12-40-24午後_1.log

Verifying environment and performing prerequisite checks...
OPatch continues with these patches: 37962957

続行しますか。 [y/n]
y

```

8. 「ローカル・システムにパッチを適用する準備ができましたか。」項目において、「y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



```
管理者: コマンド プロンプト - C:\$Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home1...
ログ・ファイルの場所 : C:\$Kokuho\PP\ORACLE~1\product\193~1.0\db_home1\cfgtools\logs\opatch\opatch2025-09-12_12-40-24午後_1.log

Verifying environment and performing prerequisite checks...
OPatch continues with these patches: 37962957

続行しますか。[y|n]
y
User Responded with: Y
All checks passed.

ローカル・システムのこのORACLE_HOME以外で実行しているOracleインスタンスを停止
してください。
(Oracleホーム = 'C:\$Kokuho\PP\ORACLE~1\product\193~1.0\db_home1')

ローカル・システムにパッチを適用する準備ができましたか。[y|n]
y
```

9. コマンドプロンプト画面で、インストールが実行されるので、待ちます。(10 分程度待つと、手順 10. の画面が表示されます。)

10. 「OPatch succeeded.」と表示されることを確認し、コマンドプロンプトを閉じます。



```
管理者: コマンド プロンプト - C:\$Kokuho\PP\OracleDatabase\product\19.3.0\db_home...
コンポーネントoracle.jdk, 1.8.0.201.0にパッチを適用中...
Patch 37962957 successfully applied.
Log file location: C:\$Kokuho\PP\ORACLE~1\product\193~1.0\db_home1\cfgtools\logs\opatch\opatch2025-09-12_12-40-24午後_1.log

OPatch succeeded.

E:\tools\p37962957_190000_MSWIN-x86-64\37962957>
```

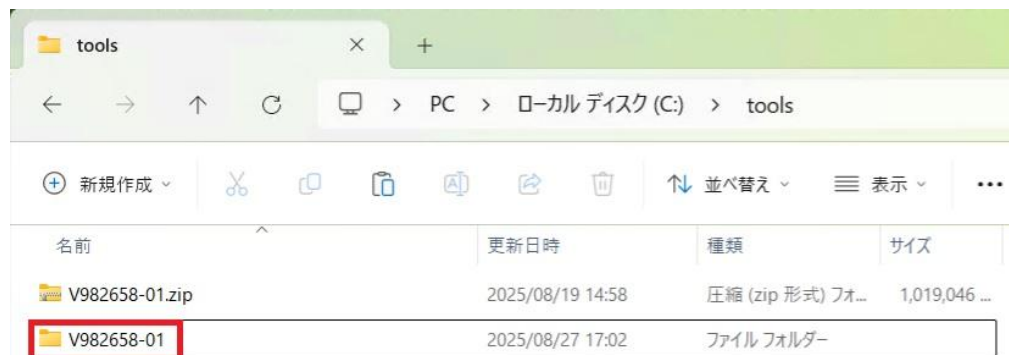
(9) Oracle Client のインストール

Oracle Client は、Oracle Client 19.3 のインストール、OPatch 適用および Oracle Client 19.28 のバージョンアップを実施します。それぞれ、該当するインストール参考例を参照ください。

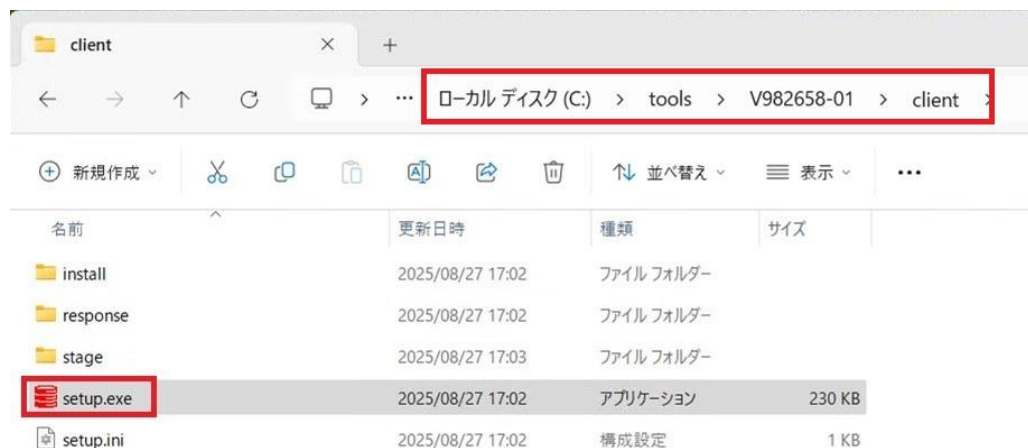
【インストール手順例】

(a) Oracle Client 19.3 のインストール

1. Oracle Client のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「V982658-01.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「V982658-01」フォルダが作成されることを確認します。



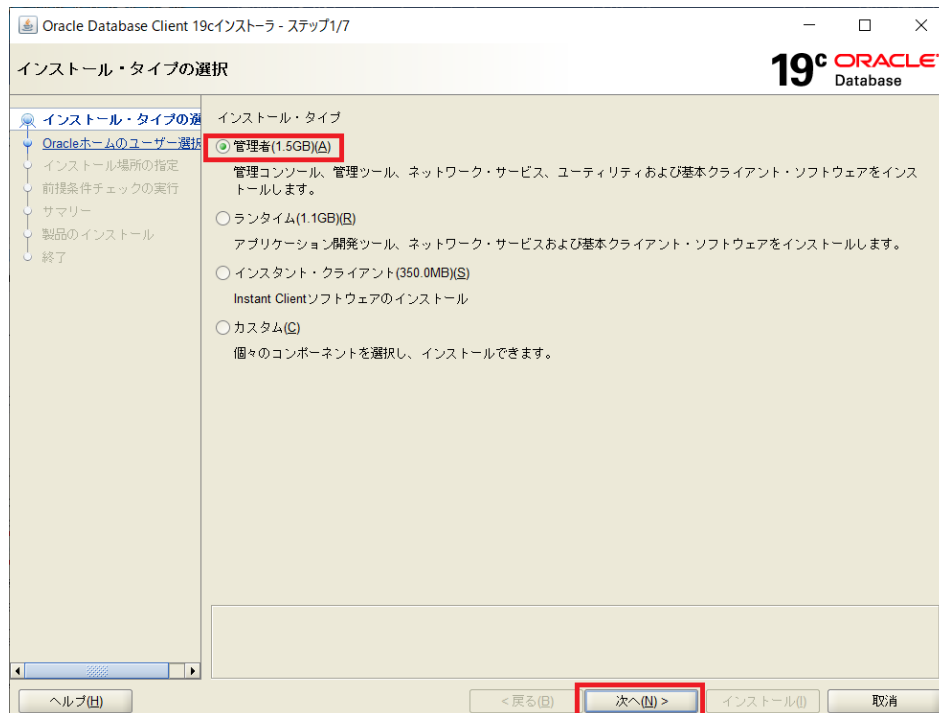
3. 「(資材格納フォルダ) ¥V982658-01¥client¥setup.exe」をダブルクリックします。



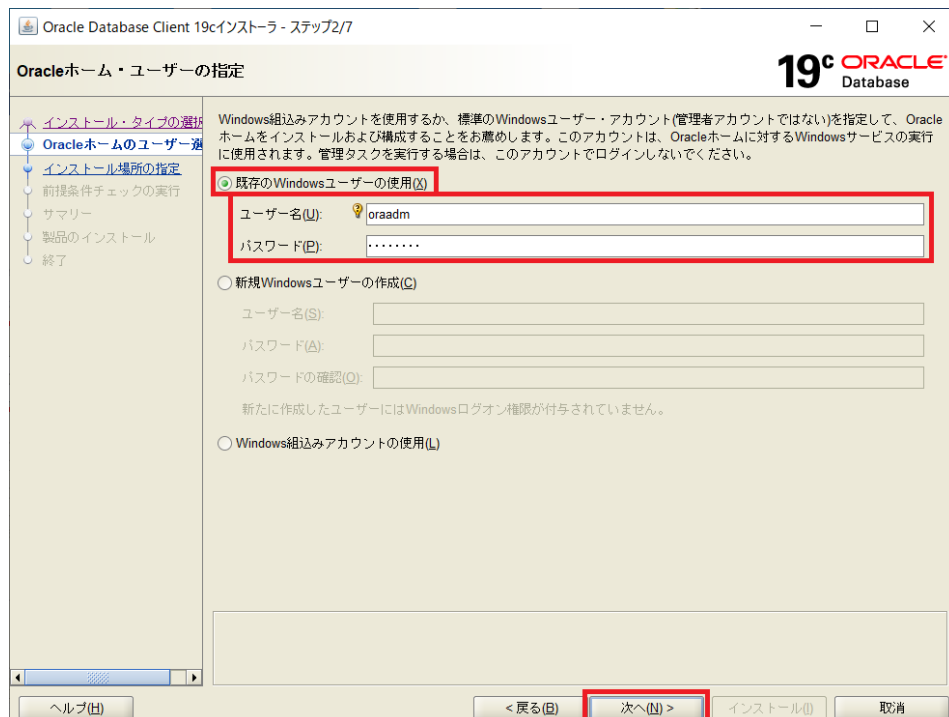
4. 「Oracle Universal Installer」画面で、インストール準備が実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 5. の画面が表示されます。)



5. 「インストール・タイプの選択」画面で、「管理者（1.5GB）」を選択し、「次へ」をクリックします。



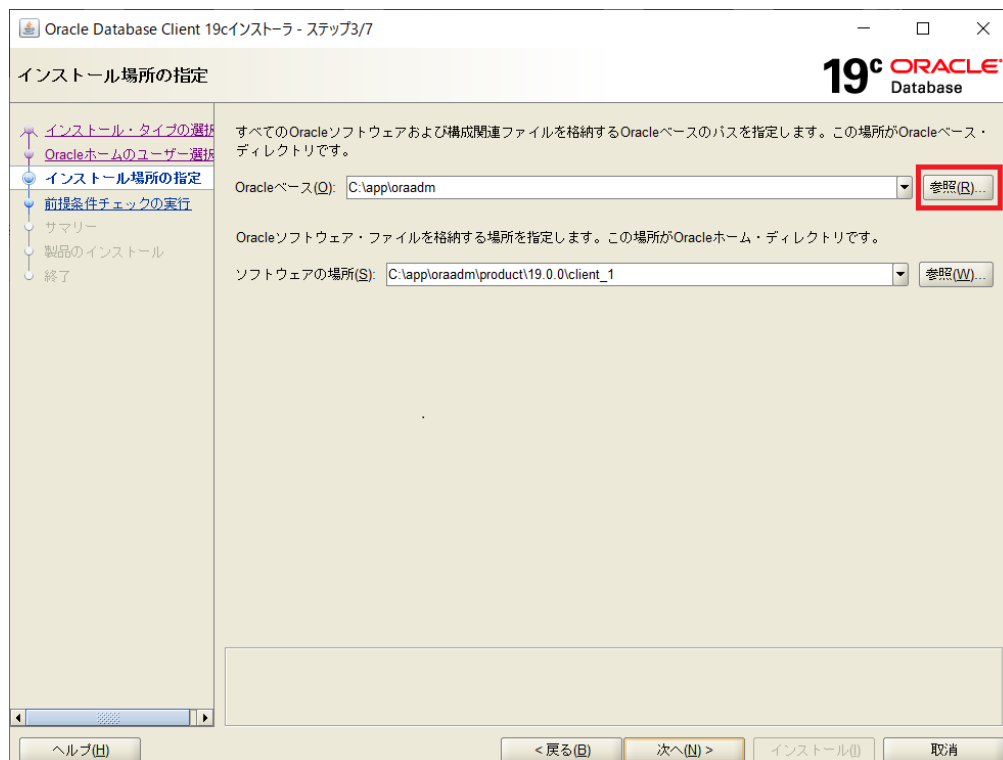
6. 「Oracle ホーム・ユーザーの指定」画面で、「既存の Windows ユーザーの使用」を選択し、ユーザー名、パスワードをそれぞれ入力し、「次へ」をクリックします。



⚠ 注意事項

入力するユーザー名、パスワードは、「(8) (b) Oracle Database Personal Edition のインストール」の手順 14. にて入力した、ユーザー名とパスワードを入力してください。

7. 「インストール場所の指定」画面で、「Oracle ベース」欄の「参照」をクリックします。



8. 「パスの選択」画面で、下記画面例を参考に、「ファイル名」欄に表 B-14 のファイル名を入力し、「選択」をクリックします。

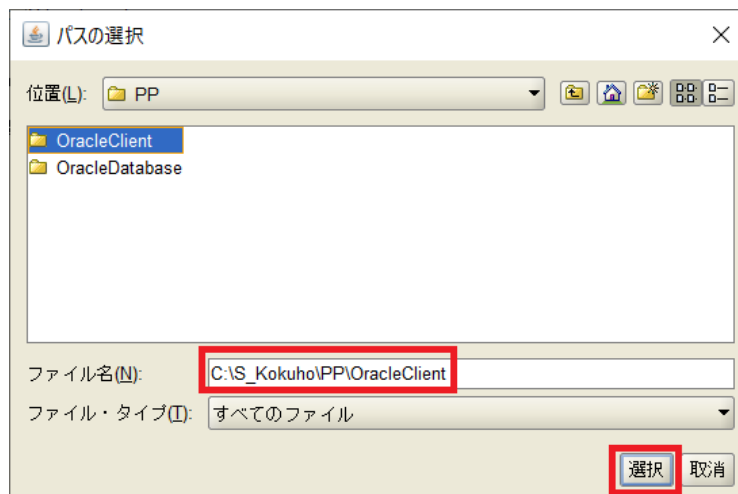
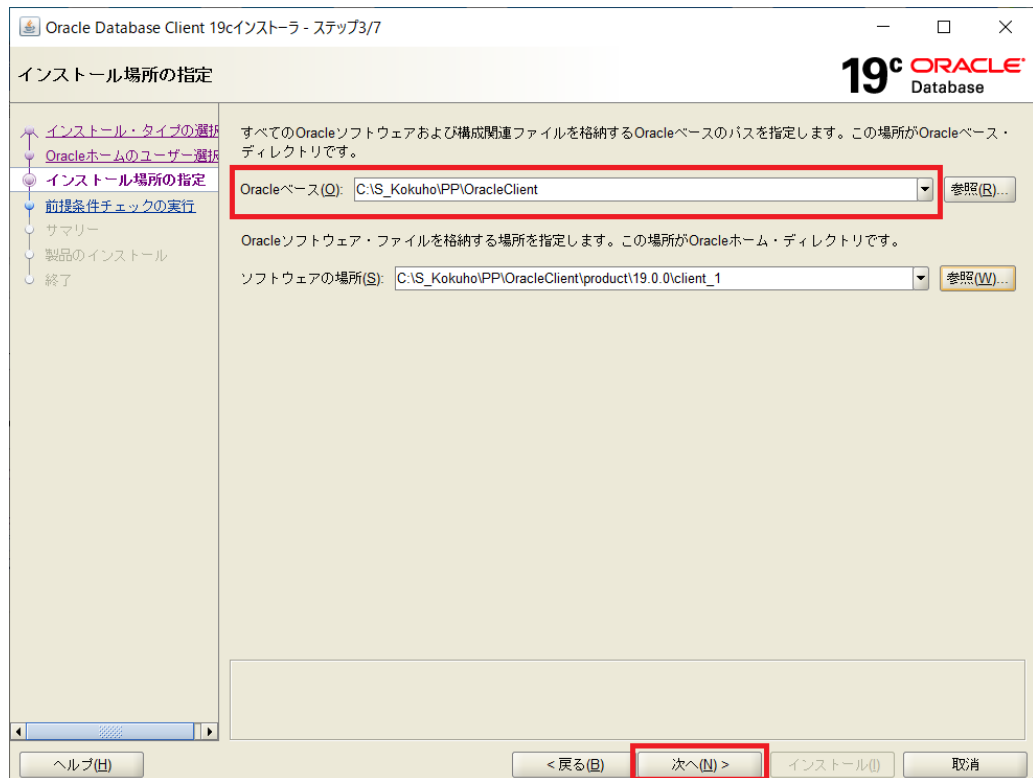


表 B-14 Oracle Client インストール先フォルダ名

No.	対象機器	ファイル名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\¥S_Kokuho¥PP¥OracleClient

9. 「Oracle ベース」が、手順 8. で指定したフォルダパスとなっていることを確認し、「次へ」をクリックします。



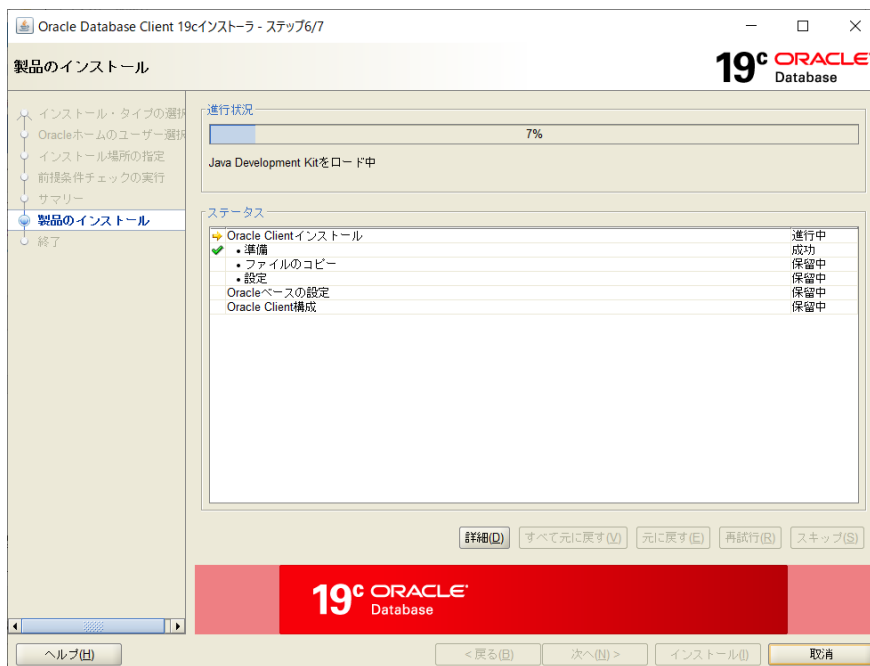
10. 「前提条件チェックの実行」画面で、前提条件のチェックが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 11. の画面が表示されます。)



11. 「サマリー」画面で、「インストール」をクリックします。



12. 「製品のインストール」画面で、インストールが実行されるので、しばらく待ちます。
(しばらく待つと、手順 13. の画面が表示されます。)

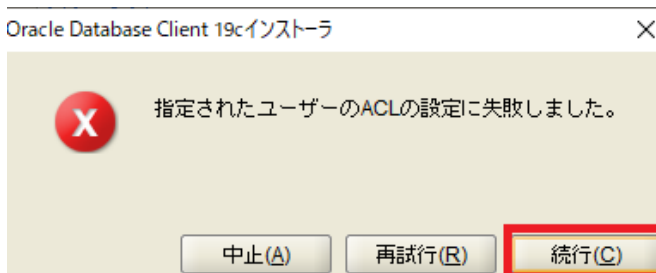


⚠ 注意事項

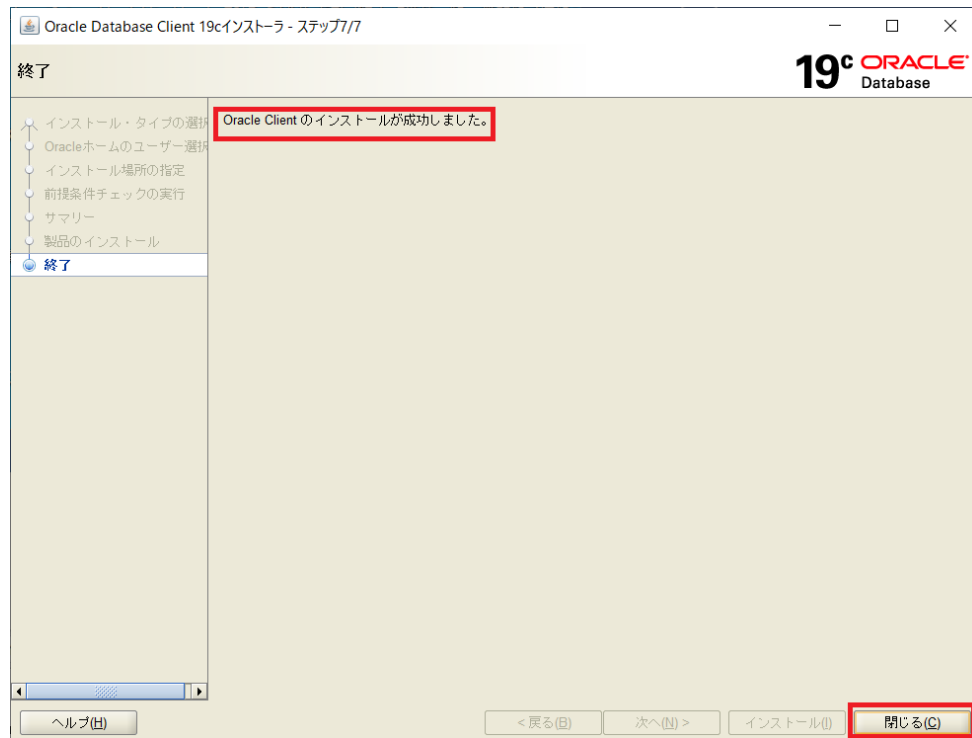
- ・「Windows セキュリティ」画面が表示された場合は、「許可」をクリックします。



- ・「指定されたユーザーの ACL の設定に失敗しました。」が表示された場合は、「続行」をクリックします。

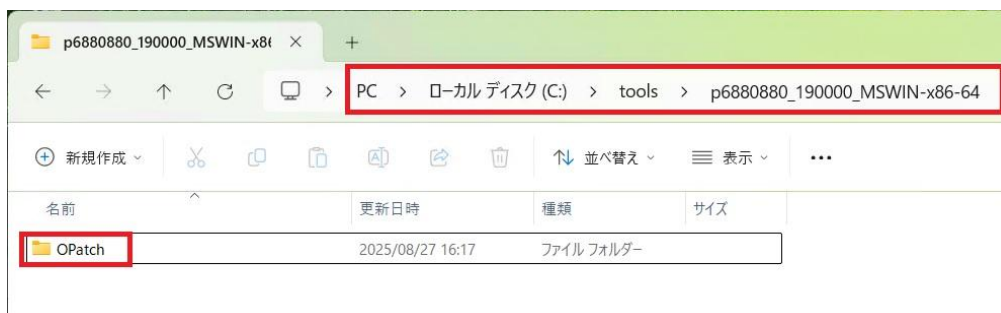


13. 「終了」画面で、「Oracle Client のインストールが成功しました。」と表示されていることを確認し、「閉じる」をクリックします。

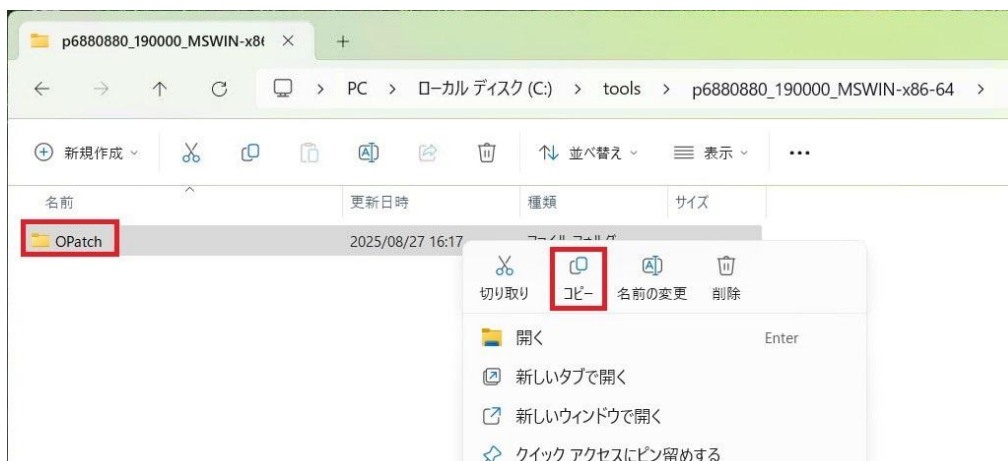


(b) OPatch 適用

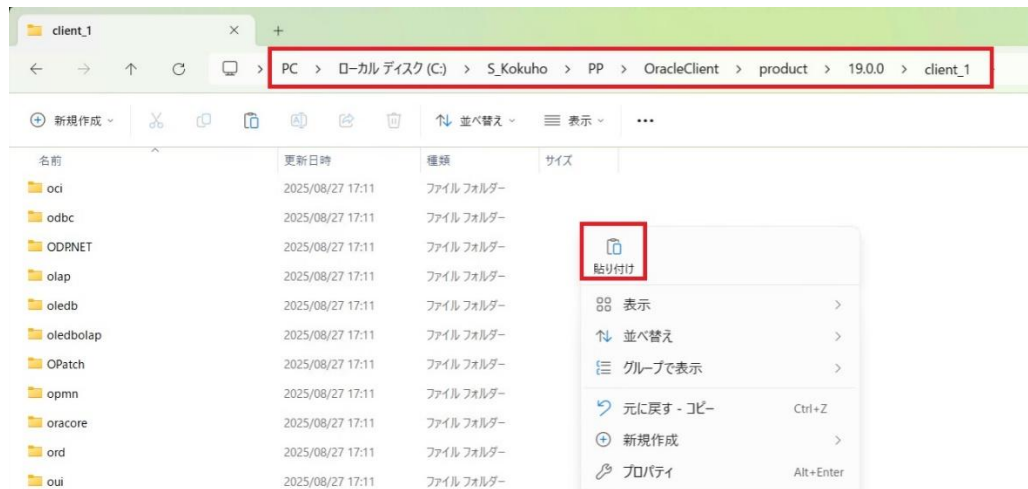
1. OPatch のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「p6880880_190000_MSWIN-x86-64.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「p6880880_190000_MSWIN-x86-64」フォルダが作成され、その配下に「OPatch」フォルダが存在することを確認します。



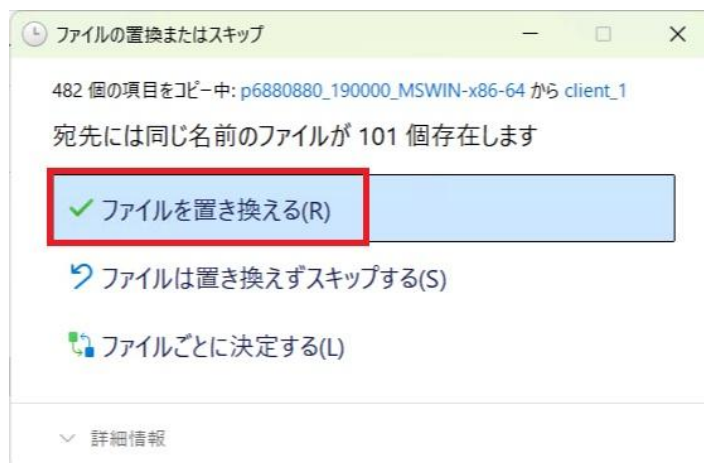
3. 「OPatch」フォルダをコピーします。



4. 手順 3. でコピーした「OPatch」フォルダを、
「C:\\$S_Kokuho¥PP¥OracleClient¥product¥19.0.0¥client_1」フォルダに貼り付けます。



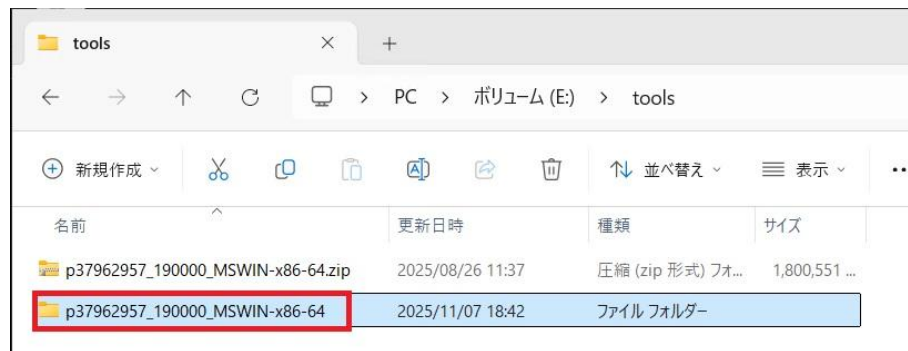
5. 「ファイルの置換またはスキップ」画面で、「ファイルを置き換える」をクリックします。



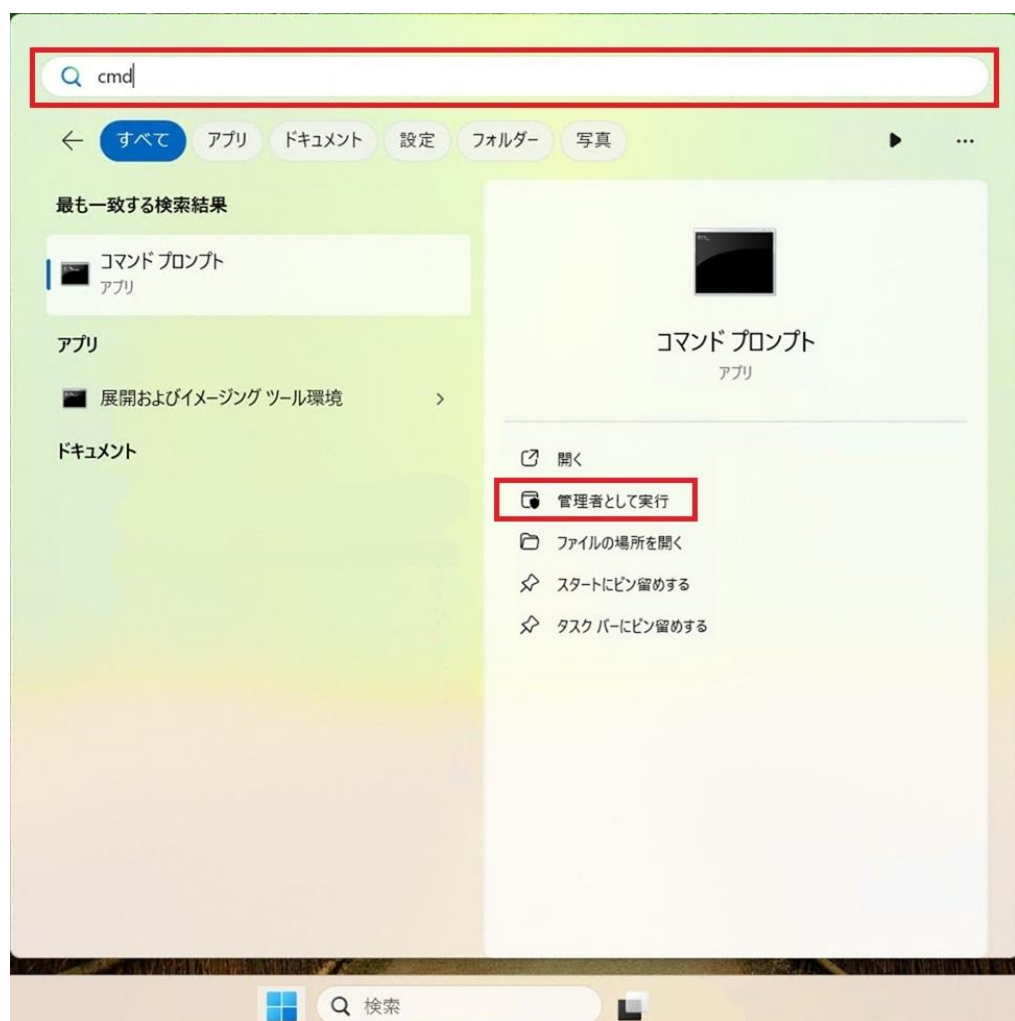
6. エクスプローラーを閉じます。

(c) Oracle Client 19.28 のバージョンアップ

1. Oracle Client 19.28 のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「p37962957_190000_MSWIN-x86-64.zip」を「資材格納フォルダ」に解凍し、「p37962957_190000_MSWIN-x86-64」フォルダが作成されることを確認します。

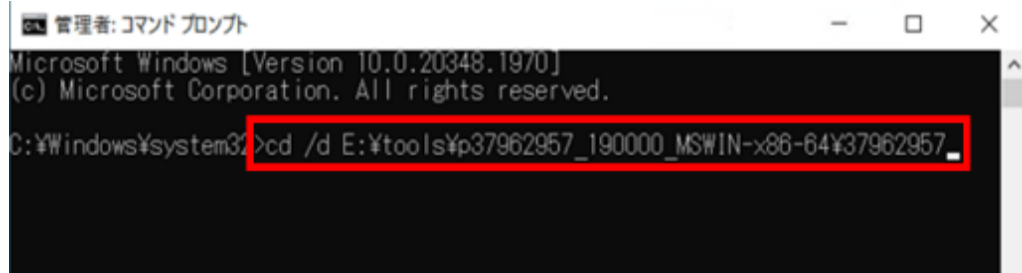


3. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



4. コマンドプロンプト画面で、下記画面例を参考に次のコマンドを入力し実行します。
(※ △は半角スペースを表します。)

cd△/d△"手順 1. で作成した資材格納フォルダパス
¥p37962957_190000_MSWIN-x86-64¥37962957"



```

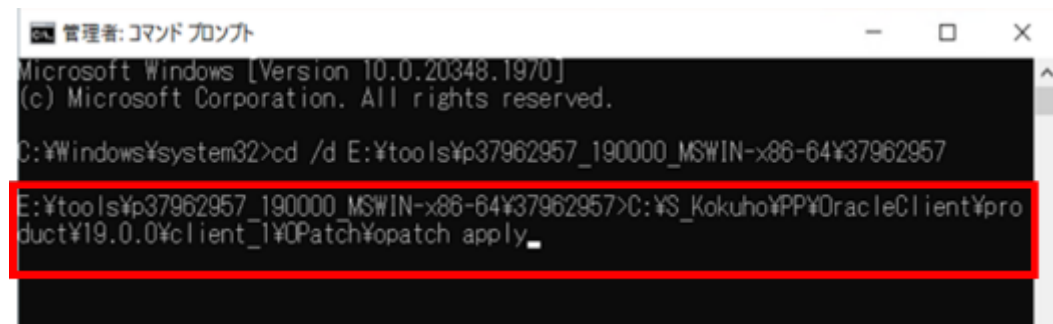
管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.20348.1970]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\system32>cd /d E:\tools¥p37962957_190000_MSWIN-x86-64¥37962957_

```

5. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

C:¥S_Kokuho¥PP¥OracleClient¥product¥19.0.0¥client_1¥OPatch¥opatch apply



```

管理者: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.20348.1970]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

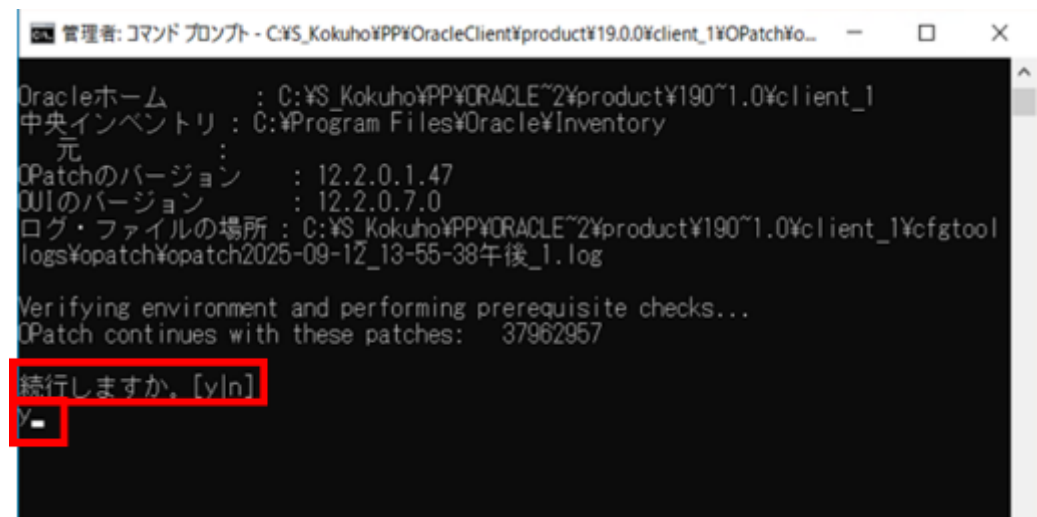
C:\Windows\system32>cd /d E:\tools¥p37962957_190000_MSWIN-x86-64¥37962957

E:\tools¥p37962957_190000_MSWIN-x86-64¥37962957>C:¥S_Kokuho¥PP¥OracleClient¥pro
duct¥19.0.0¥client_1¥OPatch¥opatch apply_

```

6. コマンドプロンプト画面で、インストール準備が実行されるので、待ちます。(10 分程
度待つと、手順 7. の画面が表示されます。)

7. 「続行しますか」項目において、「y」(半角)を入力して Enter キーを押下します。



```

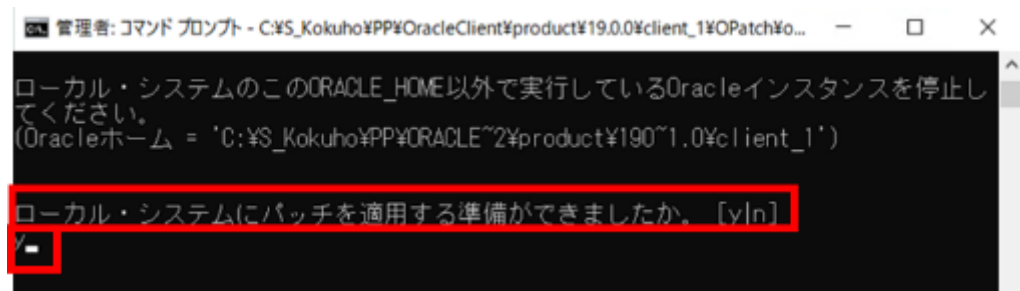
管理者: コマンド プロンプト - C:¥S_Kokuho¥PP¥OracleClient¥product¥19.0.0¥client_1¥OPatch¥o...
Oracleホーム      : C:¥S_Kokuho¥PP¥ORACLE~2¥product¥190~1.0¥client_1
中央インベントリ  : C:¥Program Files¥Oracle¥Inventory
元                :
OPatchのバージョン : 12.2.0.1.47
OUIのバージョン   : 12.2.0.7.0
ログ・ファイルの場所 : C:¥S_Kokuho¥PP¥ORACLE~2¥product¥190~1.0¥client_1¥cfgtool
logs¥opatch¥opatch2025-09-12_13-55-38午後_1.log

Verifying environment and performing prerequisite checks...
OPatch continues with these patches: 37962957

続行しますか。[y/n]
y_

```

8. 「ローカル・システムにパッチを適用する準備ができましたか。」項目において、「y」（半角）を入力して Enter キーを押下します。



```
管理者: コマンド プロンプト - C:\$S_Kokuho\PP\OracleClient\product\19.0.0\client_1\OPatch\o...
ローカル・システムのこのORACLE_HOME以外で実行しているOracleインスタンスを停止し
てください。
(Oracleホーム = 'C:\$S_Kokuho\PP\ORACLE~2\product\190~1.0\client_1')
ローカル・システムにパッチを適用する準備ができましたか。 [y/n]
y
```

9. コマンドプロンプト画面で、インストールが実行されるので、待ちます。(10 分程度待つと、手順 10. の画面が表示されます。)

10. 「OPatch succeeded.」と表示されることを確認し、コマンドプロンプトを閉じます。



```
管理者: コマンド プロンプト - C:\$S_Kokuho\PP\OracleClient\product\19.0.0\client_1\OPatch\o...
コンポーネントoracle.swd.oui.core.min, 12.2.0.7.0にパッチを適用中...
コンポーネントoracle.xdk.xquery, 19.0.0.0.0にパッチを適用中...
コンポーネントoracle.jdk, 1.8.0.201.0にパッチを適用中...
Patch 37962957 successfully applied.
Log file location: C:\$S_Kokuho\PP\ORACLE~2\product\190~1.0\client_1\cfgtoollogs
\opatch\opatch2025-09-12_13-55-38午後_1.log
OPatch succeeded.
E:\tools\p37962957_190000_MSWIN-x86-64\p37962957>
```

(10) バックアップソフトウェアのインストール

バックアップソフトウェアは、納付金スタンダード端末に対して製品未指定となりますので、採用する製品マニュアルを参照してください。

(11) ウィルス対策ソフトウェアのインストール

ウィルス対策ソフトウェアは、納付金スタンドアロン端末に対して製品未指定となりますので、採用する製品マニュアルを参照してください。

(12) Microsoft Office 2024 のインストール

⚠ 注意事項

- 本手順は、Microsoft Office LTSC Standard 2024 のインストール手順例となります。
Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024 をインストールする場合は、画面イメージに差異がある場合があります。
- Microsoft Office 2024 は、インストールフォルダを選択できないため、「C:\Program Files\Microsoft Office 15」にインストールされます。
- 本手順では、ライセンス認証のために電話（外線）を使用します。そのため、本手順を実施する際には、画面を操作しながら電話（外線）をかけられる環境であることが前提となります。
- 「(a) パッケージ取得」は、インターネットに接続できる端末で実施してください。
- Microsoft Office 2024 のインストールに際し、表 B-15 に示すミドルウェアが必要となります。事前に、「付録.A.2(4) Office Deployment Tool のダウンロード」を参照し、ファイルをダウンロードしてください。

表 B-15 ダウンロードプログラムファイル名

No.	対象機器	パッケージ名	プログラムファイル名
1	納付金スタンドアロン端末	Office Deployment Tool	officedeploymenttool_xxxxx-xxxxx.exe※

※ ファイルの取得時期によりプログラムファイル名が異なります。手順実施時点における最新のプログラムを使用してください。

【インストール手順例】

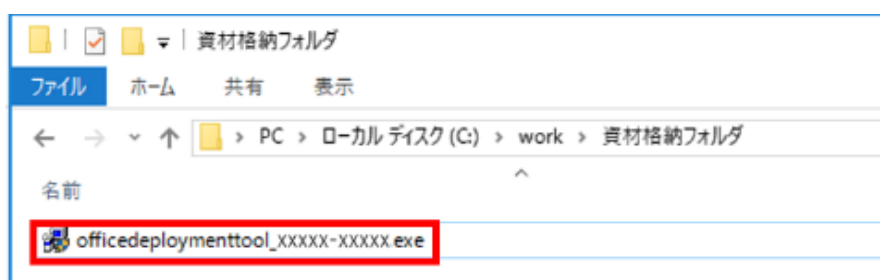
(a) パッケージ取得

⚠ 注意事項

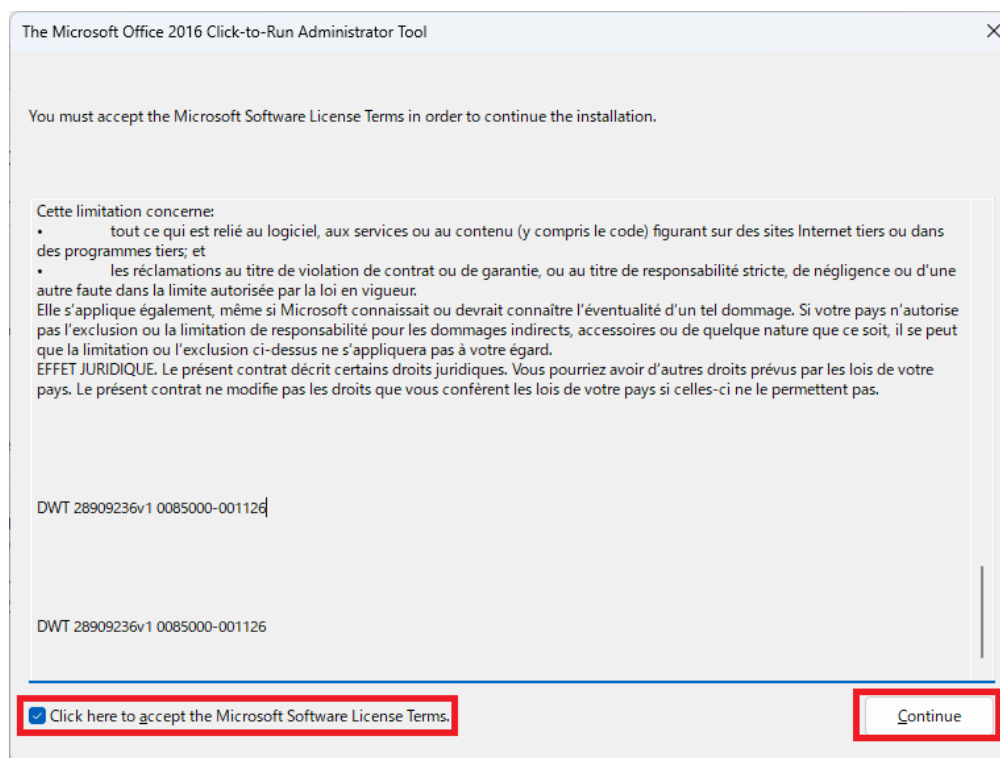
本手順は、インターネットに接続できる端末ではない場合、正しく実施できません。そのため、インターネットに接続できる端末で実施してください。

1. インターネットに接続できる端末にて、事前にダウンロードした

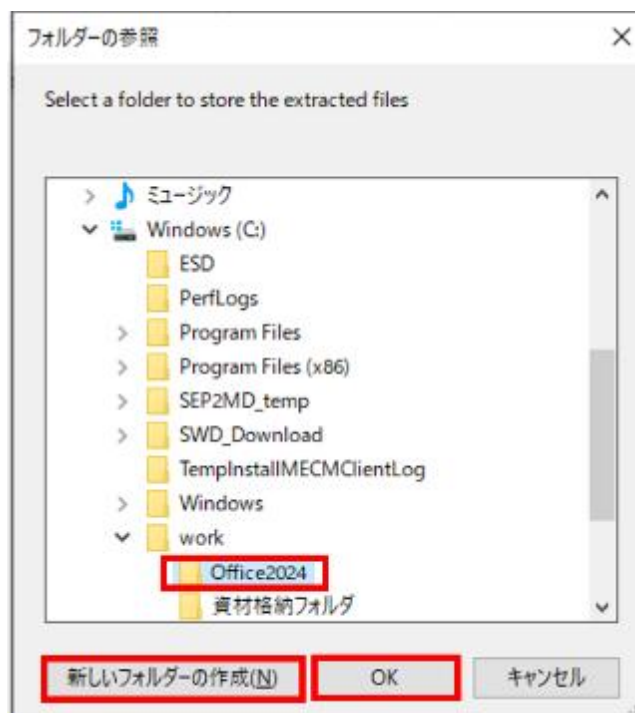
「officedeploymenttool_xxxxx-xxxxx.exe」ファイルを「資材格納フォルダ」に格納し（※「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。）、ダブルクリックします。



2. 「The Microsoft Office 2016 Click-to-Run Administrator Tool」画面で、「Click here to accept the Microsoft Software License Terms.」をチェックし、「Continue」をクリックします。



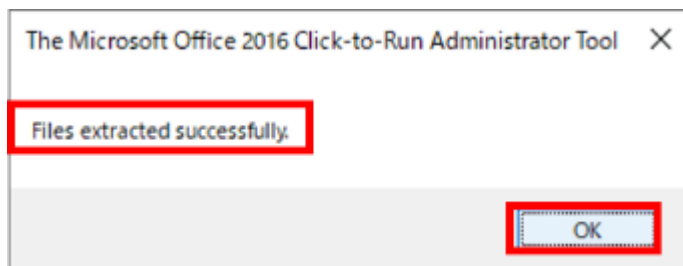
3. 「フォルダーの参照」画面で、「新しいフォルダーの作成」をクリックし、下記画面例を参考にインストールファイルの展開先となる作業用フォルダを作成します。作成したフォルダをクリックし、「OK」をクリックします。



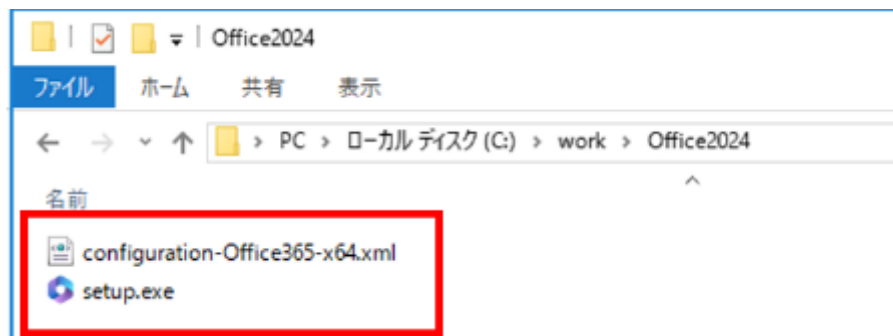
⚠ 注意事項

手順 15. で約 3GB の資材がインターネットからダウンロードされるため、ドライブの空き容量が 4GB 以上のディスクを選択し、作業用フォルダを作成してください。

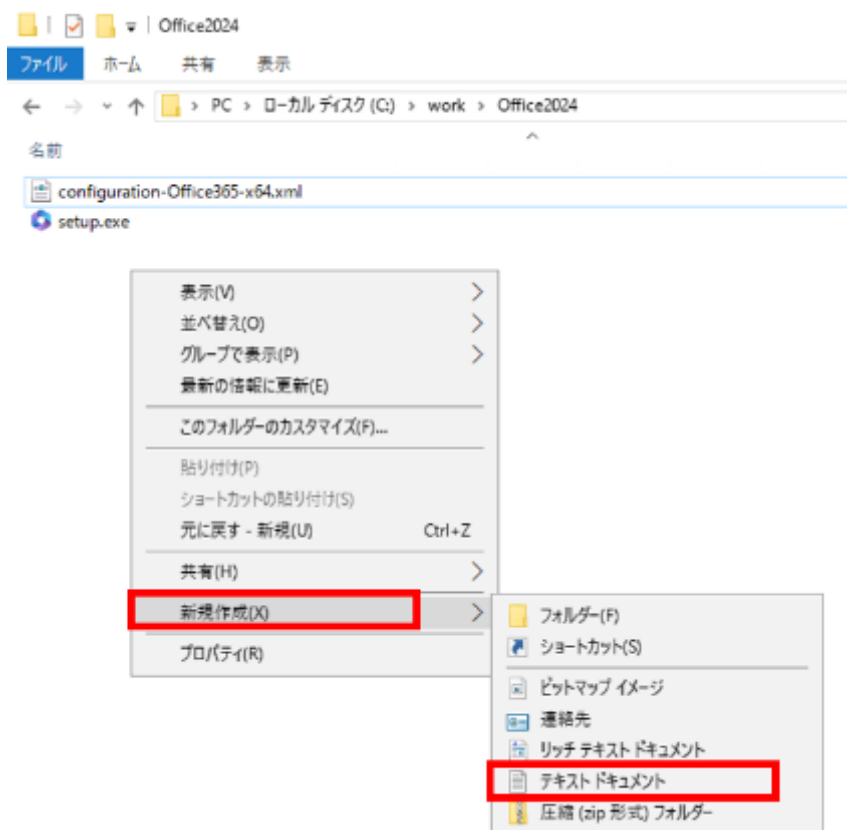
4. 「The Microsoft Office 2016 Click-to-Run Administrator Tool」画面で、「Files extracted successfully.」と表示されることを確認し、「OK」をクリックします。



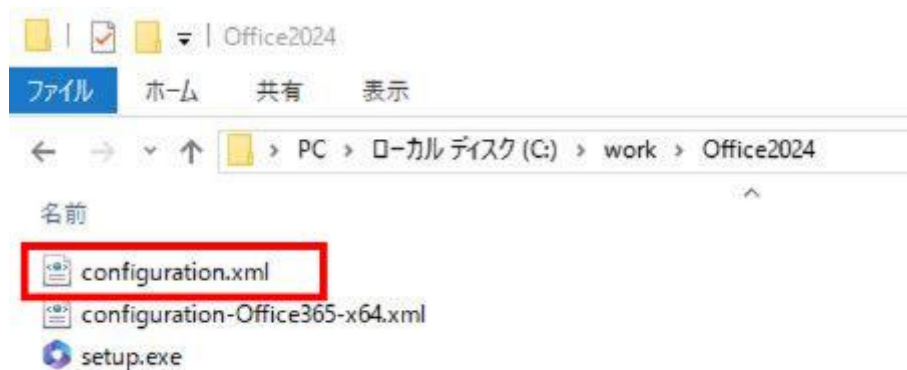
5. 手順 3. で作成した作業用フォルダに、「setup.exe」ファイルと、サンプルファイル（「configuration-xxxxx.xml」）が展開されたことを確認します。



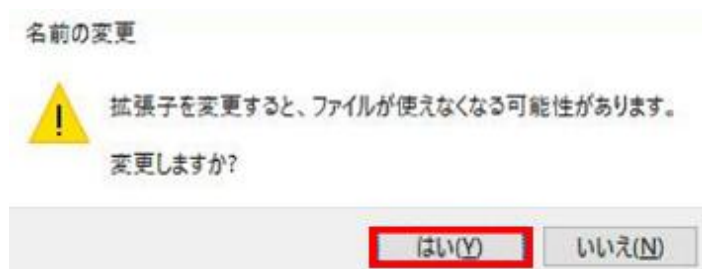
6. 手順 3. で作成した作業用フォルダ配下で右クリックし、「新規作成」-「テキスト ドキュメント」をクリックします。



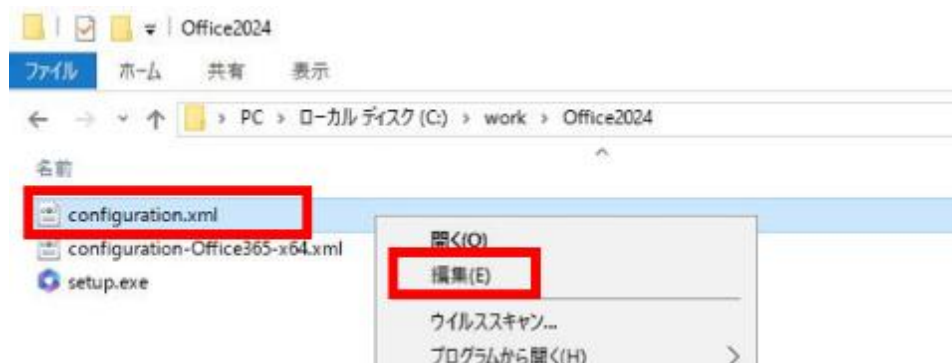
7. 手順 6. で作成したテキストファイルのファイル名を「configuration.xml」へ変更します。



8. 「名前の変更」画面で「はい」をクリックします。



9. 「configuration.xml」ファイルを右クリックし、「編集」をクリックします。



10. 「configuration.xml-メモ帳」画面で、次に示す内容をコピーして貼り付けてください。
 なお、「XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX」には、プロダクトキーを入力してください。

```
<Configuration>

  <Add OfficeClientEdition="32" Channel="PerpetualVL2024">
    <Product ID="Standard2024Volume" PIDKEY="XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX">
      <Language ID="ja-jp" />
    </Product>
  </Add>

</Configuration>
```

 注意事項

- ・上記手順はMicrosoft Office LTSC Standard 2024 をインストールする場合となります。Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024 をインストールする場合は、次に示す内容に書き換えてください。(差異は太文字箇所となります。)

```
<Configuration>

  <Add OfficeClientEdition="32" Channel="PerpetualVL2024">
    <Product ID="ProPlus2024Volume" PIDKEY="XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX">
      <Language ID="ja-jp" />
    </Product>
  </Add>

</Configuration>
```

11. 「ファイル」-「上書き保存」をクリックして、メモ帳を閉じます。

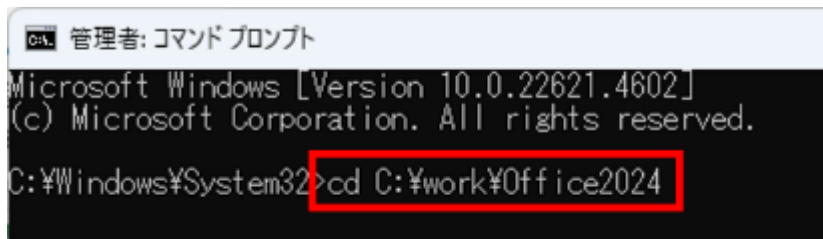


12. [スタート]アイコンから、「Windows システム ツール」-「コマンドプロンプト」を右クリックし、「その他」-「管理者として実行」をクリックします。



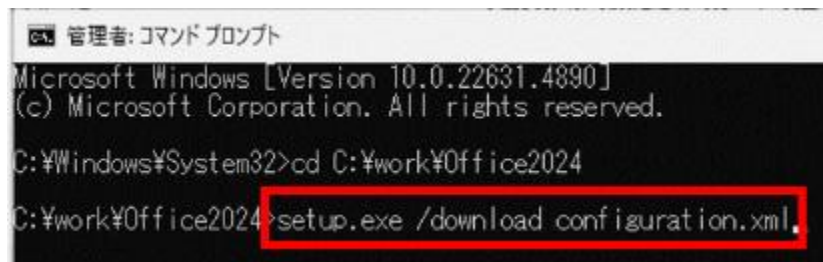
13. コマンドプロンプト画面で、下記画面例を参考に次のコマンドを入力し実行します。
(※ △は半角スペースを表します。)

cd△"手順 3. で作成した作業用フォルダパス"

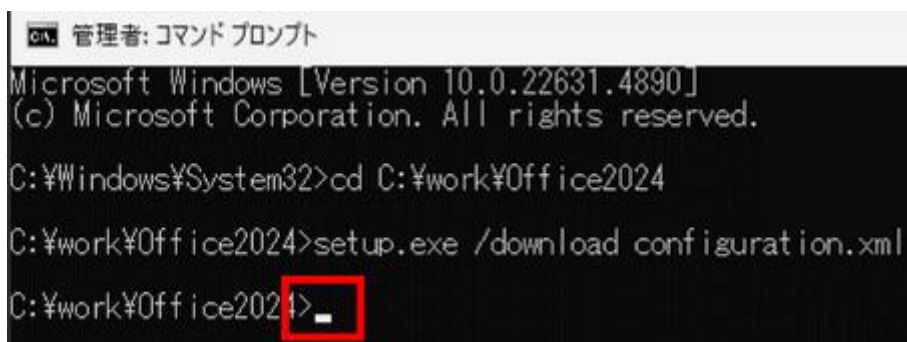


14. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

setup.exe /download configuration.xml



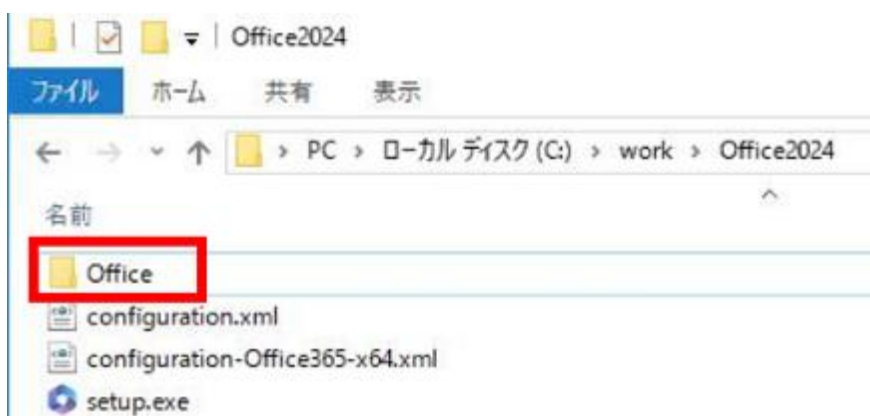
15. インターネットからファイルがダウンロードされるので、しばらく待ちます。プロンプトが表示されてることを確認し、コマンドプロンプトを閉じます。



```
管理: コマンド プロンプト
Microsoft Windows [Version 10.0.22631.4890]
(c) Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Windows\System32>cd C:\work\Office2024
C:\work\Office2024>setup.exe /download configuration.xml
C:\work\Office2024>_
```

16. 手順 3. で作成した作業用フォルダに、「Office」フォルダがダウンロードされたことを確認します。



(b) Microsoft Office 2024 のインストール

1. 下記画面例を参考に表 B-16 のフォルダを作成し、「(a) パッケージ取得」の手順 3. で作成した作業用フォルダ配下のすべてのフォルダおよびファイルを格納します。

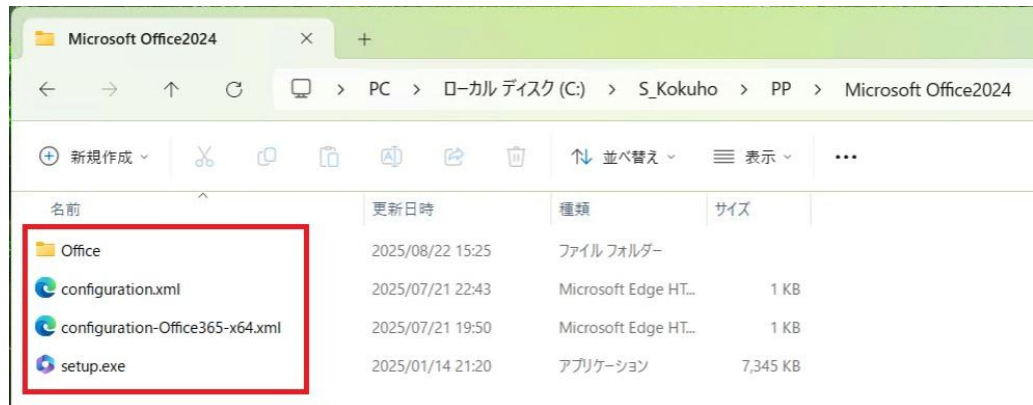
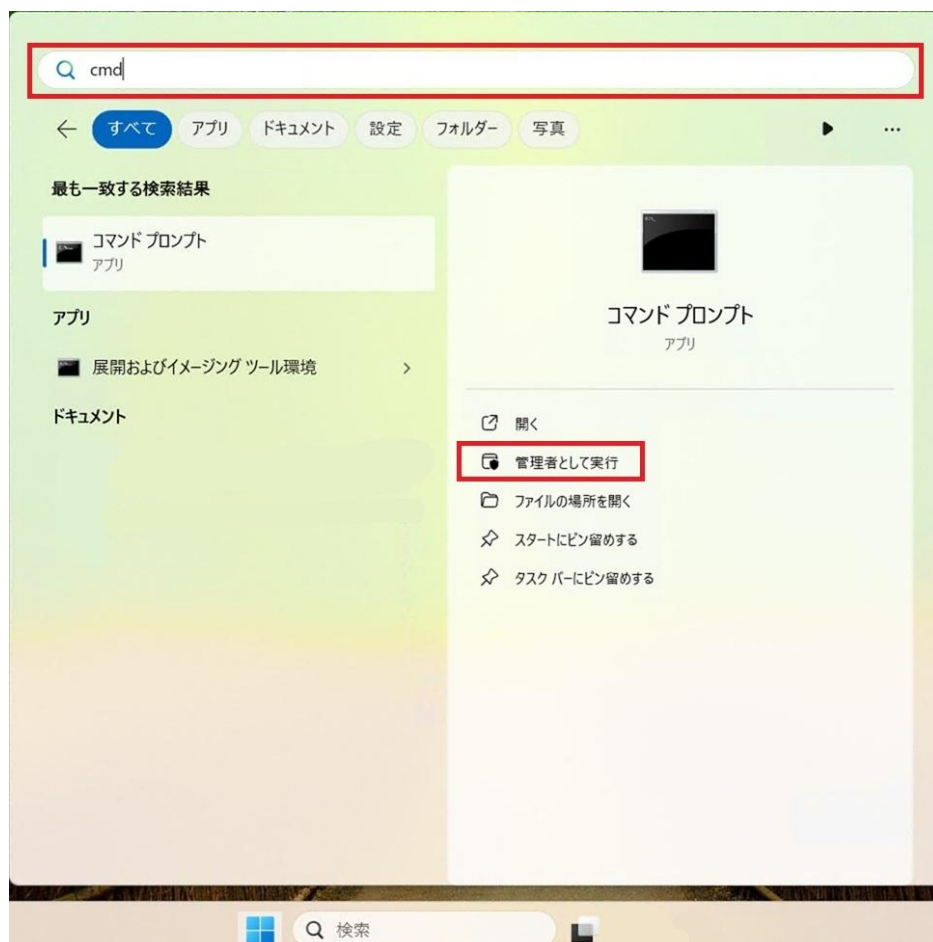


表 B-16 Microsoft Office 2024 のインストール作業用フォルダ名

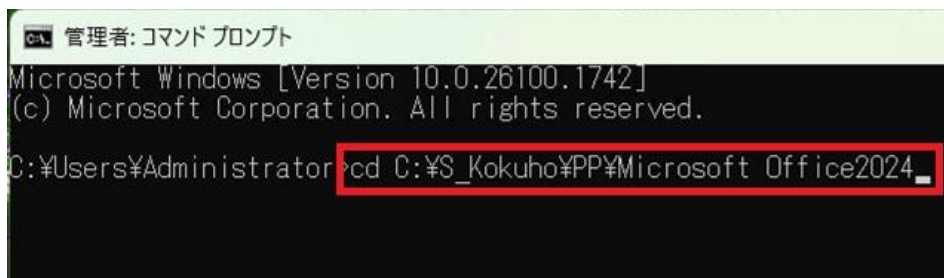
No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\¥S_Kokuho¥PP¥Microsoft Office2024

2. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「cmd」と入力し、コマンドプロンプトの「管理者として実行」をクリックします。



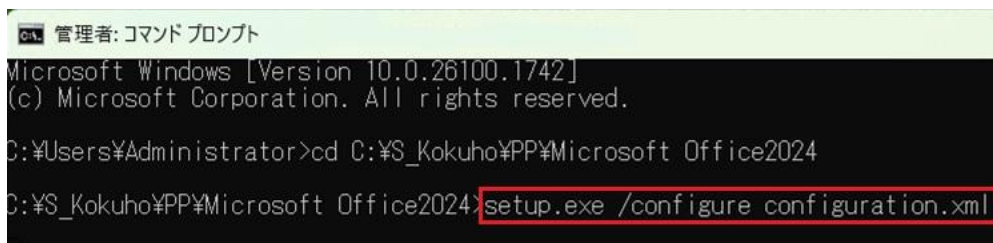
3. コマンドプロンプト画面で、次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

```
cd C:¥S_Kokuho¥PP¥Microsoft Office2024
```



4. 次のコマンドをコピーし、コマンドプロンプトに貼り付けて実行します。

```
setup.exe /configure configuration.xml
```



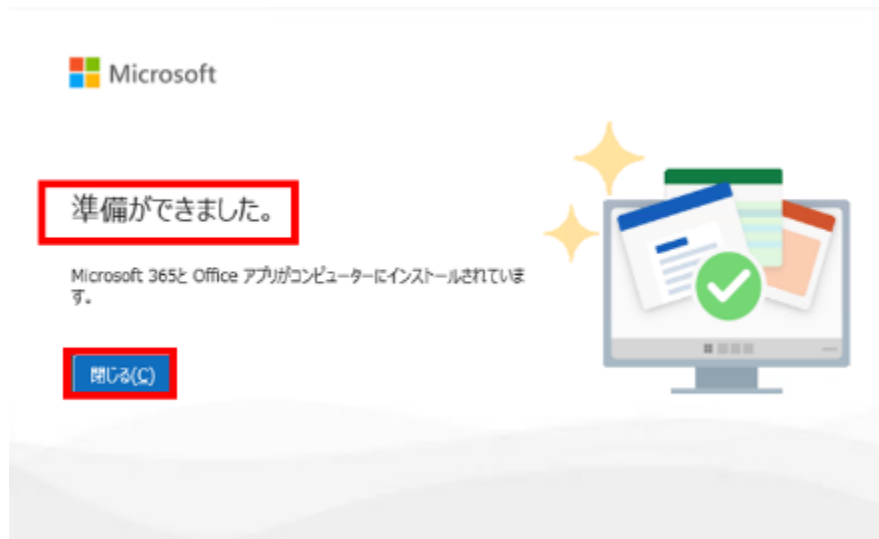
5. インストールが実行されるので、しばらく待ちます。(しばらく待つと、手順 6. の画面が表示されます。)



 注意事項

「アプリのダウンロード中はオンラインを維持してください」と表示されますが、インターネット接続は不要です。

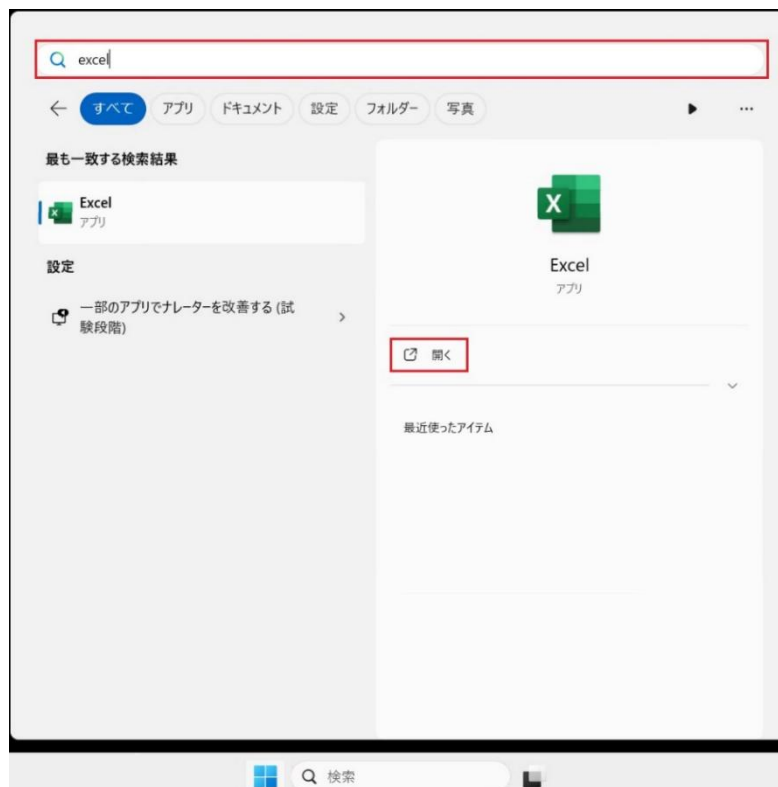
- 表示された画面で、「準備ができました。」と表示されていることを確認して、「閉じる」をクリックします。



 注意事項

「Microsoft 365 と Office アプリがコンピューターにインストールされています。」と表示されますが、問題ありません。

- コマンドプロンプトを閉じます。
- [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「excel」と入力し、Excel の「開く」をクリックします。



9. 表示された画面で、「Microsoft Office LTSC Standard 2024」がインストールされたことを確認し、「同意する」をクリックします。



⚠ 注意事項

本手順および画面イメージは Microsoft Office LTSC Standard 2024 をインストールする場合となります。Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024 をインストールする場合は、「Microsoft Office LTSC Professional Plus 2024」がインストールされたことを確認してください。

10. 「Microsoft Office ライセンス認証ウィザード」画面で、「ソフトウェアのライセンス認証を電話で行う」を選択し、「次へ」をクリックします。



11. 「電話によるライセンス認証を行う場合は、以下の手順を実行してください。」画面が表示されることを確認します。

12. インターネットに接続可能な端末にて、Web ブラウザーを起動し、「https://aka.ms/aoh」に接続します。

13. 表示された画面内容に従い、ライセンス認証を実施します。

注意事項

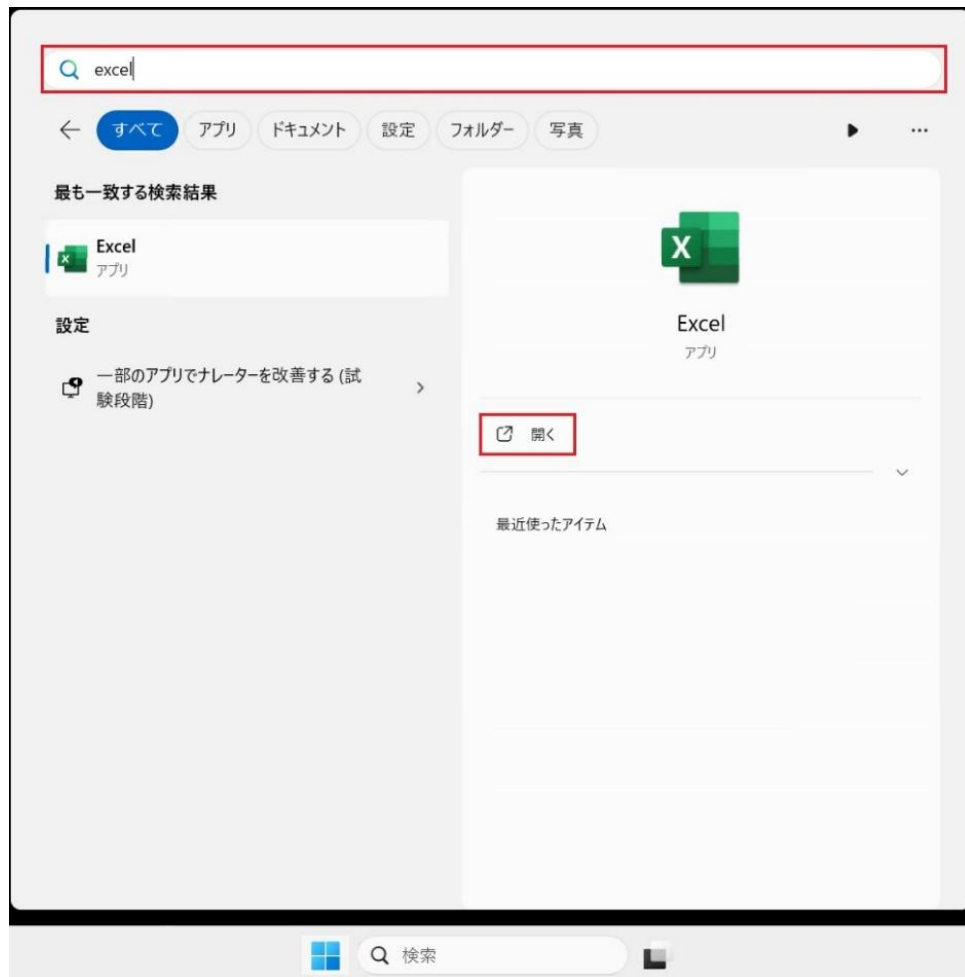
ライセンス認証について不明点がある場合は、Microsoft に問い合わせしてください。

14. Web ブラウザーに表示されている確認 ID を、「3: 確認 ID を入力します」の A~H の欄に入力し、「次へ」をクリックします。

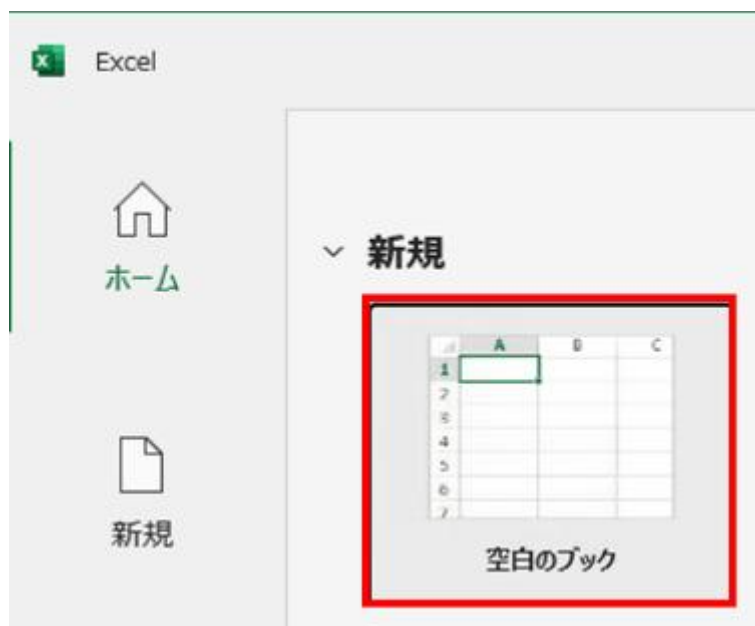
15. 「ライセンス認証が完了しました。」と表示されることを確認し、「閉じる」をクリックします。

16. 「Excel」を閉じます。

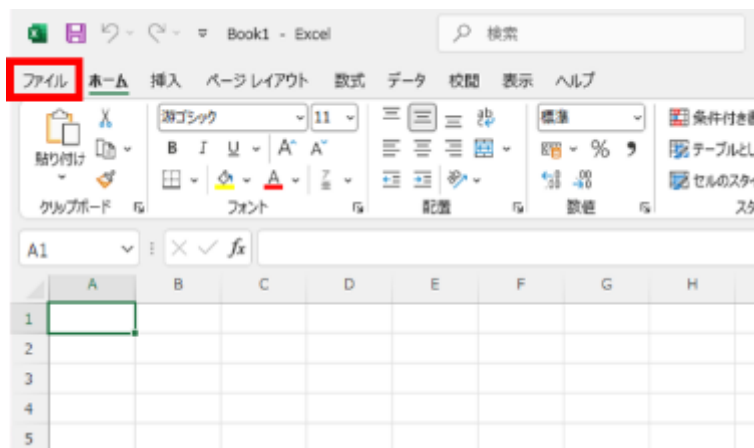
17. [スタート]アイコンをクリックし、検索ボックス欄に「excel」と入力し、Excelの「開く」をクリックします。



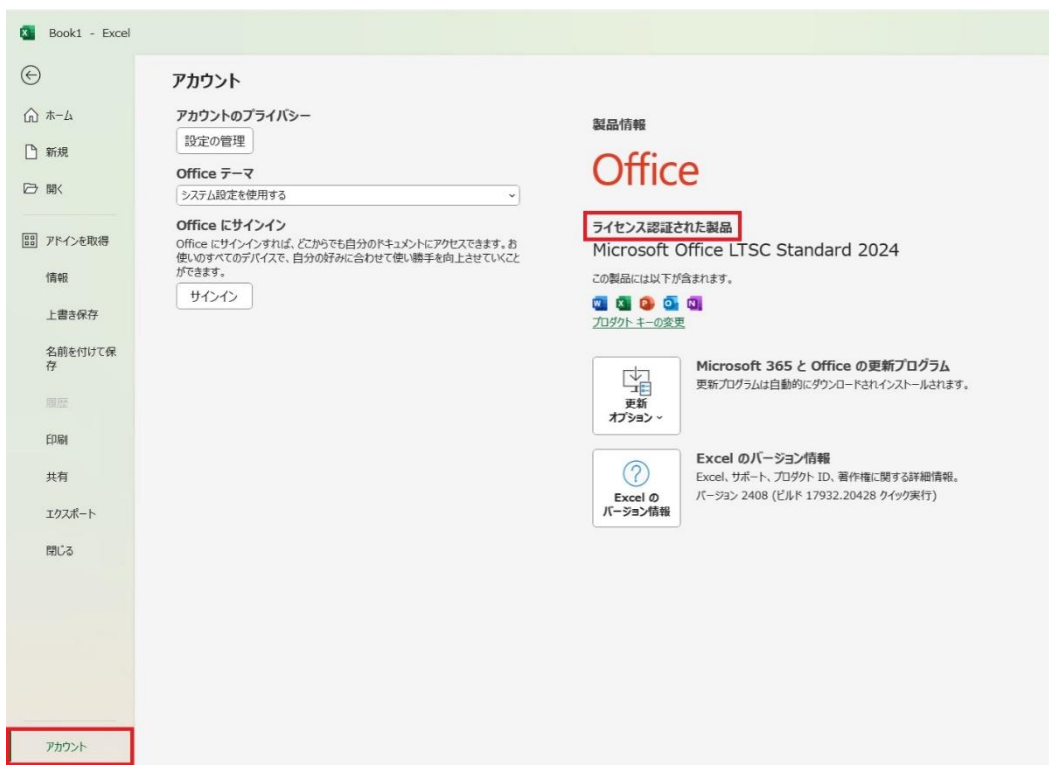
18. 表示された画面で、「空白のブック」をクリックします。



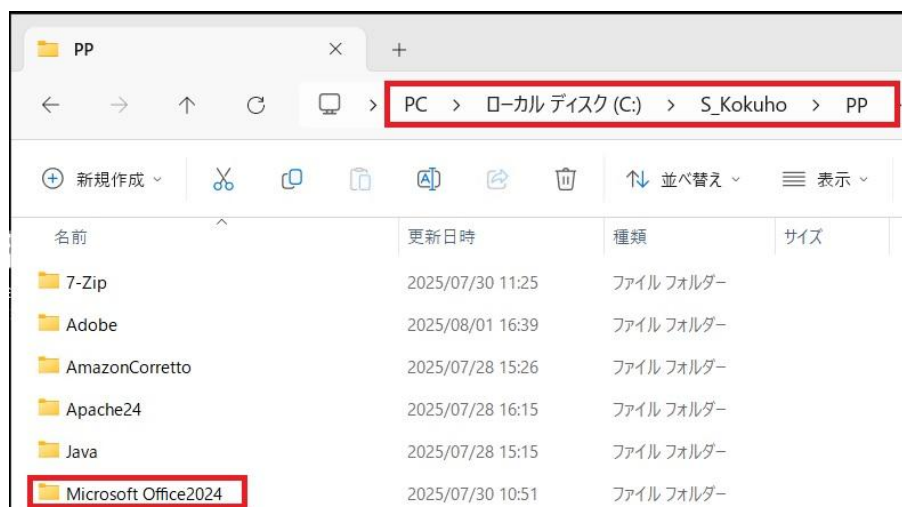
19. 表示された画面で、「ファイル」をクリックします。



20. 画面左側の「アカウント」をクリックし、「ライセンス認証された製品」と表示されていることを確認します。



21. エクスプローラーを起動し、「G:¥S_Kokuho¥PP」フォルダ配下の「Microsoft Office2024」フォルダを削除します。

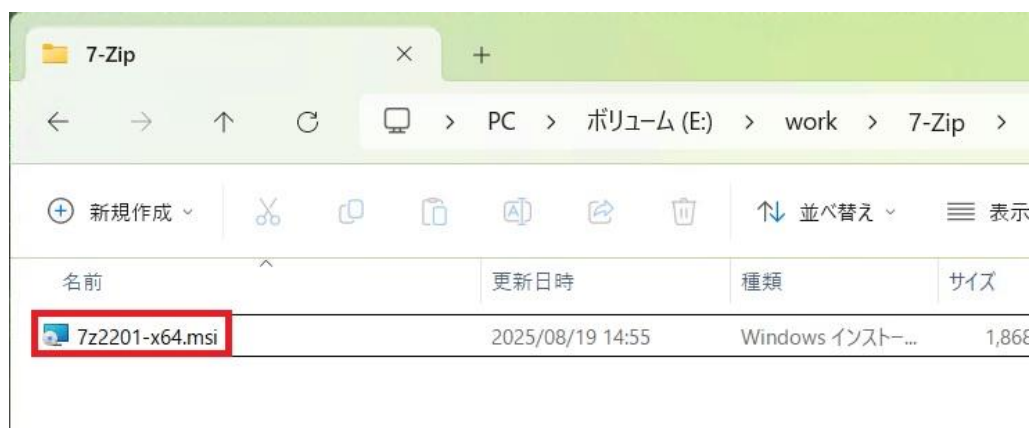


22. エクスプローラーを閉じます。

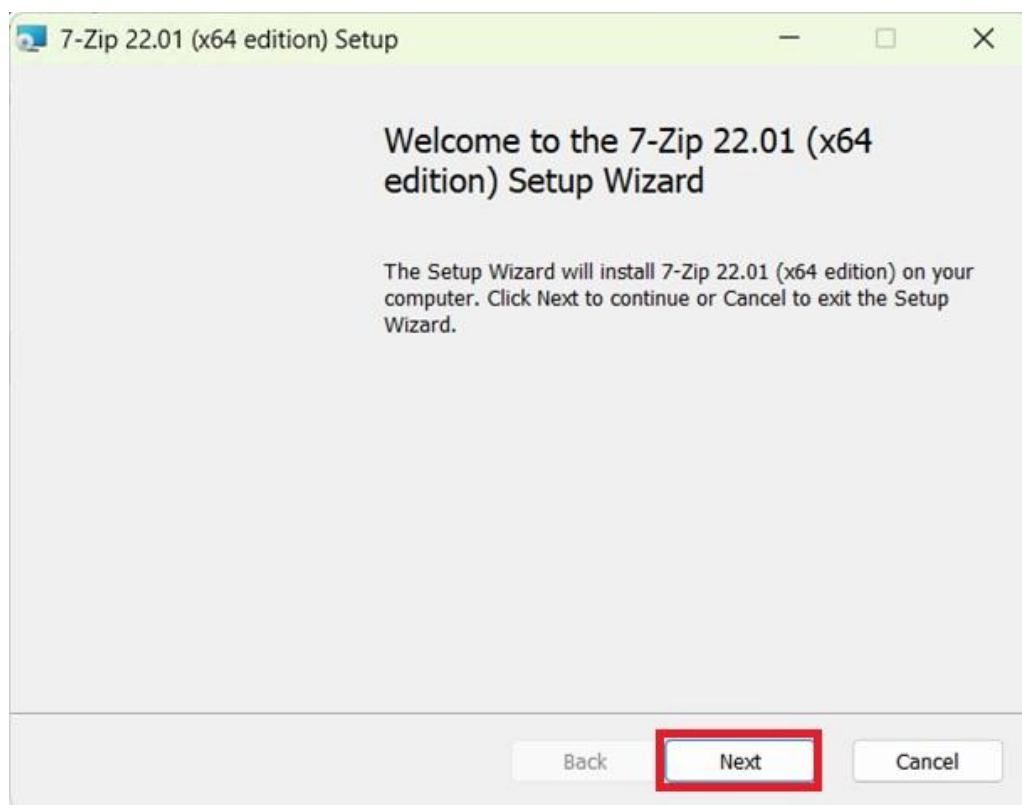
(13) 7-Zip のインストール

【インストール手順例】

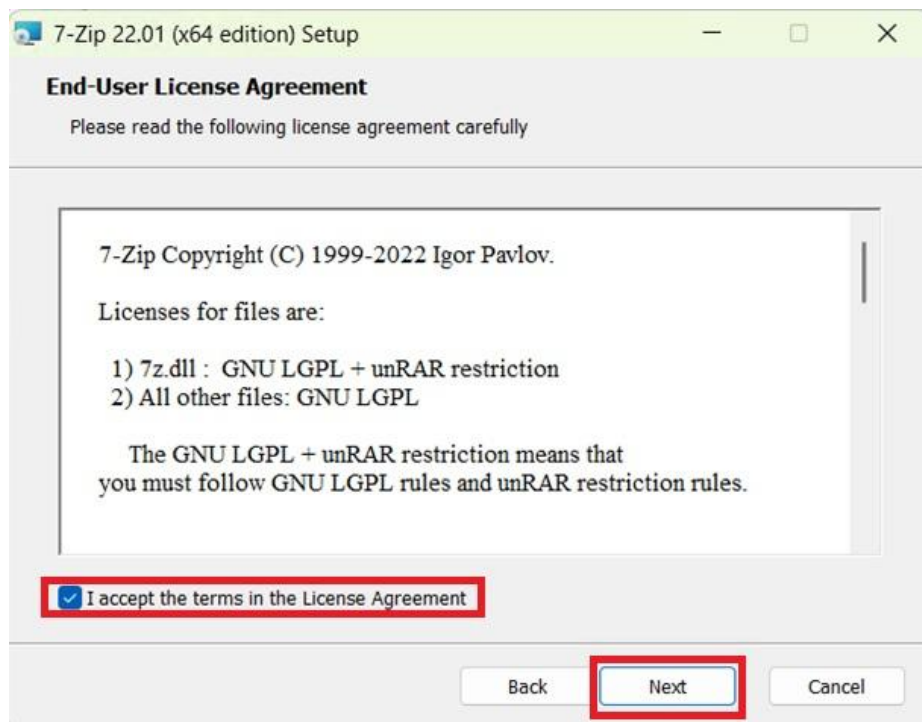
1. 7-Zip のインストール資材を「資材格納フォルダ」に格納します。(※ 「資材格納フォルダ」は任意のフォルダとします。)
2. 「(資材格納フォルダ) 7z2201-x64.msi」をダブルクリックします。



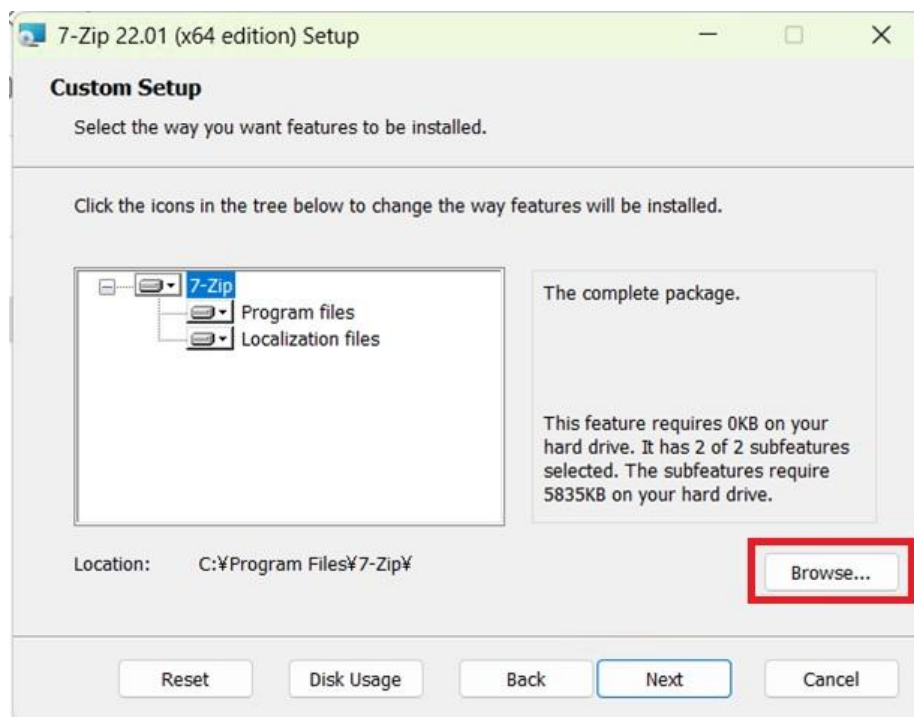
3. 「7-Zip 22.01 (x64 edition) Setup」画面で、「Next」をクリックします。



4. 「End-User License Agreement」画面で、「I accept the terms in the License Agreement」をチェックし、「Next」をクリックします。



5. 「Custom Setup」画面で、「Browse」をクリックします。



6. 「Change destination folder」画面で、下記画面例を参考に、「Folder name : 」欄に表 B-17 のフォルダ名を入力し、「OK」をクリックします。

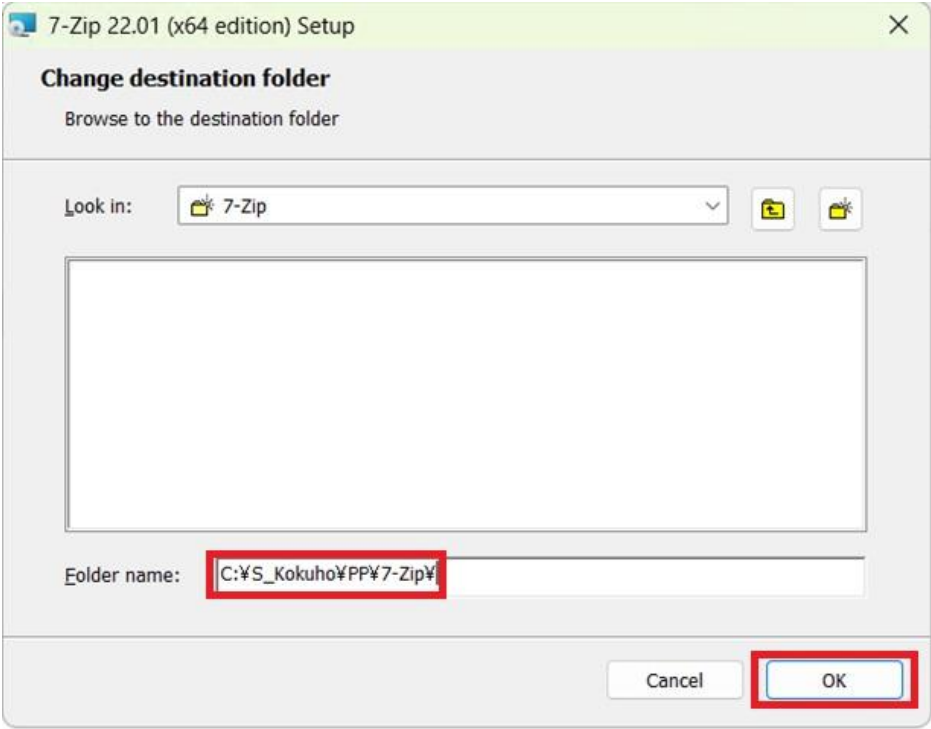
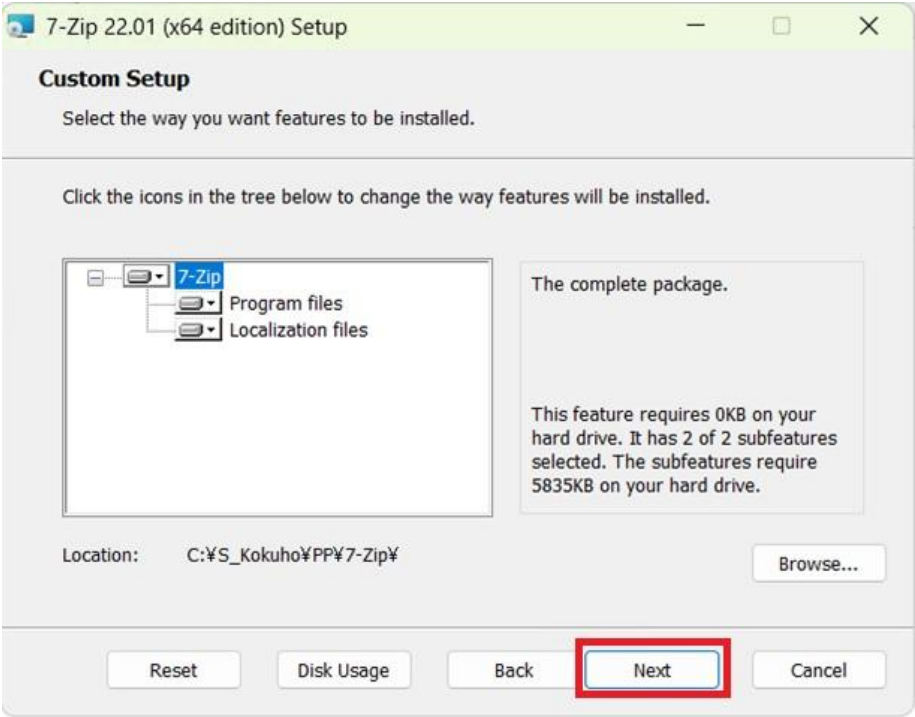


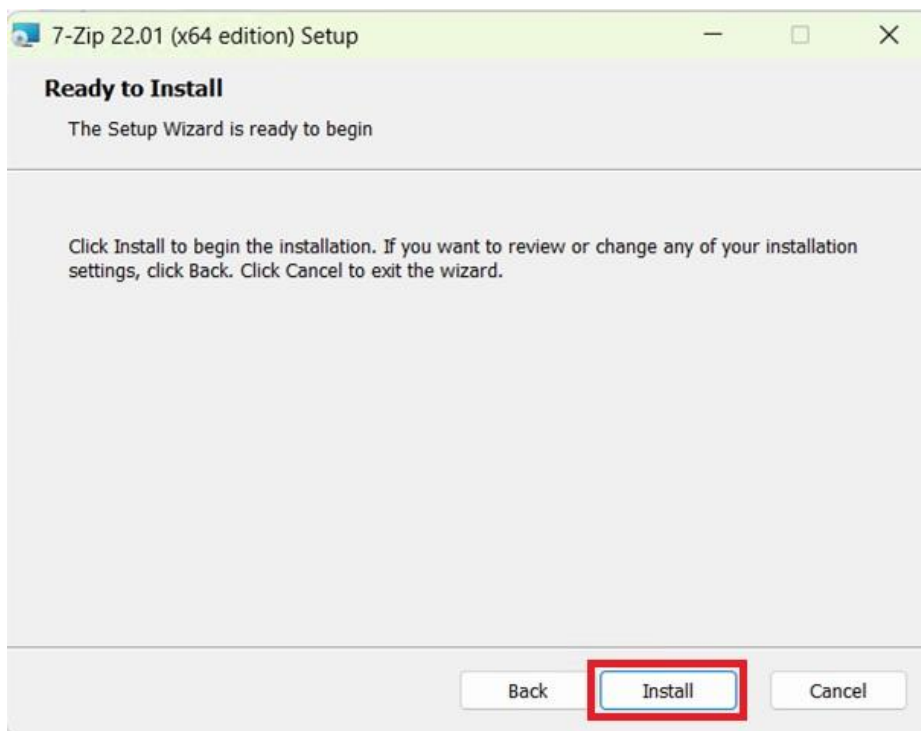
表 B-17 7-Zip インストールフォルダパス名

No.	対象機器	フォルダ名
1	納付金スタンドアロン端末	C:\¥S_Kokuho¥PP¥7-Zip¥

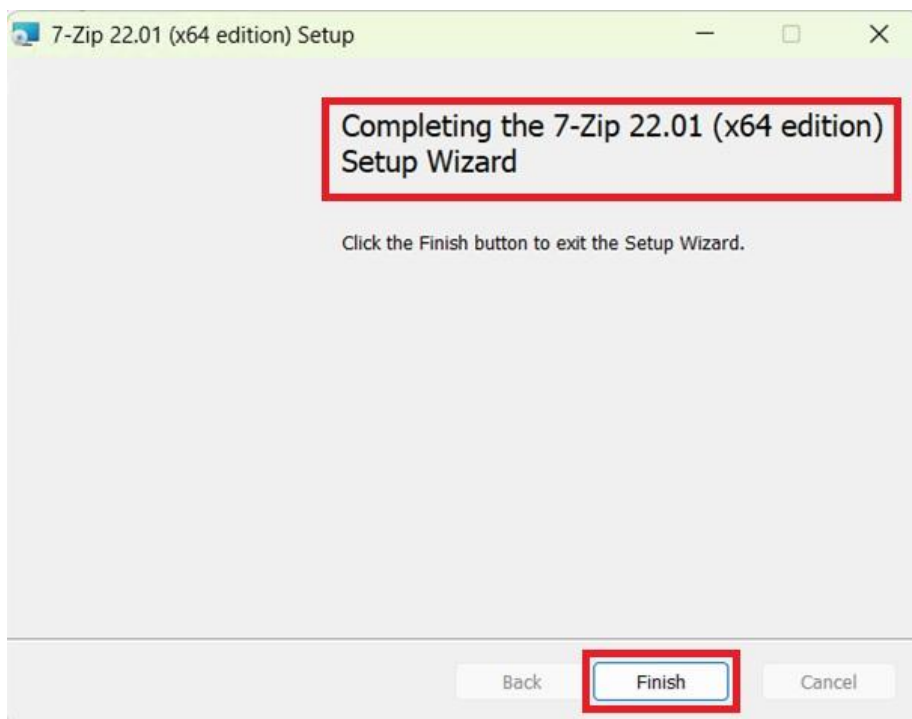
7. 「Custom Setup」画面で、「Next」をクリックします。



8. 「Ready to Install」画面で、「Install」をクリックします。



9. 「Completing the 7-Zip 22.01 (x64 edition) Setup Wizard」と表示されていることを確認し、「Finish」をクリックします。



付録. C セキュリティパッチ一覧

納付金システムの納付金スタンドアロン端末に初期構築時に適用するセキュリティパッチの一覧を次に示します。

注意事項

- ・本セキュリティパッチは、2025 年 8 月末時点のセキュリティパッチとなります。
 - ・セキュリティパッチ名は、ダウンロードするサイトによって、このマニュアルに記載されたものと異なる場合があります。
 - ・本番稼働後にセキュリティパッチを適用する場合は、2026 年 5 月以降にサポートサイトの「システムについて」-「バージョン管理」-「セキュリティパッチ」に掲載していますので、参照してください。
- ただし、サポートサイトに掲載されている「OS セキュリティパッチ一覧」の、最新セキュリティパッチのみを適用してください。

表 C-1 セキュリティパッチ一覧（納付金スタンドアロン端末）

No.	KB 番号	種別	セキュリティパッチ名
1	5063878	Windows の累積更新プログラム	2025-08 Cumulative Update for Windows 11 Version 24H2 for x64-based Systems (KB5063878) (26100.4946)

【このページは白紙です】